

教職科目	【中・高（国語）】	科目コード	68016
科目名	日本文学概論	授業コード	9413447
教員名	小山 秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 日本文学の大まかな歴史を知り、日本文学の特質を理解する。</p> <p>2. 日本文学の基本的な特質を学び、先人たちの表現法についての基礎を身に付ける。</p> <p>3. 各時代の大まかな文学の変遷を学んで、日本文学の特質を研究する態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>授業の概要</p> <p>年代を追って各時代の代表的な作品を読んで国文学の歴史のおおまかを学ぶ。時代とともに変化するそれぞれの価値観や人間理解とその文学性について学んでいくとともに、底流に流れる変化のない固有の価値観にも気付くような学習をすすめる。講義・解説のみでなくグループワーク等を適宜取り入れて理解を深めていく。</p>		
授業計画	<p style="text-align: center;">テーマ</p> <p>第1回：日本文学史の時代区分と時代の特質</p> <p>第2回：上代の文学① 古事記</p> <p>第3回：上代の文学② 万葉集</p> <p>第4回：中古の文学① 古今和歌集 竹取物語</p> <p>第5回：中古の文学② 土佐日記 伊勢物語</p> <p>第6回：中古の文学③ 枕草子</p> <p>第7回：中古の文学④ 源氏物語</p> <p>第8回：中古の文学⑤ 大鏡 今昔物語集</p> <p>第9回：中世の文学① 新古今和歌集</p> <p>第10回：中世の文学② 方丈記 徒然草</p> <p>第11回：中世の文学③ 平家物語</p> <p>第12回：近世の文学① 松尾芭蕉 小林一茶 与謝蕪村</p> <p>第13回：近世の文学② 近松門左衛門 井原西鶴</p> <p>第14回：近現代の文学</p> <p>第15回：まとめ 日本文学の特質</p> <p>期末試験</p>		
授業方法	講義を中心に、資料作成などを支援して授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、ディスカッションなどを取り入れた展開を進め、内容理解を深化させる。		
授業外学習	<p>①講義の予習として、該当作品を読む。資料作成を指示することもある。</p> <p>②課題のレポートなどを作成する。</p>		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	授業で適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 20%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

教職科目	【中・高（国語）】	科目コード	68017
科目名	大阪の文学	授業コード	9413481
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 大阪が舞台となった文学作品に親しみ、日本文学の歴史における大阪の文学の位置付けを理解する。</p> <p>2. 京や江戸と違う大阪の文学の伝統を学び、言語表現のもつ特色と味わいについて理解する。</p> <p>3. 近代以降に舞台となった大阪の文化や地理の特色を理解して大阪の伝統を守る態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>上代から現代に至る文学作品の中で大阪が舞台となったものを読んで、他の地域ではあまり見られない長い歴史をもった上方の文学の特質や変遷を学び、特に大阪の文化への理解を深めていく。これからはグローバル化が進む一方で地域性を大切にすることが必要であり、生徒たちの指導に活かせる力量と意欲を身に付けていく。</p>		
授業計画	<p>第1回：大阪の歴史。日本文学史における大阪の位置づけの理解</p> <p>第2回：古事記 日本書紀 万葉集</p> <p>第3回：伊勢物語 土佐日記</p> <p>第4回：古今和歌集 源氏物語</p> <p>第5回：西行 小倉百人一首</p> <p>第6回：平家物語 謡曲</p> <p>第7回：松尾芭蕉</p> <p>第8回：近松門左衛門</p> <p>第9回：井原西鶴</p> <p>第10回：川端康成</p> <p>第11回：谷崎潤一郎</p> <p>第12回：田辺聖子 開高健</p> <p>第13回：司馬遼太郎</p> <p>第14回：津村記久子ほか現代の作家</p> <p>第15回：まとめ 大阪の文学の特質</p> <p>期末試験</p>		
授業方法	<p>各回のテーマに沿った作品を購読する（科目担当者による講義形式）とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の考えをまとめていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等）。また授業内で小テストも実施する。</p> <p>教養科目となっているが、小学校教育課程国語コースの必修科目となっているため、発表やディスカッションなどでそれに見合った高いレベルの学びを求める。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>講義内容に関して適宜個人発表やグループワーク、ディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>大阪が関係する文学について幅広く読むこと。学習の流れが定着した後は、各回必ず課題が出る。学生はこの課題に対する各自の考えを用意できるようあらかじめ作品を読んでおくこと。</p>		
教科書	<p>毎時間必要な資料を提供する。</p>		
参考書	<p>『大阪文学名作選』（富岡多恵子編、講談社文芸文庫）</p>		
評価方法	<p>期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 20%、レポート課題 30%</p> <p>国語コースの今後の学びの基礎としての位置付けであるので、評価はそれに沿って厳しくなる。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、文学の読みについての指導をする。</p>		

教職科目	【中・高（保体）】	科目コード	66210
科目名	救急処置法	授業コード	9413566
教員名	中村 浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急処置の必要性について理解する。 2. CPR および AED を実施することができる。 3. RICE 処置、固定法、運搬法を実施することができる。 		
授業概要	<p>スポーツフィールドでの様々な内科的傷害、外科的傷害に対応できるようそれぞれの原因、症状、対処法に関して講義と演習を行う。スポーツ指導者としてスポーツ傷害への予防法、対処法としてテーピング、RICE 処置について演習を行う。重篤ケースに対しての応急処置方法の習得を目的とする。また最も緊急性の高い救急の ABC（気道確保、人工呼吸、心肺蘇生法）を習得するとともに救急手当ての法的問題についても講義を行う。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急法とは <担当：大槻> 2. 救急処置の基本的知識（重要性・実施者の心得、留意点と法的諸問題） <担当：大槻> 3. 緊急時の対応計画（救急医療体制の在り方） <担当：大槻> 4. 緊急時の救命処置Ⅰ（外科的疾患：頭頸部、骨髄損傷などの重篤例への対応） <担当：大槻> 5. 緊急時の救命処置Ⅱ（内科的疾患：意識障害、暑熱傷害、突然死、ショックなど） <担当：大槻> 6. 事故発生時のフローチャート <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 7. 緊急時の救命処置の実際Ⅰ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 8. 緊急時の救命処置の実際Ⅱ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 9. 外傷時の救命処置の実際Ⅲ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 10. 外傷時の固定Ⅰ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 11. 外傷時の固定Ⅱ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 12. 運搬法Ⅰ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 13. 運搬法Ⅱ <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 14. 総合演習Ⅰ（シミュレーション演習） <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 15. 総合演習Ⅱ（シミュレーション演習） <担当：大槻・中村・藤井・平岡> 		
授業方法	<p>頻繁に演習を実施する。受講者は運動ができる服装で参加すること。初回ガイダンスにてグループ分けを行うので必ず出席すること。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など</p>		
授業外学習	<p>毎授業前に当該授業回テーマについて準備学修を行うこと。 また、毎授業後に当該授業回で学習した内容について復習すること。</p>		
教科書	<p>「赤十字救急法講習教本」日本赤十字社</p>		
参考書	<p>公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第9巻「救急処置」日本スポーツ協会</p>		
評価方法	<p>試験およびレポート 60%、授業の参加度 40%を総合的に勘案し、評価する。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場および健康・スポーツ分野において指導経験がある者が、その経験を活かして救急救命の指導にあたる。</p>		

教職科目	【中・高（保体）】【養護】	科目コード	66320
科目名	学校保健	授業コード	9414025、9424890
教員名	栗岡 住子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	学校保健に関する法的根拠や構造を学び、学校教育機関における健康指導のあり方について理解を深めて実践できる。		
授業概要	平成20年に策定された「学校保健安全法」を基に、学校保健活動を進める前提となる児童・生徒の健康問題について理解を深める。また、学校保健の教育現場における領域、構造や内容を具体的な実践活動を含め概説し、教育活動全体で取り組む健康教育が次世代の健康推進に関与していることを学ぶ。		
授業計画	第1回 : 学校保健の考え方 第2回 : 健康診断、健康相談、健康運動 第3回 : 疾病と予防 第4回 : 感染症と対応 第5回 : 学校教育機関におけるメンタルヘルス 第6回 : 子どもの発育・発達に関する諸問題 (現職学校教員から話題提供を得る) 第7回 : 保健室の役割 第8回 : 学校安全の現状と課題 第9回 : 救急処置の理論と実際 第10回 : 現代的な健康課題 (喫煙・飲酒・薬物乱用等) 第11回 : 現代的な健康問題 (性教育・生活習慣病) (現職学校教員から話題提供を得る) 第12回 : 学校保健安全法について 第13回 : 食育と学校給食 第14回 : 学校保健活動の課題 第15回 : 健康教育 期末試験		
授業方法	講義形式		
アクティブラーニングの視点			
授業外学習	報道されている学校における健康問題 (いじめ、自殺、学校内感染など) についてどのような対処がなされているのか、また、どのような行政的な対応がなされているのかを学ぶ。 予習として、次回の授業該当部分について教科書の内容を読み、学習の課題や疑問を確認する。復習として、授業終了後に教科書の該当部分の内容を確認する。		
教科書	教員養成系大学保健協議会編 『学校保健ハンドブック 第7次改訂』 ぎょうせい, 2019年		
参考書	衛藤隆・岡田加奈子編 『学校保健マニュアル改訂10版』 南山堂, 2022年		
評価方法	授業への参加度 (授業中の積極的な質問や意見) 20%、期末試験 80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	養護教諭の業務に携わった経験を持つ教員が、学校保健の理論と実践について講義する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	65320
科目名	特別支援教育	授業コード	9414042、9424907
教員名	松久 眞実		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p> <p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。</p> <p>(3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>		
授業概要	<p>特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童及び生徒が、発達の観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。</p> <p>これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童及び生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み</p> <p>第2回：発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や心理的特性 LD・ADHD</p> <p>第3回：発達障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達や心理的特性 自閉スペクトラム症</p> <p>第4回：様々な障害のある幼児、児童及び生徒の基礎的な理解 視覚障害・聴覚障害について</p> <p>第5回：様々な障害のある幼児、児童及び生徒の基礎的な理解 知的障害・肢体不自由・病弱等について</p> <p>第6回：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難と対応 母国語や貧困などの問題について</p> <p>第7回：発達障害のある幼児、児童及び生徒に対する支援方法</p> <p>第8回：軽度知的障害のある幼児、児童及び生徒に対する支援方法</p> <p>第9回：「通級による指導」の教育課程上の位置づけと理解</p> <p>第10回：「自立活動」と教育課程上の位置付けと理解</p> <p>第11回：特別支援教育に関する教育課程の枠組み</p> <p>第12回：個別の指導計画と個別の教育支援計画作成の意義と方法の理解</p> <p>第13回：特別支援教育コーディネーターの必要性への理解</p> <p>第14回：関係機関や家庭との連携</p> <p>第15回：特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒への組織的な対応</p>		
授業方法	講義とグループ学習		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等）、振り返りシートの活用		
授業外学習	毎回、レポートに授業内容や感想をまとめたり、次回の予習として、提示されたテーマについて調べ学習を行い、翌週提出する。		
教科書	<p>「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」（小林倫代他、学研）2018年</p> <p>必要に応じて、資料やレジメを配布する。</p>		
参考書	<p>「あったかクラスづくり 通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」</p> <p>（著：松久 眞実・米田 和子・高山 恵子 明治図書 2009年）</p>		

評価方法	①授業中の参加態度（授業における積極的な態度・発言など）20% ②ワークシート（内容の整合性、的確な記述など）30% ③課題レポート（提出期日、内容への理解度、字数、文献引用など）50%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験（28年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	33070
科目名	教育原理	授業コード	9414059、9424924
教員名	網代 典子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。</p> <p>①教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。</p> <p>②教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関りや過去から現在に至るまでの教育及び変遷を理解する。</p> <p>③教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する</p>		
授業概要	<p>教育という人間的な営みが、なぜ必要なのかを様々な角度から考えつつ、教育の理念や目標を理解する。そのために、教育の歴史を辿り、そこに現れた代表的な思想を検討しながら、とりわけ学校教育のあるべき姿を模索する。</p>		
授業計画	<p>第1回・・・教育の本質及び目標</p> <p>第2回・・・教育学の諸概念</p> <p>第3回・・・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 (1)</p> <p>第4回・・・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 (2)</p> <p>第5回・・・家族による教育とその歴史</p> <p>第6回・・・社会による教育とその歴史</p> <p>第7回・・・近代教育制度の成立</p> <p>第8回・・・近代教育制度の展開</p> <p>第9回・・・教育課題の歴史的変遷</p> <p>第10回・・・現代社会と教育課題</p> <p>第11回・・・家庭や子どもに関わる教育の思想</p> <p>第12回・・・学校や学習に関わる教育の思想</p> <p>第13回・・・代表的な教育家の思想 (1) 17世紀以前</p> <p>第14回・・・代表的な教育家の思想 (2) 18世紀</p> <p>第15回・・・代表的な教育家の思想 (3) 19世紀</p>		
授業方法	<p>歴史的な教育学の思想を学ぶに際して、現代の教育問題を取り上げるなど、具体的な教育学の授業として展開することを通して、教育原理の本質的な授業の理解を深めるようにする。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>可能な範囲でグループ等での意見交換などを取り入れる。また、振り返りカードなどを活用し、主体的で対話的で深い学習をめざす。</p>		
授業外学習	<p>その都度、復習しておくこと。</p> <p>授業における課題レポートの作成</p>		
教科書	<p>必要に応じて、資料やレジュメを配付する</p>		
参考書	<p>『やさしい教育原理』（新版）田嶋一、中野新之助、福田須美子、狩野浩二編 有斐閣アルマ</p> <p>「実践につながる教育原理」國崎大恩、藤川信夫 編著 北樹出版</p> <p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示) 文部科学省</p> <p>小学校学習指導要領(平成29年3月告示) 文部科学省</p> <p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示) 文部科学省</p>		
評価方法	<p>①授業への参加状況 (授業における積極的な態度・発言など) 20%</p> <p>②授業で課すレポート (提出期日、内容の理解度、字数 など) 60%</p> <p>③まとめのレポート (提出期日、内容の理解度、字数 など) 20%</p> <p>出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象外とする。</p> <p>なお、授業形態 (対面授業か遠隔授業か) により評価方法を変更する場合がある。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場での教育実務の経験を持ち、教育行政での勤務経験のある者が、教育することの実質的意義について講義する。</p>		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	40020
科目名	教育心理学	授業コード	9414076、9424941
教員名	八木 成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p>		
授業概要	<p>将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。</p>		
授業計画	<p>第1回：人間発達の理解（1）：教育における発達理解の意義</p> <p>第2回：人間発達の理解（2）：発達の原理</p> <p>第3回：乳幼児期の発達</p> <p>第4回：児童期の発達</p> <p>第5回：青年期の発達</p> <p>第6回：学習理論（1）：行動論的アプローチ</p> <p>第7回：学習理論（2）：認知論的アプローチ</p> <p>第8回：学習・授業の形態</p> <p>第9回：学習と記憶（1）：記憶理論の基礎</p> <p>第10回：学習と記憶（2）：記憶理論の応用</p> <p>第11回：動機づけ</p> <p>第12回：学級集団づくり</p> <p>第13回：発達障害の諸相</p> <p>第14回：発達障害児への支援</p> <p>第15回：教育評価の在り方</p>		
授業方法	<p>教科書と資料をもとに対面授業形式で行います。</p> <p>教科書は必ず買っておいください。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ワークシート形式のプリントを用いた対面授業を行う。</p>		
授業外学習	<p>授業資料を参考に自ら教科書を読んで復習を行うこと及び授業中に配布される資料等を通じた深化学修を行うことにより授業外学習を2時間以上の行うこと</p>		
教科書	本郷一夫・八木成和(編著)『シードブック教育心理学』 建帛社 2008年発売		
参考書	本郷一夫(編著)『保育の心理学Ⅰ・Ⅱ[第2版]』 建帛社 2011年発売		
評価方法	<p>①平常点(授業中に課した課題の提出) 30%</p> <p>②中間レポート課題(教科書の内容についての要約の課題になります。記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期限等) 20%</p> <p>③最終レポート課題(教科書の内容についての要約の課題になります。記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期限等) 50%</p> <p>なお、出席回数が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。</p> <p>10回以上の出席と課題の提出、中間レポート課題の提出、最終レポート課題の提出を単位認定の要件とします。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	40020
科目名	教育心理学	授業コード	9414093
教員名	高木 悠哉		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p>		
授業概要	<p>将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育心理学とは</p> <p>第2回：学習への行動論的アプローチを学び、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する</p> <p>第3回：学習への認知論的アプローチを学び、様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解する</p> <p>第4回：個人差について学び、主体的学習を支える動機づけ・集団づくりについて、発達の特徴と関連付けて理解する</p> <p>第5回：主体的学習を支える動機づけの在り方について、発達の特徴と関連付けて理解する</p> <p>第6回：様々な学習の過程を説明する代表的理論の基礎を理解する</p> <p>第7回：発達と教育について学び、幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解する</p> <p>第8回：乳幼児期の発達について学び、乳幼児期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する</p> <p>第9回：児童期の発達について学び、児童期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する</p> <p>第10回：青年期の発達について学び、青年期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解する</p> <p>第11回：教師と児童・生徒について学び、主体的学習を支える集団づくりについて、発達の特徴と関連付けて理解する</p> <p>第12回：学校生活への不適応について学び、幼児、児童の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する</p> <p>第13回：発達障害の諸相について学び、幼児、児童の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する</p> <p>第14回：発達障害児への支援について学び、幼児、児童の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する</p> <p>第15回：教育評価について学び、主体的学習を支える学習評価について、発達の特徴と関連付けて理解する</p>		
授業方法	講義形式中心だが、ディスカッション・簡単な実験等も取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	授業への事前準備（予習）、振り返りシートの記入とクラスメートの振り返り内容へのコメント		
授業外学習	<p>①授業の範囲を予習し、予習ノートを作ったものを提出。</p> <p>②授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やボランティア・インターンシップ等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートにして提出。</p> <p>③新聞から教育や発達に関する記事を選びコピーし、内容を要約した上でコメントしたものを提出。</p>		
教科書	指定なし。講義で随時資料を配付する。		

参考書	教育心理学（東京アカデミー 教職教養Ⅱ サイエンス社） 教育心理学Ⅰ：発達と学習（心理学ベーシックライブラリ 5-I 著：渡部雅之・豊田弘司）
評価方法	①授業外学習（予習8%、復習ミニレポート8%、新聞記事についてのミニレポート8%） ②予習テスト（毎回授業開始時に行う）17% ③振り返りシートの記入（8%）およびクラスメートの振り返りに対するコメント記入（8%） ④授業内テスト（毎回授業終了時に行う）43% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	なし

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	62110
科目名	教職概論	授業コード	9414110、9424958
教員名	二瓶 弘行		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。そのために、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。</p> <p>(2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。</p> <p>(3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。</p> <p>(4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。</p>		
授業概要	<p>教員に求められるもの、求められる力は、近年その重要性をますます増している。教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を理解し、深く考え、自己の適性を判断し、児童・生徒を守り育てる教職への意欲を高めていく。それらの学びから、4年間の大学生活で自己を主体的能動的に磨いていこうとする意欲を高めていく。</p>		
授業計画	<p>第1回：公教育の目的 第2回：公教育の担い手である教員の存在意義 第3回：進路選択に向け、他の職業との比較からみた教職の職業的特徴 第4回：教職観の変遷 第5回：教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を考える 第6回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力（1）文部科学省、各教育委員会の文書を通して 第7回：今日の教員に求められる基礎的な資質能力（2）テキストを通して 第8回：幼児への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像 第9回：児童への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像 第10回：教員研修の意義及び制度上の位置付け 第11回：教員研修の意義及び制度上の位置付けを踏まえ、専門職として適切に職務を遂行するために教員が生涯にわたって学び続けることの重要性 第12回：教員に課せられる服務上・身分上の義務 第13回：教員に与えられる身分保障 第14回：校内の教職員や多様な専門性を持つ人物との効果的に連携・分担できる教員を目指して 第15回：校内の教職員や多様な専門性を持つ人物とチームとして組織的に諸課題に対応できる教員を目指して</p>		
授業方法	<p>前時の終わりに学校現場で起きた事例を取り上げた講話から学生は学びの視点をもつ。本時においては、事前学習で作成してきたワークシート（前時の講話から得たポイントを足場にテキストを読み、学習課題に沿って記入）を読み合う協働学習①（他者のワークシートを読み、自分として価値ある作品と評価した場合にはサインを入れる）、協働学習②（全員の前で自分のワークシート内容を語り、発表者の語りを傾聴する）、自分学習（教員の話聴き、その上で自分の学びを振り返る）と授業は展開される。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>テキストを読み、学習課題にそってワークシートを記入（予習）の後、協働学習（他者のワークシートを読み、他者の発表を聴き、自分として最も価値あるものを選ぶ）、自分学習（協働学習の後、教員の話聴き、その上で自分の学びを振り返る）へと進む。</p>		
授業外学習	<p>毎時間、必ずワークシートを事前学習で作成する。本時で扱うテキスト内容に関連した講話から、学習課題を考える足場をつくり、学習課題を読み解くためにテキストを熟読し、自分の意見、その理由【根拠】、意見に関連する自分のエピソード、学んだことを自分にどう生かすのかを記入する。</p>		
教科書	鎌田首治朗編著『教職概論——人間教育の理念から学ぶ』ミネルヴァ書房		

参考書	幼稚園教育要領、小学校 学習指導要領（文部科学省）
評価方法	①意欲的能動的な学習への参加状況（指示通りにできているだけでなく、進んで傾聴しているか、進んで理解したり、考えたりしているか、進んで発表しているか） 50% ②ワークシートにおける学びの質（提出、意見と理由【根拠】の論理性、理由【根拠】におけるエピソード） 20% ③授業の振り返りにおける学びの質（授業内容の理解、自分なりの意見、記述内容の価値） 10% ④まとめレポート（記述内容、価値、段落構成、字数、提出期日） 10% ※出席回数が所定の回数に満たない場合は評価対象にしません。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	62120
科目名	教育行政学	授業コード	9414127、9424992
教員名	柴 恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p> <p>具体的には以下の到達目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 2. 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 3. 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 4. 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 		
授業概要	<p>この授業では、学校教育の制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。公教育制度に関する原理的、法規上の知識を理解し、学校・学級の経営における仕組みや方法について学ぶ。また、近年重要になっている学校の安全管理や地域との連携についても理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回：公教育の原理及び理念 第2回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第3回：公教育制度を構成している教育関係法規①日本国憲法と教育基本法 第4回：公教育制度を構成している教育関係法規②学校教育法 第5回：子供の生活の変化と指導上の課題いじめ・体罰と懲戒 第6回：公教育の目的を実現するための学校経営 第7回：学校における年間の教育活動とPDCAによる学校評価 第8回：学級経営の仕組みと効果的な方法 第9回：教職員の役割 関係法規と職務 第10回：学校と学校外の連携・協働 第11回：学校安全の必要性 第12回：生活安全・交通安全・災害安全に対応する具体的な取組 第13回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 第14回：地域との連携を基とする開かれた学校づくり 第15回：教育制度をめぐる諸課題 これからの学校教育</p>		
授業方法	<p>教科書の内容に即して講義を行いつつ、学生同士のディスカッションも行う。 受講生には原則その回の教科書の内容を予習してもらい、講義ではその補足を行いつつディスカッションに臨んでもらう。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>各回授業後にコメントシートに記入してもらい、翌週にコメントに対するフィードバックを返す。 また、授業内でのディスカッションを適宜実施する。</p>		
授業外学習	<p>講義内のディスカッションに参加するため、内容の予習は必ず行うこと。 具体的な範囲は授業の各回で指示する。 授業後にはコメントシートに意見・質問・感想等を記入し提出してもらおう。</p>		
教科書	高見茂 他編『教育法規スタートアップネクスト』昭和堂、2018年。		
参考書	<p>2022年度版教職六法（監修：若井彌一、協同出版、2021年） その他授業中にプリントを配布。</p>		
評価方法	<p>授業後のコメントシートへの記述：30% 授業への参加度：10% 期末レポートによる評価：60%</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高・養護】	科目コード	66360
科目名	教育行政学（中・高）	授業コード	9414129、9425009
教員名	柴 恭史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p> <p>具体的には以下の到達目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 2. 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 3. 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 4. 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。 		
授業概要	<p>この授業では、学校教育の制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。公教育制度に関する原理的、法規上の知識を理解し、学校・学級の経営における仕組みや方法について学ぶ。また、近年重要になっている学校の安全管理や地域との連携についても理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回：公教育の原理及び理念 第2回：教育制度を支える教育行政の理念と仕組み 第3回：公教育制度を構成している教育関係法規①日本国憲法と教育基本法 第4回：公教育制度を構成している教育関係法規②学校教育法 第5回：子供の生活の変化と指導上の課題いじめ・体罰と懲戒 第6回：公教育の目的を実現するための学校経営 第7回：学校における年間の教育活動とPDCAによる学校評価 第8回：学級経営の仕組みと効果的な方法 第9回：教職員の役割 関係法規と職務 第10回：学校と学校外の連携・協働 第11回：学校安全の必要性 第12回：生活安全・交通安全・災害安全に対応する具体的な取組 第13回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法 第14回：地域との連携を基とする開かれた学校づくり 第15回：教育制度をめぐる諸課題 これからの学校教育</p>		
授業方法	<p>教科書の内容に即して講義を行いつつ、学生同士のディスカッションも行う。 受講生には原則その回の教科書の内容を予習してもらい、講義ではその補足を行いつつディスカッションに臨んでもらう。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>各回授業後にコメントシートに記入してもらい、翌週にコメントに対するフィードバックを返す。 また、授業内でのディスカッションを適宜実施する。</p>		
授業外学習	<p>講義内のディスカッションに参加するため、内容の予習は必ず行うこと。 具体的な範囲は授業の各回で指示する。 授業後にはコメントシートに意見・質問・感想等を記入し提出してもらおう。</p>		
教科書	高見茂 他編『教育法規スタートアップネクスト』昭和堂、2018年。		
参考書	2022年度版教職六法（監修：若井彌一、協同出版、2021年） その他授業中にプリントを配布。		
評価方法	<p>授業後のコメントシートへの記述：30% 授業への参加度：10% 期末レポートによる評価：60%</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	68022
科目名	教育課程論	授業コード	9414144、9425026
教員名	中村 浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1)学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。</p> <p>(2)教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>(3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p>		
授業概要	<p>学校教育は目標や価値の実現を旨とした意識的、目的的な活動である。その目標に即して子ども、青年を教授、指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的、体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成のしかたを具体的に考える。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領・幼稚園教育要領及び教育課程編成について</p> <p>第2回：学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷及び改訂内容</p> <p>第3回：学習指導要領の社会的背景</p> <p>第4回：教育課程の社会的役割と機能</p> <p>第5回：教育課程編成の基本原則</p> <p>第6回：教育内容の選択と配列</p> <p>第7回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程</p> <p>第8回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導計画</p> <p>第9回：カリキュラム・マネジメントの意義（1）-学びのメカニズム-</p> <p>第10回：カリキュラム・マネジメントの意義（2）-社会に開かれた教育課程-</p> <p>第11回：カリキュラム評価（1）-必要性と意義-</p> <p>第12回：カリキュラム評価（2）-教育評価の変遷と機能-</p> <p>第13回：カリキュラム評価（3）-効果測定の方法と実際-</p> <p>第14回：新しい教育課程の課題（1）-新学習指導要領・幼稚園教育要領を中心に-</p> <p>第15回：新しい教育課程の課題（2）-これからの社会と教育課程-</p>		
授業方法	<p>講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など</p>		
授業外学習	<p>毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。</p>		
教科書	<p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）</p> <p>※ いずれも文科省HPにてダウンロード可</p>		
参考書	<p>よくわかる教育課程（田中耕治 ミネルヴァ書房）</p>		
評価方法	<p>①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30%</p> <p>②ワークシート（正確さ、考えを整理した記述、資料の整理状態、提出期日等） 20%</p> <p>③授業についてのコメント（毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等） 30%</p> <p>④課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等） 20%</p> <p>なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。</p>		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小】	科目コード	62131
科目名	教育課程論(幼・小)	授業コード	9414148
教員名	中村 浩也		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1)学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。</p> <p>(2)教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。</p> <p>(3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。</p>		
授業概要	<p>学校教育は目標や価値の実現を目ざした意識的、目的的な活動である。その目標に即して子ども、青年を教授、指導するために、人類の文化遺産から選んだ教育内容を組織的、体系的に編成した教育計画を教育課程という。教育課程の本質や理論を述べ、学校における教育計画や教育課程の編成のしかたを具体的に考える。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領・幼稚園教育要領及び教育課程編成について 第2回：学習指導要領・幼稚園教育要領の変遷及び改訂内容 第3回：学習指導要領の社会的背景 第4回：教育課程の社会的役割と機能 第5回：教育課程編成の基本原則 第6回：教育内容の選択と配列 第7回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程 第8回：幼児・児童・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導計画 第9回：カリキュラム・マネジメントの意義(1)-学びのメカニズム- 第10回：カリキュラム・マネジメントの意義(2)-社会に開かれた教育課程- 第11回：カリキュラム評価(1)-必要性和意義- 第12回：カリキュラム評価(2)-教育評価の変遷と機能- 第13回：カリキュラム評価(3)-効果測定の方法と実際- 第14回：新しい教育課程の課題(1)-新学習指導要領・幼稚園教育要領を中心に- 第15回：新しい教育課程の課題(2)-これからの社会と教育課程-</p>		
授業方法	<p>講義科目であるが、授業の構成上、演習形式をとることがある。その際、受講者は主体的に講義に参加すること。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ワークシートの作成、協同学習(ペアワーク、グループワーク等)、振り返りシートの活用など</p>		
授業外学習	<p>毎時の授業内容について復習し、随時行う小レポートに備えること。</p>		
教科書	<p>幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省) ※ いずれも文科省HPにてダウンロード可</p>		
参考書	<p>よくわかる教育課程(田中耕治 ミネルヴァ書房)</p>		
評価方法	<p>①授業への参加状況(授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等) 30% ②ワークシート(正確さ、考えを整理した記述、資料の整理状態、提出期日等) 20% ③授業についてのコメント(毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、字数、提出期日等) 30% ④課題レポート(記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等) 20% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としません。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>教育現場ならびに教育行政に関わっている教員が担当する。</p>		

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68025
科目名	異文化間コミュニケーション論	授業コード	9425145
教員名	植野 雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を学ぶことを通して英語表現への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。</p> <p>(1) 世界の文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。</p> <p>(2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。</p> <p>(3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。</p> <p>(4) 日本社会の内なる国際化について学び、実践的な体験や交流を通じて多様な考え方を認め、共生に向けて協働できる人間関係を構築できる。</p> <p>(5) 異文化コミュニケーションの観点から文化摩擦の状況を分析し、実践的な問題解決ができる。</p>		
授業概要	<p>高度にグローバル化した現代社会の状況を概観することを出発点に、コミュニケーションにおける文化の問題に関して多様な観点から解説する。さまざまな地域や社会における個人が成長する過程で、言語・慣習・価値観等、多様な文化の影響を受ける。その影響は決して小さくないにもかかわらず、文化は必ずしも目に見えたり、意識されたりするものではない。文化間の対立や緊張はそうした文化のありようから生じることが多いだけでなく、問題の原因が見えにくいために深刻化し、解決が困難になることも少なくない。授業では、言葉や振る舞い等の目に見える文化現象だけでなく、アイデンティティ・価値観・世界観等、直接見ることでできない文化の内面的諸相が、私たちのコミュニケーションにどのような影響を及ぼすのかについて具体例を示して解説し、多様な文化が交錯する今日の社会において文化の違いにどのように向き合うかを検討する。</p>		
授業計画	<p>第1回：《オリエンテーション》グローバル化と異文化間コミュニケーション</p> <p>第2回： コミュニケーションと互酬性</p> <p>第3回： 個人内・個人間・文化間コミュニケーション</p> <p>第4回： 文化とコミュニケーション</p> <p>第5回： 言語と文化的認識</p> <p>第6回： 非言語コミュニケーション</p> <p>第7回： 高コンテクスト文化と低コンテクスト文化</p> <p>第8回： 異文化間コミュニケーションにおけるアイデンティティの問題</p> <p>第9回： 異文化間コミュニケーションにおける価値観の問題</p> <p>第10回： 異文化間コミュニケーションにおける世界観の問題</p> <p>第11回： 多文化社会における文化摩擦</p> <p>第12回： 多文化社会における共生</p> <p>第13回： カルチャーショックと文化適応</p> <p>第14回： 文化を超えて</p> <p>第15回： まとめ</p>		
授業方法	<p>講義形式とし、視覚的資料を用いながら可能な限り対話的に授業を進める。また、グループアクティビティやシミュレーションゲームを随時行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク、グループワークによる協同学習</p>		
授業外学習	<p>毎授業で学んだ知識の整理や、それについての考察（1時間程度）。各授業で指示する課題への取り組み（2時間程度）。</p>		
教科書	<p>指定なし、適時、資料を配布する。</p>		

参考書	<ul style="list-style-type: none">・池田理知子・クレーマー、E.M. 著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣、2000年・石井敏 他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年・コンドン、ジョン著、近藤千恵訳『異文化間コミュニケーションーカルチャー・ギャップの理解』サイマル出版会、1980年・原沢伊都夫著『異文化理解入門ーグローバルな時代を生きるための』研究社、2013年
評価方法	授業への参加度（20%）と学期中に提示される課題の提出物（80%）を総合して評価する。授業への参加度については小テストや発言等で評価する。発言は積極的かつ的確である点を重視する。学期中に提出された課題については講評によるフィードバックを行う。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小・中・養護】	科目コード	68033
科目名	道徳教育指導法	授業コード	9414416、9414433 9425468、9425485
教員名	龍神 美和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。</p> <p>②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。</p>		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	<p>第1回：道徳の本質（道徳とは何か）</p> <p>第2回：道徳教育の歴史</p> <p>第3回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）</p> <p>第4回：子供の心の成長と道徳性の発達</p> <p>第5回：学習指導要領と道徳教育</p> <p>第6回：道徳科の目標及び主な内容</p> <p>第7回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性</p> <p>第8回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴</p> <p>第9回：道徳科における教材(1)その特徴</p> <p>第10回：道徳科における教材(2)授業設計への活用</p> <p>第11回：道徳科の学習指導案の作成</p> <p>第12回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程</p> <p>第13回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方</p> <p>第14回：模擬授業の実施(1)その振り返り</p> <p>第15回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点</p>		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科 道徳」の基礎基本ハンドブック』 〈株）ERP 2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が50%、提出物（提出状況、内容）30% および授業への参加度（発表、関わり方等）が20%、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中・養護】	科目コード	65165
科目名	道徳教育指導法（中）	授業コード	9414420、9414437 9425472、9425493
教員名	龍神 美和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。その点に鑑み、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>①道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。</p> <p>②学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。</p>		
授業概要	歴史的な観点に立って、道徳教育における道徳科の位置づけと独自性を跡付け、新学習指導要領に基づく道徳科の狙いを理解する。また、道徳の特質や理論に基づきながら、模擬的な授業を行う。		
授業計画	<p>第1回：道徳の本質（道徳とは何か）</p> <p>第2回：道徳教育の歴史</p> <p>第3回：現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）</p> <p>第4回：子供の心の成長と道徳性の発達</p> <p>第5回：学習指導要領と道徳教育</p> <p>第6回：道徳科の目標及び主な内容</p> <p>第7回：学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性</p> <p>第8回：道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴</p> <p>第9回：道徳科における教材(1)その特徴</p> <p>第10回：道徳科における教材(2)授業設計への活用</p> <p>第11回：道徳科の学習指導案の作成</p> <p>第12回：道徳科の学習指導案における授業のねらいと指導過程</p> <p>第13回：道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方</p> <p>第14回：模擬授業の実施(1)その振り返り</p> <p>第15回：模擬授業の実施(2)授業改善の視点</p>		
授業方法	主として講義形式（コンピュータによるプレゼンテーション、ワークシート）		
アクティブラーニングの視点	ワークシートや振り返りシートを活用する。またグループディスカッションを行う。		
授業外学習	その都度、復習しておくこと。課題についてレポートを作成すること。		
教科書	龍神美和〈著〉『「特別の教科 道徳」の基礎基本ハンドブック』 〈株）ERP 2021		
参考書	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年告示 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）		
評価方法	試験（小テストを含む）の成績が50%、提出物（提出状況、内容）30% および授業への参加度（発表、関わり方等）が20%、但し、出席が規定の回数に届かない場合は評価外とする		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教職経験があるものが、道徳教育の意義について講義する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	68034
科目名	総合的な学習の時間の指導法	授業コード	9414450、9414467 9425502、9425519
教員名	網代 典子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 総合的な学習の成立背景と現状</p> <p>第2回 総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力</p> <p>第3回 総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力</p> <p>第4回 総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈</p> <p>第5回 総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動</p> <p>第6回 総合的な学習の時間の授業構想(1) 指導計画立案のための概念地図の作成</p> <p>第7回 総合的な学習の時間の授業構想(2) 指導計画立案のための概念地図の交流と検討</p> <p>第8回 総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント</p> <p>第9回 総合的な学習の時間の指導計画(1) 目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性</p> <p>第10回 総合的な学習の時間の指導計画(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動</p> <p>第11回 総合的な学習の時間の指導計画(3) 総合的な学習の時間の学習指導案の構成</p> <p>第12回 総合的な学習の時間の評価 評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例</p> <p>第13回 総合的な学習の時間の立案(1) 学習指導案(自然体験等の指導計画と評価計画を含む)の立案、</p> <p>第14回 総合的な学習の時間の立案(2) 学習指導案の交流と検討</p> <p>第15回 講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験</p>		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習(ペアワーク、グループワーク等)、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説「総合的な学習の時間篇」		

参考書	講義の中で適宜指示する
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など） 30% ②レポート・課題等（小テストを含む）（提出期日、内容の理解度、字数 など） 40% ③単元計画、指導案の立案等 30% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高・養護】	科目コード	65168
科目名	総合的な学習の時間の指導法（中・高）	授業コード	9414459、9414471 9425511、9425526
教員名	網代 典子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 総合的な学習の成立背景と現状</p> <p>第2回 総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力</p> <p>第3回 総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力</p> <p>第4回 総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈</p> <p>第5回 総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動</p> <p>第6回 総合的な学習の時間の授業構想(1) 指導計画立案のための概念地図の作成</p> <p>第7回 総合的な学習の時間の授業構想(2) 指導計画立案のための概念地図の交流と検討</p> <p>第8回 総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント</p> <p>第9回 総合的な学習の時間の指導計画(1) 目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性</p> <p>第10回 総合的な学習の時間の指導計画(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動</p> <p>第11回 総合的な学習の時間の指導計画(3) 総合的な学習の時間の学習指導案の構成</p> <p>第12回 総合的な学習の時間の評価 評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例</p> <p>第13回 総合的な学習の時間の立案(1) 学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、</p> <p>第14回 総合的な学習の時間の立案(2) 学習指導案の交流と検討</p> <p>第15回 講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験</p>		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「総合的な学習の時間篇」		

参考書	講義の中で適宜指示する
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など） 30% ②レポート・課題等（小テストを含む）（提出期日、内容の理解度、字数 など） 40% ③単元計画、指導案の立案等 30% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	65159
科目名	総合的な学習の時間の指導法（小）	授業コード	9414457、9414469
教員名	網代 典子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割と育てたい資質・能力について理解し、各教科等との関連性を図りながら年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な作成手順についても理解する。また、探究的な学習の過程を実現する指導計画の立案の手だてを理解する。		
授業概要	総合的な学習の時間における横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心等に基づく課題について協働的な教育活動を通して、主体的・対話的で深い学びを支援する基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の授業展開に必要な事項を学ぶ。		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 総合的な学習の成立背景と現状</p> <p>第2回 総合的な学習の時間で育成する資質・能力(1) 学習指導要領で定める目標・内容からのアプローチ、教科を越えて必要となる資質・能力</p> <p>第3回 総合的な学習の時間で育成する資質・能力(2) 社会や日常生活に関連した題材からのアプローチ、国際標準の学力</p> <p>第4回 総合的な学習の時間のカリキュラム(1) 各学校の目標・内容と総合的な学習の時間の教材解釈</p> <p>第5回 総合的な学習の時間のカリキュラム(2) 総合的な学習の時間の教材解釈と対話的な学習活動</p> <p>第6回 総合的な学習の時間の授業構想(1) 指導計画立案のための概念地図の作成</p> <p>第7回 総合的な学習の時間の授業構想(2) 指導計画立案のための概念地図の交流と検討</p> <p>第8回 総合的な学習の指導計画と学校全体のカリキュラムマネジメント</p> <p>第9回 総合的な学習の時間の指導計画(1) 目標・内容および育成する資質・能力、及び各教科等との関連性</p> <p>第10回 総合的な学習の時間の指導計画(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する探究的な学習活動</p> <p>第11回 総合的な学習の時間の指導計画(3) 総合的な学習の時間の学習指導案の構成</p> <p>第12回 総合的な学習の時間の評価 評価の考え方と育成する資質・能力に基づく評価観点の設定、評価方法の具体事例</p> <p>第13回 総合的な学習の時間の立案(1) 学習指導案（自然体験等の指導計画と評価計画を含む）の立案、</p> <p>第14回 総合的な学習の時間の立案(2) 学習指導案の交流と検討</p> <p>第15回 講義のまとめと学んだことの振り返り 定期試験</p>		
授業方法	講義形式で行う。グループ討議、グループ活動、発表などを取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、ワークシートや振り返りシートの活用		
授業外学習	毎時の授業内容を復習しておくこと。課題のレポートを期日を守り作成すること。		
教科書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「総合的な学習の時間編」 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「総合的な学習の時間篇」		

参考書	講義の中で適宜指示する
評価方法	①授業への参加度（授業における積極的な態度・発言など） 30% ②レポート・課題等（小テストを含む）（提出期日、内容の理解度、字数 など） 40% ③単元計画、指導案の立案等 30% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	高等学校において総合的な探究の時間の在り方を研究し、管理職として関わってきた。各教科との関連性を大切にしながら総合的な学習・探究の時間の在り方について指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	68035
科目名	特別活動論	授業コード	9425536、9425553
教員名	野田 健司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ②特別活動の指導の在り方を理解する。</p>		
授業概要	<p>特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODakション 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標</p> <p>第2回 学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力</p> <p>第3回 学級活動（1）学級活動の目的と内容</p> <p>第4回：学級活動（2）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法）</p> <p>第5回：生徒会活動（1）生徒会活動の目標と内容</p> <p>第6回：生徒会活動（2）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法）</p> <p>第7回：学校行事（1）学校行事の目的と内容（5つの学校行事の種類とそれぞれの目的）</p> <p>第8回：学校行事（2）事例研究から考える（5つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点）</p> <p>第9回：現代の教育課題と特別活動（1）特別活動が果たす教育的意義</p> <p>第10回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例</p> <p>第11回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例</p> <p>第12回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例</p> <p>第13回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例</p> <p>第14回：特別活動の評価と改善の方法</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 特別活動編（明治図書） 平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 特別活動編（明治図書）		
参考書	小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成29年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編＜最新版（平成29年告示）＞（文部科学省） 授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験（40%）、毎回の授業後に提出する小レポート（60%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高・養護】	科目コード	65173
科目名	特別活動論（中・高）	授業コード	9425543、9425561
教員名	野田 健司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>学校教育における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の3つの視点や「チーム学校」の必要性を理解する。発達や学年及び目的の違いによる活動の特質、各教科等、道徳、総合的な時間等の関連、地域住民や他校との連携等の組織的な対応を踏まえて「なすことによって学ぶ」という特別活動の指導に必要な資質や能力を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>①特別活動の意義、目標及び内容を理解する。</p> <p>②特別活動の指導の在り方を理解する。</p>		
授業概要	<p>特別活動では「集団や社会の形成者」としての見方・考え方を働かせ、その目的に応じた様々な集団活動があることを知り、特別活動の教育的意義を理解する。すべての教育活動の基礎となる学級集団作りを中心に望ましい合意形成・意思決定の指導方法、生徒会や学校行事等の基本的な考え方と指導法を習得するために具体例を基に主体的・対話的に学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 科目の概要説明と学習指導要領に基づく特別活動の意義と目標</p> <p>第2回 学校全体における教育課程における特別活動の位置づけと育てたい資質・能力</p> <p>第3回 学級活動（1）学級活動の目的と内容</p> <p>第4回：学級活動（2）事例研究を考える（合意形成と意思決定の指導の方法）</p> <p>第5回：生徒会活動（1）生徒会活動の目標と内容</p> <p>第6回：生徒会活動（2）事例研究から考える（望ましい生徒会組織のありかたと指導の方法）</p> <p>第7回：学校行事（1）学校行事の目的と内容（5つの学校行事の種類とそれぞれの目的）</p> <p>第8回：学校行事（2）事例研究から考える（5つの行事の具体的な指導計画作成と指導の留意点）</p> <p>第9回：現代の教育課題と特別活動（1）特別活動が果たす教育的意義</p> <p>第10回：総合的な学習の時間と特別活動との関連と具体的な指導例</p> <p>第11回：教科指導と特別活動との関連と具体的な指導例</p> <p>第12回：特別の教科道徳と特別活動との関連と指導例</p> <p>第13回：特別活動と地域家庭や社会との連携と指導例</p> <p>第14回：特別活動の評価と改善の方法</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	講義形式が中心だが、毎回テーマを提示して、自分の行動に照らし合わせて論議する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など。		
授業外学習	前時に次の学習場所を指定するので、教科書と学習指導要領の解説書を読む。授業の初めに読んでいるか確認をする。		
教科書	平成29年版 小学校新学習指導要領の展開 特別活動編（明治図書） 平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 特別活動編（明治図書）		
参考書	小学校・中学校・高等学校学習指導要領＜最新版（平成29年告示）＞（文部科学省） 小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編＜最新版（平成29年告示）＞（文部科学省） 授業中に適宜資料を配付する。		
評価方法	定期試験（40%）、毎回の授業後に提出する小レポート（60%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かし、具体的な特別活動の実際と理論を関連付けて、特別活動の果たす教育的役割を講義する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	68111
科目名	教育方法の理論と実践(情報通信技術の活用含む)	授業コード	9414484、9414501 9425570、9425587
教員名	木村 明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための必要な教育方法を理解する。</p> <p>(2) 教育目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>(3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。</p>		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	<p>第1回 教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力</p> <p>第2回 教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>第3回 教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材</p> <p>第4回 教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程</p> <p>第5回 教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得</p> <p>第6回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（単元を見通した授業設計）</p> <p>第7回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（1時間の授業設計）</p> <p>第8回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（学習スキルの育成）</p> <p>第9回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（学習スキルの発揮）</p> <p>第10回 情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT</p> <p>第11回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計</p> <p>第12回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計</p> <p>第13回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業</p> <p>第14回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業</p> <p>第15回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ</p>		
授業方法	<p>テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に、教育方法及び技術についての理解を深める。また、授業全般でコンピュータを活用し、授業中に資料等を共有したり、提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。</p> <p>ICTを活用した授業の学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し、単元を縦断する課題、1時間の課題を提示し、その課題の解決に向けて、探究的学習、自己調整的学習、協働的学習を行う。		
授業外学習	次時の学習に向けた予習課題を適宜出す。授業内での課題が目標まで到達しなかった際は、授業外の課題とする。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	授業中に適宜示す。		
評価方法	授業の様子15%、課題レポート・プレゼンテーション資料40%、学習指導案30%、学習目標と授業の振り返り15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が、現場での経験を活かし、教育方法及び技術・ICT活用について指導する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	68036
科目名	教育方法の理論と実践	授業コード	9414518、9414521 9425604、9425606
教員名	木村 明憲		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2 (21P生対象)	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>(1) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための必要な教育方法を理解する。</p> <p>(2) 教育目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。</p> <p>(3) 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。</p>		
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。		
授業計画	<p>第1回 教育の方法：学習指導要領の変遷と今求められる資質・能力</p> <p>第2回 教育の方法：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</p> <p>第3回 教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を育成するための教材</p> <p>第4回 教育の方法：学習の基盤となる資質・能力を発揮するための学習過程</p> <p>第5回 教育の技術：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導技術の習得</p> <p>第6回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（単元を見通した授業設計）</p> <p>第7回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（1時間の授業設計）</p> <p>第8回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（学習スキルの育成）</p> <p>第9回 教育の技術：学習指導案の作成を通じた教育の技術の習得（学習スキルの発揮）</p> <p>第10回 情報機器及び教材の活用：学校現場で活用される ICT</p> <p>第11回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計</p> <p>第12回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した単元・授業の設計</p> <p>第13回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業</p> <p>第14回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業</p> <p>第15回 情報機器及び教材の活用：情報機器及び教材を効果的に活用した模擬授業：まとめ</p>		
授業方法	<p>テーマを基にしたグループでのディスカッションを基に、教育方法及び技術についての理解を深める。また、授業全般でコンピュータを活用し、授業中に資料等を共有したり、提出したりして学習者が一人一台環境で学ぶ授業を体験する。</p> <p>ICTを活用した授業の学習指導案の作成や模擬授業についてもグループでの協働学習を中心に行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	単元を設定し、単元を縦断する課題、1時間の課題を提示し、その課題の解決に向けて、探究的学習、自己調整的学習、協働的学習を行う。		
授業外学習	授業内に終わらない際は授業外で課題を解決する。		
教科書	単元縦断×教科横断（さくら社）		
参考書	授業中に適宜示す。		
評価方法	授業の様子15%、課題レポート・プレゼンテーション資料40%、学習指導案30%、学習目標と授業の振り返り15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校での勤務経験のある教員が、現場での経験を活かし、教育方法及び技術・ICT活用について指導する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小・中高】	科目コード	68037
科目名	生徒・進路指導論	授業コード	9414535、9425621
教員名	平野 裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。</p> <p>そのため、以下の目標を掲げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の意義や原理を理解する。 (2) すべての児童・生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。 (3) 児童・生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。 (4) 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。 (5) 全ての児童・生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。 (6) 児童・生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。 		
授業概要	<p>生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、児童・生徒の社会的資質や行動力を高めるとともに、将来の進路等の長期的展望に立った人間形成を目指す重要な教育活動である。生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理等の理論を述べ、これらの具体的な指導の進め方や対応の在り方を考える。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育課程における生徒指導の位置付け 第2回：各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第3回：集団指導・個別指導の方法原理 第4回：生徒指導体制と教育相談体制の在り方 第5回：校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第6回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方 第7回：児童・生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方 第8回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第9回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応 第10回：今日的な生徒指導上の課題（インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等）や、専門家や関係機関との連携の在り方 第11回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け 第12回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方 進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方 第13回：キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義 全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点 第14回：生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義及びポートフォリオの活用の在り方 第15回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法</p>		
授業方法	講義、事例研究、ペアワーク、グループワーク等		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		

授業外学習	<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。 ・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心
教科書	『生徒指導提要』, 文部科学省編, 令和4年12月
参考書	<p>小学校学習指導要領<最新版> (文部科学省)</p> <p>中学校学習指導要領<最新版> (文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領<最新版> (文部科学省)</p>
評価方法	<p>①毎回の授業で課すレポート (字数、内容の深さ、独自性等により評価する) 70%</p> <p>②まとめのレポート (字数、内容の深さ、独自性等により評価する) 20%</p> <p>③授業への参加度 (積極的参加度を評価する) 10%</p> <p>出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。</p> <p>なお、授業形態 (対面授業か遠隔授業か) により評価方法を変更する場合がある。</p>
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【養護】	科目コード	65260
科目名	生徒指導論	授業コード	9425638
教員名	平野 裕一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることができる。		
授業概要	生徒指導の意義や原理、すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方、児童生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方について、学校における指導の状況を踏まえながら実際に理解する。学校における生徒指導の実際について、各種資料を活用しながら調査したり、効果的な生徒指導の方法等について、意見交換や協議をしたりするほか、ワークシート、ペアワーク、グループワークなどを活用する。		
授業計画	第1回：教育課程における生徒指導の位置付け 第2回：各教科・における生徒指導の意義 第3回：道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義 第4回：生徒指導における集団指導の方法と原理 第5回：生徒指導における個別指導の方法と原理 第6回：生徒指導体制と教育相談体制の基礎的な考え方 第7回：生徒指導における学級担任、教科担任その他の校務分掌上の役割 第8回：生徒指導における指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組 第9回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等を目指した生徒指導 第10回：生徒指導における児童生徒の自己の存在感を育くむ場や機会の設定 第11回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令 第12回：暴力行為・いじめ等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点 第13回：不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点 第14回：インターネットや性に関する生徒指導上の課題と専門家や関係機関との連携 第15回：児童虐待への対応等の生徒指導上の課題と専門家や関係機関との連携		
授業方法	講義・協議・演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）など		
授業外学習	(予習) ・日頃から教育に関するニュースや新聞記事を見るように努め、今日的な教育課題について把握しておくこと。 ・とりわけ、いじめ・不登校・暴力行為・虐待といった、生徒指導に関連する事項については、基礎的な知識は修得しておくこと。 ・授業計画に記載されているキーワードについては、事前に調べておくこと。 (復習) ・他の受講生の意見について、多様な考え方があることを自分自身でしっかりと受け止め、感じたり考察したことを専用ノートに記録しておくこと。 ・授業で学んだことを専用ノートに記録しておくこと。 ・関心を持った事項については、自ら積極的に調査・研究に取り組むこと。		
教科書	『生徒指導提要』文部科学省編 令和4年12月		
参考書	小学校学習指導要領<最新版>（文部科学省） 中学校学習指導要領<最新版>（文部科学省） 高等学校学習指導要領<最新版>（文部科学省）		

評価方法	①毎回の授業で課すレポート（字数、内容の深さ、独自性等により評価する） 70% ②まとめのレポート（字数、内容の深さ、独自性等により評価する） 20% ③授業への参加度（積極的参加度を評価する） 10% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	大阪府立高等学校における校長、教諭の経験に加え、大阪府教育庁の幹部職員として生徒指導・進路指導に携わってきた経験を生かし、具体的事例をもとに授業を展開する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小・中高・養護】	科目コード	68038
科目名	教育相談	授業コード	9414552、9425655
教員名	葉山 貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。</p> <p>(3) 教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。</p>		
授業概要	<p>教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育相談の意義と課題 (1)：教育相談の目的と対象 第2回：教育相談の意義と課題 (2)：教育相談の定着に向けて 第3回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第4回：幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動及びシグナルの把握 第5回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第6回：カウンセリングの基礎 (1)：行動療法 第7回：カウンセリングの基礎 (2)：認知行動療法とマインドフルネス 第8回：カウンセリングの基礎 (3)：パーソンセンタード・アプローチ 第9回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第10回：教育相談の進め方 (1)：保護者理解・校務分掌等 第11回：教育相談の進め方 (2)：いじめ、不登校 第12回：教育相談の進め方 (3)：虐待、非行 第13回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第14回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携 (1)：スクールカウンセラー 第15回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携 (2)：スクールソーシャルワーカー</p>		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談 建帛社 2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談 学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修 2017 ミネルヴァ書房）		
評価方法	<p>①授業への参加状況（演習への取組姿勢、授業における積極的な関わり等）10%</p> <p>②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20%</p> <p>③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10%</p> <p>④授業内小テスト（2回実施）60%</p> <p>なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼・小】	科目コード	40112
科目名	教育相談（幼・小）	授業コード	9414559、9425660
教員名	葉山 貴美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期、後期
到達目標	<p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。</p> <p>(3) 教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。</p>		
授業概要	<p>教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象 第2回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて 第3回：教育相談に関わる心理学の基礎理論 第4回：幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動及びシグナルの把握 第5回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義 第6回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法 第7回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス 第8回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ 第9回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解 第10回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等 第11回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校 第12回：教育相談の進め方（3）：虐待、非行 第13回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備 第14回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（1）：スクールカウンセラー 第15回：専門機関（医療・福祉・心理等）との連携（2）：スクールソーシャルワーカー</p>		
授業方法	講義のみでなく、各種カウンセリング技法や構成的グループ・エンカウンター等の実習も行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働学習（ペアワーク、グループワーク等）等		
授業外学習	参考書や授業内で配付する資料を見返し、理解が難しかった箇所を中心に復習に努めておくこと		
教科書	コンパス教育相談 建帛社 2022 その他必要に応じて、資料やレジュメを配布する。		
参考書	絶対役立つ教育相談 学校現場の今に向き合う（藤田哲也監修 2017 ミネルヴァ書房）		
評価方法	<p>①授業への参加状況（演習への取組姿勢、授業における積極的な関わり等）10%</p> <p>②開発的教育相談に関する模擬授業の内容（目的の理解度、技法への習熟度等）20%</p> <p>③課題レポート（記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出日等）10%</p> <p>④授業内小テスト（2回実施）60%</p> <p>なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	臨床心理士、学校心理士、特別支援教育士、公認心理師として、私立幼稚園のキンダーカウンセリング事業や巡回相談の経験、教育センターや私立中学校高等学校での教育相談の経験を生かし、指導する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼】	科目コード	66400
科目名	幼児理解	授業コード	9414569、9414586
教員名	松久 眞実		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。</p> <p>幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。</p> <p>そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。</p> <p>(2) 幼児理解の方法を具体的に理解する。</p>		
授業概要	<p>幼児を保育・教育するためには、一人一人の幼児を理解し、子どもの行動を多角的にとらえることが必要である。幼児期の心の発達への理解、その発達の課題や特性に応じた保育・教育を進めるための必要な技術を身につける。加えて、発達につまづきや保護者との連携について学ぶ。「幼児の心理発達への理解」「教育・保育するために必要な基礎的知識の習得」「個人差への配慮」等について習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回：幼児の発達及び子育て支援に関わる現代的課題について</p> <p>第2回：現代的課題について理解及び幼児理解の意義</p> <p>第3回：幼稚園入学までの幼児の発達や学び</p> <p>第4回：幼稚園における幼児の発達や学び</p> <p>第5回：幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度について</p> <p>第6回：多面的な理解につなげるための、保育場面の観察や記録の意義</p> <p>第7回：目的に応じた観察法の基礎的な理解</p> <p>第8回：実際の保育場面の観察や記録から、個と集団の関係を捉える意義</p> <p>第9回：幼児のつまづきの背景について</p> <p>第10回：幼児のつまづきの要因の把握と対応の方法</p> <p>第11回：つまづいている幼児と周りの幼児との関係</p> <p>第12回：保護者の心情への理解</p> <p>第13回：保護者対応のためのカウンセリングの基礎的な姿勢と理解</p> <p>第14回：幼児に関わる専門機関との連携について</p> <p>第15回：保護者を支える専門機関と園内の協力体制</p>		
授業方法	講義とグループ学習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	毎回、レポートに授業内容や感想をまとめたり、次回の予習として、提示されたテーマについて調べ学習を行い、翌週提出する。		
教科書	<p>対面授業の場合は、「実践につながる新しい子どもの理解と援助—いまここに生きる子どもの育ちをみつめて」大浦賢治編著（ミネルバ書房 2021）。</p> <p>遠隔授業の場合は、適宜資料を配付する。</p>		
参考書	<p>「ユニバーサルデザインへの挑戦」東洋館出版社 2018</p> <p>「あったかクラスづくり-通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン」明治図書 2009</p> <p>「あったか絆づくり-発達障害の子どもを二次障害から守る」明治図書 2012</p>		
評価方法	授業への参加度 20% 授業中の小レポート 35% 課題・期末レポート 45%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験（28年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。また教育委員会指導主事として、幼稚園巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の幼稚園を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼】	科目コード	66410
科目名	教育実習指導（幼）	授業コード	9401086
教員名	山本 弥栄子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>事前指導：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>事後指導：報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等の理解と意欲的な教育実習への参加</p> <p>第2回：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等への理解</p> <p>第3回：幼児との関わりを通じた実態や課題の把握</p> <p>第4回：指導教員等の実施する授業を視点を持った観察と事実に即した記録</p> <p>第5回：教育園の学校経営方針及び教育活動とそれらを実施するための組織体制についての理解</p> <p>第6回：学級担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>第7回：幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成</p> <p>第8回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）①導入保育の理解</p> <p>第9回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）②年齢別における設定保育</p> <p>第10回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）③設定保育の展開</p> <p>第11回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）④設定保育のまとめ</p> <p>第12回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）の理解</p> <p>第13回：幼児の体験との関連を考慮した適切な場面での情報機器の活用</p> <p>第14回：学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>第15回：様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。</p>		
授業方法	<p>教育実習に必要な事項（実習生としての姿勢、指導案作成、実習日誌の記録、保育技術の向上、実習に向けての留意事項、実習の振り返り）を学び、模擬保育演習を通して、自らが保育者として幼児教育を進めていく技術を身につける。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>絵本の読み聞かせの練習、保育指導案作成とその準備、クラス経営や保育指導に関する情報収集、保育日誌作成の練習</p>		
授業外学習	<p>教育実習において、保育対象となる子どもたちの理解に努める。主に、幼児期（3歳、4歳、5歳）における各年齢発達の特徴を日頃の生活の中で、よく観察し、掴んでおくこと。</p>		
教科書	『実習の記録と指導案：改訂新版（日本語）大型本』ひかりのくに		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
評価方法	授業への参加度(30%)、保育指導案作成と模擬授業の実践内容(40%)、実習へ臨む姿勢や成果の整理(30%)		
既修条件	教職概論、教育原理、幼児理解かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)含む、保育内容総論、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(健康)、保育内容(言葉)、保育内容(音楽表現)、保育内容(造形表現)		
実務経験のある教員による授業	臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、「堺市私立幼稚園巡回相談事業」に携わった経験を生かし、特別な支援を有する子どもたちも含めた、幼稚園における保育者の教育支援のあり方について講義する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼】	科目コード	66410
科目名	教育実習指導（幼）	授業コード	9401103
教員名	小餅谷 哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>事前指導：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>事後指導：報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等の理解と意欲的な教育実習への参加</p> <p>第2回：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等への理解</p> <p>第3回：幼児との関わりを通じた実態や課題の把握</p> <p>第4回：指導教員等の実施する授業を視点を持った観察と事実に即した記録</p> <p>第5回：教育園の学校経営方針及び教育活動とそれらを実施するための組織体制についての理解</p> <p>第6回：学級担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>第7回：幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成</p> <p>第8回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）①導入保育の理解</p> <p>第9回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）②年齢別における設定保育</p> <p>第10回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）③設定保育の展開</p> <p>第11回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）④設定保育のまとめ</p> <p>第12回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）の理解</p> <p>第13回：幼児の体験との関連を考慮した適切な場面での情報機器の活用</p> <p>第14回：学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>第15回：様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる。</p>		
授業方法	<p>教育実習に必要な事項（実習生としての姿勢、指導案作成、実習日誌の記録、保育技術の向上、実習に向けての留意事項、実習の振り返り）を学び、模擬保育演習を通して、自らが保育者として幼児教育を進めていく技術を身につける。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>絵本の読み聞かせの練習、保育指導案作成とその準備、クラス経営や保育指導に関する情報収集、保育日誌作成の練習</p>		
授業外学習	<p>教育実習において、保育対象となる子どもたちの理解に努める。主に、幼児期（3歳、4歳、5歳）における各年齢発達の特徴を日頃の生活の中で、よく観察し、掴んでおくこと。</p>		
教科書	『実習の記録と指導案：改訂新版（日本語）大型本』ひかりのくに		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
評価方法	授業への参加度(30%)、保育指導案作成と模擬授業の実践内容(40%)、実習へ臨む姿勢や成果の整理(30%)		
既修条件	教職概論、教育原理、幼児理解かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)含む、保育内容総論、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(健康)、保育内容(言葉)、保育内容(音楽表現)、保育内容(造形表現)		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【幼】	科目コード	66410
科目名	教育実習指導（幼）	授業コード	9411120
教員名	杉本 孝美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 幼児や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(2) 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>事前指導：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>事後指導：報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等の理解と意欲的な教育実習への参加</p> <p>第2回：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な技能等への理解</p> <p>第3回：幼児との関わりを通じた実態や課題の把握</p> <p>第4回：指導教員等の実施する授業の視点を持った観察と事実に即した記録</p> <p>第5回：教育園の学校経営方針及び教育活動とそれらを実施するために組織体制についての理解</p> <p>第6回：学級担任等の補助的な役割を担うことができる。</p> <p>第7回：幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成</p> <p>第8回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）①導入保育の理解</p> <p>第9回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）②年齢別における設定保育</p> <p>第10回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）③設定保育の展開</p> <p>第11回：指導案に基づく保育の実践発表（模擬保育）④設定保育のまとめ</p> <p>第12回：保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）の理解</p> <p>第13回：幼児の体験との関連を考慮した適切な場面での情報機器の活用</p> <p>第14回：学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。</p> <p>第15回：様々な活動の場面で適切に幼児と関わることができる</p>		
授業方法	<p>教育実習に必要な事項（実習生としての姿勢、指導案作成、実習日誌の記録、保育技術の向上、実習に向けての留意事項、実習の振り返り）を学び、模擬保育演習を通して、自らが保育者として幼児教育を進めていく技術を身につける。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>絵本の読み聞かせの練習、保育指導案作成とその準備、クラス経営や保育指導に関する情報収集、保育日誌作成の練習</p>		
授業外学習	<p>教育実習において、保育対象となる子どもたちの理解に努める。主に、幼児期（3歳、4歳、5歳）における各年齢発達の特徴を日頃の生活の中で、よく観察し、掘っておくこと。</p>		
教科書	『実習の記録と指導案：改訂新版（日本語）大型本』ひかりのくに		
参考書	文部科学省「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」		
評価方法	授業への参加度(30%)、保育指導案作成と模擬授業の実践内容(40%)、実習へ臨む姿勢や成果の整理(30%)		
既修条件	教職概論、教育原理、幼児理解かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)含む、保育内容総論、保育内容(人間関係)、保育内容(環境)、保育内容(健康)、保育内容(言葉)、保育内容(音楽表現)、保育内容(造形表現)		
実務経験のある教員による授業	保育者養成校の教員として、実習園への訪問指導や卒業生支援を行ってきた経験や、幼稚園、保育所、認定こども園等でのこどもとの関わりや現職教員への研修等の経験を生かして実習指導にあたる。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	66420
科目名	教育実習指導(小)	授業コード	9401154
教員名	中島 英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。</p> <p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。</p> <p>(1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。</p> <p>(3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。</p> <p>(4) 児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。</p>		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>テーマ 各回の到達目標</p> <p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する。</p> <p>第2回：学校(園)全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。</p>		

授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)を含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語(英語)教育法
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	66420
科目名	教育実習指導(小)	授業コード	9411171
教員名	龍神 美和		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。</p> <p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。</p> <p>(1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。</p> <p>(3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。</p> <p>(4) 児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる</p>		
授業概要	<p>事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>テーマ 各回の到達目標</p> <p>第1回 : 教育実習の意義と目的を理解する。</p> <p>第2回 : 学校(園)全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回 : 教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回 : 指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1): 単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2): 指導計画の検討</p> <p>第7回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3): 本時の導入</p> <p>第8回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4): 本時の展開</p> <p>第9回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5): 本時のまとめ</p> <p>第10回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6): 評価のあり方</p> <p>第11回 : 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7): カリキュラム</p> <p>第12回 : 学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回 : 実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回 : 教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回 : 教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わる実践的な資質・能力を講義と演習形式で学ぶ		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		
授業外学習	教育実習本諾訪問、模擬授業指導案作成、教育実習関連書類作成		

教科書	指定なし 適時、資料を配付
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、（幼・小）を含む、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語（英語）教育法
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	66420
科目名	教育実習指導(小)	授業コード	9401188、9427839
教員名	野田 健司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期 2024年度 後期～2025年度 後期
到達目標	<p>観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。</p> <p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。</p> <p>(1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。</p> <p>(3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。</p> <p>(4) 児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。</p>		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>テーマ 各回の到達目標</p> <p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する。</p> <p>第2回：学校(園)全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日記の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		

2024年度桃山学院教育大学教職科目シラバス

アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。
授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)を含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語(英語)教育法
実務経験のある教員による授業	長らく小学校での教育と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして、教育実習実務、模擬授業、学校実務などを指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	66420
科目名	教育実習指導(小)	授業コード	9401222
教員名	守谷 富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。</p> <p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。</p> <p>(1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。</p> <p>(3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。</p> <p>(4) 児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。</p>		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認 		
授業計画	<p>テーマ 各回の到達目標</p> <p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する。</p> <p>第2回：学校(園)全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		

授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)を含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語(英語)教育法
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	66420
科目名	教育実習指導(小)	授業コード	9411180
教員名	後藤 由枝		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。</p> <p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。</p> <p>(1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適正を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。</p> <p>(3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。</p> <p>(4) 児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。</p>		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>テーマ 各回の到達目標</p> <p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する。</p> <p>第2回：学校(園)全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		

授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)を含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語(英語)教育法
実務経験のある 教員による授業	長らく小学校での教育と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして、教育実習実務、模擬授業、学校実務などを指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【小】	科目コード	66420
科目名	教育実習指導(小)	授業コード	9411137
教員名	樹下 堅		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。</p> <p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。</p> <p>(1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。</p> <p>(2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。</p> <p>(3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。</p> <p>(4) 児童の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、児童の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。</p>		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>テーマ 各回の到達目標</p> <p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する。</p> <p>第2回：学校(園)全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施とその指導及びグループ討議。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。</p>		

授業外学習	学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集
教科書	指定しない
参考書	「小学校学習指導要領総則編」
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、教育課程論、(幼・小)を含む、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、国語科教育法、社会科教育法、算数科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、外国語(英語)教育法
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(英語)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9421239
教員名	安井 茂喜		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に沿った50分の授業計画を立て、その一部を実践できる。 ・教員に必要な服装・話し方ができる。 ・教育者としての自覚ができる。 ・教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、授業計画の作成と実施につなげることができる。 		
授業概要	教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、手続きに関する事項、教員採用試験への申込に関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。		
授業計画	第1回 シラバス説明、実習生として遵守すべき義務と責任(教員、公務員) 第2回 生徒との関わり(生徒指導、教育相談)、学級担任・教科担任の役割と職務内容の理解 第3回 教材研究1 第4回 教材研究2、観点別評価、レポート1(教材研究)提出 第5回 教材研究レポートの講評、教材研究の修正 第6回 指導過程・指導案の概略、レポート2(教材研究2)提出 第7回 指導案の説明と書き方の要点(日英語)、語彙指導の工夫 第8回 文法指導の在り方、教室英語の実際、oral introductionから新語導入まで、レポート3(指導案)提出 第9回 指導案の講評と相互評価、指導案の修正、板書計画の説明と実技 第10回 細案の作成、ALTの活用とTeam Teaching、レポート4(細案)提出 第11回 細案の講評と相互評価、英語版指導案の要点説明、模擬授業の評価基準、レポート5(指導案2)提出 第12回 細案に基づく模擬授業実施1(16分×5名) 第13回 細案に基づく模擬授業実施2(16分×5名) 第14回 細案に基づく模擬授業実施3(16分×5名) 第15回 細案に基づく模擬授業実施4(16分×3名)、まとめ、レポート6(細案2および英語指導案)提出		
授業方法	講義と討論を中心に、演習形式で実施する		
アクティブラーニングの視点	各レポート・模擬授業の相互評価	グループワークによる討論	ふりかえりシート作成
授業外学習	教材研究レポート、指導案(日英語版)、細案の作成および修正版作成、模擬授業に向けての準備		
教科書	「最新英語科教育法入門」土屋澄男(編著)改定版、研究社 「英語資料集E-PILOT」秀学社(教室で販売)		
参考書	・「英語教育用語辞典」大修館書店 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説(外国語編)』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説(外国語編 英語編)』		
評価方法	教材研究レポート 10+8=18%	指導案レポート 14+10=24%	細案レポート 10+10=20%
	模擬授業 30%	振り返り 8%	
既修条件	教職概論、教育原理、英語科教育法1、英語科教育法2、英語科教育法3、英語科教育法4、かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、教育課程論、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、English Pronunciation Workshop、English Linguistics Workshop A、English Linguistics Workshop B、Literature in English 1、English for Communication、Writing and Oral Presentations1、Integrated Listening 1、Interactive English A1、Learning and Teaching Grammar for Communication1、Learning and Teaching Grammar for Communication2		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして指導する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9401273
教員名	大畑 昌己		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2) 生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3) 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2024」大修館書</p> <p>文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>大畑・清野編著 「保健体育科教育法－教育実習に向けて－」ミネルヴァ書房 2024</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、（中・高）を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	中学校・高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9422241
教員名	大畑 昌己		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2023」大修館書店</p> <p>大畑・清野編著 「保健体育科教育法－教育実習に向けて－」ミネルヴァ書房 2024</p> <p>文部科学省、東山書房 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」</p> <p>文部科学省、東山書房 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、（中・高）を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	中学校・高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(国語)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9421290
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 ・事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 (2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 (3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 (4) 生徒の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、生徒の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。 		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する</p> <p>第2回：学校全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わる実践的な資質・能力を講義と演習形式で学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		

授業外学習	教育実習本諾訪問、模擬授業指導案作成、教育実習関連書類作成
教科書	中学校 国語1・2・3（光村図書）＜国語科教育法2で購入済み＞
参考書	中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理、国語科教育法1（中・高）、国語科教育法2（中・高）、国語科教育法3（中・高）、国語科教育法4（中・高）かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、日本語学概論、日本語学演習1、日本文学概論、日本文学史、漢文学概論、書道1（中学校のみ）
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方について具体的に指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9401307
教員名	乾 匡		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2) 生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3) 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2024」大修館書</p> <p>文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>大畑・清野編著 「保健体育科教育法－教育実習に向けて－」ミネルヴァ書房 2024</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、（中・高）を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、陸上競技、球技I（ネット型スポーツ）、球技II（ゴール型スポーツ）、球技III（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(国語)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9421324
教員名	加藤 恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚することができる。そのために指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることができる。 ・事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解し、これらを通して教育実習の意義を理解することができる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるための適性を考えて、自覚的に課題を持って教育実習の意義を理解する。 (2) 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実習生としての自覚を持ち、遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加する。 (3) 教育実践ならびに、教育実践研究の基礎的な能力を身につけ、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫し、模擬授業を行う。 (4) 生徒の学習環境に対して適切な観察を行い、学校実務に対して補助的な役割を果たしながら、生徒の実態を踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (5) 教育実習の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会での報告を経て、教員免許取得までの課題を整理することができる。 		
授業概要	<p>(事前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育者を目指す心構え、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課題活動等の教育実習の事前準備に必要な事項について解説する。 ・実習課題を明確にして実習に臨めるよう、模擬授業の実施等を通して子ども観や授業への考え方を深める。 ・実習に対する不安を解消する過程を通して実習への参加意欲を高めさせる。また、教育現場での責任ある行動とは何かを学ばせ、必要とされる態度や資質を身に付けさせる。 <p>(事後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書の作成と実習報告会での発表を通して、実習の成果と課題を確認させる。 		
授業計画	<p>第1回：教育実習の意義と目的を理解する</p> <p>第2回：学校全体の教育活動の概観、実習生としての心構えを理解する</p> <p>第3回：教職員の職務・校務分掌、保護者・地域との関わりについて理解する</p> <p>第4回：指導教員の授業の観察と記録</p> <p>第5回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その1)：単元観および単元目標の検討</p> <p>第6回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その2)：指導計画の検討</p> <p>第7回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その3)：本時の導入</p> <p>第8回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その4)：本時の展開</p> <p>第9回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その5)：本時のまとめ</p> <p>第10回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その6)：評価のあり方</p> <p>第11回：学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導(その7)：カリキュラム</p> <p>第12回：学級集団の形成と規律ある学級経営及び生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回：実習日誌の記入等の説明、教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14回：教育実習に向けて、担任としての職務内容を理解する</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振りかえり</p>		
授業方法	観察・参加・実習という方法によって、教育実践に関わる実践的な資質・能力を講義と演習形式で学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	講義とともに模擬授業の実施とその指導及びグループ討議を行う。模擬授業は教員の指導を経た学習指導案で行うとともにグループ討議で省察させる。事前に計画表を書かせて、主体的に取り組めるようにする。特に、学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集については重点的に行わせる。		

授業外学習	教育実習本諾訪問、模擬授業指導案作成、教育実習関連書類作成
教科書	中学校 国語1・2・3（光村図書）＜国語科教育法2で購入済み＞ 適時、資料を配付
参考書	中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）
評価方法	授業への参加度（30%）、学習指導案作成と模擬授業の実践内容（40%）、実習に臨む姿勢や学習成果の整理（30%）で評価する。とくに授業への真摯な態度での参加、グループ討議での積極的な発言、教職に対する意欲等を高く評価する。
既修条件	教職概論、教育原理、国語科教育法1（中・高）、国語科教育法2（中・高）、国語科教育法3（中・高）、国語科教育法4（中・高）かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、日本語学概論、日本語学演習1、日本文学概論、日本文学史、漢文学概論、書道1（中学校のみ）
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして指導する。国語科の教科指導を中心として中高の教育実習に関する具体性をふまえた実践的な指導（授業の基本的な指導技術及び指導案の書き方等）を行う。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9401358
教員名	鈴木 慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2) 生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3) 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2024」大修館書店</p> <p>文部科学省、東山書房 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」</p> <p>文部科学省、東山書房 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」</p> <p>大畑・清野編著 「保健体育科教育法－教育実習に向けて－」ミネルヴァ書房 2024</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、（中・高）を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	中学校・高等学校・専門学校・特別支援学校での実践経験を活かした指導法の教授と、一般企業勤務経験を活かした社会的規範について指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9422250
教員名	鈴木 慶太		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2) 生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3) 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2022」大修館書店</p> <p>文部科学省、東山書房 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」</p> <p>文部科学省、東山書房 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、（中・高）を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	中学校・高等学校・専門学校・特別支援学校での実践経験を活かした指導法の教授と、一般企業勤務経験を活かした社会的規範について指導する。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9401392
教員名	舞 寿之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1) 事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2) 生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3) 大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2024」大修館書</p> <p>文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>大畑・清野編著 「保健体育科教育法－教育実習に向けて－」ミネルヴァ書房 2024</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、（中・高）を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、（情報通信技術の活用含む）を含む、陸上競技、球技Ⅰ（ネット型スポーツ）、球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）、球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】(保体)	科目コード	65283
科目名	教育実習指導(中・高)	授業コード	9422245
教員名	舞 寿之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。</p> <p>(1)事前指導として、教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高める。</p> <p>(2)生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(3)大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。</p>		
授業概要	<p>《事前》教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。また、自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の生徒観や授業への考え方を深める。さらに、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>《事後》報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(1)－教育者の自覚－</p> <p>第2回：教育実習生として遵守すべき義務等及び責任の自覚(2)－公務員の職責－</p> <p>第3回：生徒との関わり(1)－生徒指導－</p> <p>第4回：生徒との関わり(2)－教育相談－</p> <p>第5回：学級担任の役割と職務内容の理解</p> <p>第6回：教科担任等の役割と職務内容の理解</p> <p>第7回：学級担任や教科指導以外の様々な活動の理解</p> <p>第8回：学習指導に必要な基礎的技術と情報機器の活用法の習得</p> <p>第9回：学校経営方針と学校組織体制の理解</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)－教科指導の基礎－</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)－状況に応じた教科指導－</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)－協働的な教科指導－</p> <p>第13回：教育実習に向けての課題の整理</p> <p>第14回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(1)－課題の整理－</p> <p>第15回：教育実習を通して得られた知識と経験の振り返り(2)－今後の計画－</p>		
授業方法	<p>講義、模擬授業の実施及び討論を通しての指導</p> <p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用なども行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション、論述、振り返りシートの活用など。</p>		
授業外学習	<p>学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集</p>		
教科書	<p>「ステップアップ中学体育 2023」大修館書</p> <p>文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」東山書房</p> <p>その他、必要に応じて、資料やレジュメを配布する。</p>		
参考書	<p>大畑昌己 「保健体育指導法(中学校・高等学校)」(株)ERP, 2017</p> <p>その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		

評価方法	学生に対する評価 ①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等） 30% ②自己学習ノート作成（自分の考えを整理した記述、資料の整理、全体の完成度等） 30% ③レポート及び実習記録の提出（記述内容の的確性、自己への振り返り、今後の手展望等） 40% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	教職概論、教育原理、保健体育科教育法1かつ原則として以下の科目を修得済み。教育心理学、特別活動論、(中・高)を含む、保健体育科教育法2、教育課程論、教育方法の理論と実践、(情報通信技術の活用含む)を含む、陸上競技、球技I（ネット型スポーツ）、球技II（ゴール型スポーツ）、球技III（ベースボール型スポーツ）、器械運動、体づくり運動、武道、ダンス、水泳
実務経験のある 教員による授業	高等学校保健体育科教員としての教科指導、生徒指導等の経験、高等学校の教頭としての教員育成、学校経営、学校管理等の経験、大阪府教育委員会の指導主事としての教育行政、スポーツ行政等の経験を活かし、教育実習について演習と講義をする。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】 【中高】 【幼・小】	科目コード	68039
科目名	教職実践演習	授業コード	9429310
教員名	村上 佳司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 教職や学級経営の意義を理解し、望ましい教師像や学級経営像を明確に持つことができる。</p> <p>2. 学級経営案や教科内容の指導案を適切に作成し、授業を実施できる。</p> <p>3. 生徒理解を深め、教職に携わるにふさわしい社会性や対人関係能力を備える。</p>		
授業概要	<p>これまでに履修した学修を踏まえて自己診断し、教職に向けた実践的・反省的取り組みを行う。教職の意義や学級経営、教科の指導、生徒指導などの諸側面について、ロールプレイやグループ討論等の実践的な方法でアプローチすることによって、人間的能力と専門的力量を高める。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと「履修カルテ」による自己診断</p> <p>第2回 教職の意義や教員の役割についてのグループ討議</p> <p>第3回 教員経験者をゲスト講師に招いての講話と研修</p> <p>第4回 学校現地調査</p> <p>第5回 学級経営の事例研究</p> <p>第6回 学級経営案の作成と発表、グループ討議</p> <p>第7回 教科内容指導案の作成（グループ学習）</p> <p>第8回 模擬授業の実施とロールプレイ①（教科指導）</p> <p>第9回 模擬授業の実施とロールプレイ②（特別活動）</p> <p>第10回 模擬授業の実施とロールプレイ③（道徳活動）</p> <p>第11回 教職経験者による評価とアドバイス</p> <p>第12回 生徒理解と特別支援教育</p> <p>第13回 特別支援教育の方法を通常クラスに活かす方法</p> <p>第14回 生徒・進路指導についてのグループ討議</p> <p>第15回 学生相互評価と自己点検</p>		
授業方法	<p>演習を中心とした授業形態をとる。これまでの教育実践を元に補足内容をカバーし、より実践的な指導法につながるよう、調査研究および発表を含めた授業展開を行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>履修カルテの自己点検と総まとめ</p>		
教科書	<p>特に指定せず、プリント等資料を配付する。</p>		
参考書	<p>学習指導要領解説各教科</p>		
評価方法	<p>授業への参加度及び課題の達成度 50%、レポート 50%により総合的に評価する。尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。</p>		
既修条件	<p>教育実習 1, 2（中・高）を履修中もしくは修得済み</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>公立学校の教諭、管理職及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、教職についての指導をする。</p>		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】【幼・小】	科目コード	68039
科目名	教職実践演習	授業コード	9429293
教員名	乾 匡		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 教職や学級経営の意義を理解し、望ましい教師像や学級経営像を明確に持つことができる。</p> <p>2. 学級経営案や教科内容の指導案を適切に作成し、授業を実施できる。</p> <p>3. 生徒理解を深め、教職に携わるにふさわしい社会性や対人関係能力を備える。</p>		
授業概要	<p>これまでに履修した学修を踏まえて自己診断し、教職に向けた実践的反省的取り組みを行う。</p> <p>教職の意義や学級経営、教科の指導、生徒指導などの諸側面について、ロールプレイやグループ討論等の実践的な方法でアプローチすることによって、人間的能力と専門的力量を高める。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと「履修カルテ」による自己診断</p> <p>第2回 教職の意義や教員の役割についてのグループ討議</p> <p>第3回 教員経験者をゲスト講師に招いての講話と研修</p> <p>第4回 学校現地調査</p> <p>第5回 学級経営の事例研究</p> <p>第6回 学級経営案の作成と発表、グループ討議</p> <p>第7回 教科内容指導案の作成（グループ学習）</p> <p>第8回 模擬授業の実施とロールプレイ①（教科指導）</p> <p>第9回 模擬授業の実施とロールプレイ②（特別活動）</p> <p>第10回 模擬授業の実施とロールプレイ③（道徳活動）</p> <p>第11回 教職経験者による評価とアドバイス</p> <p>第12回 生徒理解と特別支援教育</p> <p>第13回 特別支援教育の方法を通常クラスに活かす方法</p> <p>第14回 生徒・進路指導についてのグループ討議</p> <p>第15回 学生相互評価と自己点検</p>		
授業方法	<p>演習を中心とした授業形態をとる。これまでの教育実践を元に補足内容をカバーし、より実践的な指導法につながるよう、調査研究および発表を含めた授業展開を行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>履修カルテの自己点検と総まとめ</p>		
教科書	<p>特に指定せず、プリント等資料を配付する。</p>		
参考書	<p>学習指導要領解説各教科</p>		
評価方法	<p>授業への参加度及び課題の達成度 50%、レポート 50%により総合的に評価する。</p> <p>尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。</p>		
既修条件	<p>教育実習1, 2（中・高）を履修中もしくは修得済み</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>公立学校の教諭、管理職及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、教職についての指導をする。</p>		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】【幼・小】	科目コード	68039
科目名	教職実践演習	授業コード	9429276
教員名	藤井 善信		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>・教職に関する科目履修や教育活動等を通して修得した知識・技能を、学校（園）で生かすことができるように、教師の実践力として高めることができる。</p> <p>・教員になる上で、特に必要となる力量を獲得したり、各自の課題を自覚しそれらを解決したりすることができる。</p>		
授業概要	<p>教員になる上で、実際に必要と考えられる知識・技能等の補完と定着を図り、指導力を高めていくために、次の事項について、講義・模擬授業・体験的な学習等を行う。</p> <p>(1) 教育に対する使命感と責任感 (2) 社会性・対人関係能力 (3) 児童理解と学級経営 (4) 教科・領域等の内容に関する専門性とその指導法</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション ・本授業の目的と意義の周知と授業計画</p> <p>第2回 現在的な教育課題の理解 ・特に学習指導要領の改訂等に準拠</p> <p>第3回 児童理解の重要性と教員の責任 ・休み時間・放課後の補充指導・給食時間・校外学習等における安全管理</p> <p>第4回 社会人・教育職員・学校職員・担任としての教員の役割 ・地域とのつながり、学校組織と校務分掌、授業研究会等、学校組織</p> <p>第5回 教育機関や保護者、地域との連携の在り方</p> <p>第6回 教員になる上での自己課題の設定と課題解決の見通し</p> <p>第7回 学級担任としての役割と実務 ・他教員との連携や学級経営、学級経営計画案</p> <p>第8回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り①</p> <p>第9回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り②</p> <p>第10回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り③</p> <p>第11回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り④（特別支援実地研修に行っている学生は別授業）</p> <p>第12回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り⑤（特別支援実地研修に行っている学生は別授業）</p> <p>第13回 自己の課題についての小論文記述と発表による相互交流①</p> <p>第14回 自己の課題についての小論文記述と発表による相互交流②</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
授業方法	ロールプレイング、研究協議、模擬授業、小論文記述、学校参観など		
アクティブラーニングの視点	教科教育法、学校行事、学級経営など毎時間課題を与えて、それについての自分の意見を明確に持たせる。その後、校務分掌など4月から夏休みにかけて取り組むべきことをグループワークで伝え合い、実践的な能力を身につける。		
授業外学習	各自の課題設定の記述、学習指導案の作成、学級経営案の作成など		
教科書	なし		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	授業への参加度50%、発表及び課題の内容50%		
既修条件	教育実習1, 2（幼）または教育実習1, 2（小）を履修中もしくは修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事等の経験を活かして指導する。		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】【幼・小】	科目コード	68039
科目名	教職実践演習	授業コード	9429327
教員名	加藤 恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>・教職に関する科目履修や教育活動等を通して修得した知識・技能を、学校（園）で生かすことができるように、教師の実践力として高めることができる。</p> <p>・教員になる上で、特に必要となる力量を獲得したり、各自の課題を自覚しそれらを解決したりすることができる。</p>		
授業概要	<p>教員になる上で、実際に必要と考えられる知識・技能等の補完と定着を図り、指導力を高めていくために、次の事項について、講義・模擬授業・体験的な学習等を行う。</p> <p>(1) 教育に対する使命感と責任感</p> <p>(2) 社会性・対人関係能力</p> <p>(3) 児童理解と学級経営</p> <p>(4) 教科・領域等の内容に関する専門性とその指導法</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業の目的と意義の周知と授業計画 <p>第2回 現在的な教育課題の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に学習指導要領の改訂等に準拠 <p>第3回 児童理解の重要性と教員の責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間・放課後の補充指導・給食時間・校外学習等における安全管理 <p>第4回 社会人・教育職員・学校職員・担任としての教員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながり、学校組織と校務分掌、授業研究会等、学校組織 <p>第5回 教育機関や保護者、地域との連携の在り方</p> <p>第6回 教員になる上での自己課題の設定と課題解決の見通し</p> <p>第7回 学級担任としての役割と実務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教員との連携や学級経営、学級経営計画案 <p>第8回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り① <p>第9回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り② <p>第10回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り③ <p>第11回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り④ （特別支援実地研修に行っている学生は別授業） <p>第12回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り⑤ （特別支援実地研修に行っている学生は別授業） <p>第13回 自己の課題について的小論文作成と発表による相互交流①</p> <p>第14回 自己の課題について的小論文作成と発表による相互交流②</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
授業方法	ロールプレイング、研究協議、模擬授業、小論文作成、学校参観など		
アクティブラーニングの視点	グループでの討論、発表・スピーチなどの学習活動を重視する。また、自ら設定した課題に対する追究活動を設定する。		
授業外学習	各自の課題設定の記述、学習指導案の作成、学級経営案の作成など		
教科書	なし		

参考書	学習指導要領解説各教科
評価方法	授業への参加度（30%）、小論文の提出及び内容（30%）、発表等（20%）、レポート等の提出及び内容（20%） 授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、研究協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。小論文・レポートの提出は、内容を確認して返却する。小論文及びレポート、発表等は、内容及びその的確性を評価する。
既修条件	教育実習1，2（幼）または教育実習1，2（小）を履修中もしくは修得済み。
実務経験のある 教員による授業	学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして指導する。教員となる上で、現場での実践力を高めるために具体性をふまえた実践的な指導を行う。

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】【 <u>幼・小</u> 】	科目コード	68039
科目名	教職実践演習	授業コード	9429361
教員名	杉本 孝美		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>今までに履修した保育内容に関する科目・教職に関する科目やさまざまな活動を通して身につけた資質能力が、実践現場で幼稚園教諭・保育士として生かされていくのか、知識・能力・実践指導力がいかに身についてきたか、最終的に確認できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教諭志望者として、自己の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、実践的指導力を身につけることができる。 ・幼児教育における新たな保育の展望としてSDGsの理念を理解し、具体的に保育の中で実施することができる。 		
授業概要	<p>教育課程履修カルテを基に自己評価し、自己課題を明確にする。幼稚園教員としての使命や子どもへの責任の理解、子どもの発達や心身の理解、クラス運営、保育・教育の専門知識と保育の指導法、地域や他校種との連携について、グループ討議・事例研究・模擬保育・現地調査を通して学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第01回 「教育実践演習」の目的、意義、授業進行の説明 第02回 「教育課程履修カルテ」に基づく教育実践力の自己評価 第03回 子どもの発達・心身の状況理解 第04回 幼稚園と家庭・保護者及び地域環境との連携 第05回 他校種（保育所・小学校）との連携 第06回 保育者としての倫理観と法律 第07回 教材研究（1）図形線譜と打楽器 第08回 教材研究（2）発達と保育内容 第09回 教材研究（3）子育て支援 第10回 子ども理解：保育実践の事例研究 第11回 諸外国の幼児教育：ニュージーランド 第12回 諸外国の幼児教育：スウェーデン 第13回 幼児教育内容とSDGs 第14回 幼児教育計画とSDGs 第15回 まとめと教育実践力の自己最終評価</p>		
授業方法	<p>講義・グループ討議・事例研究・模擬保育・現地調査等を取り入れて展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業テーマについて、自分自身の考えを整理しておくこと。 ・毎回の授業内容とディスカッションの内容に関する考察をレポートとして提出すること。 		
アクティブラーニングの視点	<p>各時間は個人の作業とグループワークで実施する。主に、自分の意見を持ち、グループでの討論を通して、自分の意見をさらに深めるようにする。</p>		
授業外学習	<p>事前に自分の意見をまとめて、関連資料を読む。さらに、授業後は自分の意見をまとめて、次の授業につなげる。</p>		
教科書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 『保育に活かすSDGs/ESD－乳幼児の権利と参画のために－』かもがわ出版</p>		
参考書	<p>授業中に適宜紹介する。</p>		
評価方法	<p>授業への参加態度（30%）、発表、レポート（70%）</p>		
既修条件	<p>教育実習1, 2（幼）または教育実習1, 2（小）を履修中もしくは修得済み。</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>幼稚園、保育所、認定こども園でのこどもとの関わりや園研修等の経験を活かし、また地域の子育て支援、昨今の国内外の幼児教育事情等の情報を得ながら指導する。</p>		

教職科目	【教育の基礎的理解に関する科目等】【中高】【幼・小】	科目コード	68039
科目名	教職実践演習	授業コード	9429344
教員名	樹下 堅		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に関する科目履修や教育活動等を通して修得した知識・技能を、学校（園）で生かすことができるように、教師の実践力として高めることができる。 ・教員になる上で、特に必要となる力量を獲得したり、各自の課題を自覚しそれらを解決したりすることができる。 		
授業概要	<p>教員になる上で、実際に必要と考えられる知識・技能等の補完と定着を図り、指導力を高めていくために、次の事項について、講義・模擬授業・体験的な学習等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育に対する使命感と責任感 (2) 社会性・対人関係能力 (3) 児童理解と学級経営 (4) 教科・領域等の内容に関する専門性とその指導法 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本授業の目的と意義の周知と授業計画 <p>第2回 現在の教育課題の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に学習指導要領の改訂等に準拠 <p>第3回 児童理解の重要性と教員の責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間・放課後の補充指導・給食時間・校外学習等における安全管理 <p>第4回 社会人・教育職員・学校職員・担任としての教員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながり、学校組織と校務分掌、授業研究会等、学校組織 <p>第5回 教育機関や保護者、地域との連携の在り方</p> <p>第6回 教員になる上での自己課題の設定と課題解決の見通し</p> <p>第7回 学級担任としての役割と実務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教員との連携や学級経営、学級経営計画案 <p>第8回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り① <p>第9回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り② <p>第10回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り③ <p>第11回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り④（特別支援実地研修に行っている学生は別授業） <p>第12回 授業力向上のための学習指導案作成、授業への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の展開・指導上の留意点・評価も含む細案作り⑤（特別支援実地研修に行っている学生は別授業） <p>第13回 自己の課題について的小論文記述と発表による相互交流①</p> <p>第14回 自己の課題について的小論文記述と発表による相互交流②</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
授業方法	ロールプレイング、研究協議、模擬授業、小論文記述、学校参観など		
アクティブラーニングの視点	教科教育法、学校行事、学級経営など毎時間課題に対して、それについての自分の意見を明確に持たせる。その後、校務分掌など取り組むべきことをグループワークで伝え合い、実践的な能力を身につける。		
授業外学習	各自の課題設定の記述、学習指導案の作成、学級経営案の作成など		
教科書	なし		
参考書	学習指導要領解説各教科		
評価方法	<p>授業への参加度 40%、発表、小論文、課題の内容 60%</p> <p>授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、研究協議に積極的に取り組んでいるなどを評価する。</p> <p>小論文や課題の提出は、内容を確認して返却する。</p>		
既修条件	教育実習1, 2（幼）または教育実習1, 2（小）を履修中もしくは修得済み。		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・校長・教育委員会指導主事・教育センター所長等の経験を活かして指導する。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	65190
科目名	保育内容総論	授業コード	9414620、9414637
教員名	名須川 知子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領等に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 各領域のねらい及び内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領等に示す幼児幼児教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達や学びの課程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 		
授業概要	<p>幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を学び、5領域（健康、人間関係、環境、言語、表現）のねらいと内容の理解とともに、総合的にとらえる視点や保育内容を構造的に理解する。幼児の発達、生活、遊びの発達段階を踏まえ、幼稚園での具体的な活動を学ぶ。さらに、具体的な実践がイメージできるように、実践的な振り返りや保育記録、指導計画の作成なども行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：幼児教育の基本と保育内容 第2回：幼稚園教育要領等の各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第3回：保育内容の歴史の変遷と社会的背景 第4回：教材文化としての保育内容：保育内容の開発 第5回：子どもの発達特性と保育内容5領域の総合性・系統性 第6回：保育における観察・記録・省察・評価と子ども理解：ラーニングストーリーの評価法 第7回：就学前から小学校の連続性：架け橋プログラムについて 第8回：環境をとおした保育と保育内容のあり方：アフォーダンス理論 第9回：遊びをとおした学びについて：教材研究と保育内容の実践 第10回：保育内容横断としてのESD/SDGs 第11回：家庭・地域との連携：子育て支援の実践 第12回：乳児保育と保育内容 第13回：長時間保育のあり方と保育内容 第14回：特別な支援を必要とする子どもの保育内容：具体的展開 第15回：多文化共生としての保育内容</p>		
授業方法	<p>教科書やレジュメをもとに、幼稚園・保育所での実態・事例を講義し、ディスカッションを行うなど、主体的に学べるようにする。授業での発言・討議の態度や内容を重視し、振り返りを通してその都度学びを確認する。また、実際に体験することで、教材開発の視点を育てるようとする。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>グループでの討議等を通して、自分の意見を明確に述べるようにする。また、グループでの実践や発表経験を活かして保育内容の教材開発に取り組めるようにする。</p>		
授業外学習	<p>事前に教科書を使って課題を行う。また、授業後は、課題について、さらに深くレポートを作成する。実際の子どもの様子を実習や、ボランティア等で観察し、その様子を参考に授業を受講する。</p>		
教科書	鈴木裕子編著『保育内容総論—乳幼児の生活文化』ミネルヴァ書房		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	<p>①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容等）30% ②授業についてのコメント（記述内容・字数・提出日等）30% ③課題レポート（論述内容・内容の理解・字数・提出日等）40%</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼稚園、保育所、認定こども園等でこどもと関わる経験や園研修等を踏まえて指導し、できるだけ実践に活かせる力をつけられるように工夫する。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66444
科目名	保育領域（健康）	授業コード	9414654、9414671
教員名	野田 健司、清野 宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解し、体の諸機能の発達に伴う生活習慣の形成や安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。また、幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。		
授業概要	「領域」健康に関する現代的課題が、学生に取り身近に広範囲にわたることを理解するため、映像等の資料や事例を含む多面的な資料を活用しながら、体験、ディスカッション等を通して、問題意識をもって考察する。また、領域「健康」における、幼児の食・運動に関わる発達の特徴について、学術的なデータを理解し、実践に繋げるための支援の在り方について理解する。		
授業計画	第1回：保育領域「健康」と健康の発達の意味 第2回：乳幼児期の心の発達と健康課題 第3回：乳幼児期の体の発達と健康課題 第4回：健康の定義と乳幼児期の健康の意義 第5回：乳幼児期の体の発達とその特徴 第6回：乳幼児期の基本的な生活習慣形成 第7回：幼児の安全教育 第8回：幼児期の怪我や病気の特徴と予防 第9回：乳幼児期の危険に対するリスクとハザード 第10回：乳幼児期の安全管理 第11回：幼児期の運動発達の特徴 第12回：幼児期の遊びを通じた動きの獲得 第13回：幼児期における身体活動の在り方と配慮 第14回：幼児期の心身発達にふさわしい環境、教育とは（グループ発表） 第15回：講義の振り返りと総括 期末試験		
授業方法	講義および実習形式で行う。		
アクティブラーニングの視点	毎回の講義の最初に講義内容について問題提起し、講義前半はワークシートを使用してグループワークを行う。その後、グループが調べたこと以上に講義で何が追加されたかをワークシートに記入しながら講義を受ける。第4回から9回の講義内容をプレゼンテーションにまとめ、各グループで実践したい内容を第9回で発表する。		
授業外学習	グループワークのための資料作成、および文献やデータの整理を行う必要がある。また、各自で子どもの健康課題について具体的事例を収集していく必要がある。		
教科書	「子どもの姿からはじめる領域・健康（シリーズ知のゆりかご）」 監修：秋田喜代美 株式会社みらい		
参考書	イラストで読む！ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK（武藤隆（編） 学陽書房、2017）		
評価方法	毎回のワークシート（20%）、発表および成果物（40%）、期末試験（40%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	保健体育科教育学を研究し、長らく学校現場と教育行政に携わってきた経験を有する教員が、その経験を活かして指導する。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66447
科目名	保育領域（人間関係）	授業コード	9414688、9414705
教員名	山本 弥栄子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。</p> <p>(1) 幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。</p> <p>(2) 幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。</p>		
授業概要	<p>保育領域「人間関係」の位置づけ、乳児期、幼児期、就学に向けた接続期にわたる就学前児の社会性の発達過程について概説する。子ども同士、子どもと保育者、保育者同士の関係をよりよくするための教育的配慮について紹介した保育事例を討議しながら保育者としての対応についても考える。</p>		
授業計画	<p>第1回：幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴の理解</p> <p>第2回：人間関係の現代的特徴とその社会的背景の理解</p> <p>第3回：人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることへの理解</p> <p>第4回：乳児期に育つ人と関わる力の発達過程の理解①（乳児期・幼児期前期）</p> <p>第5回：乳児期に育つ人と関わる力の発達過程の理解②（幼児期後期・就学前児）</p> <p>第6回：身近な大人との関係における人と関わる力の理解</p> <p>第7回：幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達の理解</p> <p>第8回：教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点における関係性の理解</p> <p>第9回：自立心の育ちにおける発達の理解</p> <p>第10回：協同性の育ちにおける発達の理解</p> <p>第11回：道徳性・規範意識の芽生えにおける発達の理解</p> <p>第12回：家族や地域との関わりと育ちにおける発達の理解</p> <p>第13回：幼稚園教育において育みたいコミュニケーションに関する資質能力の考察</p> <p>第14回：幼稚園生活における集団規範（きまり）に関する理解</p> <p>第15回：集団の中でみられる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係発達の理解</p>		
授業方法	<p>科目担当者による講義が中心であるが、保育・幼児教育における人間関係を考えるワークやグループ討議などを行うため、積極的な受講姿勢が求められる。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>保育教材指導のワークシートの作成、保育教材の作成、模擬保育発表と指導法の振り返りはグループワークなどの演習形式で行います。</p>		
授業外学習	<p>保育・教育現場において、各年齢の人間関係の発達、人間関係を広げる子どもの「あそび」について学んでおくこと。本授業では、人間関係を広げる保育教材の実演もしてもらいます。特大絵本や紙芝居の読み聞かせや手遊びの実演など、受講生全員の前でできるように日頃から素材を集め、練習をしておいてください。</p>		
教科書	<p>子どもと社会の未来を拓く 保育内容 人間関係（徳安敦（編）青鞥社 2019年）</p>		
参考書	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（文部科学省）</p>		
評価方法	<p>1) 模擬保育演習の発表（30%）</p> <p>(2) グループワークの振り返りに関するミニツツペーパー（30%）</p> <p>(3) 保育対応の個人ワークシート作成（40%）</p> <p>本授業では、積極的な授業への参加を求めます。</p> <p>なお、大幅な遅刻は欠席とみなすことがあります（詳細は第1回目授業で説明します）。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>臨床発達心理士、堺市子育てアドバイザーとして、発達相談業務に携わった経験を生かし、子どもの発達に応じた子育て支援や子育て相談など、保護者との連携における保育者のあり方について講義する。</p>		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66452
科目名	保育領域（環境）	授業コード	9425689、9425706
教員名	岩崎 巧、守谷 富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。</p> <p>領域のあり方と人的・物的環境の理解、保育室の空間の作り方と子どもの理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境を通した保育と子どもの主体性の引きだし方について理解する。 ・領域のあり方と人的・物的環境の大切さについて理解する。 ・子どもの理解からなる保育室の空間の作り方について理解する。 		
授業概要	<p>子どもの視座から環境をとらえることの重要性を踏まえ、乳幼児がこころを揺さぶられ、自発的、意欲的に関われるような環境のあり方を学ぶ。その中で主体的に活動が展開できるような環境の構成や、幼児と共につくりつくりかえ、変化していく可塑性のある環境づくりを目指し、乳幼児期にふさわしい体験が得られるような総合的な遊びとの関連について具体的な保育場面の考察を通して学修する。</p>		
授業計画	<p>テーマ</p> <p>第1回：ガイダンス、幼児を取り巻く環境の諸側面と領域、学びのブレ</p> <p>第2回：環境を通して行う教育の意義について</p> <p>第3回：「自然」に触れ気付くこと、草や木の遊びが授けてくれるもの</p> <p>第4回：身近な自然を通した保育事例、森の中を保育環境として過ごす実践例</p> <p>第5回：動植物に関わる環境</p> <p>第6回：砂・土・水の活動、園庭あそびと「原体験」</p> <p>第7回：ごっこ遊びの環境構成・積み木の重要性（数量・図形、文字等の環境）</p> <p>第8回：興味や欲求に応じた環境（レッジョ・エミリアの保育環境）</p> <p>第9回：発達の時期に即した環境</p> <p>第10回：3歳児の環境構成の作成</p> <p>第11回：4歳児の環境構成の作成</p> <p>第12回：5歳児の環境構成の作成</p> <p>第13回：コーナー保育の設定理解（環境構成図小テスト）</p> <p>第14回：科学的概念の発達と保育の意図性、学びのポスト</p> <p>第15回：まとめ</p>		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	<p>授業に積極的にいかかわれるよう発問に答え、授業中の主体的な学びとしてラーニング・ストーリーをまとめ、まとめた内容について学生同士で話し合い、さらに理解が深まったことも記述し、授業課題（ポートフォリオ）として毎回提出する。＜ガイダンスで解説＞</p>		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	永淵泰一郎編著『新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録』教育情報出版		
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド本社，2017）		
評価方法	<p>授業に対する意欲、保育領域に関する理解度・知識の定着度を総合的に判断し評価する。</p> <p>授業課題の提出（42%）・まとめの提出（18%）・小テスト（30%）・授業態度（10%）</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	私立認定こども園の教諭、教頭、及び幼児教育アドバイザー・ECEQ コーディネーター・森のようちえん運営等の経験を活かして、幼児及び児童の環境についての講義を実施する。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66453
科目名	保育領域（言葉）	授業コード	9414756、9414773
教員名	酒井 雅史、二瓶 弘行		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。</p> <p>そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>（1）人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。</p> <p>（2）言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。</p> <p>（3）幼児にとっての児童文化財の意義を理解する。</p>		
授業概要	<p>子どもがどのように言葉を獲得し発達させていくか、言葉の力を育むとはどういうことか、言葉の問題をどう考えるか等の課題について考えることを通して、言葉の指導の基本を理解するとともに、保育実践に生かそうとする意識を醸成する。また、様々な言葉遊びを通して、子どもが楽しさや喜びを感じながら、言葉の力を獲得できるような、保育者として必要な資質・能力（実践的技術）を習得する。</p>		
授業計画	<p>第1回：人間にとっての話し言葉の意義と機能（言葉による伝え合い）</p> <p>第2回：人間にとっての書き言葉の意義と機能（文字の機能）</p> <p>第3回：乳幼児の言葉の発達過程①（0歳～3歳）</p> <p>第4回：乳幼児の言葉の発達過程①（3歳～就学前）</p> <p>第5回：言葉の楽しさや美しさ</p> <p>第6回：言語感覚を豊かにする実践の基本</p> <p>第7回：言葉遊びの実践①（しりとり遊び、なぞなぞ遊びなど）</p> <p>第8回：言葉遊びの実践②（ごっこ遊び、ジェスチャー遊び、劇遊びなど）</p> <p>第9回：言葉遊びの実践③（回文、連想ゲームなど）</p> <p>第10回：児童文化財（絵本・物語・紙芝居）の基本（さまざまなジャンルの絵本①[物語の絵本]）</p> <p>第11回：幼児の発達における児童文化財の役割 （さまざまなジャンルの絵本②[昔話、童話をもとにした絵本]）</p> <p>第12回：絵本・物語の読み聞かせの方法</p> <p>第13回：絵本・物語の読み聞かせの実践</p> <p>第14回：紙芝居づくりの方法</p> <p>第15回：紙芝居づくりの実践</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	講義と討論、ワークショップ等の演習。		
アクティブラーニングの視点	「言葉遊び」や「読み聞かせ」など、主体的に言語活動に関わるという学びの姿勢を重視する。グループごとの対話を中心とした学び合いや発表形式を取り入れた学習活動を展開する。		
授業外学習	自らの課題設定と課題追究活動。		
教科書	『生活事例からはじめる-保育内容-言葉』徳安敦、堀科、山本弥栄子編著、2022年、青踏社		
参考書	幼稚園教育要領（文部科学省）、保育所保育指針（厚生労働省）		
評価方法	<p>①授業への参加状況（授業中の発表・討論の内容、授業における積極的な関わり等） 30%</p> <p>②ワークシート（記述内容・字数等） 20%</p> <p>③定期試験 50%</p> <p>なお、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としません</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66456
科目名	保育領域（造形表現）	授業コード	9414790
教員名	藤原 昌樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが表現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第1回：新しい学力観と幼児の遊びや生活における表現の位置付けについての理解 第2回：幼稚園教育要領の目標と内容について表現を生成する過程からの理解 第3回：幼児の発達と幼児の素朴な表現と評価（見出し、受け止め、共感等）の理解 第4回：表現とコミュニケーション（協働して表現することによる他者理解） 第5回：表現の活動体験から学ぶ。（画材や用具の理解とその活用について考察） 第6回：表現の活動体験から学ぶ。（モダンテクニックの理解とその活用について考察） 第7回：「体験と造形」（経験や体験からイメージの再構成し表現すること） 第8回：「遊びと造形」（身体の諸感覚を通じた表現活動の可能性と重要性の理解） 第9回：「環境と造形」（身近な素材を用いた表現活動の可能性と重要性の理解） 第10回：「言葉と造形」（「お話」と表現活動の理解） 第11回：「造形と子供の変容」（造形の楽しさを生み出す要因についての分析） 第12回：「保育指導案作成『かく』」（模擬保育） 第13回：「保育指導案作成『つくる』」（模擬保育） 第14回：幼児期の表現と発達支援についての理解 第15回：「年間指導計画」と授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。（その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にICTを活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。）		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや制作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	文部科学省，フレーベル館「幼稚園教育要領（平成29年告示）解説」 厚生労働省，フレーベル館「保育所保育指針解説」 日本文教出版，京都市立芸術大学美術教育研究会「つくる・見る・学ぶ 美術のきほん－美術資料」		
参考書	必要に応じて指示。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（50%）、レポートや指導案等の提出物（50%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66456
科目名	保育領域（造形表現）	授業コード	9414807
教員名	松田 朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが表現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第1回：新しい学力観と幼児の遊びや生活における表現の位置付けについての理解 第2回：幼稚園教育要領の目標と内容について表現を生成する過程からの理解 第3回：幼児の発達と幼児の素朴な表現と評価（見出し、受け止め、共感等）の理解 第4回：表現とコミュニケーション（協働して表現することによる他者理解） 第5回：表現の活動体験から学ぶ。（画材や用具の理解とその活用について考察） 第6回：表現の活動体験から学ぶ。（モダンテクニックの理解とその活用について考察） 第7回：「体験と造形」（経験や体験からイメージの再構成し表現すること） 第8回：「遊びと造形」（身体の諸感覚を通じた表現活動の可能性と重要性の理解） 第9回：「環境と造形」（身近な素材を用いた表現活動の可能性と重要性の理解） 第10回：「言葉と造形」（「お話」と表現活動の理解） 第11回：「造形と子供の変容」（造形の楽しさを生み出す要因についての分析） 第12回：「保育指導案作成『かく』」（模擬保育） 第13回：「保育指導案作成『つくる』」（模擬保育） 第14回：幼児期の表現と発達支援についての理解 第15回：「年間指導計画」と授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。（その際、言語活動だけに終わるのではなく、積極的にICTを活用し、事例の提示や記録、発表などを行うなど工夫すること。）		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	文部科学省、フレーベル館「幼稚園教育要領(平成29年告示)解説」 厚生労働省、フレーベル館「保育所保育指針解説」 日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会「つくる・見る・学ぶ 美術のきほん―美術資料」		
参考書	必要に応じて指示。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解(50%)、レポートや指導案等の提出物(50%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所等にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66459
科目名	保育領域（音楽表現）	授業コード	9414824、9414841
教員名	小餅谷 哲男、山口 聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>当該科目では領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門事項についての知識・技能・表現力を身に付ける。</p> <p>（1）幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>（2）音楽表現、また音楽を通しての身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p>		
授業概要	<p>幼児表現のための基本的な技能、知識を修得する。</p> <p>子どもの音楽的発達と成長について理解し、子どもの発想に共感できる自らの感性を磨いていく。</p> <p>グループ演習を通して、自らの思いや考えを伝えながら様々な表現方法を探る。</p>		
授業計画	<p>第1回：幼児にとっての音楽のあり方を探る</p> <p>第2回：音楽と幼児のかかわり方の基本</p> <p>第3回：聴覚経験と音楽・歌への親密性</p> <p>第4回：わらべうたの歴史とこれから</p> <p>第5回：わらべうたの実践と保育者の取り組み</p> <p>第6回：幼児期の歌唱と歌唱法</p> <p>第7回：保育者の歌声を磨く（呼吸法の探求）、楽典（導入、音名など）</p> <p>第8回：保育者の歌声を磨く（表声、裏声の使い分け）、楽典（拍子とリズム、記号）</p> <p>第9回：保育者の歌声を磨く（正しい音程を取る）、楽典（音程）</p> <p>第10回：保育者の歌声を磨く（ソルフェージュの練習）、楽典（音階）</p> <p>第11回：歌の伴奏のとらえ方、伴奏譜の選び方、楽典（和音）</p> <p>第12回：簡易伴奏の方法、アレンジの仕方、楽典（コードネーム）</p> <p>第13回：幼児期と楽器の関わり</p> <p>第14回：合奏体験</p> <p>第15回：合奏発表</p>		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	具体的な実践現場をわかるために、幼児向けのテレビ番組やDVDなどを観たり、ボランティアなどで積極的に子どもと関わること。		
教科書	必要に応じて資料、レジュメを配布する		
参考書	<p>領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現（柳澤邦子編著 フレーベル館）、</p> <p>乳幼児の音楽表現（日本赤ちゃん学会監修 中央法規、音楽表現 三森桂子 小島エマ 編著 一藝社）、</p> <p>超やさしい楽譜の読み方（甲斐彰著 音楽之友社）</p>		
評価方法	毎回の授業レポート 20%、授業における発表 20%、楽典テスト 20%、授業に取り組む姿勢 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66465
科目名	保育内容（健康）	授業コード	9414858、9414875
教員名	内藤 真希		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>はじめに健康の概念を明らかにし、幼児期の健康について「幼稚園教育要領」の領域「健康」に基づき、その意義やねらい、内容を具体的に学ぶ。幼児期に生きる力の基本となる生活習慣を身につけることの大切さを理解し、そのために必要な援助の方法を習得する。遊びは心身の健康的な発達をもたらす、健康は充実した主体的活動の基となるという連関のなかで、幼児の成長発達が成し遂げられていくことを理解する。年齢に応じた遊び方、保育と安全教育について、保育の現場での事例研究に基づいて学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回：幼稚園教育の基本 第2回：各領域のねらい及び内容並びに全体構造 第3回：幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 第4回：幼稚園教育における評価の考え方 第5回：領域ごとの内容の関連性 第6回：小学校の教科等とのつながり 第7回：幼児の認識・思考・動き 第8回：幼児の特性を踏まえた保育の構想の重要性 第9回：情報機器及び教材の活用法 (1)情報機器の特性と有効的な活用 第10回：情報機器及び教材の活用法 (2)教材の工夫 第11回：指導案の理解と作成 (1)指導案の構成の理解 第12回：指導案の理解と作成 (2)指導案の作成 第13回：模擬保育とその振り返り(1) (各年齢の発達に沿った運動あそびと実際1) 第14回：模擬保育とその振り返り(2) (各年齢の発達に沿った運動あそびと実際2) 第15回：保育実践の理解(まとめ)・授業内テスト</p>		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	ペアワーク・グループワーク等、プレゼンテーション等		
授業外学習			
教科書	事例で学ぶ保育内容 領域 健康（無藤 隆 監修 萌文書林）		
参考書	保育所保育指針<最新版>（厚生労働省）、幼稚園教育要領<最新版>（文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<最新版>（内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
評価方法	<p>①授業内テスト及びレポート提出 60%</p> <p>②課題提出（課題について発表を行う）20%</p> <p>③授業への参加状況（授業中の発表内容、積極的な関わり等）20%</p> <p>尚、出席が所定の回数に満たない場合は、評価の対象としない。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	認定こども園の園長が、その経験を活かして、就学前の子どもたちの健康について授業を行う		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66463
科目名	保育内容（人間関係）	授業コード	9425723、9425740
教員名	佐藤 佳枝		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>乳幼児を取り巻く人間関係の意義と現代的課題を理解し、発達や生活における関係発達論的視点を理解する。</p> <p>具体的には、</p> <p>①人間関係の発達に関して理解を深め、様々な問題に対する対応法を考えることができる。</p> <p>②保育者として子どもの豊かな人間関係を育む方法を説明できる。</p> <p>③保育や幼児教育において人間関係の形成が重視されるようになった背景について説明できる。</p>		
授業概要	<p>子どもの人間関係の獲得と深化に果たす保育者の役割について理解することを目的とする。</p> <p>乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育・幼児教育で保障すべき保育・教育内容に関する知識を身につける。特に領域「人間関係」の基礎知識として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 子どもの生活と人間関係</p> <p>第2回 現代社会と子どもの人間関係及び子どもを取り巻く今日的課題</p> <p>第3回 保育内容「人間関係」のねらいとその内容の取り扱い</p> <p>第4回 人間関係を育てる保育</p> <p>第5回 人間関係の発達の基盤①自己の発達と他者理解</p> <p>第6回 人間関係の発達の基盤②愛着と人間関係</p> <p>第7回 人間関係の発達の基盤③仲間との関わり</p> <p>第8回 人間関係の発達の基盤④養育者と子どもの関係</p> <p>第9回 遊び・生活の中で育つ人間関係(社会性・道徳性の発達)</p> <p>第10回 環境構成や人との関わり</p> <p>第11回 人との関わりの実際とその援助</p> <p>第12回 保育者に求められている人間関係</p> <p>第13回 子どもの心理的安定と保育者の関わり</p> <p>第14回 子どもの仲間作りと保育者の関わり</p> <p>第15回 他者との関わりの中で育つ主体性と協同性・他者理解の発展と展開</p>		
授業方法	講義形式とし、毎回の授業の最後に小レポート及びディスカッションも行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク）など		
授業外学習	毎授業後に、当該授業回で学習した内容を30分復習することが、期末試験の理解に繋がる。		
教科書	<p>厚生労働省「保育所保育指針解説」フレーベル館</p> <p>文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館・内閣府・文部科学省</p> <p>厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館</p>		
参考書	授業中に便宜紹介する。		
評価方法	定期試験(50%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート及びディスカッション等への参加態度(50%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	奈良県の公立保育園で27年間保育者経験がある教員が、その経験を活かして、より具体的な子ども理解に繋がる講義を行う。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66464
科目名	保育内容（環境）	授業コード	9414892、9414909
教員名	岩崎 巧		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 1. 子どもの遊びを通した「環境」についての理解を深める。 2. 領域「環境」の指導計画・指導案を作成し、実践するための基礎的能力を身に付ける。		
授業概要	子どもを取り巻く多様化する環境の中において、保育者は環境に対する総合的かつ高度な知識と視野が要求される。したがって、子どもを取り巻く環境を様々な面からとらえ、保育者として必要な資質や保育技術を習得し理論と実践の総合を図る。		
授業計画	<p>テーマ</p> <p>第1回：ガイダンス、保育の基本及び新しい保育観と子ども観</p> <p>第2回：教育要領・保育指針をふまえた教育課程・保育課程と年間指導計画</p> <p>第3回：遊びを通した子どもと環境の関わり、1年を通した保育観察と評価</p> <p>第4回：導入方法と主体的・対話的で深い学び及び小学校での接続</p> <p>第5回：子どもの絵で見る乳幼児と小学生の発達観、情報機器の活用</p> <p>第6回：指導案の作成方法、事例から考える保育の指導</p> <p>第7回：模擬保育の活動決めと教材研究<グループワーク></p> <p>第8回：指導案の作成<グループワーク></p> <p>第9回：模擬保育発表<Aグループ></p> <p>第10回：模擬保育発表<Bグループ></p> <p>第11回：模擬保育発表<Cグループ></p> <p>第12回：模擬保育発表<Dグループ></p> <p>第13回：模擬保育発表<Eグループ></p> <p>第14回：模擬保育総括、活動写真を使った記録の作成</p> <p>第15回：授業のまとめ</p>		
授業方法	演習形式		
アクティブラーニングの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的にかかわれるよう発問に答え、授業中の主体的な学びとしてラーニング・ストーリーをまとめ、まとめた内容について学生同士で話し合い、さらに理解が深まったことも記述し、授業課題（ポートフォリオ）として毎回提出する。<ガイダンスで解説> ・グループワークを通じた主体的・対話的・深い学びを積極的に活発に行う。 		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	永淵泰一郎編著『新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る学びの記録』教育情報出版		
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド本社，2017）		
評価方法	授業に対する意欲、保育領域に関する理解度・知識の定着度を総合的に判断し評価する。 授業課題の提出 42%・まとめの提出 18%・模擬保育発表 20%・観察シート 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	私立認定こども園の教諭、教頭、及び幼児教育アドバイザー・ECEQ コーディネーター・森のようちえん運営等の経験を活かして、幼児及び児童の環境についての講義を実施する。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66466
科目名	保育内容（言葉）	授業コード	9425757、9425774
教員名	藤重 育子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>保育内容における「言葉」の領域の位置づけ、乳幼児期、就学に向けた接続期にわたる言語発達の過程について概説する。ことばを促す保育内容として、児童文化財（素話しづくり、絵本の読み聞かせ、ペープサート、パネルシアターなど）の理解を深め、保育教材として活用できる力を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回：幼稚園教育の基本</p> <p>第2回：各領域のねらい及び内容並びに全体構造</p> <p>第3回：幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点</p> <p>第4回：幼稚園教育における評価の考え方</p> <p>第5回：領域ごとの内容の関連性</p> <p>第6回：小学校の教科等とのつながり</p> <p>第7回：幼児の認識・思考、動き</p> <p>第8回：幼児の特性を踏まえた保育の構想の重要性</p> <p>第9回：情報機器及び教材の活用法(1)情報機器の特性と有効的な活用</p> <p>第10回：情報機器及び教材の活用法(2)教材の工夫</p> <p>第11回：指導案の理解と作成(1)指導案の構成の理解</p> <p>第12回：指導案の理解と作成(2)指導案の作成</p> <p>第13回：模擬保育とその振り返り(1)保育の理解と模擬保育の構想</p> <p>第14回：模擬保育とその振り返り(2)模擬保育の実施と振り返り</p> <p>第15回：保育実践の理解と保育構想の向上</p>		
授業方法	<p>言葉の機能や発達過程の解説（科目担当者による講義形式）と、言葉を促す保育内容の研究（演習形式：受講者による制作や発表を主とするグループワーク）を取り入れる。また幼稚園教諭、保育採用試験の内容に準じて、授業内で小テストも実施する。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>討論、発表、振り返り等を繰り返し、スパイラルな深化を求めていく。模擬保育も適宜取り入れる。</p>		
授業外学習	<p>ことばを促す保育教材（絵本、紙芝居、ペープサート、パネル[エプロン]シアター、手遊びなど）に触れておくこと。</p>		
教科書	<p>小田豊・芦田宏（編著）「保育内容言葉」（出版社：北大路書房）</p>		
参考書	<p>幼稚園教育要領（文部科学省）、解説書</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省 厚生労働省）、解説書</p> <p>保育所保育指針（厚生労働省）、解説書</p>		
評価方法	<p>授業活動への参加・調べ学習や発表（50%）、授業内の小レポートや最終課題（50%）</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>特別支援学校教員として従事経験有。また保育所・幼稚園等での研修経験より絵本読みや言葉遊び、手遊び歌など実践も取り入れながら指導する。</p>		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66468
科目名	保育内容（造形表現）	授業コード	9425791
教員名	藤原 昌樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	幼稚園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、造形表現のねらい及び内容並びに全体構造の理解、造形表現のねらい及び内容を踏まえ幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解、幼稚園教育における評価の考えの理解、表現での幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校図画工作とのつながりを理解する。また、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解、造形表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法の理解とそれを保育構想への活用、指導案の構成の理解と具体的な保育を想定した指導案の作成、模擬保育とその振り返りを通じた保育の改善する視点の習得、造形表現の特性に応じた保育の実践動向を知り保育構想の向上への取組などができる。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第1回：講義「子供と美術」について 第2回：講義「言葉と表現」について、造形表現「豊かな表情を求めて、顔いろいろ」 第3回：造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『見て描く（制作）』 第4回：造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『行事と絵（制作）』 第5回：講義「環境と表現」について、造形表現「動物を描く」 第6回：講義「ほめてのばす表現活動（評価方法）」について、造形表現「野菜を描く」 第7回：造形表現「モダンテクニックを生かした造形遊び（制作・模擬保育）」 第8回：講義「作品展示」について、鑑賞「形や色から楽しく現代美術」（模擬保育） 第9回：造形表現「材料を生かした表現（紙）『お面』（制作・模擬保育）」 第10回：造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』（制作）」 第11回：造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』（模擬保育）」 第12回：造形表現「材料を生かした表現（粘土）小麦粘土（制作・模擬保育）」 第13回：造形表現「総合造形『ペープサート』（制作）」 第14回：造形表現「総合造形『ペープサート』（模擬保育）」 第15回：作品発表と授業のまとめ・ふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を行う。全ての授業の初めに、児童の作品や美術作品の鑑賞を行い、それについて感じたことやイメージしたことについて話し合う。		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	「幼稚園教育要領解説（平成30年3月）」フレーベル館、文部科学省 「保育所保育指針解説（平成30年3月）」フレーベル館、厚生労働省 「つくる・見る・学ぶ美術のきほん美術資料」日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会		
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府・文部科学省厚生労働省） 必要に応じて指示する。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び作品やレポートを基に総合的に評価を行う。作品の内容理解や制作への取組（50%）、レポートや課題作品等の提出物（50%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66468
科目名	保育内容（造形表現）	授業コード	9425808
教員名	松田 朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	幼稚園において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、造形表現のねらい及び内容並びに全体構造の理解、造形表現のねらい及び内容を踏まえ幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点の理解、幼稚園教育における評価の考えの理解、表現での幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校図画工作とのつながりを理解する。また、幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性の理解、造形表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法の理解とそれを保育構想への活用、指導案の構成の理解と具体的な保育を想定した指導案の作成、模擬保育とその振り返りを通じた保育の改善する視点の習得、造形表現の特性に応じた保育の実践動向を知り保育構想の向上への取組などができる。		
授業概要	幼児の主体的な活動を促すことを念頭に、保育における幼児の表現活動の姿を想定しながら具体的な援助方法を探る。幼児教育のこれまでの取組やその捉え方、活動計画や指導の在り方などを広く学び、小学校との連携を踏まえながら、これからの幼児期における造形表現について考えていくための基礎を学ぶ。		
授業計画	第1回：講義「子供と美術」について 第2回：講義「言葉と表現」について、造形表現「豊かな表情を求めて、顔いろいろ」 第3回：造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『見て描く(制作)』」 第4回：造形表現「子供の絵の特徴を踏まえた表現『行事と絵(制作)』」 第5回：講義「環境と表現」について、造形表現「動物を描く」 第6回：講義「ほめてのばす表現活動(評価方法)」について、造形表現「野菜を描く」 第7回：造形表現「モダンテクニックを生かした造形遊び(制作・模擬保育)」 第8回：講義「作品展示」について、鑑賞「形や色から楽しく現代美術」(模擬保育) 第9回：造形表現「材料を生かした表現(紙)『お面』(制作・模擬保育)」 第10回：造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』(制作)」 第11回：造形表現「材料を生かした表現『季節を飾る』(模擬保育)」 第12回：造形表現「材料を生かした表現(粘土)小麦粘土(制作・模擬保育)」 第13回：造形表現「総合造形『ペーパーサート』(制作)」 第14回：造形表現「総合造形『ペーパーサート』(模擬保育)」 第15回：作品発表と授業のまとめ・ふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を行う。全ての授業の初めに、児童の作品や美術作品の鑑賞を行い、それについて感じたことやイメージしたことについて話し合う。		
授業外学習	教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もあるため、計画的に取り組むようにすること。		
教科書	「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」フレーベル館、文部科学省 「保育所保育指針解説(平成30年3月)」フレーベル館、厚生労働省 「つくる・見る・学ぶ美術のきほん 美術資料」日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会		
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領<最新版>(内閣府・文部科学省厚生労働省) 必要に応じて指示する。		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び作品やレポートを基に総合的に評価を行う。作品の内容理解や制作への取組(50%)、レポートや課題作品等の提出物(50%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所、公共施設にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

教職科目	【幼稚園】	科目コード	66467
科目名	保育内容（音楽表現）	授業コード	9425825、9425842
教員名	小餅谷 哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 (1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。		
授業概要	子どもたちが自然や家庭などとの間の人間的コミュニケーションの中で心に感じたことをどのように音楽で表すのか、その表現方法を実際に体験する。さらに、声を出して自然に歌う、何かをたたいて音を出してみる、さらに自分だけでなく相手と表現したときの喜びを経験する。これらの経験を積み重ねて楽曲を演奏する。というそれぞれの過程における指導法を子供の発達に踏まえ解説する。これらを理解したうえで指導案を作成し、模擬保育を通して実践的な音楽表現指導の内容・方法を学ぶ。		
授業計画	第1回：オリエンテーション、幼稚園教育要領における音楽指導について 第2回：保育の実際と課題及び幼稚園教育要領（音楽指導）の改定内容 第3回：子どもと音楽の関わり（1）子どもの表現について 第4回：子どもと音楽の関わり（2）子どもの心身の発達と音楽的発達 第5回：遊びと音楽（1）童謡と唱歌の教材研究、情報機器等の活用 第6回：遊びと音楽（2）指遊び、手遊びの教材研究、情報機器等の活用 第7回：遊びと音楽（3）身体遊びの教材研究、情報機器等の活用 第8回：遊びと音楽（4）リトミックの教材研究、情報機器等の活用 第9回：音楽劇の創作（1）発表準備 第10回：音楽劇の創作（2）発表 第11回：音楽表現における指導者の役割（1）指導計画 第12回：音楽表現における指導者の役割（2）指導案の作成 第13回：音楽表現における指導者の役割（3）模擬保育を通じた指導方法の検討 第14回：音楽表現における指導者の役割（4）模擬保育を通じた指導方法の改善 第15回：幼小連携としての音楽表現指導の現状と課題		
授業方法	講義と演習		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習（ペアワーク、グループワーク等）		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取上げる音楽表現指導法の理論と実践を復習しておくこと。 具体的な音楽表現指導法についてレポーターを増やし、自作の音楽表現指導教材を作成すること。 音楽表現指導の指導案を作成し提出すること。 		
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館		
参考書	柴田礼子『音楽指導ブック 子どものための たのしい音遊び 伝え合い、表現する力を育む』音楽之友社 2009 島津多美子『いつも手あそびをもっと楽しく：子どもが好きな手遊びで一年中遊び通そう』ひかりのくに 2013 幼稚園教育要領＜最新版＞（文部科学省）、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜最新版＞（内閣府 文部科学省 厚生労働省）		
評価方法	毎回の授業レポート 30%、指導案 30%、授業に取り組む姿勢 40% 出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【小学校】	科目コード	66475
科目名	初等国語	授業コード	9414926、9414943
教員名	二瓶 弘行		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	初等国語の内容と構造を理解し、学習指導の基本事項を身に付けることができる。		
授業概要	小学校国語の目的とその意義を理解することを目的としている。特に、小学校学習指導要領国語編（文部科学省作成）をもとに内容を理解し書写を含む小学校国語教科書の構成を理解する。		
授業計画	<p>第1回 国語科学習指導要領を解説し、理解と内容の定着を理解させる。</p> <p>第2回 国語教科書の「知識及び技能」の系統を理解させる。</p> <p>第3回 国語教科書の「A 話すこと・聞くこと」の系統を理解させる。</p> <p>第4回 国語教科書の「B 書くこと」の系統を理解させる。</p> <p>第5回 国語教科書の「C 読むこと」の系統を理解させる。</p> <p>第6回 小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動1を行う。</p> <p>第7回 小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動2を行う。</p> <p>第8回 小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動1を行う。</p> <p>第9回 小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動2を行う。</p> <p>第10回 小学校低・中・高学年の「読むこと」（説明的文章）の単元について理解し、言語活動1を行う。</p> <p>第11回 小学校低・中・高学年の「読むこと」（説明的文章）の単元について理解し、言語活動2を行う。</p> <p>第12回 小学校低・中・高学年の「読むこと」（文学的文章）の単元について理解し、言語活動1を行う。</p> <p>第13回 小学校低・中・高学年の「読むこと」（文学的文章）の単元について理解し、言語活動2を行う。</p> <p>第14回 小学校低・中・高学年の「知識及び技能」の単元について理解し、言語活動を行う。</p> <p>第15回 まとめと書写の指導について理解し、言語活動を行う。</p>		
授業方法	講義と討論、ワークショップ等の演習。		
アクティブラーニングの視点	講義を聞くという学びから、主体的に言語活動に関わるという学びの姿勢を重視する。グループごとの対話を中心とした学び合いや発表形式を取り入れた学習活動を展開する。		
授業外学習	ワークシートの記入や言語活動を行うので、その予習をする。 提示した教科書や教材をよく読んでおく。 文字を正しく整えて書く練習をする。		
教科書	教科書は指定しない。授業中に必要な資料を随時配布。		
参考書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「国語編」（東洋館出版社、文部科学省）		
評価方法	レポート（40%）、提出物（30%）、授業への参加度（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、授業づくり、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65010
科目名	国語科教育法	授業コード	9425876、9425893
教員名	二瓶 弘行		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における小学校国語科の内容を理解し、資質・能力を育むためのその指導法を習得する。 2. 板書や話し方、表情など授業を行うための授業技術を様々な学問理論に基づいて理解し、習得する。 3. 学習指導要領の理論を踏まえて、国語科の目標を育成するための具体的な授業場면을想定した学習指導案を作成する。 4. 小学校国語科における評価のあり方について理解し、学習指導案に生かし実践する。 5. 基幹教科としての国語科の内容を踏まえ、他教科領域との横断的な指導として教材研究し、授業設計する。 		
授業概要	<p>学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解させる。</p> <p>国語科学習指導案の記述の方法について理解し、教科書教材に従って、それぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。学習指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領及び教育課程編成について</p> <p>第2回：単元を構想した授業のあり方と国語科学習指導案の書き方についての解説</p> <p>第3回：主体的・対話的で深い学びとしての国語科学習</p> <p>第4回：主体的に学習に取り組む態度を高める国語科学習</p> <p>第5回：言葉による見方・考え方の指導と教材研究</p> <p>第6回：国語科における思考力育成のあり方</p> <p>第7回：国語科における判断力育成のあり方</p> <p>第8回：国語科における表現力育成のあり方</p> <p>第9回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価</p> <p>第10回：「書くこと」の学習指導案作成とその評価</p> <p>第11回：「読むこと」文学的文章教材の学習指導案作成とその評価</p> <p>第12回：「読むこと」説明的文章教材の学習指導案作成とその評価</p> <p>第13回：書写指導・語彙指導の実際とそのあり方</p> <p>第14回：情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第15回：模擬授業の実施と振り返り</p>		
授業方法	指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論		
アクティブラーニングの視点	<p>学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、模擬授業と事後討議において、身につけさせる。ノートテイクを授業外課題として課す。</p> <p>授業外学習 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること</p>		
授業外学習	指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
教科書	教科書は指定しない。授業中に必要な資料を随時配布。		
参考書	<p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』東洋館出版、文部科学省</p> <p>『新しい国語3年 上下セット』東京書籍</p> <p>『新しい国語4年 上下セット』東京書籍</p> <p>森山卓郎編『コンパクトに書く国語科授業モデル』明治図書</p> <p>『国語教科書定番教材の授業』株式会社ERP</p>		
評価方法	学習指導案（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65010
科目名	国語科教育法	授業コード	9425910、9425927
教員名	阿部 秀高		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容についてその背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領における小学校国語科の内容を理解し、資質・能力を育むためのその指導法を習得する。 2. 板書や話し方、表情など授業を行うための授業技術を様々な学問理論に基づいて理解し、習得する。 3. 学習指導要領の理論を踏まえて、国語科の目標を育成するための具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成する。 4. 小学校国語科における評価のあり方について理解し、学習指導案に生かし実践する。 5. 基幹教科としての国語科の内容を踏まえ、他教科領域との横断的な指導として教材研究し、授業設計する。 		
授業概要	<p>学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解させる。</p> <p>国語科学習指導案の記述の方法について理解し、教科書教材に従って、それぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。学習指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領及び教育課程編成について</p> <p>第2回：単元を構想した授業のあり方と国語科学習指導案の書き方についての解説</p> <p>第3回：主体的・対話的で深い学びとしての国語科学習</p> <p>第4回：主体的に学習に取り組む態度を高める国語科学習</p> <p>第5回：言葉による見方・考え方の指導と教材研究</p> <p>第6回：国語科における思考力育成のあり方</p> <p>第7回：国語科における判断力育成のあり方</p> <p>第8回：国語科における表現力育成のあり方</p> <p>第9回：「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価</p> <p>第10回：「書くこと」の学習指導案作成とその評価</p> <p>第11回：「読むこと」文学的文章教材の学習指導案作成とその評価</p> <p>第12回：「読むこと」説明的文章教材の学習指導案作成とその評価</p> <p>第13回：書写指導・語彙指導の実際とそのあり方</p> <p>第14回：情報機器及び教材の効果的な活用法</p> <p>第15回：模擬授業の実施と振り返り</p>		
授業方法	指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論		
アクティブラーニングの視点	<p>学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、模擬授業と事後討議において、身につけさせる。ノートテイクを授業外課題として課す。</p> <p>授業外学習 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること</p>		
授業外学習	指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること		
教科書	<p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』東洋館出版、文部科学省</p> <p>『新しい国語3年 上下セット』東京書籍、</p> <p>『新しい国語4年 上下セット』東京書籍、</p>		
参考書	<p>森山卓郎編『コンパクトに書く国語科授業モデル』明治図書</p> <p>『国語教科書定番教材の授業』株式会社ERP</p>		
評価方法	学習指導案（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校教育現場で実際に教育実習生を100名以上担当してきた教員が、その経験を活かし、教育実習にむけて実際の授業のコツを指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65015
科目名	国語科教育法2	授業コード	9414960
教員名	阿部 秀高		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 教育実習で活用できる国語科の指導法を習得することができる。</p> <p>2. 単元を構想した授業について理解し、児童に合わせた教材研究を行うことができる。</p>		
授業概要	<p>この授業は、小学校で教育実習を行う学生が、国語の指導力をさらに向上できるように開講する。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」について理解する。また、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の関連性について理解するとともに、丁寧な教材分析に基づいた国語科学習指導案を作成することができるようにする。特に、単元を構想した国語科学習指導案を作成し、指導案に基づいた模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」についての解説を理解する。</p> <p>第2回：カリキュラム・マネジメントと教育課程における位置付けを理解する。</p> <p>第3回：低学年教材の分析、指導方法の検討、指導案作成</p> <p>第4回：作成した指導案の検討をグループで行い、低学年の特質を知る。</p> <p>第5回：模擬授業を通して指導法（板書）についての検討を行う。</p> <p>第6回：中学年教材の分析、指導方法の検討、指導案作成</p> <p>第7回：作成した指導案の検討をグループで行い、中学年の特質を知る。</p> <p>第8回：模擬授業を通して指導法（発問）についての検討を行う。</p> <p>第9回：高学年教材の分析、指導方法の検討、指導案作成</p> <p>第10回：作成した指導案の検討をグループで行い、高学年の特質を知る。</p> <p>第11回：模擬授業を通して指導法（机間指導）についての検討を行う。</p> <p>第12回：情報機器の活用とその効果について検討する。</p> <p>第13回：国語科における評価のあり方について検討する。</p> <p>第14回：授業リフレクションについて理解し、その方法について身につける。</p> <p>第15回：教育実習で実践したい国語科の授業についてレポートにまとめる。</p>		
授業方法	講義、指導案作成、模擬授業の実施とその指導		
アクティブラーニングの視点	教育実習に向けた実践的な国語科指導をグループで確認させる。模擬授業に意欲的に取り組む。教材開発も積極的に行う。合評会やプレゼン報告会など、グループ討議を行う。		
授業外学習	学習指導案作成と模擬授業の準備		
教科書	プリントを配付する		
参考書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「国語編」、東洋館出版社、文部科学省『国語教科書定番教材の授業』株式会社ERP		
評価方法	学習指導案作成・模擬授業実施（50%）、模擬授業への参加度（20%）、授業への参加度（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国語科を専門として、各地域の学校、教育委員会からの要請を受けて、現任教員に授業指導を行っている教員が国語科を中心に言葉の力を育む授業づくりのコツを指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66480
科目名	国語科教育法3	授業コード	9414977
教員名	今宮 信吾		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	国語科教育法1、2を踏まえ、国語教育に求められる話題を実践的に取り上げ、新学習指導要領に資する目標とテーマ意識をもち、教科書教材以外の教材開発を行い、それに基づく指導案作成、模擬授業検討を行うことができる。国語科の授業を担当する際に求められる資質・能力の育成、指導計画等の作成とそれに基づく実践的な指導力を身に付けることができる。		
授業概要	「国語」を教えるとはどういう営みかを再確認することから始め、これからの時代に求められている能力、言語活動の充実、各種調査の結果などと、国語科の指導との関連について考える。また、実際の授業に向けて、教材研究の在り方、学習評価の在り方などを取り上げ、それらを踏まえて指導計画等の作成と模擬授業を行う。授業は、それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。ペアやグループなどによる活動を重視し、取り上げるテーマに関するディスカッション等を行う。		
授業計画	<p>第1回：「国語」を教えるとはどういう営みかの再確認 言語の教育としての国語科の果たすべき役割や、目指すべき方向について再確認する。</p> <p>第2回：生きる力、これからの時代に求められる能力等と国語科の指導 学習指導要領の理念である生きる力や、求められる資質・能力等と国語科の指導との関係を考える。</p> <p>第3回：言語活動の充実と国語科の指導 学習指導要領で重視している各教科等における言語活動の充実と国語科の指導と関係を考える。</p> <p>第4回：各種調査の結果と国語科の指導 PISAや全国学力・学習状況調査など国内外の調査の結果と国語科の指導との関係を考える。</p> <p>第5回：国語科教育の先達に学ぶ 近代以降の国語科教育の先達の業績についてその概要を知る。</p> <p>第6回：教材研究は何のために行うのか 教材研究の現状と課題について学び、指導の工夫改善に必要な教材研究の在り方について考える。</p> <p>第7回：学習評価は何のために行うのか 学習評価の現状と課題について学び、指導に生きる学習評価を充実していく方途について考える。</p> <p>第8回：年間、各単元の指導と評価の計画の作成(1) 指導と評価の計画の作成の方法について学ぶ。</p> <p>第9回：年間、各単元の指導と評価の計画の作成(2) 指導と評価の計画を実際に作成し、課題等について考える。</p> <p>第10回：学習指導案の作成と模擬授業(1)（主に「話すこと・聞くこと」領域） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。</p> <p>第11回：学習指導案の作成と模擬授業(2)（主に「書くこと」領域） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。</p> <p>第12回：学習指導案の作成と模擬授業(3)（主に「読むこと」領域） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。</p> <p>第13回：学習指導案の作成と模擬授業(4)（主に「知識・技能」に関する内容） 学習指導案を作成するとともに、それに基づいた模擬授業を行い協議する。</p> <p>第14回：情報活用のためのICT活用 タブレット活用などの実態を考慮し、国語科におけるICT活用の効果と課題を考察する。</p> <p>第15回：授業の総括 これまで身に付けたことを振り返り深めためのレポート作成を行う。</p>		
授業方法	オリエンテーションにおいて、自分の課題を決め、それに向けて毎時間の課題について事前に予習し、授業においては、それぞれが調べたことを元にして討議を行う。協働的な学習を中心として、自分の授業ストックを積み重ねていき、教師力を高めていく。		
アクティブラーニングの視点	テキストを読み、学習課題にそってワークシートを記入（予習）の後、協働的な学習（他者のワークシートを読み、他者の発表を聴き、自分として最も価値あるものを選ぶ）、自分学習（協働学習の後、教員の話聴き、その上で自分の学びを振り返る）へと進む。		

授業外学習	学習の流れが定着した後は、各回必ず課題が出るので、それについて予習を行う。この課題に対する各自の解を用意できる予習を行わなければならない。
教科書	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』東洋館出版, 文部科学省
参考書	『国語教科書定番教材の授業』二瓶弘行・今宮信吾・山下敦子・阿部秀高 株式会社ERP 『新たな時代の学びを創る 小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会編 東洋館出版
評価方法	①授業中に行う模擬授業や小レポート評価し、授業に対する関心・意欲・態度や理解度を評価する(30%) ②課題レポートにおいて、課題探究の深さ、緻密さ、斬新さなどを評価する(30%)。 ③学期末においては総合的な理解を確認する(40%) ※出席回数が所定の回数に満たない場合は評価対象としない。 ※国語科教育法1、2を既修していることが望ましい。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	国公立私立小学校における教員経験があり、その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。講義中心ではなく、演習中心の授業を行う。

教職科目	【小学校】	科目コード	66485
科目名	初等社会	授業コード	9425944、9425961
教員名	守谷 富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業について受ける立場から行う立場への視点の転換。 2 小学校社会科の成立経緯と教育課程の編成を理解する。 3 社会科授業実践の教科書の内容と構成を理解する。 4 社会科教科書の単元に関する教科書を開発する。 		
授業概要	小学校社会科の歴史、目的、内容、方法に関する基礎的教養を培うとともに、教師としての基本的資質を社会科教科書の開発によって形成する。		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：社会科の成立</p> <p>第3回：社会科の展開</p> <p>第4回：小学校低学年の授業実践（学校及び身近な地域）</p> <p>第5回：小学校低学年の授業内容（学校及び身近な地域）</p> <p>第6回：小学校社会科の教科書の役割と利用</p> <p>第7回：小学校社会科の教科書の内容と構成</p> <p>第8回：小学校社会科の教科書の開発単元の決定と開発計画</p> <p>第9回：小学校社会科の教科書の開発単元の開発作業の着手</p> <p>第10回：小学校社会科の教科書の開発単元の開発作業の遂行</p> <p>第11回：小学校社会科中学年（3学年）の開発単元の発表と評価（自分たちの地域）</p> <p>第12回：小学校社会科中学年（4学年）の開発単元の発表と評価（自分たちの地域）</p> <p>第13回：小学校社会科高学年（5学年）の開発単元の発表と評価（日本の国土と産業）</p> <p>第14回：小学校社会科高学年（6学年）の開発単元の発表と評価（日本の歴史と世界）</p> <p>第15回：小学校社会科の教科書の開発単元の総合評価</p>		
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の理解 2 小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の分析 3 小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の開発 4 小学校社会科教科書の単元内容と単元構成の開発事例の発表と評価 		
アクティブラーニングの視点	教科書の構成分析を踏まえて教科書作成の課題を設定する。課題遂行のためにグループで資料調査と共同学習をする。課題盛夏のグループによる発表と相互評価する。		
授業外学習	授業中に指示する。		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』（日本文教出版） ※文部科学省HPにPDFファイルが掲載されているため、それを参照でも可 		
参考書	授業中に必要に応じて指示する		
評価方法	授業への参加状況30%、授業内の課題作成40%、授業後最終の課題30%。なお、授業への参加状況には出席数と授業中の態度を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66487
科目名	国際社会と教育	授業コード	9414994、9425978
教員名	植野 雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期 2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会を学ぶ国際教育の形態と動向について説明できる。 ・国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の性格と事例を調査できる。 ・国際社会を学ぶ国際教育の学習者参加型の教育実践を体験する。 ・国際社会を学ぶ国際教育の意義を考察し、学習者参加型の教育実践を開発できる。 		
授業概要	国際社会を学ぶ国際教育の形態と動向についての講義によって理解し、学習者参加型の教育実践を体験する。さらに、各自の問題関心に基づいて国際教育の教育実践について調査し、発表する。		
授業計画	第1回 授業に関するオリエンテーション 第2回 国際社会を学ぶ教育の形態と性格 第3回 国際社会を学ぶ教育の歴史と課題 第4回 国際社会を学ぶ国際理解教育の教育実践の事例 第5回 国際社会を学ぶ国際理解教育の教育実践の評価 第6回 国際社会を学ぶ開発教育の教育実践の事例 第7回 国際社会を学ぶ開発教育の教育実践の評価 第8回 国際社会を学ぶグローバル教育の教育実践の事例 第9回 国際社会を学ぶグローバル教育の教育実践の評価 第10回 国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の事例 第11回 国際社会を学ぶ国際教育の教育実践の評価 第12回 国際社会を学ぶ持続可能な開発のための教育の事例 第13回 国際社会を学ぶ持続可能な開発のための教育の評価 第14回 国際社会を学ぶ教育の意義と教育実践の議論 第15回 国際社会を学ぶ教育の意義と教育実践の発表		
授業方法	講義と各自の調査内容についての議論と発表		
アクティブラーニングの視点	国際社会を学ぶ教育の事例調査、調査事例報告内容の作成、調査事例報告内容の議論と発表。		
授業外学習	授業内で指示する学習課題を遂行する。		
教科書	特になし。		
参考書	随時紹介する。		
評価方法	授業への参加度（40%）、授業での考察と発表の報告内容（30%）、最終課題の調査報告内容（30%）に基づいて評価する。授業への参加度については、授業における発言（質問やコメントなど）が積極的かつ的確であることを高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【小学校】	科目コード	65020
科目名	社会科教育法	授業コード	9415011、9415045 9415028、9415062
教員名	守谷 富士彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>小学校社会科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校社会科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身につける。そのため、以下の各目標を設定する。</p> <p>(1) 学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 基礎的な社会科学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>小学校社会科の基本的性格を社会的背景・歴史的背景・学問的背景・児童の発達の特性等と関連づけて基本的に理解し、小学校社会科としての目標・内容・方法を各学年の社会科教科書の内容構成と関連づけて具体的に理解する。そして、各学年の単元計画と授業計画の学習指導案を設計し、その学習指導案を活用する模擬授業を実施する。模擬授業の実践結果を踏まえて授業改善の方法を検討して、教師としての社会科指導能力の形成を意図している。</p>		
授業計画	<p>第1回：小学校社会科の基本的性格と成立背景 第2回：小学校社会科の教科目標と教科課程 第3回：小学校社会科の第3学年の目標と内容 第4回：小学校社会科の第4学年の目標と内容 第5回：小学校社会科の第5学年の目標と内容 第6回：小学校社会科の第6学年の目標と内容 第7回：小学校社会科の指導方法と学習評価 第8回：小学校社会科の学習指導案作成方法の類型 第9回：小学校社会科教科書活用の学習指導案作成の基本的な方法教材研究及び情報機器の活用 第10回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（1）－3学年－ 第11回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（2）－4学年－ 第12回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（3）－5学年－ 第13回：小学校社会科教科書活用の学習指導案の模擬授業と授業評価（4）－6学年－ 第14回：小学校社会科教科書活用の改善学習指導案の作成 第15回：小学校社会科の基本的性格と学習指導方法の意義と課題</p>		
授業方法	講義とグループ学習が核になる。		
アクティブラーニングの視点	学習指導案作成の課題設定、課題遂行の文献資料の調査、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学習		
授業外学習	必要に応じて授業内で指示する		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』（日本文教出版） ※文部科学省HPにPDFファイルが掲載されているため、それを参照でも可 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・原田智仁編『社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー[第3版]』（教育情報出版） <p>そのほか必要に応じて、教材資料等を配布する。</p>		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、各授業への参画と学習の成果（20%）。なお、授業への参加状況については、授業における学習への参加意欲・積極性も含める。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	広島市立高校と東京都立高校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66490
科目名	社会科教育法2	授業コード	9425995
教員名	宅島 大堯		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	教育方法としての主な学習指導理論の性格を理解し、情報化時代における社会科教育方法としての教材・教具（教授メディア）活用による授業開発と授業実践の能力を形成する。		
授業概要	教育方法としての学習指導論を授業要素から類型し、主な学習指導方法の特質と課題を理解する。そして、授業実践において重要な役割を担う教材・教具（教授メディア）の歴史と理論を理解し、今後の教育において教師の専門的能力として求められる社会科の教材・教具（教授メディア）の活用と開発の方法を理解する。さらに、パワーポイントを活用して社会科の授業開発を行う。		
授業計画	第1回：学校教育における社会科教育の意義 第2回：教育方法としての学習指導論の性格と類型 第3回：問題解決社会科学学習指導方法の特性と課題 第4回：探究学習社会科学学習指導方法の特性と課題 第5回：構成主義社会科学学習指導方法の特性と課題 第6回：社会科教材・教具（教授メディア）の種類と活用方法 第7回：社会科サインの構成の教材・教具（教授メディア）の特性と事例 第8回：社会科プログラムの構成の教材・教具（教授メディア）の特性と事例 第9回：社会科システムの構成の教材・教具（教授メディア）の特性と事例 第10回：社会科教材・教具（教授メディア）開発の方法 第11回：社会科教材・教具（教授メディア）モデル開発の構想と事例分析 第12回：社会科教材・教具（教授メディア）開発モデル活用の模擬授業1 第13回：社会科教材・教具（教授メディア）開発モデル活用の模擬授業2 第14回：社会科教材・教具（教授メディア）開発モデル活用の模擬授業3 第15回：社会科教材・教具（教授メディア）の開発と活用の課題		
授業方法	講義とグループ活動		
アクティブラーニングの視点	社会科教材・教具（教授メディア）開発の課題設定、課題遂行の事例分析、課題遂行の共同学習、課題評価の交流学习		
授業外学習	授業内で必要に応じて指示する。		
教科書	必要に応じて、教材資料等を配布する。		
参考書	・原田智仁編『初等社会科教育の理論と実践：学びのレリバンス』（教育情報出版、2022） ・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「社会編」』（日本文教出版） ※文部科学省HPにPDFファイルが掲載されているため、それを参照でも可		
評価方法	授業への参加状況（40%）、提出課題のレポート（40%）、授業への参画意欲・学習成果（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校で勤務経験をもつ教員が、その経験を活かして、授業を行う。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66495
科目名	初等算数	授業コード	9426012、9426029
教員名	大林 正法		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の目標と内容を理解し、学習指導の基本を身に付けることができる。 ・小学校算数の基本用語と基本概念を説明することができる。 ・算数学習における数学的活動の重要性について論じることができる。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の教科書と関連づけながら、5つの領域（「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」）について解説する。 ・小学校算数の教科書との関連づけを行いながら、算数の背景にある体系と数学を解説する。 ・数学的活動を通じた学習の重要性を実践例や教具等を示しながら解説する。 		
授業計画	第1回 オリエンテーション（何のための算数教育か） 第2回 学習指導要領と算数科の目標（言語・表現活動） 第3回 内容領域の構成 （5つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」について） 第4回 数と計算①（低学年：数の表し方） 第5回 数と計算②（高学年：たし算とひき算、かけ算とわり算） 第6回 図形①（低学年：平面図形、立体図形） 第7回 図形②（高学年：球積、拡大縮小） 第8回 測定（量の性格、測定の4段階） 第9回 変化と関係（関数の考えと比例の関係） 第10回 データの活用①（低学年） 第11回 データの活用②（高学年） 第12回 数学的活動と数学的な考え方 第13回 算数の授業づくり①（低学年） 第14回 算数の授業づくり②（高学年） 第15回 まとめ 教材開発とまとめ		
授業方法	講義と学生によるプレゼンテーションを中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協同学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	指定した資料を事前に読み、ミニレポートを作成する。 講義内容を復習し、ミニレポートを作成する。		
教科書	小学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説 算数編 文部科学省 日本文教出版		
参考書	赤井利行 編著：わかる算数科指導法・改訂版 東洋館出版社		
評価方法	授業への参加度 50% 課題レポート 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校算数専科教諭・算数部会代表部長等の経験を活かして、初等算数を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65030
科目名	算数科教育法	授業コード	9415113、9415130
教員名	藤井 善信		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された算数科の目標及び内容、育成を目指す資質・能力を理解する。 ・算数科における教材研究や児童理解、指導方法、授業設計について理解し、具体的な授業の展開を主体的に考えることができるようにする。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが算数を好きになるための指導の工夫について考える。 ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 ・学習内容についての指導上の留意点を理解する。 		
授業計画	第1回 算数科教育法のオリエンテーション 第2回 主体的・対話的で深い学びのある算数科学習指導展開 第3回 子供の認識・思考、学力等の実態把握と授業設計 第4回 算数科学習指導における板書計画・ノート指導 第5回 算数科学習指導案の作成の仕方 第6回 「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成①（低学年） 第7回 「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成②（高学年） 第8回 「図形」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第9回 模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認① 第10回 「測定」領域の模擬授業と学習指導案作成（低学年） 第11回 「変化と関係」領域の模擬授業と学習指導案作成（高学年） 第12回 「データの活用」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第13回 模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認② 第14回 算数科学習指導におけるICTの活用 第15回 算数科学習における教科横断的な指導		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	模擬授業の学習指導略案を作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「算数編」文部科学省 日本文教出版		
参考書	「改訂新版 講座 算数授業の新展開」第1学年～第6学年 東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 60% ②模擬授業 20% ③学習指導案 10% ④算数科制作物 10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・教頭・校長・教育委員会総括管理主事・算数部会代表部長等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65030
科目名	算数科教育法	授業コード	9415079、9415096
教員名	樹下 堅		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された算数科の目標及び内容、育成を目指す資質・能力を理解する。 ・算数科における教材研究や児童理解、指導方法、授業設計について理解し、具体的な授業の展開を主体的に考えることができるようにする。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが算数を好きになるための指導の工夫について考える。 ・具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成する。 ・学習内容についての指導上の留意点を理解する。 		
授業計画	第1回 算数科教育法のオリエンテーション 第2回 主体的・対話的で深い学びのある算数科学習指導展開 第3回 子供の認識・思考、学力等の実態把握と授業設計 第4回 算数科学習指導における板書計画・ノート指導 第5回 算数科学習指導案の作成の仕方 第6回 「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成①（低学年） 第7回 「数と計算」領域の模擬授業と学習指導案作成②（高学年） 第8回 「図形」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第9回 模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認① 第10回 「測定」領域の模擬授業と学習指導案作成（低学年） 第11回 「変化と関係」領域の模擬授業と学習指導案作成（高学年） 第12回 「データの活用」領域の模擬授業と学習指導案作成①（全学年） 第13回 模擬授業の振り返りと指導上の留意点の確認② 第14回 算数科学習指導におけるICTの活用 第15回 算数科教育法のまとめ		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	模擬授業の学習指導略案（本時の目標と展開）と学習指導案を作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「算数編」文部科学省 日本文教出版		
参考書	「改訂新版 講座 算数授業の新展開」第1学年～第6学年 東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況40% ②課題レポート（学習指導略案・振り返りシート）40% ③学習指導案20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校教諭・校長・教育委員会指導主事・教育センター所長・市教研算数部会顧問等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65035
科目名	算数科教育法2	授業コード	9426046
教員名	大林 正法、藤井 善信		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 ①学習指導要領に示された算数科の目標及び内容の理解を深める。 ②基礎的基本的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科と背景になる学力・学習状況調査等との関係を理解し、教材研究に活用する。 ・模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身に付け、学習評価の考え方を理解する。 ・算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用に取り組む。 		
授業計画	第1回 学習指導要領における算数科の目標及び主な内容並びに全体構造 第2回 子供の認識・思考の実態を視野に入れた授業設計の重要性 第3回 個別の学習内容（A「数と計算」領域）と指導上の留意点 第4回 算数科の学習評価の考え方 第5回 算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法と授業設計の活用 第6回 個別の学習内容（B「図形」領域）と指導上の留意点 第7回 算数科における教科横断的な指導 第8回 具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の構成及び作成 第9回 個別の学習内容（C「測定」・「変化と関係」領域）と指導上の留意点 第10回 個別最適化された授業設計の重要性 第11回 模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善（1） 第12回 個別の学習内容（D「データの活用」領域）と指導上の留意点 第13回 模擬授業の実施とその振り返りを通じた授業改善（2） 第14回 発展的な学習内容についての探究と学習指導への位置付け 第15回 教育実習で実践したい算数科の学習指導		
授業方法	講義と（グループ）討論、模擬授業と指導・助言を行う。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習（ペアワーク、グループワーク等）、振り返りシートの活用など		
授業外学習	指定した文献等を事前に読み、ミニレポートを作成する。 講義内容の復習や宿題レポートを作成する。		
教科書	小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「算数編」文部科学省 日本文教出版		
参考書	「改訂新版 講座 算数授業の新展開」第1学年～第6学年 東洋館出版社		
評価方法	①授業への参加状況 40% ②課題レポート（振り返りシート） 40% ③学習指導案 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校算数専科教諭・教頭・校長・教育委員会指導主事等の経験を活かして、算数科教育法2を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66500
科目名	算数科教育法3	授業コード	9426063
教員名	大林 正法、藤井 善信		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計(特にユニバーサルデザイン授業設計)を行う方法を身に付ける。 ①学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。 ②支援を必要とする児童・生徒の基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。		
授業概要	(1) 子供の認識・思考、学力等の実態に応じた発展的な学習内容について探求する。 (2) 模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善に取り組む (3) 算数科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用する。		
授業計画	<p>テーマ</p> <p>第1回：算数科における実践研究の動向と取り組む授業の設計について</p> <p>第2回：学習指導要領算数科の目標と内容及びその全体構造について</p> <p>第3回：論文・文献の実践研究の問題点と授業改善の向上について</p> <p>第4回：個別の学習内容と指導上の留意点等について</p> <p>第5回：取り組む授業の学習評価の考え方について</p> <p>第6回：認識・思考、学力と授業設計について</p> <p>第7回：実態を捉えた授業設計の重要性について</p> <p>第8回：算数科の特性に応じた情報機器の活用とその授業設計について</p> <p>第9回：具体的な授業設計と学習指導案の作成について</p> <p>第10回：作成された指導案についての指導上の留意点について</p> <p>第11回：模擬授業1の実施と振り返り及び授業改善について</p> <p>第12回：算数科における背景となる学問領域と教材研究について</p> <p>第13回：模擬授業2の実施と振り返り及び授業改善について</p> <p>第14回：取り組んだ授業の学習評価の考え方について</p> <p>第15回：学習指導への位置付けの考察と発展的な学習内容の探究について</p>		
授業方法	講義形式とグループ討議(必要に応じて演習を行う)		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、協働的学習(ペアワーク、グループワーク等)、振り返りシートの活用など		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 論文・文献研究を行う。 教育実習やインターンシップ等での活動記録をまとめ資料を作成する。 宿題レポートの作成を行う。 		
教科書	『小学校学習指導要領(平成29年3月告示)』文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「算数編」』文部科学省、日本文教出版2018年		
参考書	授業中に適宜資料を配布 「改訂新版 講座 算数授業の新展開」第1学年～第6学年 東洋館出版社 「ユニバーサルデザインへの挑戦」東洋館出版社 2018年		
評価方法	①授業への参加状況(授業中の発表・討議の内容、授業における積極的な関わり等) 20% ②授業コメントとワークシート(毎時間記述、記述内容の正確さ、内容への関心、資料の整理、字数等) 30% ③課題レポート(記述の内容、内容への関心と理解度、字数、提出期日等) 50% なお、出席が所定の回数に満たない場合は評価の対象としない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校算数専科教諭・教頭・校長・教育委員会指導主事等の経験を活かして、算数科教育法を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66505
科目名	初等理科	授業コード	9426080、9426097
教員名	中島 英康		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の変遷をその歴史的背景と関連づけて理解する。 ・小学校理科の指導目標を理解するとともに、目標達成のために必要な学習のあり方を検討することができる。 ・小学校理科の体系を理解し、その学習意義を説明できる。 ・小学校理科の指導に必要な、自然科学の基礎的内容の理解を深める。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における小学校理科の目標や内容について、講義や調べ学習を通して理解を深める。 ・自然科学に関する基礎的な知識の習得のため、必要に応じて問題演習なども行う。 ・小学校理科の学習内容や単元の意義を学習方法と関連づけたレポートを作成する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導要領の変遷と小学校理科の概要 2 理科の教え方・学び方 3 小学校理科A分野（エネルギー・粒子）の内容と構成1（エネルギー編 電流とエネルギー） 4 小学校理科A分野（エネルギー・粒子）の内容と構成2（エネルギー編 カとエネルギー） 5 小学校理科A分野（エネルギー・粒子）の内容と構成3（粒子編 物質と原子・分子） 6 小学校理科A分野（エネルギー・粒子）の内容と構成4（粒子編 化学変化, イオン） 7 小学校理科B分野（生命・地球）の内容と構成1（生命編 生物の活動） 8 小学校理科B分野（生命・地球）の内容と構成2（生命編 生物の体の仕組みと分類） 9 小学校理科B分野（生命・地球）の内容と構成3（地球編 太陽と地面, 雨水の行方） 10 小学校理科B分野（生命・地球）の内容と構成4（地球編 流れる水の働き, 火山・地殻） 11 学習指導案の作成について（単元構成） 12 学習指導案の作成について（単元計画・本時の学習） 13 理科における評価（目標に準拠した評価） 14 理科における評価（新しい学習評価の考え方） 15 初等理科のまとめ（明日の理科を構想するために） 		
授業方法	前半は講義形式中心の授業を行う。毎時間授業記録を提出し、それを元にノートの作成を行いながら進める。後半は理科授業に関わる単元の目標や意義についての調べ学習を行いレポートを作成する。		
アクティブラーニングの視点	個別の調べ学習によるレポート作成とノート作成。		
授業外学習	毎回の講義内容を記録し、その記録用紙を基にしてノート作成を行う。継続的にノートの整理をする習慣が必要である。		
教科書	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「理科編」』文部科学省、東洋館出版社 『初等理科教育』山下芳樹／平田豊誠〔編著〕 ミネルヴァ書房		
参考書	小学校理科教科書、中学校学習指導要領解説理科編、中学校理科教科書		
評価方法	授業の参加姿勢40%、レポート60% 評価の詳細については、第1回のガイダンスで説明する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、学習指導要領の内容を踏まえた授業の在り方を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	64060
科目名	理科実験演習	授業コード	9426114
教員名	中島 英康		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	理科授業に必要な実験・観察に関わる基本的な知識と技能を習得するとともに、理科授業の実践力を養う。		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめの数は実験・観察に必要な技能習得のための実験・観察を行い、レポートの書き方も学習する。 ・実験・観察はグループ単位で行うが、レポートは個人で作成する。 ・段階的に高度な課題に取り組み、レポート作成を通じて「考察する」力を高めていく。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、スケッチ・野外活動について 2) 植物の養分と水の通り道 3) だ液による食べ物の変化（きん肉のはたらき） 4) 温度による空気の変化 5) 水を熱したときの変化 6) 酸素中でものを燃やした時 7) 食塩とミョウバンが溶ける量 8) 水の温度とものが溶ける量 9) 金属を変化させる水溶液 10) 溶けた金属のゆくえ 11) 電磁石の強さ 12) ふりこが1往復する時間 13) 手回し発電機での発電と利用 14) もの作り 15) 月の形と太陽 		
授業方法	毎回テーマを設定して、そのテーマに沿った実験・観察を行う。毎回、各自で実験・観察の結果をもとにしたレポートを作成して提出する。		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによる演習，レポート作成。		
授業外学習	毎回行った実験・観察についてのレポートを次回までに作成する。		
教科書	小学校理科「授業力をみがく」観察・実験ガイドブック（啓林館）		
参考書	初回授業で指示する。		
評価方法	授業への参加姿勢20% 毎回提出するレポート80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、安全で正確な結果が検証できる実験・観察の方法を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65040
科目名	理科教育法	授業コード	9415147、9415164 9415181、9415198
教員名	中島 英康、松田 雅代		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>・小学校理科における教育目標，育成を目指す資質・能力を理解し，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>(1)学習指導要領における小学校理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>(2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</p> <p>(3)小学校理科の学習評価の考え方を理解している。</p> <p>(4)小学校理科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。</p>		
授業概要	<p>小学校理科の目標論，内容構成論，授業論，評価論，現代の課題に基づいた指導法を探究する。特に，理科の目標や評価に関する考え方と，代表的な教材の学習を通して，その教材の必要性やそこに込められている意義を探究する。また，実際の指導場面を想定したマイクロティーチングなどの活動を通して，授業実践力の向上を目指す。</p>		
授業計画	<p>第1回：小学校理科の目標及び内容構成</p> <p>第2回：小学校理科の指導計画において留意すべき内容・自然事象についての子どもの考え方</p> <p>第3回：小学校理科授業の実践 効果的に授業を進める視点</p> <p>第4回：小学校理科授業の実践 効果的な指導技術 板書・ノート指導</p> <p>第5回：理科学習の評価と授業改善</p> <p>第6回：授業における評価の視点</p> <p>第7回：理科授業におけるICTの活用</p> <p>第8回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成1</p> <p>第9回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成2</p> <p>第10回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成3</p> <p>第11回：粒子，エネルギー領域の学習指導案の作成4</p> <p>第12回：生命，地球領域の学習指導案の作成1</p> <p>第13回：生命，地球領域の学習指導案の作成2</p> <p>第14回：生命，地球領域の学習指導案の作成3</p> <p>第15回：理科教育法まとめ</p> <p>期末試験</p>		
授業方法	<p>前半は講義によって，理科教育の概観を説明する。必要に応じてグループ討議を取り入れて，理科教育のあり方や現在の課題を探究する。その後，物理・化学・生物・地学各分野の内容に関わる小学校の教材をとりあげ，グループごとで実際の指導場面を想定したマイクロティーチングを行う。最後に，それまでの授業の内容を元にして学習指導案の作成を行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	ワークシート作成，少人数グループによるマイクロティーチングとその振り返り		
授業外学習	毎回の講義内容を別のノートに整理しておく。マイクロティーチングの授業案を作成する。最後に学習指導案を作成する。		
教科書	小学校理科教育法（建帛社）		
参考書	小学校学習指導要領解説理科編＜平成29年告示＞，小学校理科教科書		
評価方法	<p>授業への参加度（毎時間提出する授業記録の評価）30%</p> <p>レポート・マイクロティーチング授業案20%， 期末試験20%，指導案作成30%</p> <p>評価の詳細については，第1回のガイダンスで説明する。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験及び全国理科研究会の活動経験のある者が，その経験を活かして，理科授業の進め方を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66506
科目名	初等生活	授業コード	9415215、9415232
教員名	馬野 範雄		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	小学校の生活科を指導するための基礎的内容を体験を通して習得する。		
授業概要	<p>本講義では、教科改訂の趣旨と基本的な考え方を理解し、教科目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」ことを理解させることを目的とする。</p> <p>また、生活科の内容と基礎知識を獲得し、小学校低学年における学習指導の在り方を学ぶ。特に、「成長のアルバム」「学校探検」「おもちゃランド」などを事例として、制作活動や探検活動を体験し、その目標及び内容、子どもの思いや教師の役割等を考察する。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（心に残った生活科学習と学修計画）</p> <p>第2回：生活科誕生の背景</p> <p>第3回：学力観の変化と生活科</p> <p>第4回：生活科の基本的な考え方</p> <p>第5回：生活科の目標</p> <p>第6回：生活科の内容とカリキュラム</p> <p>第7回：2年「成長のアルバム」（作品づくり）</p> <p>第8回：2年「成長のアルバム」（作品の交流、単元の目標と教師の役割）</p> <p>第9回：1年「学校探検」（学内探検、インタビュー）</p> <p>第10回：1年「学校探検」（ポスターづくり）</p> <p>第11回：1年「学校探検」（ポスターの交流、単元の目標と教師の役割）</p> <p>第12回：2年「おもちゃランド」（おもちゃづくり）</p> <p>第13回：2年「おもちゃランド」（おもちゃの交流、単元の目標と教師の役割）</p> <p>第14回：生活科の学習評価</p> <p>第15回：生活科学習のポイント</p>		
授業方法	講義形式を基本とし、少人数による協議や発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	自ら調べる（個）→まとめて発表する（グループ）→自分のまとめと比較する（全体）→自分で学修を総括する（個）という学修過程を重視している。		
授業外学習	<p>(1)次時の学修に関連する内容について、学習指導要領解説や教科書に目を通し、重要事項にはマーカーを引くなど、概要を捉えておくこと。</p> <p>(2)講義内容に即して出された課題は、ワークシートに書き込んだりレポートにまとめたり、作品を作成したりして提出する。</p>		
教科書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」東洋館出版社 文部科学省</p> <p>小学校教科書「わたしと生活上・下」日本文教出版</p>		
参考書	木原俊行・馬野範雄編著「生活科・総合的な学習の時間の理論と実践（新時代の学びを創る）」あいり出版		
評価方法	<p>(1)毎授業での小レポート（振り返り）（80%）</p> <p>(2)作品や課題レポートの提出など（20%）</p> <p>※提出物とともに、グループワークや全体交流への積極的な参加・参画など、主体的・協働的な取り組みも考慮する。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校教諭、教育委員会指導主事としての経験を活かして、子どもの実態や思い、指導の工夫等について具体的に取り上げる。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65050
科目名	生活科教育法	授業コード	9426131、9426165 9426182、9426148
教員名	中井 精一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>具体的には以下の目標を掲げる。</p> <p>(1) 学習指導要領に示された生活科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>子どもは本来、生活体験の中で様々なことがらについて興味関心を持ち、そのものの本質や疑問に探究心を持って取り組もうとする姿がある。このような子どもの本来持っている主体的な態度を、学校で活かしていくべきと考えられた生活科をどのように展開していくことが望ましいか、実際の授業や事例を通して学ぶことを目的とする。</p> <p>さらに、具体的な活動や体験を通して見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接働きかける活動ができるような指導案の作成、指導を実践する。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領における生活科の目標</p> <p>第2回：生活科の主な内容、全体構造</p> <p>第3回：子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計</p> <p>第4回：生活科と背景となる学問領域との関係および教材研究</p> <p>第5回：学習指導案の構成</p> <p>第6回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「自然や身近なものを使った遊び」</p> <p>第7回：第6回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討</p> <p>第8回：具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案の作成「季節の変化と生活」</p> <p>第9回：第8回の指導案を通じた個別の学習内容についての指導上の留意点の検討</p> <p>第10回：模擬授業の実施とその振り返り「自然の中での遊び」</p> <p>第11回：模擬授業の実施とその振り返り「身近なものを使った遊び」</p> <p>第12回：模擬授業の実施とその振り返り「季節の変化と生活」</p> <p>第13回：生活科の学習評価の考え方</p> <p>第14回：生活科の特性に応じた教材の効果的な活用法及び情報機器の活用</p> <p>第15回：まとめ</p>		
授業方法	講義並びに演習、グループワーク		
アクティブラーニングの視点	ICTを活用したグループワークと学習指導案作成		
授業外学習	生活科についての質問事項、「気づきの質が高まる生活科の授業の進め方」等を課題とする。		
教科書	<p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「生活編」』東洋館出版社、文部科学省</p> <p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「総合的な学習の時間編」』東洋館出版社、文部科学省</p> <p>『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校生活』令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター</p>		
参考書	『小学校の学びを変える！授業と学習のユニバーサルデザイン』 亀岡正睦 編著 明治図書		
評価方法	授業後のレポート 30% 平常点 30% 課題レポート 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして「生活科教育法」について講義する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66507
科目名	初等音楽	授業コード	9426199、9426216
教員名	山口 聖代		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・幼稚園・保育所の実践指導において必要となる音楽の基礎知識や技能を身につけることができる。 ・小学校で扱われる音楽教材の内容について分析し、総合的に理解することができる。 ・簡単な楽器演奏の実習を通して音楽指導への理解を深めることができる。 		
授業概要	小学校学習指導要領の内容で取り扱われている表現・鑑賞の指導内容に即し、小学校教科書教材の基礎的な音楽の知識や技能、指導方法を、講義及び演習によって獲得する。基本的な楽典や音楽の構成を理解し、授業実践に必要な実技を身につけ、教員採用試験における音楽実技試験に対応する。		
授業計画	第01回 小学校音楽科学習の概要及びオリエンテーション 第02回 音楽科学習指導要領の概要と理解 第03回 歌唱教材研究（共通教材） 第04回 歌唱教材研究（合唱教材） 第05回 歌唱教材研究（構成、形式） 第06回 器楽教材研究（鍵盤） 第07回 器楽教材研究（リコーダー） 第08回 器楽教材研究（打楽器） 第09回 音づくり教材研究（旋律） 第10回 音づくり教材研究（リズム） 第11回 音づくり教材研究（身の回りの音） 第12回 鑑賞教材研究（西洋音楽） 第13回 鑑賞教材研究（民族音楽） 第14回 鑑賞教材研究（楽曲分析） 第15回 実技試験、最終レポートの準備		
授業方法	毎回授業の最初に指導内容について解説し、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽づくりをするなどの実技を実演を含む授業を行う。また、音楽の授業に必要な基本的な楽典、鑑賞授業の講義も行う。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、楽典に関する小テストも授業内で行う。演奏の発表会、授業内での実技試験も行う。		
アクティブラーニングの視点	音楽の授業に必要な基礎的な知識を身に付け、それらを実際に教材研究の課題や指導の実践に活用させる。また、アンサンブルなどの実技を行うことで、より主体的に個人やグループによる音楽活動に関わり、各々の基礎能力を高め、発表を行うことで自己の振り返りや指導の視点を深める機会を持つ。		
授業外学習	各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究、実技演習、プリントなどの課題を出す。		
教科書	適宜授業内で指示する。		
参考書	初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社 2020		
評価方法	平常点：50点、小テスト30点、実技テスト：10点、最終課題：10点		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66512																																													
科目名	ピアノ1	授業コード	9415249、9415266 9415283、9415300																																													
教員名	児玉 達郎、津國 直樹、鈴木 亜希、内海 由美子、山口 聖代、小餅谷 哲男																																															
授業種別	週間授業	授業形態	演習																																													
開講間隔	週1回	単位数	2																																													
履修年次	1	学期	2024年度 前期																																													
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎的な理論を学ぶことによって、読譜力を向上させることができる。 ・ピアノ演奏や歌唱に関する基礎力を身につけることができ、教育・保育現場で必要な基礎的な音楽的能力を獲得することができる。 																																															
授業概要	<p>各クラスを2グループに分割し、45分で各グループに対し、ピアノ・声楽の授業を交互に指導する。保育所、幼稚園、小学校での音楽活動の場で必要とされる伴奏、弾き歌いの歌唱の基礎的な力を身につけるために、ピアノでは、鍵盤楽器初心者から経験者まで、個人のピアノ経験に合わせたピアノ教材を選択し、ピアノ演奏に必要不可欠なピアノ・キーボード奏法の基礎技術習得と音楽的な知識の獲得をめざす。また、声楽では、必要に応じて個人レッスン、グループレッスンを行い、声づくり、共鳴と発声、呼吸法、歌唱表現の基礎力獲得に挑戦する。</p>																																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第01回</td> <td>ピアノ…手のフォームと姿勢</td> <td>声楽…声づくり(1)</td> </tr> <tr> <td>第02回</td> <td>ピアノ…鍵盤と楽譜</td> <td>声楽…声づくり(2)</td> </tr> <tr> <td>第03回</td> <td>ピアノ…音符と休符</td> <td>声楽…声づくり(3)</td> </tr> <tr> <td>第04回</td> <td>ピアノ…音名</td> <td>声楽…呼吸法(1)</td> </tr> <tr> <td>第05回</td> <td>ピアノ…拍子</td> <td>声楽…呼吸法(2)</td> </tr> <tr> <td>第06回</td> <td>ピアノ…リズム</td> <td>声楽…呼吸法(3)</td> </tr> <tr> <td>第07回</td> <td colspan="2">中間試験と復習</td> </tr> <tr> <td>第08回</td> <td>ピアノ…調と音階(長調)</td> <td>声楽…共鳴と発声(1)</td> </tr> <tr> <td>第09回</td> <td>ピアノ…調と音階(短調)</td> <td>声楽…共鳴と発声(2)</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>ピアノ…調と調子記号</td> <td>声楽…共鳴と発声(3)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ピアノ…色々な奏法と記号</td> <td>声楽…歌唱表現(1)</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ピアノ…強弱、速度に関する記号</td> <td>声楽…歌唱表現(2)</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>ピアノ…曲想、反復に関する記号</td> <td>声楽…歌唱表現(3)</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td colspan="2">歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ</td> <td>声楽…基礎的な歌唱の仕上げ</td> </tr> </table>			第01回	ピアノ…手のフォームと姿勢	声楽…声づくり(1)	第02回	ピアノ…鍵盤と楽譜	声楽…声づくり(2)	第03回	ピアノ…音符と休符	声楽…声づくり(3)	第04回	ピアノ…音名	声楽…呼吸法(1)	第05回	ピアノ…拍子	声楽…呼吸法(2)	第06回	ピアノ…リズム	声楽…呼吸法(3)	第07回	中間試験と復習		第08回	ピアノ…調と音階(長調)	声楽…共鳴と発声(1)	第09回	ピアノ…調と音階(短調)	声楽…共鳴と発声(2)	第10回	ピアノ…調と調子記号	声楽…共鳴と発声(3)	第11回	ピアノ…色々な奏法と記号	声楽…歌唱表現(1)	第12回	ピアノ…強弱、速度に関する記号	声楽…歌唱表現(2)	第13回	ピアノ…曲想、反復に関する記号	声楽…歌唱表現(3)	第14回	歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験		第15回	ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ	声楽…基礎的な歌唱の仕上げ
第01回	ピアノ…手のフォームと姿勢	声楽…声づくり(1)																																														
第02回	ピアノ…鍵盤と楽譜	声楽…声づくり(2)																																														
第03回	ピアノ…音符と休符	声楽…声づくり(3)																																														
第04回	ピアノ…音名	声楽…呼吸法(1)																																														
第05回	ピアノ…拍子	声楽…呼吸法(2)																																														
第06回	ピアノ…リズム	声楽…呼吸法(3)																																														
第07回	中間試験と復習																																															
第08回	ピアノ…調と音階(長調)	声楽…共鳴と発声(1)																																														
第09回	ピアノ…調と音階(短調)	声楽…共鳴と発声(2)																																														
第10回	ピアノ…調と調子記号	声楽…共鳴と発声(3)																																														
第11回	ピアノ…色々な奏法と記号	声楽…歌唱表現(1)																																														
第12回	ピアノ…強弱、速度に関する記号	声楽…歌唱表現(2)																																														
第13回	ピアノ…曲想、反復に関する記号	声楽…歌唱表現(3)																																														
第14回	歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験																																															
第15回	ピアノ…基礎的な演奏の仕上げ	声楽…基礎的な歌唱の仕上げ																																														
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。																																															
アクティブラーニングの視点	<p>各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。</p>																																															
授業外学習	毎日30分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。																																															
教科書	初回の授業時に指示する。																																															
参考書	適宜授業内で指示する。																																															
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度50%、実技試験50%																																															
既修条件	なし																																															
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。																																															

教職科目	【小学校】	科目コード	66522
科目名	ピアノ 2	授業コード	9426233、9426250 9426267、9426284
教員名	児玉 達郎、津國 直樹、内海 由美子、山口 聖代、鈴木 亜希		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024 年度 後期
到達目標	<p>・ピアノ 1 に続き、音楽の基礎的な理論を学び、ピアノ演奏技術や歌唱力をさらに向上させ、教育現場での実践に生きる音楽的能力の向上を図ることができる。</p> <p>・アンサンブルや歌の伴奏や弾き歌いを通して音楽の楽しさを体験し、より豊かな音楽表現力を身につけることができる。</p>		
授業概要	<p>ピアノ 1 に引き続き、教育者・保育者としての基本的な音楽的能力を向上させるだけでなく、小学校、幼稚園、保育所の現場において必要とされる、多様な音楽活動に対応できるピアノ演奏技能・歌唱力を養う。さらに、様々な教育・保育場面に対応できる教材をとりあげ、より豊かな音楽表現力を身につける。ピアノでは、ピアノ演奏に必要な不可欠な保育所、幼稚園、小学校の実践の場で使用される頻度の高い歌唱教材や子どもの歌の伴奏力を身につける。また、声楽では、歌唱力のさらなる伸展をはかり、二部・三部合唱を行う能力や、弾き歌いにおける歌唱力を</p>		
授業計画	<p>第 01 回 ピアノ…音程 (1) 声楽…歌詞と歌唱表現 (1)</p> <p>第 02 回 ピアノ…音程 (2) 声楽…歌詞と歌唱表現 (2)</p> <p>第 03 回 ピアノ…三和音 (1) 声楽…フレーズを生かす歌唱表現</p> <p>第 04 回 ピアノ…三和音 (2) 声楽…リズムや拍子感を生かす歌唱表現</p> <p>第 05 回 ピアノ…コードネーム (1) 声楽…斉唱から合唱へ (1)</p> <p>第 06 回 ピアノ…コードネーム (2) 声楽…斉唱から合唱へ (2)</p> <p>第 07 回 中間試験と復習</p> <p>第 08 回 ピアノ…伴奏づけ (1) 声楽…曲の構成と歌唱表現 (1)</p> <p>第 09 回 ピアノ…伴奏づけ (2) 声楽…曲の構成と歌唱表現 (2)</p> <p>第 10 回 ピアノ…子どもの歌の伴奏 (1) 声楽…曲の構成と歌唱表現 (3)</p> <p>第 11 回 ピアノ…子どもの歌の伴奏 (2) 声楽…伴奏を生かす歌唱表現 (1)</p> <p>第 12 回 ピアノ…子どもの歌の伴奏 (3) 声楽…伴奏を生かす歌唱表現 (2)</p> <p>第 13 回 ピアノ…子どもの歌の伴奏 (4) 声楽…伴奏を生かす歌唱表現 (3)</p> <p>第 14 回 歌曲・弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内試験</p> <p>第 15 回 ピアノによる音楽表現の仕上げ 声楽による音楽表現の仕上げ</p>		
授業方法	音楽理論の講義、ピアノ・声楽の実技を個人レッスンやグループレッスンにより進める。		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	毎日 30 分以上を目標に、各回の授業で出た課題の練習を行う。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	適宜授業内で指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	ピアノ指導、声楽指導ともに、演奏経験や指導経験が豊富で、小・中・高・支援学校・教員養成大学など支援学校音楽教育にも深く関連する経験を幅広く持つ教員が経験を生かした指導を行う。		

教職科目	【小学校】	科目コード	64210
科目名	ピアノ 3	授業コード	9415317、9415334
教員名	山田 真由美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	2	学期	2024 年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所の現場で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いを通して、実践的なピアノ演奏の基礎を習得することができる。 ・伴奏の基本となるコードによる伴奏法を習得できる。 ・ピアノ 2 で習得したピアノの基礎的な演奏能力を、より豊かな音楽表現のできる能力へと向上させることができる。 		
授業概要	音楽理論の理解を深め、幼稚園・保育所で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いと、コードネームによる子どもの歌の伴奏を習得する。個人レッスンを中心に、ピアノ 2 で習得したピアノ演奏のレベルをさらに向上させ、幼稚園・保育所で子どもの豊かな感性を引き出す、弾き歌いのためのピアノ演奏テクニックと、指導者としての音楽性の向上を目指す。		
授業計画	第 01 回 コードネームを用いた伴奏の意義と弾き歌いについて 第 02 回 C/F/G コードの理論と弾き歌い (1) 第 03 回 C/F/G コードの理論と弾き歌い (2) 第 04 回 C/F/G コードの理論と弾き歌い (3) 第 05 回 コードの転回形と弾き歌い (1) 第 06 回 コードの転回形と弾き歌い (2) 第 07 回 中間試験と復習 第 08 回 コードによる伴奏練習と弾き歌い (1) 第 09 回 コードによる伴奏練習と弾き歌い (2) 第 10 回 色々なコードネームを用いた伴奏 (1) 第 11 回 色々なコードネームを用いた伴奏 (2) 第 12 回 幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い (1) 第 13 回 幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い (2) 第 14 回 幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い (3) 第 15 回 コードネーム伴奏による弾き歌い、幼稚園・保育所生活の歌の弾き歌い、まとめと授業内試験		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論については小テストを行うので、毎回の授業で受けた講義内容を復習し理解を深めること。 ・弾き歌いの曲については、歌詞を覚え、暗譜で弾き歌いできるまで練習すること。 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・初回授業時に指示する 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に適宜紹介する。 ・小林美実 『こどものうた 200』 チャイルド本社 2014 ・小林美実 井戸和秀 『こどものうた 100』 チャイルド本社 2017 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』 音楽之友社 2013 ・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018 ・鈴木恵津子 富田英也 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 こどものうた 簡単に弾ける 144 選』 教育 		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【小学校】	科目コード	64220
科目名	ピアノ4	授業コード	9426301、9426318
教員名	山田 真由美		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>・行進曲やスキップといった色々なリズム変化をつけた伴奏型を習得し、子どもの歌だけではなく、幼稚園や保育所の様々な生活場面に対応できるピアノ演奏技術を習得することができる。</p> <p>・ピアノ3で習得した演奏能力を、様々な曲想の子どもの歌に応じてより豊かな音楽表現のできる能力へと向上させることができる。</p>		
授業概要	<p>幼稚園・保育所の現場で使用頻度の高い子どもの歌の弾き歌いのレパートリーを増やし、実践現場での音楽表現活動に対応できるようにする。また、色々なリズムの曲や伴奏の型を習得し、その技術を用いて子どもの歌や幼稚園や保育所の生活の場面に応じて伴奏に変化をつけることができるように、応用力をつける。</p>		
授業計画	<p>第01回 行進曲・スキップ・駆け足(1)</p> <p>第02回 行進曲・スキップ・駆け足(2)</p> <p>第03回 行進曲・スキップ・駆け足(3)</p> <p>第04回 色々な伴奏型(1)</p> <p>第05回 色々な伴奏型(2)</p> <p>第06回 色々な伴奏型(3)</p> <p>第07回 中間試験と復習</p> <p>第08回 季節・行事の歌の弾き歌い(1)</p> <p>第09回 季節・行事の歌の弾き歌い(2)</p> <p>第10回 季節・行事の歌の弾き歌い(3)</p> <p>第11回 季節・行事の歌の弾き歌い(4)</p> <p>第12回 ペダルを用いた伴奏による弾き歌い(1)</p> <p>第13回 ペダルを用いた伴奏による弾き歌い(2)</p> <p>第14回 高難易度の伴奏による弾き歌い</p> <p>第15回 行進曲・スキップ・駆け足の律動リズム演奏と、季節・行事の歌の弾き歌い伴奏、まとめと授業内試験</p>		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	<p>各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。</p>		
授業外学習	<p>・音楽理論については小テストを行うので、毎回の授業で受けた講義内容を復習し理解を深めること。</p> <p>・ピアノの実技については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習して、レパートリーを自主的に増やしておくこと。</p>		
教科書	・初回授業時に指示する		
参考書	<p>・授業時に適宜紹介する。</p> <p>・小林美実 『こどものうた200』 チャイルド本社 2014</p> <p>・小林美実 井戸和秀 『こどものうた100』 チャイルド本社 2017</p> <p>・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』 音楽之友社 2013</p> <p>・初等科音楽教育研究会 編 『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 音楽之友社 2018</p> <p>・鈴木恵津子 富田英也 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践 こどものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社</p>		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度50%、実技試験50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【小学校】	科目コード	64230
科目名	ピアノ5	授業コード	9426335
教員名	児玉 達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な伴奏型を習得し、幼稚園・保育所で必要とされる即興的なリズム変奏や子どものうたの移調に取り組み、実践的なピアノ演奏能力を向上させることができる。 ・音楽表現指導に必要な音楽性の獲得をめざし、ピアノによる弾き歌いの能力をさらに向上させることができる。 		
授業概要	即興的にマーチ・スキップなどのリズムで音楽に変化を加え、子どもたちの音楽表現に合わせてピアノで対応できる応用力を習得する。また、子どもたちが無理なく歌える音の高さに合わせて伴奏することができるように移調や、転調や短調の曲の弾き歌いに取り組む。		
授業計画	第01回 色々なリズムによる伴奏（1） 第02回 色々なリズムによる伴奏（2） 第03回 色々なリズムによる伴奏（3） 第04回 転調・短調の曲の弾き歌い（1） 第05回 転調・短調の曲の弾き歌い（2） 第06回 転調・短調の曲の弾き歌い（3） 第07回 中間試験と復習 第08回 移調（1）移調の方法 第09回 移調（2）移調の方法 第10回 移調（3）ハ長調からハ長調へ 第11回 移調（4）ハ長調からト長調へ 第12回 移調（5）ハ長調からニ長調へ 第13回 移調（6）ハ長調から変ロ長調へ 第14回 弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内テスト 第15回 音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽理論については、毎回の授業で受けた講義内容を復習する。 ・移調の課題については、それぞれの楽譜を提出する。 ・弾き歌いの曲については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習し、暗譜で弾き歌いができるようにする。 		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校の音楽授業（音楽鑑賞）、小学校の世代間交流活動事業（音楽演奏活動）、幼稚園の音楽会行事に携わった経験や、高等学校現場における教員（音楽）経験がある者が、その経験を活かしてピアノ実技を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	64240
科目名	ピアノ6	授業コード	9415351
教員名	児玉 達郎		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	4	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園採用試験に向けてのピアノ演奏能力を向上させることができる。 ・音楽表現指導で指導者に求められる豊かな音楽性の獲得をめざし、ピアノ演奏能力をさらに向上させることができる。 		
授業概要	幼稚園で予想されるあらゆる音楽の場面で、ピアノで対応できる応用力をつける。幼稚園の就職試験に対応する各自のレベルに合った曲に取り組み、確実な演奏技術とより音楽的なピアノ演奏を求め、総合的に音楽的能力を向上させる。		
授業計画	第01回 マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ (1) 第02回 マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ (2) 第03回 マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ (3) 第04回 マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ (4) 第05回 マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ (5) 第06回 マーチ・スキップ・ギャロップ・駆け足・ワルツ (6) 第07回 中間試験と復習 第08回 幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲 (1) 第09回 幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲 (2) 第10回 幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲 (3) 第11回 幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲 (4) 第12回 幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲 (5) 第13回 幼稚園採用試験における自由曲と弾き歌い曲 (6) 第14回 弾き歌い曲・ピアノ曲のまとめと授業内テスト 第15回 音楽表現の仕上げ		
授業方法	音楽理論の講義と個人レッスン		
アクティブラーニングの視点	各々の学生のレベルに応じた課題を用意し、個人指導や個人練習を通して演奏技能を身に付け、集団指導や人前で演奏する機会を通して、他者と演奏を共有し、自己を振り返り、より主体的・能動的に学習したことが実感できるように、実技を多く取り入れた授業形態で進める。		
授業外学習	音楽理論については、毎回の授業で受けた講義内容を復習すること。 ピアノの実技については、指導を受ける曲を十分に繰り返して練習し、幼稚園現場で使用頻度の多い子どもの歌に関してはレパートリーを自主的に増やしておくこと。		
教科書	初回の授業時に指示する。		
参考書	授業内で適宜指示する。		
評価方法	授業に対する姿勢、レッスン毎の予習準備を含む到達度 50%、実技試験 50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	小学校の音楽授業（音楽鑑賞）、小学校の世代間交流活動事業（音楽演奏活動）、幼稚園の音楽会行事に携わった経験や、高等学校現場における教員（音楽）経験がある者が、その経験を活かしてピアノ実技を指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65060
科目名	音楽科教育法	授業コード	9415368、9415385 9415402、9415419
教員名	山口 聖代、内海 由美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科学習指導要領を理解し、児童の実態に応じた指導方法を身につけることができる。 ・音楽授業に必要な教材分析力と実践指導力を身につけることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。 		
授業概要	<p>学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、教科としての特性を知り、授業を実践する上で必要な内容について学習する。特に学習指導要領に基づいた指導内容を習得し、音楽科の授業を進める上で必要となる歌唱・器楽・鑑賞・創作の教材研究と基本的な指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説（目標及び主な内容） 第2回：指導内容と学習評価の考え方 第3回：歌唱・器楽の教材研究と指導上の留意点 第4回：鑑賞・創作の教材研究と指導上の留意点 第5回：情報機器及び教材の効果的な活用法 第6回：低学年の授業設計 第7回：低学年授業の指導案の作成 第8回：中学年授業の授業設計 第9回：中学年授業の指導案の作成 第10回：高学年授業の授業設計 第11回：高学年授業の指導案の作成 第12回：模擬授業（1）低学年 第13回：模擬授業（2）中学年 第14回：模擬授業（3）高学年 第15回：模擬授業振り返り、まとめ</p>		
授業方法	<p>講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた課題を実施し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。</p>		
授業外学習	<p>各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成などの課題を出す。</p>		
教科書	<p>文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』 東洋館出版社</p>		
参考書	<p>初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠 小学校教員養成課程用』音楽之友社 2020</p>		
評価方法	<p>毎回の授業での課題（平常点）：30点（各回2点）、指導内容に関する小テスト20点、指導案作成：30点、模擬授業実践：20点</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>小学校・中学校・高等学校・支援学校で音楽の授業経験を持つ他、ピアノ演奏、作・編曲、合唱指導、吹奏楽指導など、音楽教育に深く関連する経験を幅広く持つ教員が、実技を伴いながら指導する。</p>		

教職科目	【小学校】	科目コード	66530
科目名	音楽科教育法2	授業コード	9426352
教員名	小餅谷 哲男		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科学習指導要領を理解し、教材の研究を深めた指導方法を身につけることができる。 ・日本伝統音楽、世界の音楽の教材分析力や、指揮法を身につけ、授業実践に備えることができる。 ・音楽科の学習指導案を作成することができる。 		
授業概要	<p>学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、授業を実践する上で必要な教材研究を深める。特に日本伝統音楽、世界の音楽を教材とした指導法や、合唱・合奏などを指導する上で必要となる指揮法の習得、鑑賞教材、音楽づくりの教材の研究と指導法について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説と学習評価 第2回：日本伝統音楽を教材とした歌唱 第3回：日本伝統音楽を教材とした鑑賞 第4回：日本伝統音楽を教材とした音楽づくり 第5回：世界の音楽を教材とした鑑賞及び教材の効果的な活用法 第6回：低学年授業における合唱指導と指揮法 第7回：中学年授業における合唱指導と指揮法 第8回：高学年授業における合唱指導と指揮法 第9回：低学年授業の表現教材の研究と指導法 第10回：中学年授業の表現教材の研究と指導法 第11回：高学年授業の表現教材の研究と指導法 第12回：模擬授業を想定した指導案作成 第13回：模擬授業（1）日本伝統音楽 第14回：模擬授業（2）表現教材 第15回：模擬授業振り返り、まとめ</p>		
授業方法	<p>講義を中心とするが、教材研究と理解のために、歌唱・鑑賞・創作の内容に応じて、歌ったり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりという実技演習も含む。毎回の授業内容をふまえた小レポートや課題を授業の終わりに記入し提出し、指導内容に関する小テストも授業内で行う。指導案を作成し、模擬授業も行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>教材研究を行い、意見を発表し合うなど共有することで教科の特性や視点を主体的に思考・判断できる力を身に付け、それら学習したことを模擬授業を通して実践し、共有することで、自己を振り返り、各々の授業作りをさらに研究する。</p>		
授業外学習	<p>各授業ごとに、講義内容に合わせて教材研究や指導案作成など1、2時間程度の課題を出す。</p>		
教科書	<p>文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』 教育芸術社</p>		
参考書	<p>初等科音楽教育研究会編 『最新 初等科音楽教育法（改訂版）小学校教員養成課程用』 音楽之友社 2011</p>		
評価方法	<p>毎回の授業での課題（平常点）：30点（各回2点）、指導内容に関する小テスト20点、指導案作成：30点、模擬授業実践：20点</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p></p>		

教職科目	【小学校】	科目コード	66535
科目名	初等図画工作	授業コード	9415436、9415453
教員名	藤原 昌樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>・「みて、感じて、描く・つくる」ことを基本とする造形活動において、必要な技術と材料や用具の知識を身につける。</p> <p>・幼稚園及び小学校における表現活動及び鑑賞活動の学習指導にあたって、必要な子どもの発達段階に応じた題材設定や教材開発のあり方、指導と評価について、実技をとおして実践的スキルを身につける。</p>		
授業概要	<p>図画工作は「みて、感じて、描く・つくる」を基本に、感性を働かせて発想し、構想の能力や鑑賞する能力を育み、造形と豊かに関わる活動を目指すことが求められている。そのためにも実技をとおして、教師自身が自ら造形と豊かに関わるのが大切であり、様々な造形体験をとおして感性を磨き、造形への理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 : ガイダンス「みて、感じて、描く・つくる」造形活動について</p> <p>第2回 : 造形遊び「材料から発想する(紙)」</p> <p>第3回 : 造形遊び「材料から発想する(身近な材料)」</p> <p>第4回 : 絵画表現「パスで描くその1」</p> <p>第5回 : 絵画表現「パスで描くその2」</p> <p>第6回 : 絵画表現「水彩絵の具で描く(静物画)」</p> <p>第7回 : 絵画表現「パスと水彩絵の具で描く(イメージ画)」</p> <p>第8回 : 絵画表現「人物を描く」</p> <p>第9回 : 絵画表現「木版画その1」</p> <p>第10回 : 絵画表現「木版画その2」</p> <p>第11回 : 絵画表現「木版画その3」</p> <p>第12回 : 立体表現「立方体の制作」</p> <p>第13回 : 立体表現「ダンボールで作る」</p> <p>第14回 : 立体表現「粘土」</p> <p>第15回 : まとめ</p>		
授業方法	講義及び実技		
アクティブラーニングの視点	<p>学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、鑑賞やグループ制作を積極的に行う。また全体としても、作品発表などで学生間での評価を積極的に行う。</p>		
授業外学習	<p>材料や用具又は作品鑑賞などのレポート作成、作品制作準備、題材ごとにまとめなどを行う。</p>		
教科書	<p>『つくる・見る・学ぶ 美術のきほん—美術資料』、日本文教出版、京都市立芸術大学美術教育研究会 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「図画工作編」、日本文教出版、文部科学省</p>		
参考書	必要に応じて指示する		
評価方法	<p>課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価や作品及びレポートを基に評価を行う。 レポート(60%)、作品の取り組みと理解(40%)</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。</p>		

教職科目	【小学校】	科目コード	65070
科目名	図画工作科教育法	授業コード	9426369、9426386
教員名	藤原 昌樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体の構造を理解、個別の学習内容について指導上の注意点の理解、学習評価の考えの理解、背景となる学問の領域との関係の理解と教材研究への活用、発展的な学習内容について探求し学習指導への位置付けを考察する。また、それを踏まえ子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用、学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計及び学習指導案の作成、模擬授業の実践と振り返りからの授業改善の視点などを身に付ける。		
授業概要	図画工作は、子供の発育発達において重要な意味を持つ学習活動である。本授業では、図画工作の指導と評価方法について、学習計画や指導案の作成を基に学ぶ。また、様々な用具や材料などを用いて、図画工作の基礎から応用までを実践的に学ぶ。さらに、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞することに取り組むことで、感性を磨き、造形の楽しさや面白さ、達成感を体験し豊かな情操を養う。		
授業計画	第1回：小学校学習指導要領における図画工作科の位置付けとこれまでの歩みの理解 第2回：小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容についての理解 第3回：小学校図画工作科の学習評価についての理解 第4回：子供の実態を踏まえた年間指導計画と評価についての理解 第5回：「A表現(1)造形遊び」授業設計と学習指導案の作成（1・2年生対象） 第6回：「A表現(1)造形遊び」授業実践とその振り返りを通じた授業改善（1・2年生対象） 第7回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（1・2年生対象） 第8回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（3・4年生対象） 第9回：「A表現(2)絵」授業実践とその振り返りを通じた授業改善（1・2・3・4年生対象） 第10回：「B鑑賞(1)」授業実践と情報機器の効果的な活用（3・4年生対象） 第11回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（1・2年生対象） 第12回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（3・4年生対象） 第13回：「A表現(2)工作」授業設計と学習指導案の作成（5・6年生対象） 第14回：「A表現(2)工作」授業実践とその振り返りを通じた授業改善（5・6年生対象） 第15回：授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 予習あるいは復習として学習指導要領をまとめる。 課題ごとに制作記録をファイルにまとめる。 学習指導案の作成 実技課題など 		
教科書	文部科学省『「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「図画工作編」』日本文教出版		
参考書	『つくる・見る・学ぶ美術のきほん 美術資料』日本文教出版京都市立芸術大学美術教育研究会		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（50%）、レポートや指導案等の提出物（50%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験に加え、アートマネジメント、表現活動等、社会における豊富な活動経験を活かして、教員養成に関わる指導をする。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65070
科目名	図画工作科教育法	授業コード	9426403、9426420
教員名	松田 朋子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体の構造を理解、個別の学習内容について指導上の注意点の理解、学習評価の考えの理解、背景となる学問の領域との関係の理解と教材研究への活用、発展的な学習内容について探求し学習指導への位置付けを考察する。また、それを踏まえ子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性、特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用、学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計及び学習指導案の作成、模擬授業の実践と振り返りからの授業改善の視点などを身に付ける。		
授業概要	図画工作は、子供の発育発達において重要な意味を持つ学習活動である。本授業では、図画工作の指導と評価方法について、学習計画や指導案の作成を基に学ぶ。また、様々な用具や材料などを用いて、図画工作の基礎から応用までを実践的に学ぶ。さらに、学生自身が描くことや作ること及び鑑賞することに取り組むことで、感性を磨き、造形の楽しさや面白さ、達成感を体験し豊かな情操を養う。		
授業計画	第1回：小学校学習指導要領における図画工作科の位置付けとこれまでの歩みの理解 第2回：小学校学習指導要領図画工作科の目標と内容についての理解 第3回：小学校図画工作科の学習評価についての理解 第4回：子供の実態を踏まえた年間指導計画と評価についての理解 第5回：「A表現(1)造形遊び」授業設計と学習指導案の作成（1・2年生対象） 第6回：「A表現(1)造形遊び」授業実践とその振り返りを通じた授業改善（1・2年生対象） 第7回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（1・2年生対象） 第8回：「A表現(2)絵」授業設計と学習指導案の作成（3・4年生対象） 第9回：「A表現(2)絵」授業実践とその振り返りを通じた授業改善（1・2・3・4年生対象） 第10回：「B鑑賞(1)」授業実践と情報機器の効果的な活用（3・4年生対象） 第11回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（1・2年生対象） 第12回：「A表現(2)立体」授業設計と学習指導案の作成（3・4年生対象） 第13回：「A表現(2)工作」授業設計と学習指導案の作成（5・6年生対象） 第14回：「A表現(2)工作」授業実践とその振り返りを通じた授業改善（5・6年生対象） 第15回：授業のまとめとふりかえり		
授業方法	学習内容により、講義と実技を併用する。		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。また全体としても、模擬授業や発表などで学生間での評価を積極的に行う。		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 予習あるいは復習として学習指導要領をまとめる。 課題ごとに制作記録をファイルにまとめる。 学習指導案の作成 実技課題など 		
教科書	文部科学省『「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「図画工作編」』日本文教出版		
参考書	「つくる・見る・学ぶ美術のきほん 美術資料」日本文教出版京都市立芸術大学美術教育研究会		
評価方法	課題ごとにねらいや目標を定め、自己評価やグループでの評価、及び指導案やレポートを基に総合的に評価を行う。内容の理解と取組に対する理解（50%）、レポートや指導案等の提出物（50%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	発達に遅れや躓きの見られる児童、並びに健常児を対象とした絵画造形教室において指導を行うほか、認定こども園や保育所、公共施設にてワークショップを開催する。作家としての表現活動及び社会的活動経験を活かし、教員養成に関わる指導をする。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66536
科目名	初等家庭	授業コード	9415470、9415487 9415504、9415521
教員名	脇 淳子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校家庭科の3つの指導内容について理解する。 ・それぞれの内容の指導に必要な知識と技能を身に付け、家庭科の教材を作成することができる。 		
授業概要	学習指導要領をもとに、家庭科の3つの内容「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の教材について基礎的な事項を取り上げる。実習や教材作成の機会を設けながら、家庭科の内容について論理的、実証的に理解を深める。		
授業計画	第1回 : オリエンテーション (家庭科学習についての基本姿勢・学習の進め方・評価について) 第2回 : 「C 消費生活・環境」1 (買い物の仕方について) 第3回 : 「C 消費生活・環境」2 (身近な環境について) 第4回 : 「C 消費生活・環境」3 (消費者教育について) 第5回 : 「B 衣食住の生活」1 (ミシン縫いの計画) 第6回 : 「B 衣食住の生活」2 (ランチョンマットの製作1) 第7回 : 「B 衣食住の生活」3 (ランチョンマットの製作2) 第8回 : 「B 衣食住の生活」4 (調理の計画) 第9回 : 「B 衣食住の生活」5 (調理実習1・ご飯とみそ汁) 第10回 : 「B 衣食住の生活」6 (調理実習2・いろいろな切り方・皮のむき方) 第11回 : 「A 家族・家庭生活」1 (調理実習3・団らんの工夫) 第12回 : 「B 衣食住の生活」7 (ファストファッションとライフスタイル) 第13回 : 「B 衣食住の生活」8 (安全で快適な住まい方の工夫) 第14回 : 「A 家族・家庭生活」2 (生活時間の工夫) 第15回 : 「A 家族・家庭生活」3 (家族や地域の人々との関わり) とまとめ・テスト		
授業方法	講義形式を中心に実習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの活用による主体的な学び 製作実習、調理実習を通じた体験的学び、 学習課題に対するペアワーク、グループワークでの相互的学び 振り返りシートによる学びの定着		
授業外学習	該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて実習の準備と記録レポートを作成すること。		
教科書	「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編」(文部科学省、東洋館出版社) 「わたしたちの家庭科 小学校5・6年(令和6年版)」(開隆堂書店) ※学習指導要領は文部科学省のH.P.からダウンロードできます。		
参考書	授業の中で適宜紹介する。		
評価方法	テスト 30% 授業時の課題(レポート、製作作品など・小テスト) 40% 実習や授業への参加態度 30% レポートや作品には、各自の課題解決への工夫が見られるかを見る。 授業への参加は、よりよい家庭生活の実現に向けて、生活経験をもとにした積極的な発言を重視する。提出物については、確認後返却する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65080
科目名	家庭科教育法	授業コード	9426437、9426454 9426471、9426488
教員名	脇 淳子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>具体的には以下の目標を設定する。</p> <p>(1)学習指導要領に示された家庭科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>小学校家庭科で扱う3つの内容に関する授業展開について具体的な実践事例から学び、基礎的な知識と技能をふまえて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことにより実践的な指導力を養う。</p>		
授業計画	<p>第1回：学習指導要領における家庭科の目標・主な内容と全体構造</p> <p>第2回：家庭科の学習内容における指導上の留意点</p> <p>第3回：家庭科の背景となる知見と、教材研究へのその活用</p> <p>第4回：家庭科における学習評価</p> <p>第5回：児童の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計</p> <p>第6回：学習指導案の構成と具体的な授業を想定した授業設計</p> <p>第7回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「栄養」</p> <p>第8回：第7回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り</p> <p>第9回：調理実習の授業設計・指導案の作成「ご飯とみそ汁」</p> <p>第10回：第9回の指導案をふまえた調理実習の模擬授業の実施と振り返り</p> <p>第11回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「快適な衣服と住まい」 「手縫いの基礎」</p> <p>第12回：第11回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り</p> <p>第13回：学習指導案の作成と家庭科における情報機器及び教材の活用「家庭生活と家族」</p> <p>第14回：第13回の指導案をふまえた模擬授業の実施と振り返り</p> <p>第15回：まとめ・テスト</p>		
授業方法	講義形式を中心に実習と模擬授業を行う		
アクティブラーニングの視点	グループワーク、プレゼンテーション、振りかえりシートの活用		
授業外学習	2回目以降については、該当する部分について学習指導要領解説と教科書で予習を行うこと。また、必要に応じて模擬授業の立案と準備を行うこと。		
教科書	「わたしたちの家庭科 小学校5・6年（令和3年版）」（開隆堂書店）		
参考書	<p>「小学校家庭科教育法」（建帛社）</p> <p>「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編」（文部科学省、東洋館出版社）※文科省のホームページからダウンロード可能</p>		
評価方法	テスト・提出課題 30% 模擬授業・指導案作成 40% 実習や授業への参加態度 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	教育行政において小学校教員を指導してきた経験を生かし、家庭科の授業展開について実践例をもとに指導し、具体的な授業設計ができるように指導する。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66537
科目名	初等体育	授業コード	9415538、9415555
教員名	清野 宏樹、乾 匡、野田 健司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体育科教育に関する基礎的な知識を習得することができる。 ・学習指導要領の目標や内容を理解した上で、場づくりのイメージや指導案を作成することができる。 		
授業概要	<p>小学校体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための、内容および学習指導法について理解することが目的である。授業では理論と実践を結びつけるために協同学習を取り入れ、実際に場づくりのイメージや言語化、学習指導案をつくる実践力も身につけるようにしていく。また、国際的な諸外国の体育授業理論や捉え方、体育教師の役割や成長についても理論と実践事例を紹介しながら理解を深めていくようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の方針、内容と評価方法、その他） 第2回 小学校体育科の目標と内容 第3回 産業社会における体育 第4回 産業社会の体育に見出された諸課題 第5回 子どもと運動の関係を考える体育授業のあり方 第6回 現在の子どもの運動の関係をみる 第7回 体育の社会的役割と目標 第8回 運動の特性と分類 第9回 体育の学習内容・方法 第10回 「器械運動系」の体育授業づくり 第11回 「陸上運動系」の体育授業づくり 第12回 「ボール運動系」の体育授業づくり 第13回 「表現運動系」の体育授業づくり 第14回 世界的な体育授業の動向 第15回 まとめ</p>		
授業方法	講義，グループ協議，発表を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等），ケーススタディ		
授業外学習	各領域の場づくりについてまとめ，レポートを作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告知）」東洋館出版社 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」東洋館出版社 ※学習指導要領は文部科学省のH.P.からダウンロードできます。		
参考書	大畑昌己・清野宏樹（編）「保健体育科教育法—教育実習に向けて—」ミネルヴァ書房		
評価方法	授業への参加度（出席・関心・意欲・態度）50%，理解度（リフレクションシート・レポート）50%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

教職科目	【幼稚園・小学校】	科目コード	64160
科目名	子ども健康学	授業コード	9426505
教員名	安部 恵子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>こどもの心身の発育発達特性を理解し、対象およびめあてにそった指導案の作成ができる。</p> <p>小学校1年生から6年生の心身の特性を理解し、指導案の作成ができる。</p> <p>幼児期の運動指針の意義と内容を深く理解する</p>		
授業概要	<p>現在の子どもの健康に関する諸問題は深刻であり、その解決には子どもの発達特性を知った上で小学校保健授業を実施する必要がある。本講義では、子どもの体力・運動能力特性を学んだ上で、小学校指導要領を基に保健授業の指導案作成と指導を模擬授業形式で実践する。また、子どもの身体的特性を学び呼吸器系・循環器系・神経系の発達と各種運動が生体にどのような影響を及ぼすのかを学習し保健教育の重要性を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回：本講義の目的と評価基準について</p> <p>第2回：体力と健康について<科学的根拠></p> <p>第3回：体力の測定方法と評価基準について<評価方法含む></p> <p>第4回：形態と体組成について<測定方法と評価基準></p> <p>第5回：骨格・筋・エネルギー供給機構について</p> <p>第6回：児童の発育発達特性について<呼吸器・循環器・神経></p> <p>第7回：児童の身体活動量について1 <測定方法></p> <p>第8回：児童の身体活動量について2 <課題抽出と提案></p> <p>第9回：体育授業での身体活動量について3 <課題抽出と提案></p> <p>第10回：体育授業での身体活動量について4 <教材研究></p> <p>第11回：栄養 <食育></p> <p>第12回：生活習慣病</p> <p>第13回：幼児期の運動指針（1）運動指針策定の背景と意義</p> <p>第14回：幼児期の運動指針（2）運動指針の読み解き</p> <p>第15回：幼児期の運動指針（3）運動遊び事例と注意点</p>		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	毎回、1つのテーマについてグループで意見交換を行い発表、もしくはレポート提出。		
授業外学習	授業の振り返りと疑問点の抽出		
教科書	指定なし 適時、資料を配布		
参考書	資料配布		
評価方法	取り組み状況 60% 指導案作成 20% レポート作成 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【小学校】	科目コード	65090
科目名	体育科教育法	授業コード	9426522、9426539
教員名	清野 宏樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。そのため、以下の目標を掲げる。</p> <p>1) 学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。</p> <p>2) 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための授業づくりについて、内容を理解した上で計画・実行・省察という具体的な方法を理解することが目的である。計画については学習指導案を作成、修正する活動を通して、理論と実践を身につけるようにしていく。実行・省察については模擬授業を行い、具体的な授業マネジメントを学ぶとともにその授業を省察することで実践的知識を身につけていくようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回：体育科の目標と内容について 第2回：体育科における教師の役割：子供の実態を視野に入れた計画・実践・省察 第3回：体育科における場づくりの役割、活用の方法 第4回：学習指導案の意味と体育科の授業づくりの特徴 第5回：「体づくり運動」の内容及び指導上の留意点 第6回：「体づくり運動」の模擬授業と学習評価及び省察 第7回：「器械運動系」の内容及び指導上の留意点 第8回：「器械運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第9回：「陸上運動系」の内容及び指導上の留意点 第10回：「陸上運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第11回：「ボール運動系」の内容及び指導上の留意点 第12回：「ボール運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第13回：「表現運動系」の内容及び指導上の留意点 第14回：「表現運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第15回：特別支援教育やICTの活用、模擬授業の総括と留意点等、まとめ</p>		
授業方法	講義、模擬授業、授業反省会を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等）、メタファー法による振り返りシートの活用		
授業外学習	模擬授業にむけて場づくりの分析及び略案を作成、提出する。		
教科書	大畑昌己・清野宏樹（編）「保健体育科教育法―教育実習に向けて―」ミネルヴァ書房 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成29年告示）東洋館出版社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「体育編」東洋館出版社		
参考書	鈴木秀人他（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容・授業における積極的な関わり等）30% ②リフレクションシート（授業内容の関心及び理解、字数）20% ③学習指導案（略案）（正確さ、記述内容、提出期限等）30% ④レポート及び小論文（学びの内容、オリジナリティ、字数）20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学やスポーツ史の研究を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

教職科目	【小学校】	科目コード	65090
科目名	体育科教育法	授業コード	9426556、9426573
教員名	澤田 浩		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された体育科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。そのため、以下の目標を掲げる。</p> <p>1) 学習指導要領に示された体育科の目標や内容を理解することができる。</p> <p>2) 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>体育科の目標である「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成するための授業づくりについて、内容を理解した上で計画・実行・省察という具体的な方法を理解することが目的である。計画については学習指導案を作成、修正する活動を通して、理論と実践を身につけるようにしていく。実行・省察については模擬授業を行い、具体的な授業マネジメントを学ぶとともにその授業を省察することで実践的知識を身につけていくようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回：体育科の目標と内容について 第2回：体育科における教師の役割：子供の実態を視野に入れた計画・実践・省察 第3回：体育科における場づくりの役割、活用の方法 第4回：学習指導案の意味と体育科の授業づくりの特徴 第5回：「体づくり運動」の内容及び指導上の留意点 第6回：「体づくり運動」の模擬授業と学習評価及び省察 第7回：「器械運動系」の内容及び指導上の留意点 第8回：「器械運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第9回：「陸上運動系」の内容及び指導上の留意点 第10回：「陸上運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第11回：「ボール運動系」の内容及び指導上の留意点 第12回：「ボール運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第13回：「表現運動系」の内容及び指導上の留意点 第14回：「表現運動系」の模擬授業と学習評価及び省察 第15回：これからの体育授業にむけて：情報機器の活用等</p>		
授業方法	講義，模擬授業，授業反省会を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（グループワーク等）、メタファー法によるふり返りシートの活用		
授業外学習	模擬授業にむけて場づくりの分析及び略案を作成，提出する。		
教科書	鈴木秀人ほか（編）「小学校の体育授業づくり入門」学文社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成29年告示）東洋館出版社 文部科学省（編）小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「体育編」東洋館出版社		
参考書	岡出美則（編）「初等体育科教育」ミネルヴァ書房		
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容・授業における積極的な関わり等）30% ②リフレクションシート（授業内容の関心及び理解、字数）20% ③学習指導案(略案)（正確さ、記述内容、提出期限等）30% ④レポート及び小論文（学びの内容、オリジナリティ、字数）20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	公立学校における体育・保健体育を専門とした教諭の経験に加え、体育科教育学や保健体育授業の実践を行っている経験を生かし、授業の在り方や教育に関する課題についての研究指導にあたる。		

教職科目	【小学校】	科目コード	66540
科目名	体育科教育法2	授業コード	9415572
教員名	安部 恵子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1) 1年生の学年特性や種目の特性を踏まえた上で体育科指導の指導案の立案ができる。</p> <p>2) 各種目の「できない」を「できる」にするための「こつ」を理解した上で教材提案ができる</p> <p>3) 小学校体育実技指導を安全効果的に実践できる。</p>		
授業概要	<p>小学校体育科の授業を安全効果的に遂行するには、使用する器具備品・環境の整備と児童自身の形態特性、運動歴、体力・運動能力など科学的根拠を基に把握することや、児童の「動き」に対して指導者の観察力が求められる。体育科指導法Ⅰでは、各学年および種目の特性と「こつ」を理解した指導案の立案と指導実践を行った。本授業では、その際の気づきを基に、種目の系統性を理解し、「動き」の見極めと怪我防止および児童の能力に見合った補助法の習得を目指す。また、体力要素別に見た体づくり運動の指導案作成と指導実践を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：本授業の目的と評価基準および学習プランについて</p> <p>第2回：「つまづき」の事例と原因、解決のための方法（1）陸上運動・器械運動</p> <p>第3回：「つまづき」の事例と原因、解決のための方法（2）マット・跳び箱・鉄棒</p> <p>第4回：「つまづき」の事例と原因、解決のための方法（2）球技運動</p> <p>第5回：「体づくり」運動の意義と目標の解説及び模擬授業の学年、指導種目と日程</p> <p>第6回：低学年・中学年・高学年別にみた、「ハードル走」の模擬授業</p> <p>第7回：低学年・中学年・高学年別にみた、「跳び箱」の模擬授業</p> <p>第8回：低学年・中学年・高学年別にみた、「マット」の模擬授業</p> <p>第9回：低学年・中学年・高学年別にみた、「鉄棒」の模擬授業</p> <p>第10回：学年・体力要素別に見た「体づくり運動」の模擬授業（1）身体活動量確保</p> <p>第11回：学年・体力要素別に見た「体づくり運動」の模擬授業（2）巧緻性</p> <p>第12回：学年・体力要素別に見た「体づくり運動」の模擬授業（3）瞬発力</p> <p>第13回：学年・体力要素別に見た「体づくり運動」の模擬授業（4）手具の運動</p> <p>第14回：怪我・落雷・熱中症予防のためのポイントについて解説</p> <p>第15回：総括と質疑応答 体育授業遂行時のリスク管理について総括する</p>		
授業方法	アクティブラーニングの視点 模擬授業終了時に、ミニレポート作成および学生間で意見交換を行う。		
アクティブラーニングの視点	模擬授業終了時に、ミニレポート作成および学生間で意見交換を行う。		
授業外学習	毎回の模擬授業の単元ごとに、各学年、各単元の指導要領を読み解き学習準備を行う		
教科書	指定なし 適時、資料を配布		
参考書	資料配布		
評価方法	<p>①担当種目の学習指導案の作成（40点）</p> <p>②模擬授業（40点） 模擬授業は、自ら作成した指導案と指導案に基づく模擬授業の技能面を評価する。</p> <p>③ミニレポート（20点）</p> <p>④授業参加度は、教員からの質問に応じて的確に回答することを標準とし、論理的、積極的な発言などを評価する。</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【小学校】	科目コード	66520
科目名	初等英語	授業コード	9415589、9415606
教員名	安井 茂喜		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。</p> <p>(1) 小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場面を意識しながら身に付けることができる。</p> <p>(2) 小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>小学校における外国語教育指導者に求められる英語力について、実際の指導場面を想定し継続的に練習するとともに、教師自ら主体的に実践的な英語を学び続けるための手立てを知る。また、子どもの言語習得の特徴や英語教授法に関する基本的事項について、授業ビデオの分析、活動の体験を通して理解を深め、学習したことをどう授業に生かしていくか考える。</p>		
授業計画	<p>第01回：小学校における外国語教育の理念と指導者の役割 第02回：英語に関する基本的事柄1（音声、語彙） 第03回：英語に関する基本的事柄2（文構造、文法、正書法等） 第04回：第二言語習得に関する基本的事柄1（言語習得、言葉の学ばれ方の実際） 第05回：第二言語習得に関する基本的事柄2（英語教授法・英語学習法） 第06回：授業実践に必要な知識・技能1（指導者に求められる英語力、聞く力） 第07回：授業実践に必要な知識・技能2（話す力〔やり取り・発表〕） 第08回：授業実践に必要な知識・技能3（読む力、指導者としての英語学習法） 第09回：授業実践に必要な知識・技能4（書く力、発音と文字の関係） 第10回：授業実践に必要な知識・技能5（正確さの保障とICTの活用） 第11回：授業の実際1（クラスルーム・イングリッシュ、意味内容と量の確保） 第12回：授業の実際2（言語使用を通じた言語習得、音声から文字へ） 第13回：授業の実際3（絵本、子供向けの歌や詩等の児童文学の活用） 第14回：授業の実際4（言語や文化についての気づきと異文化理解） 第15回：小学校における外国語教育に必要な知識・技能（まとめと振り返り）</p>		
授業方法	講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、ワークシート作成、振り返りシートの活用など		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 音声教材やeドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 授業で練習した活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 授業に必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。 		
教科書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語活動・外国語編」（文部科学省、開隆堂書店）</p> <p>3・4年児童用冊子 “Let's Try! 1・2”（文部科学省、東京書籍）</p> <p>5・6年児童用冊子 “We Can! 1・2”（文部科学省、東京書籍）</p>		
参考書	<p>小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）</p> <p>小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ（酒井秀樹 三省堂 2017）</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかわり） 30% 課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等） 30% 授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等） 20% ワークシート（考えの整理、資料の整理、正確さ、期限等） 20% 		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる		

教職科目	【小学校】	科目コード	66525
科目名	外国語（英語）教育法	授業コード	9426590、9426607
教員名	安井 茂喜		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。</p> <p>(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。</p> <p>(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。</p> <p>(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。</p> <p>(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>新学習指導要領への移行に伴い、小学3、4年生で外国語活動、小学5、6年生で外国語の授業が実施される。これら小学校外国語教育について「学習指導要領」や様々な資料等を用いて、目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解を深め、効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、授業ビデオの分析、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。</p>		
授業計画	<p>第01回：小学校外国語教育の変遷と理念及び小・中・高等学校における外国語教育の目標と内容 第02回：小・中・高等学校の外国語教育における連携と各校種に期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応 第03回：第二言語習得についての知識と活用の実際1 （言語使用を通じた言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第04回：第二言語習得についての知識と活用の実際2 （発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第05回：第二言語習得についての知識と活用の実際3 （受信から発信へ音声から文字への導き方、言葉の面白さや豊かさへの気づき） 第06回：A L T等とのチーム・ティーチング、I C T等の効果的な活用 第07回：パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した学習状況の評価 第08回：外国語活動の授業づくり1（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第09回：外国語活動の授業づくり2（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第10回：外国語の授業づくり1（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第11回：外国語の授業づくり2（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第12回：模擬授業1（多様な児童のニーズへの対応） 第13回：模擬授業2（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第14回：模擬授業3（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第15回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の目標と指導、評価）</p>		
授業方法	<p>講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。模擬授業や発表を行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、振り返りシートの活用など</p>		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。 音声教材やeドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 授業で行う活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 授業に必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。 		
教科書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語活動・外国語編」（開隆堂出版、文部科学省） 3・4年児童用冊子 “Let's try! 1・2”（東京書籍、文部科学省） 5・6年児童用冊子 “We Can! 1・2”（東京書籍、文部科学省）</p>		
参考書	<p>小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかかわり）30% 課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等）30% 授業理解度（毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等）20% 模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等）20% 		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる</p>		

教職科目	【小学校】	科目コード	66525
科目名	外国語（英語）教育法	授業コード	9426624、9426641
教員名	山岡 賢三		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付けさせる。そのために、以下の目標を掲げる。</p> <p>(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解することができる。</p> <p>(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解することができる。</p> <p>(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けることができる。</p> <p>(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>新学習指導要領への移行に伴い、小学3、4年生で外国語活動、小学5、6年生で外国語の授業が実施される。これら小学校外国語教育について「学習指導要領」や様々な資料等を用いて、目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解を深め、効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、授業ビデオの分析、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。</p>		
授業計画	<p>第01回：小学校外国語教育の変遷と理念及び小・中・高等学校における外国語教育の目標と内容 第02回：小・中・高等学校の外国語教育における連携と各校種に期待される役割、多様な学校・児童のニーズへの対応 第03回：第二言語習得についての知識と活用の実際1 （言語使用を通じた言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り） 第04回：第二言語習得についての知識と活用の実際2 （発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方） 第05回：第二言語習得についての知識と活用の実際3 （受信から発信へ音声から文字への導き方、言葉の面白さや豊かさへの気づき） 第06回：ALT等とのチーム・ティーチング、ICT等の効果的な活用 第07回：パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した学習状況の評価 第08回：外国語活動の授業づくり1（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第09回：外国語活動の授業づくり2（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第10回：外国語の授業づくり1（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究） 第11回：外国語の授業づくり2（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案） 第12回：模擬授業1（多様な児童のニーズへの対応） 第13回：模擬授業2（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり） 第14回：模擬授業3（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方） 第15回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の目標と指導、評価）</p>		
授業方法	<p>講義及び演習。理論と活動を通して、実践的な外国語指導を学ぶ。模擬授業や発表を行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、振り返りシートの活用など</p>		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。 ・音声教材やeドリル等を活用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。 ・授業で行う活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。 ・授業に必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業内で使用する英語を練習する。 		
教科書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語活動・外国語編」（開隆堂出版、文部科学省） 小学校英語内容論入門（泉恵子編著 研究社 2023）</p>		
参考書	<p>小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省） 3・4年児童用冊子 “Let’s try! 1・2”（東京書籍、文部科学省） 文部科学省検定教科書 小学校外国語科用 BLUE SKY Elementary 5年生、6年生</p>		

評価方法	<ul style="list-style-type: none">・授業への取り組み（授業中の発表・討議内容、積極的なかわり） 30%・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等） 30%・授業理解度（小テスト、毎時間の記述内容、関心・理解度、字数、期限等） 20%・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等） 20%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる

教職科目	【小学校】	科目コード	66545
科目名	外国語（英語）教育法2	授業コード	9415623
教員名	山岡 賢三		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。そのために、以下の目標を掲げる。</p> <p>(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。</p> <p>(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解する。</p> <p>(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。</p> <p>(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>新学習指導要領への移行に伴い、小学3、4年生で外国語活動、小学5、6年生で外国語の授業が実施される。「外国語（英語）教育法」での学修をもとに、外国語教育の目標、評価、外国語活動を支える理論等に関する理解をさらに深め、より効果的な授業づくりの在り方を考える。同時に、活動の体験、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回：小・中・高等学校における外国語教育の目標・内容と校種間連携に関する小学校の役割</p> <p>第2回：多様な学校・児童のニーズへの対応と合理的配慮</p> <p>第3回：活動の実際1（言語使用を通じた言語習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り）</p> <p>第4回：活動の実際2（発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方）</p> <p>第5回：活動の実際3（受信から発信へ、音声から文字への導き方、）</p> <p>第6回：活動の実際4（言葉の面白さや豊かさへの気づき、絵本や歌、詩等の活用）</p> <p>第7回：活動の実際5（ALT等とのチーム・ティーチング、ICT等の効果的な活用）</p> <p>第8回：授業づくり1（主教材の趣旨・構成・特徴と題材選定・教材研究）</p> <p>第9回：授業づくり2（パフォーマンス評価や学習到達目標を活用した評価等）</p> <p>第10回：授業づくり3（学習到達目標に基づいた指導計画と学習指導案）</p> <p>第11回：模擬授業1（言語使用を通じた言語の習得、目的や場面・状況に応じた意味のあるやり取り）</p> <p>第12回：模擬授業2（発達段階を踏まえた音声によるインプット、類推から理解への導き方）</p> <p>第13回：模擬授業3（児童の発話を引き出す効果的な英語での語りかけ、児童とのやりとり）</p> <p>第14回：模擬授業4（発音と文字の関係、文字言語との出会わせ方、読む活動、書く活動への導き方）</p> <p>第15回：授業実践に必要な知識・理解のまとめと振り返り（小学校外国語教育の学習、指導、評価）</p>		
授業方法	<p>講義及び演習。理論と活動を通して実践的に外国語活動の指導法を学ぶ。発表を行う。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>協働学習（ペアワーク、グループワーク等）、グループ・ディスカッション、教材作成、振り返りシートの活用など</p>		
授業外学習	<p>インターネット等を活用し必要な資料をダウンロードして印刷する。</p> <p>音声教材やeドリルを利用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。</p> <p>授業で練習した活動等を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。授業で必要な情報や写真等を集め、授業案を作成するとともに授業で使用する英語を練習する。</p> <p>以上の学習に要する時間は1時間から1時間30分程度である。</p>		
教科書	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「外国語活動・外国語編」（文部科学省、開隆堂書店）</p> <p>小学校英語教育法入門（加賀田哲也編著、研究社 2023）</p> <p>小学校検定教科書 BLUE SKY Elementary 5年生用、6年生用</p>		
参考書	<p>小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）</p> <p>小学校英語内容論入門（泉恵美子 研究社 2023）</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み（小テスト、授業中の発表・討議内容、模擬授業や発表に対するコメント・質問、受講態度） 40% ・課題レポート（記述内容、課題への関心・理解度、字数、期限等） 30% ・模擬授業のための学習指導案 15% ・模擬授業（学習指導案、指導技術、表情や態度等） 15% 		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる</p>		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68040
科目名	日本語学概論	授業コード	9426658
教員名	酒井 雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 日本語学の概要を学ぶことで、日本語についての学問的理解を身に付けることができる。</p> <p>2. 日本語の言語的構造の基本を学び、発展的な学習に向けての基礎を身に付けることができる。</p> <p>3. 日本語の特質を理解して、効果的な表現力を高めようとする態度を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>音声・音韻、表記、語彙、文法等の全般的な学習により、国語学（日本語学）の基礎を理解する。特に、日本語の構造について、音韻と語彙及び文法の各方面から学んでいくことで、これまでの知識の整理を行って、国語科授業で必要な理解を求めていく。さらに、講義・解説のみでなくグループワーク等で深めていく。</p>		
授業計画	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：母音と子音</p> <p>第3回：五十音図と特殊拍</p> <p>第4回：アクセント</p> <p>第5回：形態素</p> <p>第6回：語と句</p> <p>第7回：格ととりたて</p> <p>第8回：複文①</p> <p>第9回：複文②</p> <p>第10回：活用</p> <p>第11回：ヴォイス</p> <p>第12回：アスペクト・テンス</p> <p>第13回：モダリティ①</p> <p>第14回：モダリティ②</p> <p>第15回：まとめ 日本語を考える</p>		
授業方法	講義形式で授業を進める。毎回、授業の最後にコメントカードの提出を求める。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業前後に1時間以上の予習・復習をすること。教科書の該当箇所を読み、分からない点をメモしておくこと。また、授業のノートを見直し、授業前に分からなかった点ができるようになっていくか、教科書の内容が理解できているか確認すること。		
教科書	松丸真夫ほか著『ワークブック 方言で考える日本語学』くろしお出版		
参考書	『基礎日本語学 第二版』（衣畑智秀編、ひつじ書房）		
評価方法	授業への参加状況 30%、授業中に指示する課題等への取り組み 70%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68041
科目名	日本語学演習 1	授業コード	9415657
教員名	酒井 雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 日本語学の諸事項について学びを深めることで、日本語についての学問的理解を高める。</p> <p>2. 音声・音韻や日本語の文法の概要を学ぶことで文法的構造の基本を学び理解を確かなものにする。</p> <p>3. 日本語の文法的特質を理解して、日本語の構造的理解を深めようとする態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>日本語学概論で習得した事をもとに、音声・音韻、表記、語彙、文法等の全般的な理解を確認して、音韻と文法体系についてより深まった学習をする。</p> <p>特に口語文法については高等学校ではほとんど採り上げられておらず、国語の教員として、その指導にあたっての理解を深める。さらに、演習やグループワーク等で深めていく。</p>		
授業計画	<p>第1回：日本語の音声・音韻① 母音、子音</p> <p>第2回：日本語の音声・音韻② 音素、音声、拍、音節</p> <p>第3回：日本語の音声・音韻③ アクセント、イントネーション</p> <p>第4回：日本語の音声・音韻④ 理論、史的研究</p> <p>第5回：日本語の文法① 日本語の歴史（表記と音韻の変遷）</p> <p>第6回：日本語の文法② 日本語の歴史（史的研究）</p> <p>第7回：日本語の文法③ 日本語の歴史（理論、現代）</p> <p>第8回：日本語の文法④ 用言の知識の深化（動詞）</p> <p>第9回：日本語の文法⑤ 用言の知識の深化（形容詞、形容動詞）</p> <p>第10回：日本語の文法⑥ 助動詞の知識の深化</p> <p>第11回：日本語の文法⑦ 助動詞の知識の定着</p> <p>第12回：日本語の文法⑧ 助詞の知識</p> <p>第13回：日本語の文法⑨ 日本語の文法についての系統的な整理と理解の深化</p> <p>第14回：地域言語、方言</p> <p>第15回：まとめ 日本語の体系を考える</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	<p>前半部分は講義形式、後半部分はグループでの調査・発表を行う。</p> <p>毎回、授業の最後にコメントカードの提出を求める。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>演習内容に関連して適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>授業前後に1時間以上の予習・復習をすること。教科書の該当箇所を読み、分からない点をメモしておくこと。</p> <p>また、授業のノートを見直し、授業前に分からなかった点ができるようになってきているか、教科書の内容が理解できているか確認すること。</p> <p>グループ発表担当回については、グループで協力して発表資料を作成すること。</p>		
教科書			
参考書	<p>『基礎日本語学 第二版』（衣畑智秀編、ひつじ書房）</p> <p>『ガイドブック日本語文法史』（高山善行・青木博史編、ひつじ書房）</p> <p>『国文法ちかみち』（小西甚一著、ちくま学芸文庫）</p>		
評価方法	<p>期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 15%</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68042
科目名	日本語学演習 2	授業コード	9426675
教員名	酒井 雅史		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024 年度 後期
到達目標	<p>1. 日本語学の諸事項について学びを深めることで、日本語についての学問的理解をさらに高める。</p> <p>2. 敬語法や助動詞・助詞等の日本語文法の核心を学ぶことで文法的構造の理解をより深いものにする。</p> <p>3. 文法的特質を理解して、日本語の文法構造を理解したうえでの表現力を高める態度を身に付ける</p>		
授業概要	<p>日本語学演習 1 の後を受けて、取り扱い方が変化してきて敬語法と理解が難しい助動詞・助詞等についての確な理解を求めていく。</p> <p>国語の教員としてだけでなく、専門的知識を身に付けて自主的な研究を継続できる力量も併せて求めていく。</p> <p>さらに演習やグループワーク等で深めていく。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 : 敬語法とは</p> <p>第 2 回 : 敬語文の構造的な理解</p> <p>第 3 回 : 複数の敬語の構造的な理解</p> <p>第 4 回 : 敬語の識別</p> <p>第 5 回 : 敬語の歴史の変遷</p> <p>第 6 回 : 助動詞① 打消、推量、断定</p> <p>第 7 回 : 助動詞② 受身、可能、自発、尊敬、使役</p> <p>第 8 回 : 助動詞③ 総合的に理解を深める</p> <p>第 9 回 : 助詞① 助詞の理解の深化</p> <p>第 10 回 : 助詞② 係り結び</p> <p>第 11 回 : 文章、文体</p> <p>第 12 回 : 言語生活、社会言語</p> <p>第 13 回 : 日本語の文法の系統的整理</p> <p>第 14 回 : 日本語と他言語との比較、海外における日本語研究</p> <p>第 15 回 : まとめ 日本語学の諸課題について考える</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	<p>グループごとに文献を読み、発表を行い、その後全体で討議する。</p> <p>毎回、授業の最後にコメントカードの提出を求める。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>演習内容に関連して適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>授業前後に 1 時間以上の予習・復習をすること。教科書の該当箇所を読み、分からない点をメモしておくこと。</p> <p>また、授業のノートを見直し、授業前に分からなかった点ができるようになっていくか、教科書の内容が理解できているか確認すること。</p> <p>発表担当者となる回には、発表資料を作成すること。</p>		
教科書	指定しない。		
参考書	<p>『基礎日本語学 第二版』（衣畑智秀編、ひつじ書房）</p> <p>『ガイドブック 日本語文法史』（高山善行・青木博史編、ひつじ書房）</p> <p>『国文法ちかみち』（小西甚一著、ちくま学芸文庫）</p>		
評価方法	期末試験 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 60%、レポート課題 15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68043
科目名	日本語表現法1	授業コード	9415674
教員名	加藤 恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 文章作成の基礎的知識及び技能を獲得して、目的意識を持った的確な表現力を身に付けることができる。</p> <p>2. 日本語の言語的構造を理解したうえで、効果的な表現法についての基礎を身に付けることができる。</p> <p>3. 他者の表現と比較することで、自己の表現力を高める態度を身に付けることができる。</p>		
授業概要	日本語の表現方法についての基礎的な理解のもとに、様々な文章に関して文章表現や口頭発表の技能を広く知って、書くことや話すことの基礎的な技量を身に付ける。これからの国語教育には特に求められる力量であり、必須の技量として習得することを求めていく。		
授業計画	<p>第1回：日本語の特質① 日本語で表現するとは、日本語の表記の特質を知る</p> <p>第2回：日本語の特質② 話し言葉と書き言葉、書くことと話すこと</p> <p>第3回：日本語の特質③ 伝わる表現とは</p> <p>第4回：文章作成の実際① 説明する文章</p> <p>第5回：文章作成の実際② 意見を述べる文章</p> <p>第6回：文章作成の実際③ 手紙文</p> <p>第7回：口頭発表の実際① 説明すること</p> <p>第8回：口頭発表の実際② 意見を述べること</p> <p>第9回：討論の実際 少人数のグループでの討議、多人数での討議</p> <p>第10回：伝わりにくい表現、誤解を生む表現</p> <p>第11回：実用的な文章の作成① 手紙文、依頼や通知</p> <p>第12回：実用的な文章の作成② 商業的な文章や宣伝・広告</p> <p>第13回：要約文</p> <p>第14回：報告書やレポート</p> <p>第15回：まとめ 表現するとは</p>		
授業方法	受講生の作品（氏名は非公表）等を基に、自ら思考し、議論することを通して到達目標の達成を目指す。演習形式に近い授業方法であり、課題が毎回テーマごとに出され、受講生は課題を行わなければならない。コロナ感染予防の観点から小集団形式の議論ができない分、受講生全体の前で自分が一人で意見を時に即座に発表することになる。これらのことをよく承知し、自覚的に中高国語免許取得に挑む受講生の参加が求められる。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	「授業方法」でも述べたように、課題がテーマごとに出される。この課題を終えて授業に参加することになる。また、授業後は授業の復習をしっかりと行うことが求められる。		
教科書	必要に応じて配布する。		
参考書	<p>沖森卓也編著『日本語表現法 改訂版』三省堂</p> <p>中西一弘編著『新編 やさしい文章表現法』朝倉書店</p>		
評価方法	まとめのレポート 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 35%。全体を通して、教員に求められる意欲、自主性、積極性等の能動的態度を重視して評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験をもち、日本語表現に関する実践的研究をしてきた者が、その経験を活かして、自己表現力を高めるための指導を行う。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68045
科目名	日本語表現法2	授業コード	9426709
教員名	加藤 恵美子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 文章作成や口頭表現の知識及び技能を伸ばして効果的な表現力を磨いて豊かな言語感覚を身に付けることができる。</p> <p>2. 様々な場面における効果的な表現法について学び、より高い表現力について理解することができる。</p> <p>3. 場面に応じた表現法を身に付けて、効果的な表現力を伸ばす態度を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>日本語表現法1の後を受けて、様々な場面を想定した文章表現や口頭表現の技能を高め、目的と場に応じた表現力を身に付けるよう求めていく。特に、論文作成と口頭表現の学習を通じて、言語の効果的な表現法を理解し習得する。教員養成だけでなく様々な場面で必要とされ、他の学生にも指導できる力量を目指す。</p>		
授業計画	<p>第1回：社会を理解するために言語文化に着目する意義、相互行為、時間性、書き起こし、位置と構成</p> <p>第2回：会話分析、会話のための順番交替、行為連鎖、修復</p> <p>第3回：電話会話における言語使用：掛け手と受け手、呼びかけ-応答連鎖、同定、認識連鎖</p> <p>第4回：飲食店における言語使用：注文をめぐるやりとり</p> <p>第5回：介護現場における言語使用：認知症高齢者と介護職員のやりとり、ケア、表現の選択</p> <p>第6回：被災地でのボランティア活動における言語使用：語らい、共感とは何か</p> <p>第7回：論文作成① 構想を練る、考えの筋をまとめる、テーマ設定</p> <p>第8回：論文作成② 取材とデータ収集</p> <p>第9回：論文作成③ 考えを練る、考えを積み上げる</p> <p>第10回：論文作成④ 効果的な表現でまとめる</p> <p>第11回：口頭表現① プレゼンテーションの実際</p> <p>第12回：口頭表現② 効果的な口頭表現</p> <p>第13回：口頭表現③ 討論</p> <p>第14回：口頭表現④ 聞く力、話す力</p> <p>第15回：まとめ 日本語で効果的に表現するとは</p>		
授業方法	<p>受講生の作品（氏名は非公表）等を基に、自ら思考し、議論することを通して到達目標の達成を目指す。演習形式に近い授業方法であり、課題が毎回テーマごとに出され、受講生は課題を行わなければならない。コロナ感染予防の観点から小集団形式の議論ができない分、受講生全体の前で自分が一人で意見を時に即座に発表することになる。これらのことをよく承知し、自覚的に中高国語免許取得に挑む受講生の参加が求められる。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>「授業方法」でも述べたように、課題がテーマごとに出される。この課題を終えて授業に参加することになる。また、授業後は授業の復習をしっかりと行うことが求められる。</p>		
教科書	<p>必要に応じて配布する。</p>		
参考書	<p>沖森卓也編著『日本語表現法 改訂版』三省堂 真田治子・野原佳代子編著『実用日本語表現ドリル』三省堂 中西一弘編著『基礎文章表現法』朝倉書店</p>		
評価方法	<p>まとめのレポート 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 35%。全体を通して、教員に求められる意欲、自主性、積極性等の能動的態度を重視して評価する。</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場における教員経験をもち、日本語表現に関する実践的研究をしてきた者が、その経験を活かして、豊かな言語感覚、効果的な表現力を身につけるための指導を行う。</p>		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68046
科目名	日本文学演習 1	授業コード	9426726
教員名	小山 秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1、明治以降の日本文学の歴史を知り、近現代日本文学の特質を理解して、文学に対する関心を高めることができる。</p> <p>2、明治以降の口語表現の変化を学び、文学的文章における言語表現について理解することができる。</p> <p>3、近代・現代の文学が目指してきた特色を理解して自らの表現を楽しむ態度を身に付けることができる。</p>		
授業概要	<p>概論で学んだ近代までの歴史の上に、明治以降の代表的な文学作品を読んで、社会と個人のあり方と価値観を通して、近代以降の文学性について学ぶ。表現することは人としての喜びでありアイデンティティーへの道であることを理解して、国語の教員としての指導に活かせる力をつける。適宜グループワーク等も入れて深めていく。</p>		
授業計画	<p style="text-align: center;">テーマ</p> <p>第 1 回 : 近現代という時代のそれぞれの特質</p> <p>第 2 回 : 啓蒙期（坪内逍遙、二葉亭四迷、尾崎紅葉、幸田露伴）</p> <p>第 3 回 : 明治から大正へ①（樋口一葉、泉鏡花、島崎藤村、田山花袋）</p> <p>第 4 回 : 明治から大正へ②（森鷗外、夏目漱石）</p> <p>第 5 回 : 明治時代の詩歌</p> <p>第 6 回 : 大正時代の文学①（永井荷風、谷崎潤一郎）</p> <p>第 7 回 : 大正時代の文学②（芥川龍之介、菊池寛、山本有三）</p> <p>第 8 回 : 大正時代の詩歌</p> <p>第 9 回 : 昭和時代の文学①（川端康成、井伏鱒二、太宰治）</p> <p>第 10 回 : 昭和時代の文学②（志賀直哉、中島敦、三島由紀夫）</p> <p>第 11 回 : 昭和時代の文学③（安部公房、遠藤周作、田辺聖子）</p> <p>第 12 回 : 昭和から平成時代の文学（吉本ばなな、村上春樹、赤川次郎）</p> <p>第 13 回 : 昭和時代の詩歌</p> <p>第 14 回 : 昭和から平成時代の詩歌</p> <p>第 15 回 : まとめ 日本文学が表現しようとしたもの</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	グループ発表、対話学習等の演習形式で授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	担当を決めた輪読を中心に進め、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	<p>①作品を読み込み、資料作成等演習準備を十分に作る。</p> <p>②補充発表、課題レポートなどを作成する。</p>		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	<p>学生に対する評価</p> <p>期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 25%</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を实践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68047
科目名	日本文学演習 2	授業コード	9415691
教員名	小山 秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 上代から中古の日本文学の歴史を知り、日本の古典文学の特質を理解して、文学に対する関心を高める。</p> <p>2. 古典文学をより深く学ぶことで、それぞれの文学的文章における表現効果について理解する。</p> <p>3. 伝統的な日本文学が目指してきた特色を理解して自らの表現を楽しむ態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>概論で学んだ近代までの理解の上に、日本文学演習 1 の後をうけて、上代から中古の代表的な文学作品を読んで、時代背景と価値観の理解を通して、日本の文学性について学ぶ。適宜グループワーク等も入れて主に教科書で採用される文章を学び、専門的な知識のもとで生徒たちの興味関心を引き出せる力量を目指す。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 : 上代から中古という時代のそれぞれの特質</p> <p>第 2 回 : 古事記</p> <p>第 3 回 : 万葉集</p> <p>第 4 回 : 古今和歌集</p> <p>第 5 回 : 古今和歌集より後の八代集</p> <p>第 6 回 : 竹取物語</p> <p>第 7 回 : 伊勢物語</p> <p>第 8 回 : 源氏物語①（藤裏葉まで）</p> <p>第 9 回 : 源氏物語②（若菜から）</p> <p>第 10 回 : 枕草子</p> <p>第 11 回 : 土佐日記</p> <p>第 12 回 : 大鏡①（巻四）</p> <p>第 13 回 : 大鏡②（巻五、巻六）</p> <p>第 14 回 : 日記文学</p> <p>第 15 回 : まとめ 上代から中古の文学の特質</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	グループ発表、対話学習等の演習形式で授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	担当を決めた輪読を中心に進め、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	<p>①作品を読み込み、資料作成等演習準備を十分にする。</p> <p>②補充発表、課題レポートなどを作成する。</p>		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	『日本文学史 古代・中世編』 1～3（ドナルド・キーン著、中公文庫）		
評価方法	期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 40%、レポート課題 25%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68049
科目名	日本文学史	授業コード	9426743
教員名	小山 秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 日本文学の歴史を知り日本文学の特質と時代背景との関係を理解して文学の特質についての理解を深める。</p> <p>2. 先人たちが表現しようとした意欲と態度を学ぶことで、日本文学が目指したものについて理解する。</p> <p>3. 日本文学の歴史を学ぶことで文学とは何かを理解して、自らの文学的表現を高める態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>作品の読解が中心となる日本文学の授業とは区別して、各時代の代表的な文学作品を通じて社会と個人のあり方や時代の価値観の変遷と文学の意味を学ぶ。この授業を契機として学生自らが自分の興味関心や研究テーマに沿った読書を進める態度を求めていく。</p> <p>発表やディスカッション等も適宜取り入れていく。</p>		
授業計画	<p>第1回：文学の時代区分の特徴とジャンルについて</p> <p>第2回：上代から中世の文学① 和歌（万葉集から新古今和歌集の前まで）</p> <p>第3回：上代から中世の文学② 和歌（新古今和歌集、私家集）</p> <p>第4回：上代から中世の文学③ 物語等</p> <p>第5回：上代から中世の文学④ 源氏物語</p> <p>第6回：上代から中世の文学⑤ 随筆、日記</p> <p>第7回：近世の文学① 俳句等</p> <p>第8回：近世の文学① 散文</p> <p>第9回：明治から大正の文学① 小説等</p> <p>第10回：明治から大正の文学② 韻文等</p> <p>第11回：昭和以降の文学① 小説等</p> <p>第12回：昭和以降の文学② 小説等特に平成</p> <p>第13回：昭和以降の文学③ 韻文等</p> <p>第14回：文学とは、文学がめざすもの</p> <p>第15回：まとめ 日本文学が持つもの</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	講義に加え、資料作成などを支援しながら演習を交えて授業を展開する。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	<p>①講義の予習として、該当作品を読む。資料作成を指示することもある。</p> <p>②課題のレポートなどを作成する。</p>		
教科書	毎時間必要な資料を提供する。		
参考書	『精選 日本文学史 改訂版』（市古貞次・中島国彦編著、明治書院）		
評価方法	期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 25%、レポート課題 25%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府立高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を実践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68053
科目名	漢文学概論	授業コード	9426777
教員名	重田 明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1、漢文学の歴史を知り代表的な作品を鑑賞して、漢文学の特質と日本文化に与えた影響について理解できる。</p> <p>2、漢文学の基本を学ぶことにより、それぞれの作品における表現効果について理解できる。</p> <p>3、漢文学がもつ特色を理解して、自らの表現力を活かして表現力を高める態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>中国の歴史を知り、教科書に取り上げられることの多い代表的な文章について訓読に慣れて鑑賞する。併せて日本文化との関係を学び、日本の文化に与えた漢文学の影響を知る。高等学校であまり学習していない学生が多いと考えられるので、訓読の基本から始めて読みに慣れることを目指す。発表等も多く取り入れる。</p>		
授業計画	<p>第1回：中国の歴史の概観、漢文を読むということとは</p> <p>第2回：漢文の構造の理解と訓読の基本①（送り仮名、返読する文字）</p> <p>第3回：漢文の構造の理解と訓読の基本②（再読文字、置字等）</p> <p>第4回：漢文に親しむ①（故事成語：矛盾、五十歩百歩、守株等）</p> <p>第5回：漢文に親しむ②（故事成語：画龍点睛、塞翁が馬等）</p> <p>第6回：漢文に親しむ③（故事成語：百聞は一見に如かず、虎の威を借る狐、断腸の思い等）</p> <p>第7回：漢文に親しむ④（『論語』：為政第二 — 志学等）</p> <p>第8回：漢文に親しむ⑤（『史記』：項羽本紀 — 四面楚歌等）</p> <p>第9回：漢文に親しむ⑥（故事成語の出展を調べる）</p> <p>第10回：漢文に親しむ⑦（故事成語の出展について発表する）</p> <p>第11回：漢詩を読む①（盛唐）</p> <p>第12回：漢詩を読む②（中唐、晩唐）</p> <p>第13回：漢詩について調べる</p> <p>第14回：日本文化に根付いている漢文学</p> <p>第15回：まとめ（全体の振り返り）</p>		
授業方法	講義形式を基本とする。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	毎授業の最後に次の授業の資料を提供するので、辞書調べ、書き下し文の作成等の準備学修を2時間以上行うこと。また毎授業後には学んだ内容の振り返りを中心に2時間以上の復習を行うこと。		
教科書	全国高等学校国語教育研究連合会編『必携新明説漢文 句法と語彙を一緒に学ぶ』（尚文出版）。その他に必要な資料を提供する。		
参考書	『新字源』等の漢和辞典を各自持参すること。その他必要なものがあれば、授業長に適宜紹介する。		
評価方法	期末試験 40%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 30%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国語指導に携わった経験を持つ教員が、漢文について講義し、経験を活かして、中学校・高校における漢文指導の基礎を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68054
科目名	漢文学演習	授業コード	9415759
教員名	重田 明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 漢文学の代表的な作品を鑑賞して、漢文学の特質と日本文化に与えた影響についての理解を深める。</p> <p>2. 漢文学をより深く学ぶことにより、日本文化を支えてきたそれぞれの作品の特質について理解する。</p> <p>3. 漢文学と日本文学のつながりを理解して、国語科におけるより高く授業力を磨く態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>漢文学概論の後をうけて輪読を続け、教科書に頻出する代表的な文章についての読解に慣れるようにするとともに、歴史的な背景も学んでより理解を深めていく。取り上げられた漢文学が日本文化に与えた影響は大きく、中・高等学校の生徒たちが日本文化の伝統を実感するような授業を実践できる力量を育てる。</p>		
授業計画	<p>第1回：中国文学史の概観、日本との関係</p> <p>第2回：儒家①（学而第一）</p> <p>第3回：儒家②（為政第二）</p> <p>第4回：儒家③（子罕第九他）</p> <p>第5回：『論語』と日本文化</p> <p>第6回：諸子</p> <p>第7回：『史記』①（臥薪嘗胆）</p> <p>第8回：『史記』②（鴻門の会）</p> <p>第9回：『史記』③（勿頸の交わり）</p> <p>第10回：『史記』を調べる（授業実践を考えて）</p> <p>第11回：『史記』を発表する</p> <p>第12回：漢詩（唐詩）を読む①（盛唐）</p> <p>第13回：漢詩（唐詩）を読む②（中唐、晩唐）</p> <p>第14回：江戸時代から明治時代の漢文・漢詩</p> <p>第15回：まとめ（全体の振り返り）</p>		
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。		
アクティブラーニングの視点	担当を決めた輪読を中心に進め、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	輪読やグループワークに対応できるように辞書調べから現代語訳の事前準備を2時間以上行うこと。また授業後は学んだ内容の振り返りを中心に2時間以上の復習を行うこと。		
教科書	<p>全国高等学校国語教育研究連合会編『必携新明説漢文 句法と語彙を一緒に学ぶ』（尚文出版）。</p> <p>※漢文学概論でも上記教科書を使用する。</p> <p>その他に必要な資料を提供する。</p>		
参考書	<p>『新字源』等の漢和辞典を各自持参すること。</p> <p>『論語』（加地 伸行（全訳注）、講談社学術文庫）</p> <p>『史記1 本紀』（小竹 文夫（訳）、小竹 武夫（訳）、ちくま学芸文庫）</p> <p>『史記列伝2』（小川 環樹（ほか訳）、岩波文庫）等、テキストに応じて紹介する。</p>		
評価方法	期末試験 25%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 60%、レポート課題 15%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国語指導に携わった経験を持つ教員が、漢文について講義し、経験を活かして、中学校・高校における漢文指導について指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68055
科目名	書道1	授業コード	9415776
教員名	重田 明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 書写教育を念頭に漢字の書法を身に付けて、書の鑑賞を通して日本及び東アジアの文化を理解する。</p> <p>2. 様々な表現方法を学ぶことで、書写教育における幅広い指導力を身に付ける。</p> <p>3. 書道の特色を理解して、書くことの楽しさを分からせる授業の工夫ができる態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>基礎的な書法を知り、代表的な作品を鑑賞したり実技をとおして書法の基礎を学んだりして、書道の基本を理解して書写教育の在り方が理解できるようにする。中・高等学校での授業を想定して、筆による漢字のみでなく硬筆や仮名文字等も学ぶ。学んだこともと最後に独自の作品を仕上げ、書道で表現する喜びを実感する。</p>		
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、用具について等）</p> <p>第2回：漢字の変遷（書体等）や書法の基本について</p> <p>第3回：硬筆①（基本点画、縦書き）</p> <p>第4回：硬筆②（横書き、実用的な文章等）</p> <p>第5回：書道の基本①（大筆）</p> <p>第6回：書道の基本②（小筆）</p> <p>第7回：楷書①（基本練習）</p> <p>第8回：楷書②（臨書）</p> <p>第9回：行書①（基本練習）</p> <p>第10回：行書②（臨書）</p> <p>第11回：草書（基本練習、臨書）</p> <p>第12回：仮名文字①（平仮名の基本）</p> <p>第13回：仮名文字②（平仮名、変体仮名）</p> <p>第14回：漢字仮名交じり文（平仮名、変体仮名）</p> <p>第15回：自由選択で清書</p>		
授業方法	実技実習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	実技実習及び講義内容について適宜相互評価等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業後自宅にて振り返りとして毛筆・硬筆等の実技内容の練習をしっかりと行うこと。		
教科書	全国大学書写書道教育学会編『国語科書写の理論と実践』（萱原書房） 大筆・小筆・ボールペン等の個人持用具を持参すること。		
参考書	中学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 藤原鶴来著「和漢書道史」（二玄社）		
評価方法	期末試験 30%、作品制作や相互評価や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、書道を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68055
科目名	書道1	授業コード	9415793
教員名	重田 明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 書写教育を念頭に漢字の書法を身に付けて、書の鑑賞を通して日本及び東アジアの文化を理解する。</p> <p>2. 様々な表現方法を学ぶことで、書写教育における幅広い指導力を身に付ける。</p> <p>3. 書道の特色を理解して、書くことの楽しさを分からせる授業の工夫ができる態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>基礎的な書法を知り、代表的な作品を鑑賞したり実技をとおして書法の基礎を学んだりして、書道の基本を理解して書写教育の在り方が理解できるようにする。中・高等学校での授業を想定して、筆による漢字のみでなく硬筆や仮名文字等も学ぶ。学んだことともに最後に独自の作品を仕上げ、書道で表現する喜びを実感する。</p>		
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方、用具について等）</p> <p>第2回：漢字の変遷（書体等）や書法の基本について</p> <p>第3回：硬筆①（基本点画、縦書き）</p> <p>第4回：硬筆②（横書き、実用的な文章等）</p> <p>第5回：書道の基本①（大筆）</p> <p>第6回：書道の基本②（小筆）</p> <p>第7回：楷書①（基本練習）</p> <p>第8回：楷書②（臨書）</p> <p>第9回：行書①（基本練習）</p> <p>第10回：行書②（臨書）</p> <p>第11回：草書（基本練習、臨書）</p> <p>第12回：仮名文字①（平仮名の基本）</p> <p>第13回：仮名文字②（平仮名、変体仮名）</p> <p>第14回：漢字仮名交じり文（平仮名、変体仮名）</p> <p>第15回：自由選択で清書</p>		
授業方法	実技実習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	実技実習及び講義内容について適宜相互評価等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業後自宅にて振り返りとして毛筆・硬筆等の実技内容の練習をしっかりと行うこと。		
教科書	全国大学書写書道教育学会編『国語科書写の理論と実践』（萱原書房） 大筆・小筆・ボールペン等の個人持用具を持参すること。		
参考書	中学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省） 藤原鶴来著「和漢書道史」（二玄社）		
評価方法	期末試験 30%、作品制作や相互評価や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、書道を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68056
科目名	書道2	授業コード	9426794
教員名	重田 明彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 代表的な書法を知り、書道の一般的な技法を理解して書写教育の発展的な在り方を身に付ける。</p> <p>2. 代表的な書法についてより深く表現方法を学ぶことで、書写教育における専門的な指導力を身に付ける。</p> <p>3. 書道の特色をより深く理解して、自分の特技を生かした発展的な授業の工夫ができる態度を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>行書や楷書だけでなく隷書や篆書・篆刻も学び、実技をとおして書道の美意識を理解できるようにする。また、仮名文字や硬筆による書写も学んで、日本の文化とのつながりを実感する。最後に独自の作品を仕上げ、書道で表現することの喜びを実感するとともに、書写教育の在り方についての考えを高める。</p>		
授業計画	<p>第1回：ガイダンス（授業の進め方等）、書体の特徴と変遷</p> <p>第2回：漢字の変遷（書体等）や書法の基本について</p> <p>第3回：行書①（基本練習）</p> <p>第4回：行書②（「蘭亭序」臨書）</p> <p>第5回：行書③（臨書自由選択、清書）</p> <p>第6回：隷書（「曹全碑」他臨書）</p> <p>第7回：篆書（「泰山刻石」他臨書）</p> <p>第8回：篆刻</p> <p>第9回：楷書①（「九成宮醜泉銘」臨書）</p> <p>第10回：楷書②（臨書自由選択、清書）</p> <p>第11回：仮名文字（高野切他臨書）</p> <p>第12回：漢字仮名交じり文</p> <p>第13回：硬筆①（基本点画）</p> <p>第14回：硬筆②（実用的な文章等）</p> <p>第15回：作品制作</p>		
授業方法	実技実習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	講義内容について適宜相互評価等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業後自宅にて振り返りとして毛筆・硬筆等の実習内容の練習をしっかりと行うこと。		
教科書	【『書道1』で使用】全国大学書写書道教育学会編『国語科書写の理論と実践』（萱原書房）大筆・小筆・ボールペン等の個人持用具を持参すること。		
参考書	<p>中学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領国語編＜最新版＞（文部科学省）</p> <p>藤原鶴来著「和漢書道史」（二玄社）</p>		
評価方法	期末試験 30%、作品制作や相互評価や振り返りシート等の授業への参加状況 50%、レポート課題 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして書道を指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68057
科目名	和文化演習 1	授業コード	9415810
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024 年度 前期
到達目標	日本の伝統的な文化を学ぶことで、日本の文化が培ってきたものの見方感じ方を自覚的に問い直す。 1. 日本の文化の歴史的な事実を理解している。 2. 諸外国に比べた日本の文化の特質を理解している。 3. 自分の日常生活に埋め込まれた日本の文化を理解している。 4. 伝統文化によって身に付いた考え方感じ方のバイアスを自覚している。 5. 日本の伝統的な文化のよさを自ら発信しようとする意欲を持っている。		
授業概要	飛行機が飛び交うようになってから、地球はその空間的な広さを時間的には極端に縮小してきたが、インターネットでつながる現代においては、その空間的な広さまでもが縮小して、人と人の生活的な隔たりを示すものではなくなった。では、国境は人を隔てるものではなくなったのか。言葉の壁が技術によって乗り越えられようとしているのを見ると、確かにそのとおりかもしれない。だが、どうしても乗り越えられない壁がある。それは生まれ育った言葉と文化によって培われたものの見方や感じ方である。同じものを見ていても、同じ概念を示す言葉を聞いて		
授業計画	1：日常生活の中の伝統文化～伝統文化を理解することの意味 2：日本の歴史の始まり～今に生きる『古事記』と『日本書紀』 3：日本の絵画～言語を超える表現 レポート課題①：日本の文化と私 4：日本の詩・歌～取り巻く世界への視点 5：日本の演劇～何を表現して来たのか日本の文化を再確認する 6：大阪に見る伝統文化 レポート課題②：日本の文化をアピールする 7：日本の文化を発信すること 8：途中の振り返り～日本の文化を知ることの必要性は何か <中間試験> 9：日本の文学を楽しむ① 『枕草子』『方丈記』『徒然草』 10：日本の文学を楽しむ② 『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』 11：伝統文化の中の自然観・宗教観 レポート課題③：日本の文化の再発見 12：日本の文化に息づく中国の文化 13：日本の文学を楽しむ③ 井原西鶴 近松門左衛門 14：日常生活に潜む伝統文化 15：全体の振り返り～日本を知ることの意味 <期末試験>		
授業方法	各回のテーマに沿った作品を予め購読しておくこと。科目担当者による講義形式とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の考えをまとめていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等）。また途中で課題の提出を求める。		
アクティブラーニングの視点	授業内容に関係して適宜個人発表やグループワーク、ディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。		
授業外学習	授業に関係する歴史書や文学等について幅広く読むこと。各回の授業では、授業担当者による講義に関連してそれぞれの考えの発表を求める。学生は各自の考えを発表できるようあらかじめ用意しておくこと。中学校・高等学校の国語科の教員としての資質を高められるよう心がけること。		
教科書	必要があればその都度資料を提供する		
参考書	特にないが幅広く図書にあたることを求める。		
評価方法	中間試験・期末試験 50%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 20%、レポート課題 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、国語教員としての教養の基礎の育成を目指す。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68058
科目名	和文化演習 2	授業コード	9426811
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024 年度 後期
到達目標	<p>日本の伝統的な文化を学ぶことで、日本の文化が培ってきたものの見方感じ方を自覚的に問い直す。「和文化演習 1」での学びの上に学習を深めることで、以下の目標をより高めたレベルに到達することを求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化の歴史的な事実を理解している。 2. 諸外国に比べた日本の文化の特質を理解している。 3. 自分の日常生活に埋め込まれた日本の文化を理解している。 4. 伝統文化によって身に付いた考え方感じ方のバイアスを自覚している。 		
授業概要	<p>「和文化演習 1」の以下の概要をより自分のものとして、将来国語科教員になった時に生徒に指導できるような力を身につけられる授業を目指す。</p> <p>飛行機が飛び交うようになってから、地球はその空間的な広さを時間的には極端に縮小してきたが、インターネットでつながる現代においては、その空間的な広さまでもが縮小して、人と人の生活的な隔たりを示すものではなくなった。では、国境は人を隔てるものではなくなったのか。言葉の壁が技術によって乗り越えられようとしているのを見ると、確かにそのとおりかもしれない。だが、どうしても乗り越え</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：和文化を理解することの意味を問いかける 2：「和文化演習 1」での学習を振り返る 3：和文化についての現代的課題を検討する 4：身近な和文化についての探索と研究の発表 1 5：身近な和文化についての探索と研究の発表 2 6：身近な和文化についての探索と研究の発表 3 7：西洋の文化の現代的課題を検討する 8：西洋の文化と和文化の比較検討と発表 1 9：西洋の文化と和文化の比較検討と発表 2 10：西洋の文化と和文化の比較検討と発表 3 11：和文化についての学びを中高での授業でどう生かすか 12：和文化についての他者の理解をどう進めるか 1 13：和文化についての他者の理解をどう進めるか 2 14：和文化についての他者の理解をどう進めるか 3 15：全体の振り返り～和文化の担い手としての自覚について <p><期末試験></p>		
授業方法	<p>各回のテーマに沿った作品を予め購読しておくなど自主的な学習が求められる。また、フィールドワークも含めて受講者による研究とその発表をもとにした議論を主とするグループワーク等が主となる。よって主体的に学習と研究に臨む意欲と努力が必要であり、受身的な姿勢では合格点に達しない。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>個人発表やグループワーク、ディスカッション等が主となり、討論、発表、振り返り等でスパイラルな深化を求めていく。</p>		
授業外学習	<p>授業に関係する歴史書や文学等について幅広く読むなど、和文化についての関心を持っておくとともに、自主的・主体的に取り組むことが求められる。必要があれば各自フィールドワーク等にも取り組むこと。中学校・高等学校の国語科の教員としての資質を高められるよう心がけること。</p>		
教科書	<p>必要があればその都度資料を提供する。</p>		
参考書	<p>特にないが幅広く図書にあたることを求める。</p>		
評価方法	<p>中間試験・期末試験 35%、発表や討論や振り返りシート等の授業への参加状況 65%</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、国語教員としての教養の基礎の育成を目指す。</p>		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68059
科目名	言語技術論 1	授業コード	9415827
教員名	小山 秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024 年度 前期
到達目標	<p>1. 基礎的な文章表現の方法を身につけ、筋の通った文章を書いたり話したりできる。</p> <p>2. 文章読解の基本的な方法を理解して、根拠に基づいた正確な読解の技術を身につける。</p> <p>3. よりの確かな表現、より正確な読解となるような指導の技法を向上させる態度を身につける。</p>		
授業概要	<p>言語技術の基本的な構造を学ぶことによって、効果的な表現方法と正確な読解方法を身につける。</p> <p>日本語の基礎的知識を踏まえた上で、文章構造の正確な理解に基づく根拠を踏まえた読み取りの力をつけ、説得力のある表現方法を身に付ける。その上で、レポート・論文等の文章作成の基本事項を習得し、具体的な問題設定と材料の組立を意識した課題レポートを作成する。また、日常会話の表現技術を高めるとともに、口頭発表や討論などにおける効果的な表現を獲得する。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 : 日本語表現の特質 (1) 言語の特質と表現法の基礎</p> <p>第 2 回 : 日本語表現の特質 (2) 日本語の特質、表記と構造</p> <p>第 3 回 : 効果的な対話 : 聞くことと話すこと、問答</p> <p>第 4 回 : 効果的な口頭表現 : プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>第 5 回 : 文章読解の基礎 (1) : 構造を理解する、展開を理解する</p> <p>第 6 回 : 文章読解の基礎 (2) : 正確な読解とは</p> <p>第 7 回 : 文章読解の実際 (1) : 物語文</p> <p>第 8 回 : 文章読解の実際 (2) : 文学的な文章</p> <p>第 9 回 : 文章読解の実際 (3) : 説明的な文章</p> <p>第 10 回 : 文章読解の実際 (4) : 論理的な文章</p> <p>第 11 回 : クリティカル・リーディングとは</p> <p>第 12 回 : クリティカルなディスカッションとは</p> <p>第 13 回 : より効果的なプレゼンテーションとは</p> <p>第 14 回 : 話し言葉の表現 (3) 討論</p> <p>第 15 回 : より豊かな表現のために まとめ</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	<p>1. 必要な教材の読み込み</p> <p>2. 議論</p> <p>3. グループディスカッション</p> <p>4. 発表</p> <p>5. 作文</p> <p>6. 作文の添削(学生同士)</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>基礎的な文章作法を学ぶことと、実践的な課題に取り組むことを繰り返しながら表現法と読解法を学ぶ。</p> <p>また、口頭発表や討論などにおける話し言葉の効果的な表現を習得する。より豊かな言語感覚を目指すために、予習としてテキストを読み、復習として課題を完成させる。授業時間以外における文章作成やコミュニケーション上の言葉遣いについても、常に分析的な意識を持つことが望まれる。</p> <p>【授業において重要なこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言すること ・正解は存在しないため妥当な解を巡って恐れずに発言すること ・単語で発言しないこと。文形式の発言 		
授業外学習	特に予定しない		
教科書	資料は授業で指示等します。		
参考書	資料は授業で指示等します。		

評価方法	期末試験 30% 発言や発表、討論、振り返りシート等の授業への参加状況 35% レポート課題 35% ★「言語技術」においてはとりわけ授業への積極的な参加態度を重視するため、授業における発言が非常に重要である。 ★作文課題の未提出は認めない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を实践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68060
科目名	言語技術論 2	授業コード	9426828
教員名	小山 秀樹		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024 年度 後期
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 幅広く文章表現の方法を身につけ、説得力のある文章を書いたり話したりできる。 文章読解の方法を理解して、根拠に基づいた正確な読解の技術をより高度なものにする。 よりの確な表現、より正確な読解となるような指導の技法を向上させる態度を身につける。 		
授業概要	<p>言語技術論 1 の発展として言語技術を深く理解して、正確な読解法と効果的な表現についてより高度な技術を身につけられるように学習する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全てに渡って正確な技能を習得できるよう様々な場面を踏まえた実践的な学習を行い、表現技術を高めるとともに、文章理解の技能や口頭発表や討論・議論などにおける効果的な表現を身につける。最終的には学校における指導についても考える。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 : コミュニケーション・スキルとは 第 2 回 : 論理的思考のために (1) : 話す技術、聞く技術 第 3 回 : 論理的思考のために (2) : 書く技術、読む技術 第 4 回 : 論理的思考のために (3) : 論証の技術 第 5 回 : 論理的思考のために (4) : 推論の技術 第 6 回 : 論理的思考のために (5) : 説明の技術 第 7 回 : 効果的な表現のために (1) : 描写の技術 第 8 回 : 効果的な表現のために (2) : ディスカッションの技術 第 9 回 : 効果的な表現のために (3) : プレゼンテーションの技術 第 10 回 : 効果的な表現のために (4) : 交渉の技術、説得の技術 第 11 回 : インタープリティンク(分析、解釈) 第 12 回 : クリティカル・シンキング(批判的思考) 第 13 回 : 中学・高校生に求められる言語技術とその指導 第 14 回 : 言語技術の養成のための中学・高校生に向けた教材を作る 第 15 回 : まとめと到達度の確認 定期試験</p>		
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 必要な教材の読み込み 議論 グループディスカッション 発表 作文 作文の添削(学生同士) 		
アクティブラーニングの視点	<p>そもそも講義そのものを議論形式で実施する。そのため、傍聴するだけの参加、居眠り、学生同士の雑談などの非能動的な授業態度は認めない。 講義内容について、適宜グループワークやディスカッション等を取り入れ、討論、発表、振り返り等でスパイラルな進化を深めていく。</p>		
授業外学習	<p>特に予定しない。</p>		
教科書	<p>「言語技術 1」に同じ 「言語技術 2」においては特に「言語技術のレッスン」(つくば言語技術教育研究所編)を主に用いる *必要に応じて適宜プリントを印刷して配布する</p>		
参考書	<p>「言語技術 1」に同じ <ol style="list-style-type: none"> 「大学生・社会人のための言語技術トレーニング」(三森ゆりか著 大修館) 「ビジネス・パーソンのための『言語技術』超入門」(三森ゆりか著 中公新書ラクレ) 「外国語を身につけるための日本語レッスン」(三森ゆりか著 白水社) 欧米各国の国語の教科書類は基本的に言語技術の内容で構成されているため参考になる </p>		

評価方法	期末試験 30% 発言や発表、討論、振り返りシート等の授業への参加状況 35% レポート課題 35% ★「言語技術」においてはとりわけ授業への積極的な参加態度を重視するため、授業における発言が非常に重要である。 ★作文課題の未提出は認めない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	大阪府高等学校国語科教諭、文部教官教諭（国語）、大阪府指導教諭（国語）として国語教育を实践、推進してきた経験を活かし、本講座を指導する。

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68061
科目名	国語科教育法1（中・高）	授業コード	9415844
教員名	今宮 信吾		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	中学校、高等学校の国語科の学習内容と指導過程に習熟することができる。国語科の概要や国語科の指導過程と指導案作成について学びながら、国語力養成のための確認テストや国語科教材についての自らの見解を報告することができる。中学校、高等学校の国語科の専門性を身につけることができる。		
授業概要	学校教育の中で国語科が担う課題と要請とはどのようなものか、国語科の学習領域と指導過程とはどのようにかかわっているのか、こうした内容を学びながら、国語科のあり方および国語科教育のあり方についての認識を深める。その際にカリキュラム・マネジメントについても理解し、他教科と協働的な授業作りができることを知る。それとともに、中学校、高等学校の国語科教材を用いながら、教材の扱い方、情報機器の使い方についての実践力を養成する。		
授業計画	第1回：学校教育における国語科教育の位置 第2回：国語科教育の領域と指導過程 第3回：国語科の指導過程と学習指導案の作成 第4回：論理的文章教材の指導過程-説明文教材の指導 第5回：音声・言語教材の指導過程 第6回：文学教材の指導過程(1)-詩教材の指導 第7回：文学教材の指導過程(2)-近代小説教材の指導 第8回：文学教材の指導過程(3)-現代小説教材の指導 第9回：確認テスト及び解説2(論理的文章、音声・言語教材) 第10回:模擬授業(1)-文学教材の指導 第11回:模擬授業(2)-説明文教材の指導 第12回:模擬授業(3)-音声言語教材の指導 第13回:模擬授業(4)-高等学校選択教科の指導 第14回:関連学習の組織とアクティブ・ラーニングの視点および学習評価 第15回:確認テスト及び解説3(文学教材、古典教材)		
授業方法	オリエンテーションにおいて、自分の課題を決め、それに向けて毎時間の課題について事前に予習し、授業においては、それぞれが調べたことを元にして討議を行う。協働的な学習を中心として、自分の授業ストックを積み重ねていき、教師力を高めていく。学習指導要領理解、指導過程の理解については、レポート作成を行う。		
アクティブラーニングの視点	学習指導要領の読み方と内容理解を行い、それに基づく学習指導案の作成と模擬授業については、個別とグループワークの両方で行う。国語科の授業の知識及び技能については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	学習の流れが定着した後は、各回必ず課題が出るので、それについて予習を行う。この課題に対する各自の解を用意できる予習を行わなければならない。		
教科書	中学校学習指導要領解説 国語編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 国語編(平成30年7月 文部科学省)		
参考書	国語科指導辞典(全国大学国語教育学会編、東洋館出版)		
評価方法	学習指導要領理解(50%)、指導過程の理解度(20%)、授業への参加度(30%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	国公立小学校における教員経験があり、中学校国語科の免許と授業経験もある。その経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。講義中心ではなく、演習中心の授業を行う。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68062
科目名	国語科教育法2（中・高）	授業コード	9426845
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高等学校の国語科教材研究、指導案作成、模擬授業等を中心に授業を展開し、実践力を身につけることができる。 ・授業検討会の方法について学び、教師力向上の視点から授業研究の大切さを理解し、実践することができる。 		
授業概要	<p>国語科教育における指導過程の構想とその実践を中心に授業を進める。国語科の各指導領域において、教材の位置づけかた、教材研究と指導過程の構想、関連学習の組織、アクティブ・ラーニングの視点といった実践的な授業方法を学ぶとともに、実際の中学校、高等学校の国語科教材に即して教材研究を行い、受講者が自ら学習指導案を作成し、模擬授業によって授業技術に習熟するとともに、その成果を振り返り、評価する能力を高める。</p>		
授業計画	<p>第1回：国語科の領域と学習指導案の作成法 第2回：学習指導案の作成（1）説明文・論理的文章教材 第3回：学習指導案の作成（2）文学教材 第4回：学習指導案の作成（3）古典教材 第5回：確認テスト及び解説①（学習指導案の作成） 第6回：論理的文章教材の模擬授業（1）説明文・論説文教材 第7回：論理的文章教材の模擬授業（2）評論文教材 第8回：論理的文章教材の模擬授業についての振り返り・授業評価（アクティブ・ラーニングの視点からの評価を含む） 第9回：確認テスト及び解説②（論理的文章教材の模擬授業） 第10回：文学教材の模擬授業（1）詩教材 第11回：文学教材の模擬授業（2）近代小説 第12回：文学教材の模擬授業（3）現代小説 第13回：文学教材の模擬授業についての振り返り・授業評価（アクティブ・ラーニングの視点からの評価を含む） 第14回：古典教材の模擬授業 第15回：古典教材の模擬授業についての振り返り。確認テスト及び解説③（文学・古典教材模擬授業）</p>		
授業方法	講義、指導案作成、模擬授業の実施とその指導		
アクティブラーニングの視点	教材の特性と教材解釈に基づく学習指導案の作成と模擬授業を行う。個別とグループワークの両方で行う。模擬授業の成果と課題については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	学習指導案作成と模擬授業の準備。教材として取り上げられている様々な作品の読み込み。		
教科書	<p>中学校 国語1・2・3（光村図書） 中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）</p>		
参考書	国語科指導辞典（全国大学国語教育学会編 東洋館出版）		
評価方法	期末テスト（30%）、学習指導案・模擬授業実施（30%）、模擬授業中の参加度（20%）、授業全体への参加度（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして、学習指導要領、模擬授業、教育方法などを指導する。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68063
科目名	国語科教育法3（中・高）	授業コード	9415861
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語科の理念、目標、全体構成を理解することができる。 ・ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容について、それぞれの目標や指導内容および背景を理解するとともに、授業実践に必要な知識、授業方法、技能等を身に付けることができる。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領、教科書等を通して、中学校国語科の目標、全体構成、ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容を具体的に理解する。 ・中学校国語科の個別の学習内容に関する教材開発例や授業実践事例等を通して、授業実践に必要な考え方、知識、技能等を具体的に理解する。 ・中学校国語科の授業を実践するために、教材研究を行い、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を行う。 		
授業計画	<p>第1回：現代の国語科の課題・学習指導要領について</p> <p>第2回：国語科の本質・目標・構造</p> <p>第3回：国語科の指導過程、指導・評価の視点、情報機器を利用した授業設計について</p> <p>第4回：物語・小説教材の分析と指導例1 中学校1年生教材 例「サーカスの馬」（安岡章太郎）</p> <p>第5回：物語・小説教材の分析と指導例2 中学校2年生教材 例「夏の葬列」（山川方夫）</p> <p>第6回：物語・小説教材の分析と指導例3 高等学校教材 例「カンガルー日和」（村上春樹）</p> <p>第7回：詩歌教材の分析と指導例</p> <p>第8回：教材研究と指導案作成1 中学校1年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの）</p> <p>第9回：教材研究と指導案作成2 中学校2年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの）</p> <p>第10回：教材研究と指導案作成3 中学校3年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの）</p> <p>第11回：模擬授業1 中学校1年生教材</p> <p>第12回：模擬授業2 中学校2年生教材</p> <p>第13回：模擬授業3 中学校3年生教材</p> <p>第14回：模擬授業の評価、振り返り（アクティブ・ラーニングの取り入れ方についての評価を含む）</p> <p>第15回：文学教材のまとめ</p>		
授業方法	授業の実際を想定して国語科授業の組み立てについて学ぶ（科目担当者による講義形式）とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の理解を深めていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等）。また模擬授業を実施することで相互に確認する。		
アクティブラーニングの視点	教材の特性と教材解釈に基づく学習指導案の作成と模擬授業を行う。個別とグループワークの両方で行う。模擬授業の成果と課題については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	教科書をしっかり読み込んで理解しておく。また、教科書採録の作品以外にも幅広く読書をして見識を広め深めておき、グループワーク等で活かせるようにしておく。模擬授業の実施までに指導案の作成に慣れておく。		
教科書	中学校 国語1・2・3（光村図書） 基礎から学べる！文章力ステップ準2級対応（公財）日本漢字能力検定協会		
参考書	光村図書以外の教科書（三省堂、東京書籍等） 中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）		
評価方法	期末テスト（30%）、学習指導案・模擬授業実施（30%）、模擬授業中の参加度（20%）、授業全体への参加度（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして授業づくりについての指導をする。		

教職科目	【中高（国語）】	科目コード	68064
科目名	国語科教育法4（中・高）	授業コード	9426862
教員名	湯峯 裕		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校国語科の理念、目標、全体構成を理解することができる。 ・ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容について、それぞれの目標や指導内容および背景を理解するとともに、授業実践に必要な知識、授業方法、技能等を身に付けることができる。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領、教科書等を通して、高等学校国語科の目標、全体構成、ジャンル（文学的文章、説明的文章等）に応じた個別の学習内容を具体的に理解する。 ・高等学校国語科の個別の学習内容に関する教材開発例や授業実践事例等を通して、授業実践に必要な考え方、知識、技能等を具体的に理解する。 ・高等学校国語科の授業を実践するために、小学校と中学校の教材を比較しながら教材研究を行い、学習指導案を実際に作成し、模擬授業を行う。 		
授業計画	<p>第1回：説明文・評論教材の分析と指導例1 小学校高学年教材 例「インスタント食品とわたしたちの生活」（大塚滋）</p> <p>第2回：説明文・評論教材の分析と指導例2 中学校1年生教材 例「食感のオノマトペ」（早川文代）</p> <p>第3回：説明文・評論教材の分析と指導例3 中学校3年生教材 例「ディズニーランドという聖地」（能登路雅子）</p> <p>第4回：説明文・評論教材の分析と指導例4 高等学校教材 例「らしさ」（鷲田清一）</p> <p>第5回：教材研究と指導案作成1 高等学校校1年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの）</p> <p>第6回：教材研究と指導案作成2 高等学校2年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの）</p> <p>第7回：教材研究と指導案作成3 高等学校3年生教材（受講生が教科書から任意に選んだもの）</p> <p>第8回：模擬授業1 高等学校1年生教材</p> <p>第9回：模擬授業2 高等学校2年生教材</p> <p>第10回：模擬授業3 高等学校3年生教材</p> <p>第11回：模擬授業の評価、振り返り（アクティブ・ラーニングの取り入れ方についての評価を含む）</p> <p>第12回：表現教育について1（作文教育の課題）</p> <p>第13回：表現教育について2（作文教育の指導例）</p> <p>第14回：音声言語教材の分析と指導例（情報機器を活用した指導例、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導例）</p> <p>第15回：古典教材の指導例（情報機器を活用した指導例を含む）・まとめ</p>		
授業方法	授業の実際を想定して国語科授業の組み立てについて学ぶ（科目担当者による講義形式）とともに、適宜グループワーク等を取り入れて各自の理解を深めていく（演習形式：受講者による議論や発表を主とするグループワーク等）。また模擬授業を実施することで相互に確認する。		
アクティブラーニングの視点	教材の特性と教材解釈に基づく学習指導案の作成と模擬授業を行う。個別とグループワークの両方で行う。模擬授業の成果と課題については、話し合いとノートテイクを授業外課題として課す。		
授業外学習	教科書をしっかり読み込んで理解しておく。また、教科書採録の作品以外にも幅広く読書をして見識を広め深めておき、グループワーク等で活かせるようにしておく。模擬授業の実施までに指導案の作成に慣れておく。		
教科書	中学校 国語1・2・3（光村図書）		
参考書	<p>高等学校国語教科書（東京書籍・大修館等）：現代の国語、精選言語文化、論理国語、文学国語、国語表現、古典探究</p> <p>中学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）</p> <p>高等学校学習指導要領解説国語編＜最新版＞（文部科学省）</p>		
評価方法	期末テスト（30%）、学習指導案・模擬授業実施（30%）、模擬授業中の参加度（20%）、授業全体への参加度（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校の教諭、教頭、校長及び教育委員会の指導主事等の経験を活かして授業づくりについての指導をする。		

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68065
科目名	Learning and Teaching Grammar for Communication 1	授業コード	9415878
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週3回	単位数	3
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>授業のテーマ</p> <p>4技能と結びつけた英文法の再学習による文法力の向上と効果的な文法指導法の習得到達目標</p> <p>1. 中学校及び高等学校で学習した英文法を4技能と結びつけて再学習することにより、実際のコミュニケーション（特に、スピーキングとライティング）で使える文法力を身につける。</p> <p>2. 英語史や認知言語学ほかの英語学・言語学の研究成果に基づく「学習者が納得できる文法説明」とこれまでの外国語習得研究の成果を応用した「4技能と結びつけた文法の効果的指導法」を身につける。</p>		
授業概要	<p>英語力の向上に不可欠な文法力を強化するために、中学校及び高等学校で学習した英文法を再学習するとともに、導入から発展までの学習活動と言語活動、生徒の疑問に対して「ルールだから覚えておけ」というような指導ではなく、生徒が納得のいく説明まで、教員になったときに必要な効果的な文法指導法を学ぶ。</p> <p>授業では次の①～⑧を様々な形態（一斉・グループ・ペア・個人）で行う。</p> <p>①前時の復習（瞬間英作文）</p> <p>②前時に学習した文法事項を用いた発展練習</p> <p>③小テスト</p> <p>④力試し（④で再学習する文法事項が現時点で使えるかどうか、場面状況を設</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 文の種類（1）：平叙文（肯定文と否定文）・疑問文・感嘆文・命令文・Wh疑問文</p> <p>第2回：文の種類（2）：間接疑問文・慣用表現</p> <p>第3回：動詞と文型（1）：自動詞・第1文型・第2文型</p> <p>第4回：動詞と文型（2）：他動詞・第3文型・第4文型</p> <p>第5回：動詞と文型（3）：第5文型・複数の文型で用いられる動詞・句動詞</p> <p>第6回：現在と過去の表し方（1）：現在時制・現在進行形・過去時制・過去進行形</p> <p>第7回：現在と過去の表し方（2）：過去時制と現在完了</p> <p>第8回：現在と過去の表し方（3）：過去時制と過去完了</p> <p>第9回：現在と過去の表し方（4）：現在完了と過去完了</p> <p>第10回：現在と過去の表し方（5）：現在完了進行形と過去完了進行形</p> <p>第11回：未来の表し方（1）：will・shall・be going to, be about to, : will と be going to の違い</p> <p>第12回：未来の表し方（2）：現在時制・現在進行形・未来進行形・be to 不定詞</p> <p>第13回：未来の表し方（3）：未来完了形：未来過去完了進行形</p> <p>第14回：条件・仮定の表し方（1）：直説法と仮定法</p> <p>第15回：条件・仮定の表し方（2）：仮定法過去</p> <p>第16回：条件・仮定の表し方（3）：仮定法過去完了</p> <p>第17回：条件・仮定の表し方（4）：should, were to を用いた仮定法</p> <p>第18回：条件・仮定の表し方（5）：if の省略・if 節に代わる仮定の表現</p> <p>第19回：不定詞（1）：名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法</p> <p>第20回：不定詞（2）：不定詞の否定形・SV0+to 不定詞</p> <p>第21回：不定詞（3）：不定詞の意味上の主語・原形不定詞</p> <p>第22回：不定詞（4）：様々な形の不定詞・注意すべき不定詞原形不定詞・不定詞を用いた重要表現</p> <p>第23回：使役の表し方（1）：make と let と have</p> <p>第24回：使役の表し方（2）：get、その他の動詞による表現（force, compel, oblige）</p> <p>第25回：動名詞（1）：文中での働き・動名詞の意味上の主語・否定語の位置</p> <p>第26回：動名詞（2）：動名詞の位置・様々な形の動名詞</p> <p>第27回：動名詞（3）：動名詞の重要表現</p> <p>第28回：分詞（1）：限定用法・叙述用法</p> <p>第29回：分詞（2）：分詞構文</p> <p>第30回：分詞（3）：付帯状況を表す with+分詞ほか</p>		

	第31回：分詞（4）：分詞の重要表現 第32回：受け身の表し方（1）：能動態と受動態・受動態の用法・動作主の省略 第33回：受け身の表し方（2）：様々な構文による表し方1 第34回：受け身の表し方（3）：様々な構文による表し方2 第35回：否定の表し方（1）：not, no を用いた表し方・部分否定と全部否定 第36回：否定の表し方（2）：その他の表し方1 第37回：否定の表し方（3）：その他の表し方2・二重否定 第38回：文のつなぎ方（1）：関係代名詞の基本用法 第39回：文のつなぎ方（2）：関係代名詞の非制限用法 第40回：文のつなぎ方（3）：関係副詞の基本用法 第41回：文のつなぎ方（4）：関係副詞の非制限用法 第42回：文のつなぎ方（5）：関係代名詞 what・複合関係詞 第43回：時制の一致 第44回：話法（1）：直接話法と間接話法 第45回：話法（2）平叙文以外の間接話法・接続詞を用いた発言の間接話法
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	共同で授業案を作成しお互いに学び合う 模擬授業を通じて基礎的な文法項目を教員として生徒に指導できるようにする 他者の模擬授業を建設的に批判できるようにする アドバイスを受けて自分の模擬授業を改善する
授業外学習	①教科書のモノログ、ダイアログ、ロールプレイのシャドーイングを含む音読練習 ⑥文法項目を用いたオーラル・イントロダクション作成 ⑦例文と解説 ⑧学習した文法事項を用いた練習と言語活動作成 ⑨模擬授業計画作成
教科書	岩村圭南『音読で英文法をモノにする本』アルク、2020年 田中 武夫・田中 知聡『英語教師のための文法指導デザイン』大修館書店、2014
参考書	赤野一郎・堀正広・投野由起夫（編著）『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館書店 井上永幸・赤野一郎（編）『ウイズダム英和辞典』三省堂 内田聖二（編）『英語談話表現辞典』三省堂 柏野健次（編著）『英語語法レファレンス』三省堂 久野暲・高見健一『謎解きの英文法シリーズ』くろしお出版
評価方法	音読 20% 日⇄英小テスト 20% 模擬授業計画作成 20% 模擬授業実施 20% 模擬授業振り返り 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、文法力の向上と文法指導法修得を援助する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68066
科目名	Learning and Teaching Grammar for Communication 2	授業コード	9426879
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週3回	単位数	3
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ</p> <p>4技能と結びつけた英文法の再学習による文法力の向上と効果的な文法指導法の習得</p> <p>到達目標</p> <p>1. 中学校及び高等学校で学習した英文法を4技能と結びつけて再学習することにより、実際のコミュニケーション（特に、スピーキングとライティング）で使える文法力を身につける。</p> <p>2. 英語史や認知言語学ほかの英語学・言語学の研究成果に基づく「学習者が納得できる文法説明」とこれまでの外国語習得研究の成果を応用した「4技能と結びつけた文法の効果的指導法」を身につける。</p>		
授業概要	<p>英語力の向上に不可欠な文法力を強化するために、中学校及び高等学校で学習した英文法を再学習するとともに、導入から発展までの学習活動と言語活動、生徒の疑問に対して「ルールだから覚えておけ」というような指導ではなく、生徒が納得のいく説明まで、教員になったときに必要な効果的な文法指導法を学ぶ。</p> <p>授業では次の①～⑧を様々な形態（一斉・グループ・ペア・個人）で行う。</p> <p>①前時の復習（瞬間英作文）</p> <p>②前時に学習した文法事項を用いた発展練習</p> <p>③小テスト</p> <p>④力試し（④で再学習する文法事項が現時点で使えるかどうか、場面状況を設</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション・ 文の種類（1）：平叙文（肯定文と否定文）・疑問文・感嘆文・命令文・Wh疑問文</p> <p>第2回：文の種類（2）：間接疑問文・慣用表現</p> <p>第3回：動詞と文型（1）：自動詞・第1文型・第2文型</p> <p>第4回：動詞と文型（2）：他動詞・第3文型・第4文型</p> <p>第5回：動詞と文型（3）：第5文型・複数の文型で用いられる動詞・句動詞</p> <p>第6回：現在と過去の表し方（1）：現在時制・現在進行形・過去時制・過去進行形</p> <p>第7回：現在と過去の表し方（2）：過去時制と現在完了</p> <p>第8回：現在と過去の表し方（3）：過去時制と過去完了</p> <p>第9回：現在と過去の表し方（4）：現在完了と過去完了</p> <p>第10回：現在と過去の表し方（5）：現在完了進行形と過去在完了進行形</p> <p>第11回：未来の表し方（1）：will・shall・be going to, be about to、: will と be going to の違い</p> <p>第12回：未来の表し方（2）：現在時制・現在進行形・未来進行形・be to 不定詞</p> <p>第13回：未来の表し方（3）：未来完了形：未来過去完了進行形</p> <p>第14回：条件・仮定の表し方（1）：直説法と仮定法</p> <p>第15回：条件・仮定の表し方（2）：仮定法過去</p> <p>第16回：条件・仮定の表し方（3）：仮定法過去完了</p> <p>第17回：条件・仮定の表し方（4）：should, were to を用いた仮定法</p> <p>第18回：条件・仮定の表し方（5）：if の省略・if 節に代わる仮定の表現</p> <p>第19回：不定詞（1）：名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法</p> <p>第20回：不定詞（2）：不定詞の否定形・SV0+to 不定詞</p> <p>第21回：不定詞（3）：不定詞の意味上の主語・原形不定詞</p> <p>第22回：不定詞（4）：様々な形の不定詞・注意すべき不定詞原形不定詞・不定詞を用いた重要表現</p> <p>第23回：使役の表し方（1）：make と let と have</p> <p>第24回：使役の表し方（2）：get、その他の動詞による表現（force, compel, oblige）</p> <p>第25回：動名詞（1）：文中での働き・動名詞の意味上の主語・否定語の位置</p> <p>第26回：動名詞（2）：動名詞の位置・様々な形の動名詞</p> <p>第27回：動名詞（3）：動名詞の重要表現</p> <p>第28回：分詞（1）：限定用法・叙述用法</p>		

	第29回：分詞（2）：分詞構文 第30回：分詞（3）：付帯状況を表す with+分詞ほか 第31回：分詞（4）：分詞の重要表現 第32回：受け身の表し方（1）：能動態と受動態・受動態の用法・動作主の省略 第33回：受け身の表し方（2）：様々な構文による表し方1 第34回：受け身の表し方（3）：様々な構文による表し方2 第35回：否定の表し方（1）：not, no を用いた表し方・部分否定と全部否定 第36回：否定の表し方（2）：その他の表し方1 第37回：否定の表し方（3）：その他の表し方2・二重否定 第38回：文のつなぎ方（1）：関係代名詞の基本用法 第39回：文のつなぎ方（2）：関係代名詞の非制限用法 第40回：文のつなぎ方（3）：関係副詞の基本用法 第41回：文のつなぎ方（4）：関係副詞の非制限用法 第42回：文のつなぎ方（5）：関係代名詞 what・複合関係詞 第43回：時制の一致 第44回：話法（1）：直接話法と間接話法 第45回：話法（2）平叙文以外の間接話法・接続詞を用いた発言の間接話法
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	共同で授業案を作成しお互いに学び合う 模擬授業を通じて基礎的な文法項目を教員として生徒に指導できるようにする 他者の模擬授業を建設的に批判できるようにする アドバイスを受けて自分の模擬授業を改善する
授業外学習	①教科書のモノログ、ダイアログ、ロールプレイのシャドーイングを含む音読練習 ⑥文法項目を用いたオーラル・イントロダクション作成 ⑦例文と解説考案 ⑧学習した文法事項を用いた練習と言語活動作成 ⑨模擬授業計画作成
教科書	岩村圭南『音読で英文法をモノにする本』アルク、2020年 田中 武夫・田中 知聡『英語教師のための文法指導デザイン』大修館書店、2014年
参考書	赤野一郎・堀正広・投野由起夫（編著）『英語教師のためのコーパス活用ガイド』大修館書店 井上永幸・赤野一郎（編）『ウイズダム英和辞典』三省堂 内田聖二（編）『英語談話表現辞典』三省堂 柏野健次（編著）『英語語法レファレンス』三省堂 久野暲・高見健一『謎解きの英文法シリーズ』くろしお出版
評価方法	音読 20% 日⇄英小テスト 20% 模擬授業計画作成 20% 模擬授業実施 20% 模擬授業振り返り 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、文法力の向上と文法指導法修得を援助する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68067
科目名	English for Communication	授業コード	9401409
教員名	梶谷 和司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。</p> <p>1) 様々なジャンルや話題の英語を聴いて（読んで）、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p> <p>2) 聴いて（読んで）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。</p> <p>3) 聴いて（読んで）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表したり、やり取りすることができる。</p> <p>4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。</p> <p>5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。</p>		
授業概要	<p>様々な話題について英語で話された（書かれた）教材を5つのラウンドに分けて学習する。</p> <p>第1ラウンド：未習得構文学習後、リスニングで概要を理解する。</p> <p>第2ラウンド：未習得語彙学習後、リスニングしながら黙読して概要を理解する。</p> <p>第3ラウンド：リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳、及びその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習。その後、理解した教材英文を多様な方法で音読する。</p> <p>第4ラウンド：音読による復習後、「日英通</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、Unit 1「To Drive or to Ride」</p> <p>第2回：Unit 1「To Drive or to Ride」</p> <p>第3回：Unit 1「To Drive or to Ride」</p> <p>第4回：Unit 1「To Drive or to Ride」</p> <p>第5回：Unit 2「Help Yourselves」</p> <p>第6回：Unit 2「Help Yourselves」</p> <p>第7回：Unit 2「Help Yourselves」</p> <p>第8回：Unit 3「What I learned from Fay」</p> <p>第9回：Unit 3「What I learned from Fay」</p> <p>第10回：Unit 3「What I learned from Fay」</p> <p>第11回：Unit 4「Ways to Help Others」</p> <p>第12回：Unit 4「Ways to Help Others」</p> <p>第13回：Unit 4「Ways to Help Others」</p> <p>第14回：Unit 5「Can Fish Fall from the Sky!」</p> <p>第15回：Unit 5「Can Fish Fall from the Sky!」</p> <p>第16回：Unit 5「Can Fish Fall from the Sky!」</p> <p>第17回：Unit 6「How to Prepare for a Presentation」</p> <p>第18回：Unit 6「How to Prepare for a Presentation」</p> <p>第19回：Unit 6「How to Prepare for a Presentation」</p> <p>第20回：Unit 7「International Date Line」</p> <p>第21回：Unit 7「International Date Line」</p> <p>第22回：Unit 7「International Date Line」</p> <p>第23回：Unit 8「What is Friendship」</p> <p>第24回：Unit 8「What is Friendship」</p> <p>第25回：Unit 8「What is Friendship」</p> <p>第26回：Unit 9「Entering a Photo Contest」</p> <p>第27回：Unit 9「Entering a Photo Contest」</p> <p>第28回：Unit 9「Entering a Photo Contest」</p> <p>第29回：プレゼンテーションと質疑応答（1回目）</p> <p>第30回：プレゼンテーションと質疑応答（2回目）</p>		

授業方法	演習形式
アクティブラーニングの視点	トピックについて調べさせ、お互いの意見を交流し、発表させる。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書の予習は不要である。 2. 授業で学んだ構文・語彙、及び授業で内容を理解した英文を多様な方法で何度も発音・音読練習するとともに、指定された英文の和訳を見て英語に直せるようにするなど、少なくとも 1 時間以上かけて復習すること 3. (1)「理解した英文の内容の要約」と (2)「英文の内容についての自分の考えの発表」が求められる授業に備えて、発表する内容を英語でまとめておくこと。
教科書	English Stream Elementary (金星堂)、授業で配布するプリント
参考書	新英和活用大辞典 (研究社)、ウィズダム英和辞典 (三省堂) またはジーニアス英和辞典 (大修館書店)、Longman Dictionary of Cotemporary English (Pearson Education)
評価方法	小テスト (英作文) 20%、音読テスト 20%、第 5 ラウンド英文課題 20%、第 5 ラウンド口頭発表・質疑応答 20%、第 29・30 回目のプレゼンテーションと質疑応答 20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校における教員経験がある者が、その経験を生かして英語を指導する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68068
科目名	Literature in English 1	授業コード	9401426
教員名	DECKER, Warren		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。</p> <p>(1) 英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解することができる。</p> <p>(2) 理解した作品の内容を適切に朗読できる。</p> <p>(3) 理解した作品を劇化するために脚本を書くことができる。</p> <p>(4) 理解した作品を実際に劇として演じることができる。</p> <p>(5) 自分で英語で作品（ポエム、ストーリー等）を書くことができる。</p> <p>(6) 伝統的なポエムの形や音数率について理解できる。</p> <p>テーマ 英語で書かれた文学作品の講読・音声表現・脚本化・劇化</p>		
授業概要	<p>授業の概要</p> <p>①英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解する。</p> <p>②理解した作品を他人に読み聴かせるつもりで、気持ちを込めて朗読する。</p> <p>③理解した作品を劇化するために、作品を脚本に書き換える。</p> <p>④理解して脚本にした作品を実際に演じる。</p> <p>⑤英語でポエムやストーリーを書いて発表する。</p>		
授業計画	<p>第1回：授業の説明、「文学って何ですか」、文学通して文化を分かる</p> <p>第2回：文学に使える言葉：イメージ、比喩、ポエム、プローズ等</p> <p>第3回：英語の俳句 ①「Frogpond」等、英語の俳句入門</p> <p>第4回：英語の俳句 ②「Acorn, Heron's Nest, Haiku in English」等、英語の俳句歴史と伝統</p> <p>第5回：英語の俳句 ③「Modern Haiku, Bones, Under the Basho」等、現代の俳句</p> <p>第6回：定型詩 ①「Norton Anthology of Poetry」等、ライム、音数率 / 朗読ワークショップ</p> <p>第7回：定型詩 ②「Norton Anthology of Poetry」等、リメリック、ソネット/朗読ワークショップ</p> <p>第8回：定型詩 ③「Norton Anthology of Poetry」等、バラッド、歌 / 朗読ワークショップ</p> <p>第9回：自由詩、① 不定形詩「Best American Poetry」等、不定形詩入門</p> <p>第10回：自由詩、② 不定形詩「Best American Poetry」等、ビジュアルポエム、フリーバース</p> <p>第11回：ポエムのワークショップ1、朗読発表、作品発表</p> <p>第12回：ポエムのワークショップ2、朗読発表、作品発表、フィードバック</p> <p>第13回：短編小説「The Lottery」Shirley Jackson (A) 意味、内容、社会への批判</p> <p>第14回：短編小説「The Lottery」Shirley Jackson (B) 書き方、形、フォーム</p> <p>第15回：短編小説「To Build a Fire」Jack London (A) 意味、内容、人間と自然</p> <p>第16回：短編小説「To Build a Fire」Jack London (B) 書き方、形、フォーム</p> <p>第17回：短編小説「Fever」Raymond Carver (A) 意味、内容、人間と人間</p> <p>第18回：短編小説「Fever」Raymond Carver (B) 書き方、形、フォーム</p> <p>第19回：短編小説「The Prairie Wife」Curtis Sittenfeld (A) 意味、内容、ジェンダー</p> <p>第20回：短編小説「The Prairie Wife」Curtis Sittenfeld (B) 書き方、形、フォーム</p> <p>第21回：ストーリーワークショップ（発表1）</p> <p>第22回：ストーリーワークショップ（発表2とフィードバック）</p> <p>第23回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck (A) アメリカの歴史</p> <p>第24回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck (B) アメリカの文化 / 脚本作り</p> <p>第25回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck (C) 談話を書く / 脚本作り</p> <p>第26回：小説「Of Mice and Men」John Steinbeck (D) 人間と道徳 / 脚本作り</p> <p>第27回：小説のワークショップ、劇の発表</p> <p>第28回：小説のワークショップ、作品発表</p>		

	第29回：小説のワークショップ、フィードバック 第30回：まとめ、復習、ポートフォリオ発表会
授業方法	This class will involve discussing and analyzing established literary works and writing creatively. Much of the actual class time will be spent in discussion, practice reading out loud, offering feedback, sharing ideas regarding literature and engaging in
アクティブラーニングの視点	Students will write their own creative works in English and offer feedback to their peers.
授業外学習	Students will need to spend a substantial amount of time outside of class both reading and writing.
教科書	I will provide materials as needed.
参考書	「Norton Anthology of Short Fiction」 Bausch, Richard 「Norton Anthology of Poetry」 Ferguson, Margaret 「Of Mice and Men」 Steinbeck, John
評価方法	60% Active Participation 40% Assignments
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校等で英語を教える経験あり、教育アドバイザーとして教育委員会で働く経験もありますので、日本における外国語教育について指導します。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68069
科目名	English Pronunciation Workshop	授業コード	9401443
教員名	有本 純		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校および高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 <ol style="list-style-type: none"> (1)英語の音声の仕組みについて理解できる。 (2)英語の文法について理解できる。 (3)国際共通語としての英語の実態について理解できる。 2. 英語発音の目標として、国際語としての英語(EIL)レベルで発音できる 3. 英語発音指導法の基礎を修得し、指導実践できる <p>テーマ</p> <p>英語音声学の基礎知識修得・発音実習・発音と矯正指導法・音読と音声表現</p>		
授業概要	<p>英語音声学の基礎知識を学び、発音練習を通して受講者の英語発音を矯正、教室でのモデルを提示できるレベルにまで訓練する。また、生徒に対して発音指導ができるよう、指導法についても教授する。さらに、音声表現にも取り組み、Jazz Chantsや教科書の音読などの教材を用いて、音声表現の練習成果を発表し、相互評価を行う。</p>		
授業計画	<p><前期></p> <p>第1回 導入：シラバス説明・受講上の注意、発音診断テスト（録音）、英語音声学の基礎知識1（講義）</p> <p>第2回 診断テストの説明、英語音声学の基礎知識2（講義）、日英語の音声比較（講義）</p> <p>第3回 2-1 語強勢、2-2 文強勢、2-3 リズム、強勢とリズムまとめ・発音練習</p> <p>第4回 小テスト1（文強勢とリズム・録音）、イントネーションの概要、3-1 下降調、3-2 上昇調・発音練習</p> <p>第5回 小テスト1 フィードバック、3-3 上昇+下降調、3-4 下降+上昇調、3-5 その他の音調・発音練習</p> <p>第6回 イントネーションの補足説明と練習、4-1 連結、4-2 脱落、4-3 弱化・発音練習</p> <p>第7回 小テスト2（音調・録音）、4-4 同化、音声変化まとめ・発音練習、母音の概要（講義）</p> <p>第8回 小テスト2 フィードバック、5-1 前舌母音①、5-1 前舌母音②、5-2 後舌母音①・発音練習</p> <p>第9回 小テスト3（音声変化・録音）、5-2 後舌母音②、5-2 後舌母音③、5-3 中舌母音・発音練習</p> <p>第10回 小テスト3 フィードバック、5-4 二重母音①、5-4 二重母音②・発音練習、子音の概要（講義）</p> <p>第11回 6-1 破裂音①、6-1 破裂音②、6-1 破裂音③、6-2 摩擦音①・発音練習</p> <p>第12回 小テスト4（母音①録音）、6-2 摩擦音②、6-2 摩擦音③、6-2 摩擦音④、6-2 摩擦音⑤・発音練習</p> <p>第13回 小テスト4 フィードバック、6-3 破裂音、6-4 鼻音①、6-4 鼻音②、6-5 側音・発音練習</p> <p>第14回 6-6 接近音①、6-6 接近音②、6-6 接近音③・発音練習、小テスト5（母音②録音）</p> <p>第15回 小テスト5 フィードバック、6-7 子音群、日本人学習者にありがちな誤り発音と矯正法</p> <p><後期></p> <p>（前期の進捗状況により、後期は若干修正があります）</p> <p>第16回 前期の復習、小テスト6（子音①録音）、Jazz Chants 発音練習</p> <p>第17回 小テスト6 フィードバック、Jazz Chants 発音練習、音読と音声表現の指導（講義）</p> <p>第18回 Jazz Chants 発音練習、音声表現教材1の説明・練習</p> <p>第19回 Jazz Chants 発音練習、音声表現教材1の練習</p> <p>第20回 小テスト7（子音②録音）、Jazz Chants 発音練習、音声表現教材1の練習</p> <p>第21回 小テスト7 フィードバック、筆記小テスト1、Jazz Chants 発音練習、音声表現教材2の説明</p> <p>第22回 Jazz Chants 発音練習、筆記小テスト1 フィードバック、音読テスト1（録音）音声表現教材2の練習</p> <p>第23回 音読テスト1 フィードバック、音声表現教材2の練習、Jazz Chants 発音練習</p> <p>第24回 Jazz Chants 発表と振り返り、音声表現教材2の練習</p> <p>第25回 音読テスト2（録音）、音声表現教材3の説明・分析</p> <p>第26回 音読テスト2 フィードバック、音声表現教材3の音読練習</p>		

	第27回 音声表現教材3の音読練習、Jazz Chants 発音練習 第28回 音声表現教材3の音読練習、Jazz Chants 発音練習 第29回 音読テスト3(録音)、筆記小テスト2 第30回 音読テスト3・筆記小テスト2フィードバック、全体の振り返り ＊定期試験は実施しない
授業方法	講義と発音実習、テストのフィードバックと発音矯正
アクティブラーニングの視点	協同学習(ペア)、プレゼンテーション、発音テストのフィードバック、振り返り
授業外学習	教科書は該当箇所を予習として読んでおく、教科書付属の音源を再生して聴く
教科書	有本 純ほか著(2021)「英語発音の指導」三修社 ISBN978-4-384-05952-6
参考書	中学校英語検定済教科書
評価方法	発音小テスト 6点×7回=42点 音読テスト 6点+8点+9点=23点 Jazz Chants 発表 15点 筆記小テスト 10点×2回=20点
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68070
科目名	Interactive English A1	授業コード	9415895
教員名	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。</p> <p>(1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。</p> <p>(2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。</p> <p>(3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。</p> <p>(4) 日本社会の内なる国際化について学んで、実践的には体験、交流を持って多様な考え、共生に向けて協働できる人間関係を構築できる。</p>		
授業概要	<p>自国の文化と異なる文化を理解するために、本授業では以下のことを行う。</p> <p>1. 英語で異文化を理解する</p> <p>自国の文化と異なる文化について英語で話された（書かれた）教材で、自国と異なる文化を知り、自国の文化との違いを理解するとともに、英語力を向上させる。</p> <p>(1) 異文化について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んで、それらが何の説明であるかを考える。</p> <p>(2) 異文化について英語で話された（書かれた）資料に出てくる未習得構文や語彙を学習する。</p> <p>(3) 異文化について英語で話された資料を聴</p>		
授業計画	<p>第1回： オリエンテーション、トピック1「文化とは何か」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第2回： トピック1「文化とは何か」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第3回： トピック2「文化と言語」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第4回： トピック2「文化と言語」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第5回： トピック3「異文化コミュニケーションとは何か」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第6回： トピック3「異文化コミュニケーションとは何か」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第7回： トピック4「アイデンティティと異文化コミュニケーション」資料に関する活動 授業概要の1 小テストの実施</p> <p>第8回： トピック5「異文化コミュニケーションと国際理解」資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第9回： トピック5「異文化コミュニケーションと国際理解」資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第10回： トピック6「グローバル化と文化」 資料に関する活動 授業概要の1</p> <p>第11回： トピック7「非言語コミュニケーション」 資料に関する活動 授業概要の2 1回目</p> <p>第12回： トピック7「非言語コミュニケーション」 資料に関する活動 授業概要の2 2回目</p> <p>第13回： トピック8「異文化適応とカルチャーショック」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第14回： トピック8「異文化適応とカルチャーショック」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目 小テストの実施</p> <p>第15回： 異文化体験：ゲストスピーカー講義と交流 授業概要の2</p> <p>第16回： トピック9「文化摩擦と異文化理解」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第17回： トピック9「文化摩擦と異文化理解」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第18回： トピック10「ステレオタイプと多様性」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第19回： トピック10「ステレオタイプと多様性」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第20回： 異文化体験：ゲストスピーカー講義と交流 授業概要の2 2回目</p> <p>第21回： トピック11 「異文化体験：子どもの事例」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第22回： トピック11「異文化体験：成人の事例」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目 小テストの実施</p> <p>第23回： トピック12「コミュニケーションと価値観」資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第24回： トピック12「コミュニケーションと価値観」資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第25回： トピック13「宗教的考えが反映した英語」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p>		

	<p>第26回：トピック13「宗教的考えが反映した英語」 資料に関する活動 授業概要の1 2回目</p> <p>第27回：トピック14「グローバル市民になる」 資料に関する活動 授業概要の1 1回目</p> <p>第28回：トピック14「グローバル市民になる」資料に関する活動 授業概要の1 2回目 小テストの実施</p> <p>第29回：日本文化と他国の文化の相違点のリサーチ結果のプレゼンテーションと質疑応答 授業概要3 1回目</p> <p>第30回：日本文化と他国の文化の相違点のリサーチ結果のプレゼンテーションと質疑応答 授業概要3 2回目</p>
授業方法	基本的な文法を復習し、音声を聞く。また、積極的な参加をともなうペアワークやグループワーク、発表やディスカッションにより内容を深化させていく。
アクティブラーニングの視点	毎回の学習について別途指示する小テストを行う。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・復習したり、授業で取り上げたりした文法、単語、表現等を使った定期的な宿題。 ・授業で話題になったトピックを基に書いたり、話したりする宿題が数回。 ・テキストに含まれているオンライン練習。 ・オーラルテストとプレゼンテーションの準備。
教科書	Peter Vincent ピーター ビンセント、”Speaking of Intercultural Communication” 「異文化理解の英語コミュニケーション」、南雲堂、2021年3月30日
参考書	授業に必要な資料を配布するとともに、適宜参考書を紹介する。
評価方法	授業への取り組み姿勢（参加度、小作文、提出物）（40%）、定期小テスト（40%）、発表（20%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68072
科目名	Writing and Oral Presentations 1	授業コード	9415912
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B1 レベル以上を目標とする。また、生徒の理解を確かめながら英語で柔軟にインタラク션을進めていく調整能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々な話題の英語を聴いて（読んで）、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 3) 理解したことに関する自分の考えをまとめて発表し、やり取りすることができる。 4) 様々な話題について情報を集め、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6) 日本文化について知識を深め、アクティブ・ラーニング型話し合いができる。 7) 異なる文化を持つ人々にわかりやすい平易な英語で日本文化をわかりやすく紹介できる。 <p>テーマ 日本文化を知る・異なる文化を持つ人々への身近で具体的な日本文化紹介</p>		
授業概要	<p>異なる文化を持つ人々に身近で具体的な日本文化を紹介できるように、本授業では以下のことを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「英語で日本文化を学ぶ」 日本文化を知るとともに、英語力を向上させる。 (1) 日本文化についての資料を聴いたり、読んだりして、それらが何の説明であるかを考える。 (2) 日本文化についての資料に出てくる未習得構文や語彙を学習する。 (3) 聴いたり、読んだりした英文資料の要点と細部を理解する。 (4) 聴いたり、読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。 (5) 英文を多様な方法で音読し、知識を確実 		
授業計画	<p>第1回：①オリエンテーション、②プレゼンテーションのためのリサーチ方法、③スライド作成上の留意点、④スライドのモデル提示、⑤準備の仕方、⑥練習手順と各ステップの練習をモデル提示、⑦プレゼンテーションのモデル提示、⑧原稿例を用いて練習、⑨ペアでプレゼンテーションを行う。</p> <p>第2回：Speak & Write 1・ジャンル1「日本文化①」</p> <p>第3回：Speak & Write 2・ジャンル1「日本文化①」</p> <p>第4回：Speak & Write 3・ジャンル1「日本文化①」</p> <p>第5回：Speak & Write 4・ジャンル2「道具と品物①」</p> <p>第6回：Speak & Write 5・ジャンル2「道具と品物①」</p> <p>第7回：Speak & Write 6・ジャンル2「道具と品物①」</p> <p>第8回：Speak & Write 7・ジャンル3「暮らし①」</p> <p>第9回：Speak & Write 8・ジャンル3「暮らし①」</p> <p>第10回：Speak & Write 9・ジャンル3「暮らし①」</p> <p>第11回：プレゼン原稿提出 ジャンル4「習慣①」</p> <p>第12回：Speak & Write 10・ジャンル4「習慣①」</p> <p>第13回：Speak & Write 11・ジャンル4「習慣①」</p> <p>第14回：Speak & Write 12・ジャンル5「食文化①」</p> <p>第15回：Speak & Write 13・ジャンル5「食文化①」</p> <p>第16回：Speak & Write 14・ジャンル5「食文化①」</p> <p>第17回：Speak & Write 15・ジャンル5「食文化①」</p> <p>第18回：Speak & Write 16・ジャンル6「娯楽①」</p> <p>第19回：Speak & Write 17・ジャンル6「娯楽①」</p> <p>第20回：Speak & Write 18・ジャンル6「娯楽①」</p> <p>第21回：Speak & Write 19・ジャンル6「娯楽①」</p> <p>第22回：プレゼン原稿提出 ジャンル7「建造物①」</p> <p>第23回：Speak & Write 20・ジャンル7「建造物①」</p> <p>第24回：Speak & Write 21・ジャンル7「建造物①」</p> <p>第25回：Speak & Write 22・ジャンル7「建造物①」</p>		

	<p>第26回：Speak & Write 23・ジャンル8「旅①」</p> <p>第27回：Speak & Write 24・ジャンル8「旅①」</p> <p>第28回：Speak & Write 25・ジャンル8「旅①」</p> <p>第29回：Speak & Write 26・ジャンル8「旅①」</p> <p>第30回：プレゼン原稿提出</p>
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	テーマについてグループでの話し合い リサーチ プレゼンテーションとQ&A
授業外学習	<p>(1) 日本文化に関わるテーマについてリサーチする。リサーチした内容を100～120語程度の英語で書いて授業担当者に提出するとともに、プレゼンテーション用のスライド(5枚前後)を作成する。また、添削を受けた英文を繰り返し音読して、原稿なしでプレゼンテーションできるように十分に練習を行う。</p> <p>(2) 英文を繰り返し音読し、日本語から英語に変換できるまで練習し、口頭による報告に備える。</p> <p>(3) 授業の最初の5分間のExtensive Writingで英語で表現できなかった語句については、辞書で調べて英文を完成させ</p>
教科書	デビッド・セイン『外国人がいちばん不思議に思う日本の暮らし』Jリサーチ出版、2019年
参考書	『英文日本大事典』(講談社)、『英語で説明する日本』(大修館書店)、『日本人の考え方を英語で説明する辞典』有斐閣
評価方法	Speak & Write 15% 日英通訳演習 20% 日本文化紹介英文作成 15% 口頭発表プレゼンテーション 30% まとめのライティング 20% 定期試験は実施しない
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導者としての英語運用能力を育成する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68074
科目名	Integrated Listening 1	授業コード	9415929
教員名	梶谷 和司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々なジャンルや話題の英語を聴いて（読んで）、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 聴いて（読んで）理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。 聴いて（読んで）理解したことに関する自分の考えをまとめて発表したり、やり取りすることができる。 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 <p>テーマ リスニングを核とした技能統合型コミュニケーション演習</p>		
授業概要	<p>本授業では、様々な素材を用いてリスニング力を向上させるためのトレーニングを行うとともに、他の3つの技能に結びつけた活動を行うことで、英語力をバランス良く伸ばす。そのために、次の4つの分野について①～⑭を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 精聴 <ol style="list-style-type: none"> ①素材を聴いて、まず素材の内容の概要・要点を理解し、さらに細部を理解する。 (またはディクトグロスを行う) ②リスニングしながらスクリプトを黙読して、素材をより正確に理解する。 ③オーバーラッピング・シャドーイング (または、再度、ディクトグロスを行う) 		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 精聴 1 (留守番電話メッセージ) 音変化対応トレーニング 1 (be 動詞の縮約形 1 回目) 多聴・なりきり音読 1 Q&A 1</p> <p>第2回：精聴 2 (留守番電話メッセージ) 音変化対応トレーニング 2 (be 動詞の縮約形 2 回目) 多聴・なりきり音読 2 Q&A 2</p> <p>第3回：精聴 3 (電話での会話) 音変化対応トレーニング 3 (be 動詞の縮約形 1 回目) 多聴・なりきり音読 3 Q&A 3</p> <p>第4回：精聴 4 (アナウンス) 音変化対応トレーニング 4 (助動詞の縮約形 1 回目) 多聴・なりきり音読 4 Q&A 4</p> <p>第5回：精聴 5 (天気予報) 音変化対応トレーニング 5 (助動詞の縮約形 2 回目) 多聴・なりきり音読 5 Q&A 5</p> <p>第6回：精聴 6 (天気予報) 音変化対応トレーニング 6 (助動詞の縮約形 3 回目) 多聴・なりきり音読 6 Q&A 6</p> <p>第7回：精聴 7 (コマーシャル) 音変化対応トレーニング 7 (同化 1 回目) 多聴・なりきり音読 7 Q&A 7</p> <p>第8回：精聴 8 (コマーシャル) 音変化対応トレーニング 8 (同化 2 回目) 多聴・なりきり音読 8 Q&A 8</p> <p>第9回：精聴 9 (ニュース) 音変化対応トレーニング 9 (同化 3 回目) 多聴・なりきり音読 9 Q&A 9</p> <p>第10回：精聴 10 (ニュース) 音変化対応トレーニング 10 (同化 4 回目) 多聴・なりきり音読 10 Q&A 10</p> <p>第11回：精聴 11 (インタビュー) 音変化対応トレーニング 11 (同化 5 回目) 多聴・なりきり音読 11 Q&A 11</p> <p>第12回：精聴 12 (インタビュー) 音変化対応トレーニング 12 (消失 2 回目) 多聴・なりきり音読 12 Q&A 12</p> <p>第13回：精聴 13 (プレゼンテーション) 音変化対応トレーニング 13 (消失 3 回目) 多聴・なりきり音読 13 Q&A 13</p>		

	第14回：精聴14（プレゼンテーション） 音変化対応トレーニング14（消失4回目） 多聴・なりきり音読14 Q&A14 第15回：精聴15（プレゼンテーション） 音変化対応トレーニング15（連結） 多聴・なりきり音読15 Q&A15
授業方法	講義は必要最小限にとどめて、リスニングを中心にしながら、他の技能と統合した活動を行う。
アクティブラーニングの視点	自発的にいろいろな素材を用いてリスニングして情報を得たり楽しんだりする。 全体またはグループまたはペアで理解したことを伝え合ったり、自分の考えを述べ合う。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学習した音声教材を書き取る。 ・授業で学習した音声教材を用いて、オーバーラッピングやシャドーイングの練習を行う。 ・授業では扱わない音声素材を聴いてその内容を理解する。理解した教材の英文を気持ちを込めて音読する。 以上の学習に要する時間は1時間から1時間30分程度である。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・山内伸幸・北林利治『Tactic Listener』金星堂（2008年） ・授業担当者が配布するプリント
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・有本純・河内山真理・佐伯林規江・中西のり子・山本誠子（著）『英語発音の指導—基礎知識からわかりやすい指導法・使いやすい矯正方法まで』三修社（2021年） ・鈴木寿一・門田修平（編著）『英語リスニング指導ハンドブック』大修館書店（2018年） ・東後勝明（著）『英会話の音法50—もっとも通じる英語の喜夫本ルール—』一般社団法人 日本児童英語振興協会（2019年） ・松本ヒロシ（著）『歯型と絵で教える英語発音—発音をはじめて教える人へ—』開拓社（2021年） ・NHK ラジオ『中高生の基礎英語 in Engl
評価方法	精聴理解度 20% 書き取り 15% 単語聞き分け 15% Q&A 10% 発音・音読テスト・リプロダクション 20% 意見発表・レポート 20% ※小テスト類および提出物は確認後にフィードバックを行う。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校における教員経験がある者が、その経験を生かして英語を指導する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68076
科目名	Interactive English A2	授業コード	9401460
教員名	植野 雄司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<p>社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を学ぶことを通して英語表現への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。</p> <p>(1) 世界の文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。</p> <p>(2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。</p> <p>(3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。</p> <p>(4) 日本社会の内なる国際化について学び、実践的な体験や交流を通じて多様な考え方を認め、共生に向けて協働できる人間関係を構築できる。</p> <p>(5) 異文化コミュニケーションの観点から文化摩擦の状況を分析し、実践的な問題解決ができる。</p>		
授業概要	<p>本授業では英語を通して異文化や異文化間コミュニケーションの問題についての理解を深める。具体的には、自身の文化と異なる文化について英語で話された（書かれた）教材をもとに、異なる文化を知り、文化の多様性についての理解を深めるとともに、英語力を向上させる。</p> <p>(1) 異文化や異文化間の問題について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んだりして、それらが何の説明であるかを考える。</p> <p>(2) 異文化や異文化間の問題について英語で話された（書かれた）資料に出てくる未習得構文や語彙・慣用句を学習する。</p> <p>(3) 異文化や異文化間の問題について英語で話された資料を聴いたり、英語で書かれた資料を読んだりして、その要点と細部を理解する。</p> <p>(4) 聴いたり読んだりした英文資料のパラグラフの構成や展開法を分析する。</p> <p>(5) 理解した英文を多様な方法で音読し、異文化についての知識を確かなものにするるとともに、言語材料の内在化を目指す。音読した英文の一部を用いて日英通訳演習を行い、英語で言えるようにする。</p> <p>(6) 理解して音読した教材の英文のすべてまたは主要な文を日英通訳演習で英語に変換する練習を行い、資料の内容やそれに関する自らの見解について英語で説明するための語彙や表現を身につける。</p> <p>(7) 教材の英文を見ずに、英文の内容の要点を自分の英語で話し（リテリング）、聴いている学生は重要なポイントを押さえて話しているか注意して聴き、相互に評価し合う。ペアで行ったあと、全員の前で2～3名がもう一度発表し、全員で評価を行う。</p> <p>(8) 文化の多様性及び異文化間のコミュニケーションの問題点について英語でまとめ、ペアやグループで相互に口頭発表する。</p> <p>(9) ペアやグループで互いの発表について改善点を話し合ったあと、各自の発表を英語で書いてまとめ、再度口頭で発表し、相互評価を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回：《オリエンテーション》 日本社会の多文化状況 [授業の概要 (1) (2)]</p> <p>第2回：日本社会の多文化状況 [授業の概要 (3) (4) (5)]</p> <p>第3回：文化とアイデンティティ [授業の概要 (6) (7) (1) (2)]</p> <p>第4回：文化とアイデンティティ [授業の概要 (3) (4) (5)]</p> <p>第5回：文化とパーソナリティー [授業の概要 (6) (7) (1) (2)]</p> <p>第6回：文化とパーソナリティー [授業の概要 (3) (4) (5)]</p> <p>第7回：言語と文化的認識 [授業の概要 (6) (7) (1) (2)] 《小テスト》</p> <p>第8回：言語と文化的認識 [授業の概要 (3) (4) (5)]</p> <p>第9回：非言語コミュニケーション [授業の概要 (6) (7) (1) (2)]</p> <p>第10回：非言語コミュニケーション [授業の概要 (3) (4) (5)]</p> <p>第11回：プロクシミクス [授業の概要 (6) (7) (1) (2)]</p> <p>第12回：プロクシミクス [授業の概要 (3) (4) (5)]</p> <p>第13回：前期学習内容のまとめ [授業の概要 (6) (7)] 《小テスト》</p> <p>第14回：前期学習の仕上げ [授業の概要 (8)]</p>		

	<p>第15回：前期学習の仕上げ〔授業の概要（9）〕</p> <p>第16回：多文化社会における文化摩擦〔授業の概要（1）（2）〕</p> <p>第17回：多文化社会における文化摩擦〔授業の概要（3）（4）（5）〕</p> <p>第18回：多文化社会における共生〔授業の概要（6）（7）（1）（2）〕</p> <p>第19回：多文化社会における共生〔授業の概要（3）（4）（5）〕</p> <p>第20回：文化相対主義の功罪〔授業の概要（6）（7）（1）（2）〕</p> <p>第21回：文化相対主義の功罪〔授業の概要（3）（4）（5）〕</p> <p>第22回：カルチャーショックと文化適応〔授業の概要（6）（7）（1）（2）〕《小テスト》</p> <p>第23回：カルチャーショックと文化適応〔授業の概要（3）（4）（5）〕</p> <p>第24回：内面的文化一価値観と世界観〔授業の概要（6）（7）（1）（2）〕</p> <p>第25回：内面的文化一価値観と世界観〔授業の概要（3）（4）（5）〕</p> <p>第26回：装置としての文化一人の生涯と文化化の過程〔授業の概要（6）（7）（1）（2）〕</p> <p>第27回：装置としての文化一人の生涯と文化化の過程〔授業の概要（3）（4）（5）〕</p> <p>第27回：後期学習内容のまとめ〔授業の概要（6）（7）〕《小テスト》</p> <p>第27回：後期学習の仕上げ〔授業の概要（8）〕</p> <p>第30回：後期学習の仕上げ〔授業の概要（9）〕</p> <p>定期試験は実施しない</p>
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習形式で行う。
アクティブラーニングの視点	ペアワーク、グループワークによる協同学習
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・配布する英文テキストの音読や、文中の語彙・表現等を使った例文作成などによる予習と復習（1時間30分程度） ・口頭発表の準備と練習（2時間程度）、小テストの準備（3時間程度）
教科書	授業に必要な資料を配布する。
参考書	<p>池田理知子・クレマー、E.M. 著『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣、2000年</p> <p>石井敏 他著『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣、2013年</p> <p>コンドン、ジョン著、近藤千恵訳『異文化間コミュニケーション—カルチャー・ギャップの理解』サイマル出版会、1980年</p> <p>原沢伊都夫著『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』研究社、2013年</p>
評価方法	授業への取り組み姿勢〔参加度、小作文、提出物〕（40%）、小テスト（40%）、発表（20%）
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68077
科目名	Academic Listening and Reading 1	授業コード	9415946
教員名	梶谷 和司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>授業のテーマ 4 技能統合型授業による外国語教育の諸分野の専門知識の獲得と英語力の向上</p> <p>到達目標 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。</p> <p>1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。</p>		
授業概要	<p>外国語教育の諸分野に関する英語による講義や英語で書かれた基本図書・雑誌記事等を教材として用いて、10 ラウンドに分けて学習する。</p> <p>第1ラウンド：未習得構文と未習得語彙を学習する。 第2ラウンド：リスニングやリーディングによる概要理解 第3ラウンド：未習得構文や未習得語彙の復習 → リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析 第4ラウンド：全体のリスニングまたはリーディング後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳とその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習 第5ラウンド：理解した教材英文の多様な方法による音読練習 → 一部の英文を日英通訳演習 第6ラウンド：課外学習（全文の多様な音読 → 全文の日英通訳演習） 第7ラウンド：シャドーイングによる復習 → 音読テスト（またはシャドーイングテスト） → 日英通訳練習、英問英答、サマリー、リテリング、主要な英文を自分が知っている表現を用いて言い換え練習など 第8ラウンド：UNIT 全体をリスニングまたはリーディング → 未習得語彙の復習（重要語彙の定義を読んでその定義が表す語彙を答える） 第9ラウンド：課外学習（理解した内容についての自分の考えを英語でまとめる） 第10ラウンド：（原稿を見ずに）プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション UNIT 1「発音指導」 全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第2回：UNIT 1「発音指導」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第3回：UNIT 1「発音指導」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第4回：UNIT 1「発音指導」 PART 1 第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第5回：UNIT 1「発音指導」 PART2 第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第6回：UNIT 1「発音指導」</p>		

	PART3 第7ラウンド PART1～PART3の第8ラウンド 課題：第9ラウンド
第7回：	UNIT1「発音指導」 第10ラウンド
第8回：	UNIT1「発音指導」 小テスト UNIT2「語彙指導」 全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）
第9回：	UNIT2「語彙指導」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）
第10回：	UNIT2「語彙指導」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART1第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）
第11回：	UNIT2「語彙指導」 PART1第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）
第12回：	UNIT2「語彙指導」 PART2第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）
第13回：	UNIT2「語彙指導」 PART3第7ラウンド PART1～PART3の第8ラウンド 課題：第9ラウンド
第14回：	UNIT2「語彙指導」 第10ラウンド
第15回：	UNIT2「語彙指導」 小テスト UNIT3「文法指導」 全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）
第16回：	UNIT3「文法指導」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）
第17回：	UNIT3「文法指導」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART1第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）
第18回：	UNIT3「文法指導」 PART1第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）
第19回：	UNIT3「文法指導」 PART2第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）
第20回：	UNIT3「文法指導」 PART3第7ラウンド PART1～PART3の第8ラウンド 課題：第9ラウンド
第21回：	UNIT3「文法指導」 第10ラウンド

	<p>第 22 回： UNIT3 「文法指導」 小テスト UNIT4 「リスニング指導」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び）</p> <p>第 23 回： UNIT 4 「リスニング指導」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第 24 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第 6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第 25 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART 1 第 7 ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第 6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第 26 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART2 第 7 ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第 6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第 27 回： UNIT 4 「リスニング指導」 PART3 第 7 ラウンド PART1～PART3 の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド</p> <p>第 28 回： UNIT 4 「リスニング指導」 第 10 ラウンド</p> <p>第 29 回： UNIT4 「リスニング指導」 小テスト UNIT1・UNIT2 の復習</p> <p>第 30 回： UNIT3・UNIT4 の復習 UNIT 1 ～UNIT 4 に関する質疑応答 まとめテスト *定期試験は実施しない。</p>
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	毎時間ペアワークやグループワークを行う。各テーマについて理解を深めるとともに、自分の考えをまとめて、クラスの前で発表する経験を通してさらに深い学びを実現する。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習：必要ありません。 2. 復習：未習得の構文・語彙、及び授業で内容を理解した英文を多様な方法で発音・音読するとともに、指定された英文の和訳を見て英語に直せるようにするなど、少なくとも 1 時間以上かけること。 3. 発表の準備：「自分の考えの発表」が求められる授業に備え、発表内容を英語でまとめ、発表の練習をしておくこと。
教科書	Let's Have Fun Teaching English - From Theory to Practice (小原弥生・豊田典子・高橋まり 南雲堂 2021), プリント
参考書	<p>第二言語習得研究に基づく英語指導 (鈴木渉編、大修館書店)</p> <p>A Course in English Language Teaching (Penny Ur, Cambridge University Press)</p> <p>How Languages Are Learned 4th edition (Patsy M. Lightbown 他, Oxford University Press)</p>
評価方法	<p>内容理解（発表） 10% 音読（またはシャドーイングテスト） 20% 日英通訳演習 30%</p> <p>パフォーマンス（プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート） 15%</p> <p>小テスト 15% まとめテスト 10%</p>
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校における英語教育の経験のある者が、その実務経験を生かして指導する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68078
科目名	Academic Listening and Reading 2	授業コード	9426947
教員名	梶谷 和司		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>授業のテーマ</p> <p>4 技能統合型授業による外国語教育の諸分野の専門知識の獲得と英語力の向上</p> <p>到達目標</p> <p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。Academic Listening and Reading 1 で身につけた能力をさらに向上させる。</p> <p>1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p> <p>2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。</p> <p>3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。</p> <p>4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。</p> <p>5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。</p>		
授業概要	<p>外国語教育の諸分野に関する英語による講義や英語で書かれた基本図書・雑誌記事等を教材として用いて、10 ラウンドに分けて学習する。</p> <p>第1ラウンド：未習得構文と未習得語彙を学習する。</p> <p>第2ラウンド：リスニングやリーディングによる概要理解</p> <p>第3ラウンド：未習得構文や未習得語彙の復習 → リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析</p> <p>第4ラウンド：全体のリスニングまたはリーディング後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳とその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習</p> <p>第5ラウンド：理解した教材英文の多様な方法による音読練習 → 一部の英文を日英通訳演習</p> <p>第6ラウンド：課外学習（全文の多様な音読 → 全文の日英通訳演習）</p> <p>第7ラウンド：シャドーイングによる復習 → 音読テスト（またはシャドーイングテスト） → 日英通訳練習、英問英答、サマリー、リテリング、主要な英文を自分が知っている表現を用いて言い換え練習など</p> <p>第8ラウンド：UNIT 全体をリスニングまたはリーディング → 未習得語彙の復習（重要語彙の定義を読んでその定義が表す語彙を答える）</p> <p>第9ラウンド：課外学習（理解した内容についての自分の考えを英語でまとめる）</p> <p>第10ラウンド：（原稿を見ずに）プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート</p>		
授業計画	<p>第1回：UNIT1「発音指導」～UNIT4「リスニング指導」までの振り返り UNIT 5「リーディング指導」 全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第2回：UNIT 5「リーディング指導」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習）～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第3回：UNIT 5「リーディング指導」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第4回：UNIT 5「リーディング指導」 PART 1 第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第5回：UNIT 5「リーディング指導」 PART2 第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p>		

- 第 6 回： UNIT 5 「リーディング指導」
PART3 第 7 ラウンド
PART1～PART 3 の第 8 ラウンド
課題：第 9 ラウンド
- 第 7 回： UNIT 5 「リーディング指導」
第 10 ラウンド
- 第 8 回： UNIT5 「リーディング指導」
小テスト
UNIT6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
全体の第 1 ラウンド (未習得語彙練習) ～第 2 ラウンド (各 PART の概要タイトル選び)
- 第 9 回： UNIT 6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
各 PART：第 1 ラウンド (未習得構文説明と練習・語彙復習) ～第 2 ラウンド (各パラグラフ概要タイトル選択)
- 第 10 回： UNIT 6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド
復習課題：PART 1 第 6 ラウンド (全文の音読練習と日英通訳演習)
- 第 11 回： UNIT 6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
PART 1 第 7 ラウンド
PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」
復習課題：PART2 第 6 ラウンド (全文の音読練習と日英通訳演習)
- 第 12 回： UNIT 6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
PART2 第 7 ラウンド
PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド
復習課題：PART3 第 6 ラウンド (全文の音読練習と日英通訳演習)
- 第 13 回： UNIT 6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
PART3 第 7 ラウンド
PART1～PART3 の第 8 ラウンド
課題：第 9 ラウンド
- 第 14 回： UNIT 6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
第 10 ラウンド
- 第 15 回： UNIT6 「(やり取りを含む)スピーキング指導」
小テスト
UNIT7「ライティング指導」
全体の第 1 ラウンド (未習得語彙練習) ～第 2 ラウンド (各 PART の概要タイトル選び)
- 第 16 回： UNIT 7 「ライティング指導」
各 PART：第 1 ラウンド (未習得構文説明と練習・語彙復習) ～第 2 ラウンド (各パラグラフ概要タイトル選択)
- 第 17 回： UNIT 7 「ライティング指導」
PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド
復習課題：PART 1 第 6 ラウンド (全文の音読練習と日英通訳演習)
- 第 18 回： UNIT 7 「ライティング指導」
PART 1 第 7 ラウンド
PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」
復習課題：PART2 第 6 ラウンド (全文の音読練習と日英通訳演習)
- 第 19 回： UNIT 7 「ライティング指導」
PART2 第 7 ラウンド
PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド
復習課題：PART3 第 6 ラウンド (全文の音読練習と日英通訳演習)
- 第 20 回： UNIT 7 「ライティング指導」
PART3 第 7 ラウンド
PART1～PART3 の第 8 ラウンド
課題：第 9 ラウンド
- 第 21 回： UNIT 7 「ライティング指導」

	<p>第 10 ラウンド</p> <p>第 22 回： UNIT7 「ライティング指導」 小テスト UNIT8 「誤りの訂正」 全体の第 1 ラウンド（未習得語彙練習）～第 2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び）</p> <p>第 23 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 各 PART：第 1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習）～第 2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第 24 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART1 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART 1 第 6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第 25 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART 1 第 7 ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第 3 ラウンド～第 5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」 復習課題：PART2 第 6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第 26 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART2 第 7 ラウンド PART3 の語彙の復習と第 3 ラウンド～第 5 ラウンド 復習課題：PART3 第 6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第 27 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 PART3 第 7 ラウンド PART1～PART3 の第 8 ラウンド 課題：第 9 ラウンド</p> <p>第 28 回： UNIT 8 「誤りの訂正」 第 10 ラウンド</p> <p>第 29 回： UNIT8 「誤りの訂正」 小テスト UNIT5・UNIT6 の復習</p> <p>第 30 回： UNIT7・UNIT8 の復習 UNIT 5 ～UNIT 8 に関する質疑応答 まとめテスト *定期試験は実施しない。</p>
授業方法	講義，演習，実技
アクティブラーニングの視点	毎時間ペアワークやグループワークを行う。各テーマについて理解を深めるとともに、自分の考えをまとめて、クラスの前で発表する経験を通してさらに深い学びを実現する。
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習：必要ありません。 2. 復習：未習得の構文・語彙、及び授業で内容を理解した英文を多様な方法で発音・音読するとともに、指定された英文の和訳を見て英語に直せるようにするなど、少なくとも 1 時間以上かけること。 3. 発表の準備：「自分の考えの発表」が求められる授業に備え、発表内容を英語でまとめ、発表の練習をしておくこと。
教科書	Let's Have Fun Teaching English - From Theory to Practice (小原弥生・豊田典子・高橋まり 南雲堂 2021), プリント
参考書	<p>第二言語習得研究に基づく英語指導 (鈴木渉編、大修館書店)</p> <p>A Course in English Language Teaching (Penny Ur, Cambridge University Press)</p> <p>How Languages Are Learned 4th edition (Patsy M. Lightbown 他, Oxford University Press)</p>
評価方法	<p>内容理解 (発表) 10% 音読 (またはシャドーイング) テスト 20% 日英通訳演習 30%</p> <p>パフォーマンス (プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート) 15%</p> <p>小テスト 15% まとめテスト 10%</p>
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	高等学校における教員経験がある者が、その経験を生かして英語を指導する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68079
科目名	Writing and Debate/Discussion 1	授業コード	9415963
教員名	高田 哲朗		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週 2 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024 年度 前期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。</p> <p>1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6) PREP (主張→理由→例→主張) 文章構成法を身に付けて、説得力のある英文が書くことができる。 7) ルーブリックを利用し、自己評価、及び、他者へのアウトプットに対して評価することを意識することにより、教員になった時に学習者のスピーキングやライティングのパフォーマンスを評価する能力を身に付ける。</p> <p>テーマ 教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上</p>		
授業概要	<p>教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の 1. ～4. の 4 つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1. ～3. の活動の内 1～2 つを行う。</p> <p>1. 帯活動 毎回の授業の最初の約 10 分間を用いて行う。</p> <p>①Q&A 英語による 2 つの身近な Q に対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各 Q に対して 1 分間ずつ話し続ける。(ペアワーク)</p> <p>②Extensive Writing 各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を 5 分間行う。</p> <p>2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動</p> <p>③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文</p> <p>④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。</p> <p>⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。</p> <p>⑥④のスク립トとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。</p> <p>⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約</p> <p>⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP (主張→理由→例→主張) の流れに沿って英文でまとめる。</p> <p>3. 即興型ディベート / ディスカッション</p> <p>⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング 身近な話題について (1)～(4) を行う。授業の前半では、以下の (1)～(4) の各活動前にそれぞれの実例 を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)～(4) の一つ を実際に行い、相互評価を行う。</p> <p>(1) 三角法 (A: 主張 → B: A の要約と反論 → C: B の要約と反論 → A: C の要約) (2) ピンポン型 (A → B → A → B...) (3) 法廷方式 (2 名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2 名からなる否定 → 裁判官からの質問 → 肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント) (4) 「やりとり」を促進するルーブリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション</p> <p>⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション ・ディベートの場合は、⑨を発展させて、エビデンスを使用しないディベートを行う。</p>		

	<p>肯定立論、否定、立論、否定側の反論、肯定側の反論で、ジャッジも学生が行い、役割交代して行う。</p> <p>4. 準備型ディスカッション / ディベート</p> <p>リサーチと英文作成のための期間は原則として 4 週間とする。</p> <p>①テーマに関するリサーチをする。</p> <p>②リサーチした内容を用いて自分の意見をまとめて原稿を作成する。ディベートの場合は、論題に対する肯定または否定の立場で立論・反駁のスピーチ原稿を書く。英文原稿をまとめる際には、PREP(主張→理由→例→主張)の文章構成法に従って作成して、期限までに提出する。</p> <p>③担当教員から返却された原稿に書かれた修正意見やコメントに従って原稿を改訂する。</p> <p>④ディスカッション / ディベートまで、聴き手に自分の考えを理解してもらえるように、原稿を繰り返し音読して、原稿なしで話せるようになるまで練習する。</p> <p>⑤1 回目ディスカッション / ディベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション / ディベート中は用意した原稿は見ずに行う。 ・ディベート の場合は、聴いているグループは教員とともに審査員として評価シートにより、各スピーカーの発言を評価する。 <p>⑥スパイダー・ウェブ・ディスカッション(平等に意味のあるかたちで討論する、互いの意見を注意して敬意をもって聞く、よく聞こえない場合は繰り返してもらいなどの基準をループリックで示す → ループリックが達成されるとききれいな蜘蛛の巣の記録ができる方式で発言者と内容の記録をとる → ディスカッション後、ループリックで振り返り、より良い討論になるように改善点を話し合う)</p> <p>⑦1~6 の内容を踏まえ、PREP に則り、引用を明記し、事実・意見を区別した質の高い原稿に仕上げる。</p> <p>⑧2 回目ディベート / ディスカッション 終了後、原稿を提出する。</p>
授業計画	<p>第 1 回: ①オリエンテーション、②リサーチの方法とリサーチした内容のまとめ方、③準備の仕方、④練習手順と各ステップの練習をモデル提示、⑤PREP(主張→理由→例→主張)の文章構成法: 例示と練習</p> <p>第 2 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業内でリサーチ)</p> <p>第 3 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション ①(授業外でリサーチ)</p> <p>第 4 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ)</p> <p>第 5 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ)</p> <p>第 6 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②(授業外でリサーチまたは英文作成)</p> <p>第 7 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②(授業外で英文作成)</p> <p>第 8 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第 9 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第 10 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第 11 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び練習)</p> <p>第 12 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び練習)</p> <p>第 13 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第 14 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p> <p>第 15 回: トピック 1「英語を何年勉強しても英語が使えるようにならないのはなぜか」 3.」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧</p> <p>第 16 回: トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①②</p>

	<p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業内でリサーチ)</p> <p>第 17 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ)</p> <p>第 18 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ)</p> <p>第 19 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①(授業外でリサーチ)</p> <p>第 20 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②(授業外でリサーチまたは英文作成)</p> <p>第 21 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②(授業外で英文作成)</p> <p>第 22 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第 23 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第 24 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第 25 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第 26 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び練習)</p> <p>第 27 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却 返却された原稿を③④(授業外で修正及び練習)</p> <p>第 28 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第 29 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p> <p>第 30 回:トピック 2「生徒の英語力を伸ばすには予習をさせるべきである」 3. 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ まとめ</p>
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習や活動及び発表を行う。
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッションを行う</p> <p>経験学習のサイクル:ミニ・講義→実演→失敗→振り返り→再挑戦</p> <p>ルーブリック利用:目標の確認→振り返り→自己・相互評価</p>
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や英語教育に関してリサーチを行う。 ・ディベートやディスカッションの原稿を書く。 ・原稿を練習して発表できるように準備する。 <p>以上の学習に要する時間は1時間から1時間30分程度である。</p>
教科書	プリント
参考書	Discover Debate (M. Lubetsky, C. Lebeau, and D. Harrington (2007), Language Solutions Inc.)、授業のできる即興型英語ディベート(中川 智皓著(2017)、パラメンタリーディベート人材育成協会(ネリーズ出版))
評価方法	<p>1. 帯活動 ①Q&A 10% ②Extensive writing 10%</p> <p>2. 準備活動 ③瞬間口頭英作文+⑥日英通訳演習 10% ⑧ライティング(要約+意見)10%</p> <p>3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨⑩ 20%</p> <p>4. 準備型ディベート・ディスカッション 原稿(初稿・最終稿)20% ディベート・ディスカッション⑤⑥⑧ 20%</p>
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	38年間の高校英語教員としての経験を活かして、現場で通用する実践的な指導力や英語力を伸ばす指導を行う。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68080
科目名	Writing and Debate/Discussion 2	授業コード	9426964
教員名	高田 哲朗		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。Writing and Debate / Discussion 1 で身につけた能力をさらに向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 6) PREP（主張→理由→例→主張）文章構成法を身に付けて、説得力のある英文が書くことができる。 7) ルーブリックを利用し、自己評価、及び、他者のアウトプットに対しての評価をすることを意識することにより、教員になった時に学習者のスピーキングやライティングのパフォーマンスを評価する能力を身に付ける。 <p>テーマ 教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上</p>		
授業概要	<p>授業の概要</p> <p>教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の1.～4.の4つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1.～3. の活動の内1～2つを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 帯活動 <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業の最初の約10分間を用いて行う。 ①Q&A <p>英語による2つの身近なQに対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各Qに対して1分間ずつ話し続ける。(ペアワーク)</p> ②Extensive Writing <p>各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を5分間行う。</p> 2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動 <ul style="list-style-type: none"> ③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文 ④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。 ⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。 ⑥④のスク립トとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。 ⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約 ⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP（主張→理由→例→主張）の流れに沿って英文でまとめる。 3. 即興型ディベート / ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング <p>身近な話題について(1)～(4)を行う。授業の前半では、以下の(1)～(4)の各活動前にそれぞれの実例を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)～(4)の一つを実際に行い、相互評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 三角法 (A : 主張 → B : A の要約と反論 → C : B の要約と反論 → A : C の要約) (2) ピンポン型 (A → B → A → B…) (3) 法廷方式 (2名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2名からなる否定 → 裁判官からの質問 → 肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント) 		

	<p>(4) 「やりとり」を促進するループリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション</p> <p>⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの場合は、⑨を発展させて、エビデンスを使用しないディベートを行う。 <p>肯定立論、否定、立論、否定側の反論、肯定側の反論で、ジャッジも学生が行い、役割交代して行う。</p> <p>4. 準備型ディスカッション / ディベート</p> <p>リサーチと英文作成のための期間は原則として4週間とする。</p> <p>①テーマに関するリサーチをする。</p> <p>②リサーチした内容を用いて自分の意見をまとめて原稿を作成する。ディベートの場合は、論題に対する肯定または否定の立場で立論・反駁のスピーチ原稿を書く。英文原稿をまとめる際には、PREP（主張→理由→例→主張）の文章構成法に従って作成して、期限までに提出する。</p> <p>③担当教員から返却された原稿に書かれた修正意見やコメントに従って原稿を改訂する。</p> <p>④ディスカッション / ディベートまで、聴き手に自分の考えを理解してもらえるように、原稿を繰り返し音読して、原稿なしで話せるようになるまで練習する。</p> <p>⑤1回目ディスカッション / ディベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション / ディベート中は用意した原稿は見ずに行う。 ・ディベートの場合は、聴いているグループは教員とともに審査員として評価シートにより、各スピーカーの発言を評価する。 <p>⑥スパイダー・ウェブ・ディスカッション（平等に意味のあるかたちで討論する、互いの意見を注意して敬意をもって聞く、よく聞こえない場合は繰り返してもらいなどの基準をループリックで示す → ループリックが達成されるとき美しい蜘蛛の巣の記録ができる方式で発言者と内容の記録をとる → ディスカッション後、ループリックで振り返り、より良い討論になるように改善点を話し合う）</p> <p>⑦①～⑥の内容を踏まえ、PREPに則り、引用を明記し、事実・意見を区別した質の高い原稿に仕上げる。</p> <p>⑧2回目ディベート / ディスカッション 終了後、原稿を提出する。</p>
<p>授業計画</p>	<p>第1回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ）</p> <p>第2回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第3回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第4回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第5回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②（授業外でリサーチまたは英文作成）</p> <p>第6回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第7回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第8回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第9回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第10回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第11回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第12回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第13回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第14回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p>

	<p>第15回：トピック3「受験対策指導は必要である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧</p> <p>第16回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ）</p> <p>第17回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第18回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第19回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第20回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②（授業外でリサーチまたは英文作成）</p> <p>第21回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第22回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第23回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第24回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第25回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第26回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第27回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第28回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第29回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p> <p>第30回：トピック4「単語集は語彙力を身につけるのに不可欠である」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ まとめ</p>
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習や活動及び発表を行う。
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッションを行う</p> <p>経験学習のサイクル：ミニ・講義→実演→失敗→振り返り→再挑戦</p> <p>ループリック利用：目標の確認→振り返り→自己・相互評価</p>
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教育全般や英語教育に関してリサーチを行う。 ・ディベートやディスカッションの原稿を書く。 ・原稿を練習して発表できるように準備する。 <p>以上の学習に要する時間は1時間から1時間30分程度である。</p>
教科書	プリント
参考書	<p>Discover Debate (M. Lubetsky, C. Lebeau, and D. Harrington (2007), Language Solutions Inc.)</p> <p>最高の授業：スパイダー討論が教室を変える(アレキシス・ウィギンズ著(2018)、新評論)</p> <p>授業でできる即興型英語ディベート(中川 智皓著(2017)、パラメンタリーディベート人材育成協会(ネリーズ出版))</p>

評価方法	1. 帯活動 ①Q&A 10% ②Extensive writing 10% 2. 準備活動 ③瞬間口頭英作文+⑥日英通訳演習 10% ⑧ライティング（要約+意見）10% 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨⑩20% 4. 準備型ディベート・ディスカッション 原稿（初稿・最終稿）20% ディベート・ディスカッション⑤⑥⑧ 20%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	38年間の高校英語教員としての経験を活かして、現場で通用する実践的な指導力や英語力を伸ばす指導を行う。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68081
科目名	English Linguistics Workshop A	授業コード	9415980
教員名	吉田 幸治		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 英語の音声の仕組みについて理解している。 (2) 英語の文法について理解している。 (3) 国際共通語としての英語の実態について理解している。 2. 言語学の知見を利用して、英文法・語彙・発音などに関する背景を理解しながら、客観的かつ正確な規則を獲得し、指導に役立つ知識を身につけ、学習者の英語に関する様々な質問に答えることができるようになる。 3. 日本人が誤りやすい項目と文法・語彙の知識だけでは不十分な部分について考えることによって、母語話者の正誤判断の知識に迫り、英語の発想方法の理解を深める。 		
授業概要	<p>本授業では、教科書および配付資料の読解が授業の中心となりますが、各回の重要事項について受講生に考えてきてもらい、意見交換も行います。授業内での受講生の活発な意見交換を期待しています。</p> <p>また、毎回授業の30分程度を「日本人に多い語法・文法上の誤りおよび誤解」を解消するための演習活動に用います。この演習活動は様々な文法書、語法書、辞書、コーパスなどの資料の具体的説明とそれらを効果的かつ適切に用いる方法の演習を行うものです。具体的には、文法・語彙・イディオム・構文などが持つ諸特徴を取り上げ、形式・意味・ニュアンスなどを理解した上で、場面と結びついた正確な用法の理解を目指します。</p> <p>内容が多岐に亘るので、予習よりも復習を重視してください。授業内でも利用することが多いので、Office系ソフトを中心に、各種アプリケーションの利用にも慣れておいてください。</p>		
授業計画	<p>第1回：英語とは：一般に流布する誤解、専門家でも知らない事実と勘違い、演習活動1</p> <p>第2回：英語を深く理解する方法1：コーパスの利用方法、正誤判断の方法、演習活動2</p> <p>第3回：英語を深く理解する方法2：書籍・音声・動画のデータ化と利用、演習活動3</p> <p>第4回：辞書の世界1：種類、利用方法、編纂のされ方、注意点、演習活動4</p> <p>第5回：辞書の世界2：辞書の様々な問題点、辞書の過去・現在・未来、演習活動5</p> <p>第6回：英語の歴史1：英国の歴史、古英語、中英語、初期近代英語、演習活動6</p> <p>第7回：英語の歴史2：後期近代英語、現代英語、未来の英語、演習活動7</p> <p>第8回：単語仕組みの注意点：屈折と派生、句と複合語の違い、演習活動8</p> <p>第9回：単語の使い方の注意点：語法研究法、単語の整理方法、演習活動9</p> <p>第10回：単語の意味：単義と多義、イディオムの成り立ち、演習活動10</p> <p>第11回：語順を変える表現：倒置文、外置構文、繰り返し、強調、演習活動11</p> <p>第12回：省略表現：主語・目的語の省略、前置詞・接続詞の省略、演習活動12</p> <p>第13回：文の意味とは：真偽値、認知的等価文とニュアンスの問題、演習活動13</p> <p>第14回：語用論的意味に注意：伝わらない文、誤解される文、演習活動14</p> <p>第15回：総復習</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	講義と演習作業を中心とする。毎回小テストを行う。		
アクティブラーニングの視点	授業内で解説した概念を利用して、課題に対する議論と解決のためのペアワークまたはグループワークを行う。これと並行して、コーパス・インターネットを利用して英語の言語事実を調べる作業を行う。		
授業外学習	英語の言語事実に関する知識の予習（45分） 新たに得た英語の言語事実に関する知見の復習（45分）		
教科書	三原健一・高見健一（編著）『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 2013年11月		
参考書	各種言語学・英語学事典（初回授業で紹介）		
評価方法	定期試験（60%）、レポート（20%）、授業内課題（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68082
科目名	English Linguistics Workshop B	授業コード	9426981
教員名	吉田 幸治		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>1. 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。</p> <p>(1) 英語の音声の仕組みについて理解している。</p> <p>(2) 英語の文法について理解している。</p> <p>(3) 国際共通語としての英語の実態について理解している。</p> <p>2. 言語学の知見を利用して、英文法・語彙・発音などに関する背景を理解しながら、客観的かつ正確な規則を獲得し、指導に役立つ知識を身につけ、学習者の英語に関する様々な質問に答えることができるようになる。</p> <p>3. 日本人が誤りやすい項目と文法・語彙の知識だけでは不十分な部分について考えることによって、母語話者の正誤判断の知識に迫り、英語の発想法の理解を深める。</p>		
授業概要	<p>後期のこの授業では、広範な英語の文法に関する事実を取り上げ、その背景を理解しながら指導に役立つ知識を身につけていただきたいと思います。特に、英語特有の述べ方・表現について深く考えることによって、英語の運用能力を高めるようにします。</p> <p>前期と同様に、教科書および配付資料の読解、各回の重要事項について受講生に考えてきてもらった上で意見交換を行います。授業内での受講生の活発な意見交換を期待しています。</p> <p>また、毎回授業の30分程度を「日本人に多い語法・文法上の誤りおよび誤解」を解消するための演習活動も継続して行います。この演習活動は様々な文法書、語法書、辞書、コーパスなどの資料の具体的な説明とそれらを効果的かつ適切に用いる方法の演習を行うものです。具体的には、文法・語彙・イディオム・構文などが持つ諸特徴を取り上げ、形式・意味・ニュアンスなどを理解したうえで、場面と結びついた正確な用法の理解を目指します。内容が多岐に亘るので、予習よりも復習を重視してください。授業内でも利用することが多いので、Office系を中心に、各種アプリケーションの利用にも慣れておいてください。</p>		
授業計画	<p>第1回：誤用1：文化的な要因による誤用、演習活動1</p> <p>第2回：誤用2：日本語にはない発想による誤用、演習活動2</p> <p>第3回：文法の諸問題1：他動詞・自動詞、能動態・受動態、演習活動3</p> <p>第4回：文法の諸問題2：経過重視の日本語と結果重視の英語、演習活動4</p> <p>第5回：文法の諸問題3：英語の重層表現、境界性、演習活動5</p> <p>第6回：文法の諸問題4：シノニム、メタファー、メトニミー、演習活動6</p> <p>第7回：文法の諸問題5：意味の拡張パターンにおける日英差、演習活動7</p> <p>第8回：文法の諸問題6：転移修飾、隣接性を破っている表現、演習活動8</p> <p>第9回：文法と文化の注意点：英語の発想法、英語圏の文化、演習活動9</p> <p>第10回：社会との関わり：ビジネス英語、法言語、演習活動10</p> <p>第11回：文語と口語：小説、詩、映画、ニュース、スポーツ、演習活動11</p> <p>第12回：最近気になる表現：新語、造語、演習活動12</p> <p>第13回：英語とAI：機械翻訳、SNS、略語、演習活動13</p> <p>第14回：関連諸分野：英語の理解に役立つ知識、演習活動14</p> <p>第15回：総復習</p> <p>定期試験</p>		
授業方法	講義と演習作業を中心とする。毎回小テストを行う。		
アクティブラーニングの視点	授業内で解説した概念を利用して、課題に対する議論と解決のためのペアワークまたはグループワークを行う。これと並行して、コーパス・インターネットを利用して英語の言語事実を調べる作業を行う。		
授業外学習	英語の言語事実に関する知識の予習（45分） 新たに得た英語の言語事実に関する知見の復習（45分）		
教科書	三原健一・高見健一（編著）『日英対照 英語学の基礎』 くろしお出版 2013年11月		
参考書	各種言語学・英語学事典（初回授業で紹介）		
評価方法	定期試験（60%）、レポート（20%）、授業内課題（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68083
科目名	Literature in English 2	授業コード	9415997
教員名	DECKER, Warren		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。</p> <p>(1) 英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解することができる。</p> <p>(2) 理解した作品の内容を適切に朗読できる。</p> <p>(3) 理解した作品を劇化するために脚本を書くことができる。</p> <p>(4) 理解した作品を実際に劇として演じることができる。</p> <p>(5) 自分で英語で作品（ポエム、ストーリー等）を書くことができる。</p> <p>(6) 伝統的なポエムの形や音数率について理解できる。</p> <p>テーマ 英語で書かれた文学作品の講読・音声表現・脚本化・劇化</p>		
授業概要	<p>①英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解する。</p> <p>②理解した作品を他人に読み聴かせるつもりで、気持ちを込めて朗読する。</p> <p>③理解した作品を劇化するために、作品を脚本に書き換える。</p> <p>④理解して脚本にした作品を実際に演じる。</p> <p>⑤英語でポエムやストーリーを書いて発表する。</p>		
授業計画	<p>第1回：現代の短編小説：ポイント・オブ・ビュー / ライティングワークショップ</p> <p>第2回：現代の短編小説：人物 / ライティングワークショップ</p> <p>第3回：現代の短編小説：ストーリー / ライティングワークショップ / 朗読ワークショップ</p> <p>第4回：現代の短編小説：コンフリクト / ライティングワークショップ / 朗読ワークショップ</p> <p>第5回：現代の短編小説：談話、会話 / ライティングワークショップ</p> <p>第6回：現代の短編小説：話し方、見方 / 脚本作り</p> <p>第7回：現代の短編小説：比喻 / 脚本作り</p> <p>第8回：現代の短編小説：メッセージ / 劇の発表</p> <p>第9回：現代のポエム：イメージ / ライティングワークショップ</p> <p>第10回：現代のポエム：比喻的と文字通りの意味/ライティングワークショップ/朗読ワークショップ</p> <p>第11回：現代のポエム：形①-リズム、ライム/ライティングワークショップ/朗読ワークショップ</p> <p>第12回：現代のポエム：形 ②- メーター（音数率） / ライティングワークショップ</p> <p>第13回：現代のポエム：形 ③- コンフリクトポエム、ビジュアルポエム / 脚本作り</p> <p>第14回：現代のポエム：社会へのメッセージ / 脚本作り</p> <p>第15回：まとめ、復習、ポートフォリオ発表会、劇の発表</p>		
授業方法	<p>This class will require active participation. Be ready to share your ideas.</p> <p>Please note that I may make changes to the above plans to meet the needs of the students.</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>学生は代表的文学作品を読んで、理解してから自分で作品を書く、発表し、お互いにフィードバック提供する。</p>		
授業外学習	<p>Be ready to study outside of class.</p>		
教科書	<p>プリント</p>		
参考書	<p>「Norton Anthology of Short Fiction」 Bausch, Richard 「Norton Anthology of Poetry」 Ferguson, Margaret 「The Best American Short Stories」 Pitlor, Heidi 「The Best American Poetry」 Lehman, David</p>		
評価方法	<p>参加：25% 試験：25% ポートフォリオ：50%</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>The teacher of this course is a published writer.</p>		

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68084
科目名	Literature in English 3	授業コード	9426998
教員名	DECKER, Warren		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。</p> <p>(1) 英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解することができる。</p> <p>(2) 理解した作品の内容を適切に朗読できる。</p> <p>(3) 理解した作品を劇化するために脚本を書くことができる。</p> <p>(4) 理解した作品を実際に劇として演じることができる。</p> <p>(5) 自分で英語で作品（ポエム、ストーリー等）を書くことができる。</p> <p>(6) 伝統的なポエムの形や音数率について理解できる。</p> <p>テーマ 英語で書かれた文学作品の講読・音声表現・脚本化・劇化</p>		
授業概要	<p>①英語で書かれた文学作品を読んで（聴いて）理解する。</p> <p>②理解した作品を他人に読み聴かせるつもりで、気持ちを込めて朗読する。</p> <p>③理解した作品を劇化するために、作品を脚本に書き換える。</p> <p>④理解して脚本にした作品を実際に演じる。</p> <p>⑤英語でポエムやストーリーを書いて発表する。</p>		
授業計画	<p>第1回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck ダストボウル、背景等 / 朗読ワークショップ</p> <p>第2回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 当時の社会等 / 朗読ワークショップ</p> <p>第3回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 経済、資本主義 / ライティングワークショップ</p> <p>第4回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 土地との繋がり等 / ライティングワークショップ</p> <p>第5回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 「Work」の意味等 / ライティングワークショップ</p> <p>第6回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 作品のメッセージ / 脚本作り</p> <p>第7回：小説「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 作品発表 / 劇の発表 / 朗読発表</p> <p>第8回：小説「1984」 George Orwell 背景 / ライティングワークショップ</p> <p>第9回：小説「1984」 George Orwell 人間と機械 / ライティングワークショップ</p> <p>第10回：小説「1984」 George Orwell テクノロジー / 朗読ワークショップ</p> <p>第11回：小説「1984」 George Orwell 言語とメディア / 朗読ワークショップ</p> <p>第12回：小説「1984」 George Orwell 政治や政府 / ライティングワークショップ</p> <p>第13回：小説「1984」 George Orwell 現在の社会、未来の社会 / 脚本作り</p> <p>第14回：小説「1984」 George Orwell 作品のメッセージ / 脚本作り</p> <p>第15回：まとめ、復習、ポートフォリオ発表、 / 劇の発表 / 朗読発表</p>		
授業方法	<p>This class will require active participation. Be ready to share your ideas. Please note that I may make changes to the above plans to meet the needs of the students.</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>学生は代表的文学作品を読んで、理解してから自分で作品を書く、発表し、お互いにフィードバック提供する。</p>		
授業外学習	<p>Be ready to study outside of class.</p>		
教科書	<p>プリント</p>		
参考書	<p>「The Grapes of Wrath」 John Steinbeck 「1984」 George Orwell 「Norton Anthology of Short Fiction」 Bausch, Richard 「Norton Anthology of Poetry」 Ferguson, Margaret</p>		
評価方法	<p>参加：25% 試験：25% ポートフォリオ：50%</p>		
既修条件	<p>なし</p>		
実務経験のある教員による授業	<p>The teacher of this course is a published writer.</p>		

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68085
科目名	Academic Listening and Reading 3	授業コード	9416014
教員名	高田 哲朗		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと〔やり取り・発表〕ができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 		
授業概要	<p>授業の概要 外国語教育の諸分野に関する英語による講義や英語で書かれた基本図書・雑誌記事等を教材として用いて、10ラウンドに分けて学習する。</p> <p>第1ラウンド：未習得構文と未習得語彙を学習する。 第2ラウンド：リスニングやリーディングによる概要理解 第3ラウンド：未習得構文や未習得語彙の復習 → リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析 第4ラウンド：全体のリスニングまたはリーディング後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳とその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習 第5ラウンド：理解した教材英文の多様な方法による音読練習 → 一部の英文を日英通訳演習 第6ラウンド：課外学習（全文の多様な音読 → 全文の日英通訳演習） 第7ラウンド：シャドーイングによる復習 → 音読テスト（またはシャドーイングテスト） → 日英通訳練習、英問英答、サマリー、リテリング、主要な英文を自分が知っている表現を用いて言い換え練習など 第8ラウンド：UNIT全体をリスニングまたはリーディング → 未習得語彙の復習（重要語彙の定義を読んでその定義が表す語彙を答える） 第9ラウンド：課外学習（理解した内容についての自分の考えを英語でまとめる） 第10ラウンド：（原稿を見ずに）プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション Academic Listening and Reading 1・2の振り返り UNIT 9「こどもに英語を教える」 全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第2回：UNIT 9「こどもに英語を教える」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第3回：UNIT 9「こどもに英語を教える」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第4回：UNIT 9「こどもに英語を教える」 PART 1 第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。 復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第5回：UNIT 9「こどもに英語を教える」 PART2 第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第6回：UNIT 9「こどもに英語を教える」 PART3 第7ラウンド PART1～PART 3の第8ラウンド</p>		

	<p>課題：第9ラウンド</p> <p>第7回：UNIT 9 「こどもに英語を教える」</p> <p>第10ラウンド</p> <p>第8回：UNIT9 「こどもに英語を教える」</p> <p>小テスト</p> <p>UNIT10 「発問」</p> <p>全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第9回：UNIT 10 「発問」</p> <p>各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第10回：UNIT 10 「発問」</p> <p>PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第11回：UNIT 10 「発問」</p> <p>PART 1 第7ラウンド</p> <p>PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。</p> <p>復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第12回：UNIT 10 「発問」</p> <p>PART2 第7ラウンド</p> <p>PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第13回：UNIT 10 「発問」</p> <p>PART3 第7ラウンド</p> <p>PART1～PART3の第8ラウンド</p> <p>課題：第9ラウンド</p> <p>第14回：UNIT 10 「発問」</p> <p>第10ラウンド</p> <p>第15回：UNIT10 「発問」</p> <p>小テスト</p> <p>UNIT11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第16回：UNIT 11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第17回：UNIT 11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第18回：UNIT 11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>PART 1 第7ラウンド</p> <p>PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。</p> <p>復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第19回：UNIT 11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>PART2 第7ラウンド</p> <p>PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第20回：UNIT 11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>PART3 第7ラウンド</p> <p>PART1～PART3の第8ラウンド</p> <p>課題：第9ラウンド</p> <p>第21回：UNIT 11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>第10ラウンド</p> <p>第22回：UNIT11 「様々な学習形態（一斉・グループ・ペア・個人）」</p> <p>小テスト</p> <p>UNIT12 「学習者の個人差に応じた指導」</p> <p>全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p>
--	--

	<p>第23回：UNIT 12 「学習者の個人差に応じた指導」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第24回：UNIT 12 「学習者の個人差に応じた指導」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第25回：UNIT 12 「学習者の個人差に応じた指導」 PART 1 第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。 復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第26回：UNIT 12 「学習者の個人差に応じた指導」 PART2 第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第27回：UNIT 12 「学習者の個人差に応じた指導」 PART3 第7ラウンド PART1～PART3の第8ラウンド 課題：第9ラウンド</p> <p>第28回：UNIT 12 「学習者の個人差に応じた指導」 第10ラウンド</p> <p>第29回：UNIT12 「学習者の個人差に応じた指導」 小テスト UNIT9・UNIT10の復習</p> <p>第30回：UNIT11・UNIT12の復習 UNIT 9～UNIT 12に関する質疑応答 まとめテスト 定期試験は実施しない</p>
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習や活動及び発表を行う。
アクティブラーニングの視点	毎時間ペアワークやグループワークを行う。各テーマについて理解を深めるとともに、自分の考えをまとめて、クラスの前で発表する経験を通してさらに深い学びを実現する。
授業外学習	語彙の学習（小テスト対策）、リスニング課題学習、リーディング教材の音読練習、英文内容のリサーチなど合計90分程度の学習が必要である。
教科書	プリント
参考書	第二言語習得研究に基づく英語指導（鈴木渉著、大修館書店） A Course in English Language Teaching (Penny Ur, Cambridge University Press) How Languages Are Learned 4th edition (Patsy M. Lightbown 他, Oxford University Press)
評価方法	内容理解（発表）10% 音読またはシャドーイングテスト20% 日英通訳演習30% パフォーマンス（プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート）15% 小テスト15% まとめテスト10%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	38年間の高校英語教員としての経験を活かして、現場で通用する実践的な指導力や英語力を伸ばす指導を行う。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68086
科目名	Academic Listening and Reading 4	授業コード	9429378
教員名	高田 哲朗		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。Academic Listening and Reading 1 で身につけた能力をさらに向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと〔やり取り・発表〕ができる。 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 		
授業概要	<p>外国語教育の諸分野に関する英語による講義や英語で書かれた基本図書・雑誌記事等を教材として用いて、10 ラウンドに分けて学習する。</p> <p>第1 ラウンド：未習得構文と未習得語彙を学習する。</p> <p>第2 ラウンド：リスニングやリーディングによる概要理解</p> <p>第3 ラウンド：未習得構文や未習得語彙の復習 → リスニングやリーディングによる要点と細部の理解とパラグラフの構成と展開法を分析</p> <p>第4 ラウンド：全体のリスニングまたはリーディング後、必要があれば、難しい英文の構造説明・和訳とその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習</p> <p>第5 ラウンド：理解した教材英文の多様な方法による音読練習 → 一部の英文を日英通訳演習</p> <p>第6 ラウンド：課外学習（全文の多様な音読 → 全文の日英通訳演習）</p> <p>第7 ラウンド：シャドーイングによる復習 → 音読テスト（またはシャドーイングテスト） → 日英通訳練習、英問英答、サマリー、リテリング、主要な英文を自分が知っている表現を用いて言い換え練習など</p> <p>第8 ラウンド：UNIT 全体をリスニングまたはリーディング → 未習得語彙の復習（重要語彙の定義を読んでその定義が表す語彙を答える）</p> <p>第9 ラウンド：課外学習（理解した内容についての自分の考えを英語でまとめる）</p> <p>第10 ラウンド：（原稿を見ずに）プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート</p>		
授業計画	<p>第1回： UNIT9 「こどもに英語を教える」～UNIT12 「学習者の個人差に応じた指導」までの振り返り UNIT 5 「学習者の年齢と外国語学習」全体の第1 ラウンド（未習得語彙練習）～第2 ラウンド（各 PART の概要タイトル選び）</p> <p>第2回： UNIT 13 「学習者の年齢と外国語学習」 各 PART：第1 ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2 ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第3回： UNIT 13 「学習者の年齢と垣国語学習」 PART1 の語彙の復習と第3 ラウンド～第5 ラウンド 復習課題：PART 1 第6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第4回： UNIT 13 「学習者の年齢と外国語学習」 PART 1 第7 ラウンド PART2 の語彙の復習 → 第3 ラウンド～第5 ラウンドと PART2 の英文の一部を「日英通訳演習」。 復習課題：PART2 第6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第5回： UNIT 13 「学習者の年齢と外国語学習」 PART2 第7 ラウンド PART3 の語彙の復習と第3 ラウンド～第5 ラウンド 復習課題：PART3 第6 ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第6回： UNIT 13 「学習者の年齢と外国語学習」 PART3 第7 ラウンド PART1～PART3 の第8 ラウンド</p>		

	<p>課題：第9ラウンド</p> <p>第7回：UNIT 13 「学習者の年齢と外国語学習」</p> <p>第10ラウンド</p> <p>第8回：UNIT13 「学習者の年齢と外国語学習」</p> <p>小テスト</p> <p>UNIT14 「インプットの重要性」</p> <p>全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第9回：UNIT 14 「インプットの重要性」</p> <p>各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第10回：UNIT 14 「インプットの重要性」</p> <p>PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第11回：UNIT 14 「インプットの重要性」</p> <p>PART 1 第7ラウンド</p> <p>PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。</p> <p>復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第12回：UNIT 14 「インプットの重要性」</p> <p>PART2 第7ラウンド</p> <p>PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第13回：UNIT 14 「インプットの重要性」</p> <p>PART3 第7ラウンド</p> <p>PART1～PART3の第8ラウンド</p> <p>課題：第9ラウンド</p> <p>第14回：UNIT 14 「インプットの重要性」</p> <p>第10ラウンド</p> <p>第15回：UNIT14 「インプットの重要性」</p> <p>小テスト</p> <p>UNIT15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p> <p>第16回：UNIT 15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第17回：UNIT 15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART 1 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第18回：UNIT 15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>PART 1 第7ラウンド</p> <p>PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。</p> <p>復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第19回：UNIT 15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>PART2 第7ラウンド</p> <p>PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド</p> <p>復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第20回：UNIT 15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>PART3 第7ラウンド</p> <p>PART1～PART3の第8ラウンド</p> <p>課題：第9ラウンド</p> <p>第21回：UNIT 15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>第10ラウンド</p> <p>第22回：UNIT15 「インタラクションと気づきの重要性」</p> <p>小テスト</p> <p>UNIT16 「外国語学習に対展も通説の再考」</p> <p>全体の第1ラウンド（未習得語彙練習）～第2ラウンド（各PARTの概要タイトル選び）</p>
--	---

	<p>第23回：UNIT 16 「外国語学習に対展も通説の再考」 各PART：第1ラウンド（未習得構文説明と練習・語彙復習～第2ラウンド（各パラグラフ概要タイトル選択）</p> <p>第24回：UNIT 16 「外国語学習に対展も通説の再考」 PART1の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART 1第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第25回：UNIT 16 「外国語学習に対展も通説の再考」 PART 1 第7ラウンド PART2の語彙の復習 → 第3ラウンド～第5ラウンドとPART2の英文の一部を「日英通訳演習」。 復習課題：PART2 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第26回：UNIT 16 「外国語学習に対展も通説の再考」 PART2 第7ラウンド PART3の語彙の復習と第3ラウンド～第5ラウンド 復習課題：PART3 第6ラウンド（全文の音読練習と日英通訳演習）</p> <p>第27回：UNIT 16 「外国語学習に対展も通説の再考」 PART3 第7ラウンド PART1～PART3の第8ラウンド 課題：第9ラウンド</p> <p>第28回：UNIT 16 「外国語学習に対展も通説の再考」 第10ラウンド</p> <p>第29回：UNIT16 「外国語学習に対展も通説の再考」 小テスト UNIT13・UNIT14の復習</p> <p>第30回：UNIT15・UNIT16の復習 UNIT13 ～UNIT16に関する質疑応答 まとめテスト 定期試験は実施しない</p>
授業方法	講義は必要最小限とし、授業時間のほとんどは演習や活動及び発表を行う。
アクティブラーニングの視点	毎時間ペアワークやグループワークを行う。各テーマについて理解を深めるとともに、自分の考えをまとめて、クラスの前で発表する経験を通してさらに深い学びを実現する。
授業外学習	語彙の学習（小テスト対策）、リスニング課題学習、リーディング教材の音読練習、英文内容のリサーチなど合計90分程度の学習が必要である。
教科書	プリント
参考書	授業中に指示する。
評価方法	内容理解（発表）10% 音読またはシャドーイングテスト20% 日英通訳演習30% パフォーマンス（プレゼンテーションまたはディスカッションまたはディベート）15% 小テスト15% まとめテスト10%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	38年間の高校英語教員としての経験を活かして、現場で通用する実践的な指導力や英語力を伸ばす指導を行う。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68087
科目名	Writing and Debate/Discussion 3	授業コード	9416031
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 PREP（主張→理由→例→主張）文章構成法を身に付けて、説得力のある英文が書くことができる。 ルーブリックを利用し、自己評価、及び、他者のアウトプットに対するの評価をすることも意識することにより、教員になった時に学習者のスピーキングやライティングのパフォーマンスを評価する能力を身に付ける。 		
授業概要	<p>教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の1.～4.の4つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1.～3. の活動の内1～2つを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 帯活動 毎回の授業の最初の約10分間を用いて行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①Q&A 英語による2つの身近なQに対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各Qに対して1分間ずつ話し続ける。(ペアワーク) ②Extensive Writing 各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を5分間行う。 2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動 <ol style="list-style-type: none"> ③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文 ④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。 ⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。 ⑥④のスクリプトとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。 ⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約 ⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP（主張→理由→例→主張）の流れに沿って英文でまとめる。 3. 即興型ディベート / ディスカッション <ol style="list-style-type: none"> ⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング 身近な話題について(1)～(4)を行う。授業の前半では、以下の(1)～(4)の各活動前にそれぞれの実例を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)～(4)の一つを実際に行い、相互評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 三角法 (A : 主張 → B : A の要約と反論 → C : B の要約と反論 → A : C の要約) (2) ピンポン型 (A → B → A → B…) (3) 法廷方式 (2名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2名からなる否定 → 裁判官からの質問 → 肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント) (4) 「やりとり」を促進するルーブリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション ⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション ・ディベートの場合は、⑨を発展させて、エビデンスを使用しないディベートを行う。肯定立論、否定立論、否定側の反論、肯定側の反論で、ジャッジも学生が行い、役割交代して行う。 4. 準備型ディスカッション / ディベート 		

	<p>リサーチと英文作成のための期間は原則として4週間とする。</p> <p>①テーマに関するリサーチをする。</p> <p>②リサーチした内容を用いて自分の意見をまとめて原稿を作成する。ディベートの場合は、論題に対する肯定または否定の立場で立論・反駁のスピーチ原稿を書く。英文原稿をまとめる際には、PREP（主張→理由→例→主張）の文章構成法に従って作成して、期限までに提出する。</p> <p>③担当教員から返却された原稿に書かれた修正意見やコメントに従って原稿を改訂する。</p> <p>④ディスカッション / ディベートまで、聴き手に自分の考えを理解してもらえるように、原稿を繰り返し音読して、原稿なしで話せるようになるまで練習する。</p> <p>⑤1回目ディスカッション / ディベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション / ディベート中は用意した原稿は見ずに行う。 ・ディベートの場合は、聴いているグループは教員とともに審査員として評価シートにより、各スピーカーの発言を評価する。 <p>⑥スパイダー・ウェブ・ディスカッション（平等に意味のあるかたちで討論する、互いの意見を注意して敬意をもって聞く、よく聞こえない場合は繰り返してもらおうなどの基準をループリックで示す → ループリックが達成されるときれいな蜘蛛の巣の記録ができる方式で発言者と内容の記録をとる → ディスカッション後、ループリックで振り返り、より良い討論になるように改善点を話し合う）</p> <p>⑦①～⑥の内容を踏まえ、PREPに則り、引用を明記し、事実・意見を区別した質の高い原稿に仕上げる。</p> <p>⑧2回目ディベート / ディスカッション 終了後、原稿を提出する。</p>
授業計画	<p>第1回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ）</p> <p>第2回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第3回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第4回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第5回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②（授業外でリサーチまたは英文作成）</p> <p>第6回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第7回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第8回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第9回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第10回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第11回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4)</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第12回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第13回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第14回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p> <p>第15回：トピック5「習熟度別授業のメリットとデメリット」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧</p>

	<p>第16回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ）</p> <p>第17回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第18回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第19回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第20回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①または②（授業外でリサーチまたは英文作成）</p> <p>第21回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第22回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第23回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第24回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第25回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第26回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4)</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第27回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション 原稿返却 返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第28回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第29回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p> <p>第30回：トピック6「検定教科書だけでバランスの取れた英語力を育成できる」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>
授業方法	
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッションを行う</p> <p>経験学習のサイクル：ミニ・講義→実演→失敗→振り返り→再挑戦</p> <p>ループリック利用：目標の確認→振り返り→自己・相互評価</p>
授業外学習	
教科書	即興型ディベートの教科書 東大で培った瞬時に考えて伝えるテクニック（加藤 彰著（2020）、あさ出版）
参考書	<p>Discover Debate (M. Lubetsky, C. Lebeau, and D. Harrington (2007), Language Solutions Inc.)</p> <p>最高の授業：スパイダー討論が教室を変える（アレキシス・ウィギンズ著（2018）、新評論）</p> <p>学生のためのボランティア論（岡本 栄一著（2006）、大阪ボランティア協会出版部）</p> <p>授業でできる即興型英語ディベート（中川 智皓著（2017）、パラメンタリーディベート人材育成協会（ネリーズ出版））</p> <p>全解説 英語革命 2020（安河内 哲也著（2018）、文芸春秋）</p>

評価方法	1. 帯活動 ①Q&A 10% ②Extensive writing 10% 2. 準備活動 ③瞬間口頭英作文+⑥日英通訳演習 10% ⑧ライティング（要約+意見）10% 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨⑩20% 4. 準備型ディベート・ディスカッション 原稿（初稿・最終稿）20% ディベート・ディスカッション⑤⑥⑧ 20%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68088
科目名	Writing and Debate/Discussion 4	授業コード	9429395
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週2回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2 レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクティブを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。Writing and Debate / Discussion 1 で身につけた能力をさらに向上させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと [やり取り・発表] ができる。 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。 PREP（主張→理由→例→主張）文章構成法を身に付けて、説得力のある英文が書くことができる。 ルーブリックを利用し、自己評価、及び、他者のアウトプットに対するの評価をすることも意識することにより、教員になった時に学習者のスピーキングやライティングのパフォーマンスを評価する能力を身に付ける。 		
授業概要	<p>授業の概要 教育全般及び外国語教育の諸問題についてのディベート/ディスカッションによる英語力の向上を図るために、以下の1.～4.の4つの活動を行う。4. ディベート / ディスカッションの準備期間中は、毎時間、1.～3. の活動の内1～2つを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 帯活動 毎回の授業の最初の約10分間を用いて行う。 <ol style="list-style-type: none"> ①Q&A 英語による2つの身近なQに対して、直接的な答えだけでなく、関連のあることを加えて答え、各Qに対して1分間ずつ話し続ける。(ペアワーク) ②Extensive Writing 各自が選んだ身近な話題について、間違いを恐れずに英語で書く練習を5分間行う。 2. ディベート / ディスカッション準備期間の活動 <ol style="list-style-type: none"> ③スピーキングやライティングで使える語彙や表現形式を身につけるために、ディスカッションやディベートのテーマに関わる語彙を用いた瞬間口頭英作文 ④テーマに関わる対話や講義を聴いたり、テーマに関わる記事などの朗読を聴いてディクテーションやディクトグロスを行う。 ⑤④の対話や講義あるいは記事の朗読を聴いて、オーバーラッピングやシャドーイングを行う。 ⑥④のスク립トとその和訳を利用して、日英通訳演習を行う。 ⑦関連する話題についての英文記事などを読んで理解したことを英語要約 ⑧要約した内容について自分の意見を構築し、PREP（主張→理由→例→主張）の流れに沿って英文でまとめる。 3. 即興型ディベート / ディスカッション <ol style="list-style-type: none"> ⑨即興型ディベート / ディスカッションの準備活動と評価者トレーニング 身近な話題について(1)～(4)を行う。授業の前半では、以下の(1)～(4)の各活動前にそれぞれの実例を提示するとともに、各実例を用いて評価者トレーニングを行う。授業の後半では、(1)～(4)の一つを実際に行い、相互評価を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 三角法 (A : 主張 → B : A の要約と反論 → C : B の要約と反論 → A : C の要約) (2) ピンポン型 (A → B → A → B…) (3) 法廷方式 (2名からなる肯定 → 裁判官からの質問 → 2名からなる否定 → 裁判官からの質問 → 肯定と否定でやりとり → 裁判官からのコメント) (4) 「やりとり」を促進するルーブリックを利用したワールド・カフェ方式ディスカッション ⑩身近なテーマについての即興型ディベート / ディスカッション ・ディベートの場合は、⑨を発展させて、エビデンスを使用しないディベートを行う。肯定立論、否定立論、否定側の反論、肯定側の反論で、ジャッジも学生が行い、役割交代して行う。 		

	<p>4. 準備型ディスカッション / ディベート</p> <p>リサーチと英文作成のための期間は原則として4週間とする。</p> <p>①テーマに関するリサーチをする。</p> <p>②リサーチした内容を用いて自分の意見をまとめて原稿を作成する。ディベートの場合は、論題に対する肯定または否定の立場で立論・反駁のスピーチ原稿を書く。英文原稿をまとめる際には、PREP（主張→理由→例→主張）の文章構成法に従って作成して、期限までに提出する。</p> <p>③担当教員から返却された原稿に書かれた修正意見やコメントに従って原稿を改訂する。</p> <p>④ディスカッション / ディベートまで、聴き手に自分の考えを理解してもらえるように、原稿を繰り返し音読して、原稿なしで話せるようになるまで練習する。</p> <p>⑤1回目ディスカッション / ディベート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション / ディベート中は用意した原稿は見ずに行う。 ・ディベートの場合は、聴いているグループは教員とともに審査員として評価シートにより、各スピーカーの発言を評価する。 <p>⑥スパイダー・ウェブ・ディスカッション（平等に意味のあるかたちで討論する、互いの意見を注意して敬意をもって聞く、よく聞こえない場合は繰り返してもらおうなどの基準をループリックで示す → ループリックが達成されるとききれいな蜘蛛の巣の記録ができる方式で発言者と内容の記録をとる → ディスカッション後、ループリックで振り返り、より良い討論になるように改善点を話し合う）</p> <p>⑦①～⑥の内容を踏まえ、PREPに則り、引用を明記し、事実・意見を区別した質の高い原稿に仕上げる。</p> <p>⑧2回目ディベート / ディスカッション 終了後、原稿を提出する。</p>
授業計画	<p>第1回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ）</p> <p>第2回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第3回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第4回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第5回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第6回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第7回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第8回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第9回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第10回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第11回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4)</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第12回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩</p> <p>4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第13回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第14回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」</p> <p>1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p>

	<p>第15回：トピック7「英語の授業はすべて英語で行うべきである」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧</p> <p>第16回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業内でリサーチ）</p> <p>第17回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第18回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第19回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション①（授業外でリサーチ）</p> <p>第20回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③④⑤ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第21回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑤⑥ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②（授業外で英文作成）</p> <p>第22回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③⑦⑧ 4. 準備型ディベート/ディスカッション②の原稿提出</p> <p>第23回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(1)</p> <p>第24回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(2)</p> <p>第25回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(3)</p> <p>第26回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨(4) 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第27回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 2. 準備期間の活動③ 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑩ 4. 準備型ディベート/ディスカッション原稿返却返却された原稿を③④（授業外で修正及び練習）</p> <p>第28回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑤</p> <p>第29回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑥⑦</p> <p>第30回：トピック8「生徒の英語力を伸ばすにはたくさんの副教材を持たせて自習させるべきである」 1. 帯活動①② 4. 準備型ディベート/ディスカッション⑧ まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>
授業方法	
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワーク、グループワーク、ディベート、ディスカッションを行う</p> <p>経験学習のサイクル：ミニ・講義→実演→失敗→振り返り→再挑戦</p> <p>ルーブリック利用：目標の確認→振り返り→自己・相互評価</p>
授業外学習	
教科書	即興型ディベートの教科書 `東大で培った瞬時に考えて伝えるテクニック(加藤 彰著 (2020)、あさ出版)
参考書	<p>Discover Debate (M. Lubetsky, C. Lebeau, and D. Harrington (2007), Language Solutions Inc.)</p> <p>最高の授業：スパイダー討論が教室を変える(アレキス・ウィギンズ著 (2018)、新評論)</p> <p>学生のためのボランティア論 (岡本 栄一著(2006)、大阪ボランティア協会出版部)</p> <p>授業でできる即興型英語ディベート (中川 智皓著(2017)、パーラメンタリーディベート人材育成協会(ネリーズ出版))</p> <p>全解説 英語革命 2020 (安河内 哲也著(2018)、文芸春秋)</p>

評価方法	1. 帯活動 ①Q&A 10% ②Extensive writing 10% 2. 準備活動 ③瞬間口頭英作文+⑥日英通訳演習 10% ⑧ライティング（要約+意見）10% 3. 即興型ディベート / ディスカッション⑨⑩20% 4. 準備型ディベート・ディスカッション 原稿（初稿・最終稿）20% ディベート・ディスカッション⑤⑥⑧ 20%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68093
科目名	英語科教育法 1	授業コード	9416048
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024 年度 前期
到達目標	<p>全体目標：中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。</p> <p>(1)カリキュラム・シラバス：中学校及び高等学校の英語教育の基軸となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の連携の在り方について理解する。</p> <p>(2)生徒の資質・能力を高める指導：中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</p> <p>(3)授業づくり：中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。</p> <p>(4)第二言語習得：学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>テーマ：小中高のスムーズな英語授業の接続のための基礎知識（学習指導要領と第二言語習得研究の成果）と分野別指導法の習得</p>		
授業概要	<p>英語科教育法 1 では、学習指導要領と第二言語習得研究成果の理解と、小中高間の円滑な接続を可能にする中学生高校生を対象とした分野別効果的指導法の習得を目的として、各回の内容に応じて次の①～④を行う。</p> <p>①講義（質疑応答、ペアによる意見交換。クラス全体へのシェアを含む）</p> <p>②科目担当者による授業実演（学生は授業体験）または小中高教員の授業映像視聴と観察</p> <p>③受講生による模擬授業とそれについてのペアまたはグループによる検討、及び指導助言</p> <p>④課外の課題 下記にある1時間から1時間30分程度の授業外学習</p>		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 英語教育（学習）の目的 学校教育における英語教育 学習指導要領とは何か 学習指導要領の3つの資質・能力と4技能5領域 専門職としての英語教師の条件</p> <p>第2回：第一言語習得と第二言語習得の類似点と相違点 第二言語習得研究が学校教育における外国語としての英語教育に示唆するもの 小中高の英語教育の接続</p> <p>第3回：小学校の学習指導要領のポイントの理解と検定教科書の構成を知る・第二言語習得研究の成果が小学校の検定教科書にどのように活かされているか</p> <p>第4回：中学校の学習指導要領のポイントの理解と検定教科書の構成を知る・第二言語習得研究の成果が中学校の検定教科書にどのように活かされているか・スムーズな小中接続のための指導</p> <p>第5回：高等学校の学習指導要領のポイントの理解と検定教科書の構成を知る・第二言語習得研究の成果が高等学校の検定教科書にどのように活かされているか・スムーズな中高接続のための指導</p> <p>第6回：第二言語習得研究の成果を活かした4技能5領域別到達目標の設定と指導計画（年間・単元・各授業時間）</p> <p>第7回：コミュニケーション能力 学習活動と言語活動 第二言語習得研究の成果を活かした学習到達目標とバックワード・デザインによる英語授業の組み立て方</p> <p>第8回：教科書の活用と教材研究・指導事例・指導案作成の留意点</p> <p>第9回：活動形態（一斉・グループ・ペア・個人）と4技能5領域の指導例（授業体験または映像による授業観察1）</p> <p>第10回：発音指導（1）指導法（1年次必修科目 English Pronunciation Workshop で学んだことの復習）・指導例（授業体験または映像による授業観察2）・指導案作成</p> <p>第11回：発音指導（2）マイクロティーチング</p>		

	<p>第12回：文字指導（1）指導法・指導例（映像による授業観察2）・指導案作成</p> <p>第13回：文字指導（2）マイクロティーチング</p> <p>第14回：4技能と結びつけた文法指導（1）演繹的指導（1年次必修 Learning and Teaching Grammar for Communication で学んだことの復習。また、秋学期の Practical English Teaching A でさらに詳しく学ぶ）・指導例（授業体験または映像による授業観察3）・指導案作成</p> <p>第15回：4技能と結びつけた文法指導（2）帰納的指導（1年次必修 Learning and Teaching Grammar for Communication で学んだことの復習。また、秋学期の Practical English Teaching A でさらに詳しく学ぶ）指導例（授業体験または映像による授業観察4）・指導案作成</p>
授業方法	講義は必要最小限にして、演習を中心に行う。
アクティブラーニングの視点	レポート作成（各自が設定したテーマについてのリサーチとリサーチ内容に対する自分の考えや教科書の要点のまとめと自分の意見）、指導案・ワークシートなどの作成、マイクロティーチング、ペアやグループによる協同学習など
授業外学習	<p>1) レポートを作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチし、自分の考えを書いて授業で発表できるようにする。 <p>2) 教材研究を行い、指導案を作成する。</p> <p>3) 模擬授業用フラッシュカード、ワークシート、スライドなどを作成する。</p> <p>4) 模擬授業に備えて十分に練習する。</p> <p>5) Classroom English を授業で使えるように練習する。</p> <p>6) 英語の基礎力をアップさせるために、毎時間の日英通訳テストに備えて、指定された範囲を何度も音読して暗唱する。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・英語授業デザインマニュアル 大修館 ・小・中学校で取り組む はじめての CLIL 授業づくり 大修館書店 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説（外国語編）』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説（外国語編 英語編）』 ・中学校検定教科書 New Horizon English Course 2年生用（東京書籍） ・授業中に配布するプリント及び電子ファイル
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	クラスルーム・イングリッシュ 15%、小テスト 15%、レポート 15%、指導案 15%、模擬授業 20%、授業での参加度（発言など）20%
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	授業現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68094
科目名	英語科教育法2	授業コード	9427015
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>生徒の資質・能力を高める指導</p> <p>中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 聞くことの指導について理解し、指導に生かすことができる。 2) 読むことの指導について理解し、指導に生かすことができる。 3) 話すこと [やり取り・発表] の指導について理解し、指導に生かすことができる。 4) 書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。 5) 複数領域にわたる言語活動の指導について理解し、指導に生かすことができる。 6) 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、指導に生かすことができる。 <p>テーマ 小中高のスムーズな英語授業の接続のための効果的な分野別指導法の習得</p>		
授業概要	<p>英語科教育法2では、主として中学生徒高校生を対象としたスムーズな小中高間の接続を可能にする分野別 効果的指導法の習得を目的として、各回の内容に応じて次の①～④を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①講義（質疑応答、ペアによる意見交換。クラス全体へのシェアを含む） ②科目担当者による授業実演（学生は授業体験）または小中高教員の授業映像視聴と観察 ③受講生による模擬授業とそれについてのペアまたはグループによる検討、及び指導助言 ④課外の課題 下記にある1時間から1時間30分程度の授業外学習 		
授業計画	<p>第1回：4技能に結びつけた文法指導（3） 模擬授業（秋学期の Practical English Teaching A でさらに演習を行う）</p> <p>第2回：語彙指導 指導法（秋学期の Practical English Teaching A でさらに詳しく学ぶ）・指導例（授業体験または映像による授業観察5）・指導案作成</p> <p>第3回：リスニング指導（1）指導法・発問例・指導例（授業体験または映像による授業観察6）</p> <p>第4回：リーディング指導（1）指導法・発問例・指導例（授業体験または映像による授業観察7）</p> <p>第5回：リスニング指導（2）・リーディング指導（2） 発問作成・指導案作成</p> <p>第6回：音読指導（1）春学期の Practical English Teaching A で学んだ目的別音読指導の復習（授業体験または映像による授業観察8）</p> <p>第7回：音読指導（2） 目的別音読指導法 模擬授業</p> <p>第8回：リスニングのための語彙指導＋リスニング指導＋音読指導 模擬授業</p> <p>第9回：リーディングのための語彙指導＋リーディング指導＋音読指導 模擬授業</p> <p>第10回：語彙指導＋リスニング指導＋リーディング指導＋音読指導 模擬授業</p> <p>第11回：スピーキングの指導（1）指導法・指導例（授業体験または映像による授業観察9）・タスク課題作成</p> <p>第12回：ライティングの指導（1）指導法・指導例（授業体験または映像による授業観察10）・タスク課題作成</p> <p>第13回：スピーキング指導（2）・ライティング指導（2） 指導案作成</p> <p>第14回：スピーキング指導（3） 模擬授業</p> <p>第15回：ライティング指導（4） 模擬授業</p>		
授業方法	講義は必要最小限にして、演習を中心に行う。		
アクティブラーニングの視点	レポート作成（各自が設定したテーマについてのリサーチとリサーチ内容に対する自分の考えや教科書の要点のまとめと自分の意見）、指導案・ワークシートなどの作成、模擬授業、ペアやグループによる協同学習など		

授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポートを作成する <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチしたことをまとめ、自分の考えを書いて授業で発表できるようにする。 2) 教材研究を行い、指導案を作成する。 3) 模擬授業で必要となるフラッシュカードやワークシートなどを作成する。 4) 模擬授業に備えて十分に練習する。 5) Classroom English を授業で使えるように練習する。 6) 英語の基礎力をアップさせるために、毎時間の日英通訳テストに備えて、指定された範
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・英語授業デザインマニュアル 大修館 ・小・中学校で取り組む はじめての CLIL 授業づくり 大修館書店 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説（外国語編）』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説（外国語編 英語編）』 ・中学校検定教科書 New Horizon English Course 2年生用（東京書籍） ・授業中に配布するプリント及び電子ファイル
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法	クラスルーム・イングリッシュ 15%、小テスト 15%、レポート 15%、指導案 15%、模擬授業 20%、授業での参加度（発言など） 20%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	授業現場での外国語授業の実践経験がある者が、その経験を活かして指導にあたる。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68095
科目名	英語科教育法3	授業コード	9416065
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</p> <p>(2) 授業づくり 中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。</p> <p>(3) 学習評価 中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づき、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。</p> <p>テーマ：スムーズな小中高間の接続を可能にする様々な分野・形態・機器を利用した指導法、及び測定・評価についての基礎知識の習得</p>		
授業概要	<p>英語科教育法3では、動機づけ、学習方略について学ぶとともに、主として中学生と高校生を対象としたスムーズな小中高間の接続を可能にする異文化理解指導やチームティーチングによる指導やICTを利用した指導ができるようにする。これらの指導法の習得、測定・評価についての基礎知識と指導への活かし方などを学ぶことを目的として、各回の内容に応じて次の①～④を行う。</p> <p>①講義（質疑応答ほか、科目担当者による発問に対するペアによる意見交換。クラス全体へのシェアなどのインタラクションを含む）</p> <p>②科目担当者による授業実演（学生は授業体験）または小中高の現職教員の授業映像による授業観察</p> <p>③受講生によるマイクロティーチングとそれについてのペアまたはグループによる検討、及び指導助言</p> <p>④課外の課題</p> <p>1) レポートを作成する ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチしたことをまとめ、自分の考えを書いて授業で発表できるようにする。</p> <p>2) 教材研究を行い、指導案を作成する。</p> <p>3) マイクロティーチングで必要となるフラッシュカードやワークシートなどを作成する。</p> <p>4) マイクロティーチングに備えて十分に練習する。</p> <p>5) Classroom English を使えるように練習する。</p>		
授業計画	<p>第1回：授業体験または映像による授業観察 11) ・辞書指導 (1)</p> <p>第2回：マイクロティーチング ・辞書指導 (2)</p> <p>第3回：学習者の個人差に応じた指導 (1) 授業体験または映像による授業観察 12) ・指導案作成</p> <p>第4回：動機づけ</p> <p>第5回：学習者の個人差に応じた指導 (2) マイクロティーチング</p> <p>第6回：異文化理解指導 (1) 指導法・指導例 (授業体験または映像による授業観察 13) ・指導案作成</p> <p>第7回：学習方略</p> <p>第8回：異文化理解指導 (2) マイクロティーチング</p> <p>第9回：英語によるインタラクションが行われる英語授業の留意点・授業体験または映像による授業観察 14)</p> <p>第10回：チーム・ティーチング(1) 授業体験または映像による授業観察 15) ・指導案作成</p> <p>第11回：ICTを活用した授業 (1) 授業体験または映像による授業観察 16) ・指導案作成</p> <p>第12回：チーム・ティーチング (2) マイクロティーチング</p> <p>第13回：ICTを活用した授業 (2) マイクロティーチング</p>		

	第 14 回： テストと評価の種類と実例： 形成的評価・総括的評価・診断的評価・分析的評価・観点別評価・パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価 第 15 回： 観点別学習状況の評価・評価規準の設定・評定・指導への活かし方
授業方法	講義と演習
アクティブラーニングの視点	マイクロティーチング、ペアやグループによる協同学習
授業外学習	各自が設定したテーマについてのリサーチと自分の考え陳述レポート作成 教科書の要点のまとめ
教科書	英語授業デザインマニュアル 大修館 とっておき！魅せる！英語授業プラン 思考プロセスを重視する [中学校・高校] CLIL の実践 明治図書 中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成 29 年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (平成 30 年 7 月 文部科学省)
参考書	英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック (投野由紀夫著、大修館書店)
評価方法	レポート 30%、指導案・ワークシートなど 30%、模擬授業 20%、授業での参加度 (発言など) 20%
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	中学高校学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導理論を講義し、学生の模擬授業を指導する。

教職科目	【中高（英語）】	科目コード	68096
科目名	英語科教育法4	授業コード	9427032
教員名	溝畑 保之		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>(1) 生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</p> <p>(2) 学習評価 中学校及び高等学校における年間を通じた学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと〔やり取り・発表〕」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」（生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法）について理解する。</p> <p>(3) 第二言語習得 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>テーマ 「3つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導法とその評価法の習得</p>		
授業概要	<p>(1) 生徒の資質・能力を高める指導 中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」及び「書くこと」）の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付けるとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのティーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</p> <p>(2) 学習評価 中学校及び高等学校における年間を通じた学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに、評定への総括の仕方について理解する。また、言語能力の測定と評価の方法についても併せて理解する。特に、「話すこと〔やり取り・発表〕」及び「書くこと」については、「パフォーマンス評価」（生徒が実際に話したり書いたりする活動の過程や結果を評価する方法）について理解する。</p> <p>(3) 第二言語習得 学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。</p> <p>テーマ 「3つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導法とその評価法の習得</p>		
授業計画	<p>第1回：CAN-DO リストの目的・リスト例・リスト作成手順と作成の留意点 第2回：4技能の評価（1）リスニング・リーディング 第3回：4技能の評価（2）スピーキング・ライティング（パフォーマンス評価） 第4回：テスト問題の実例と改善法・パフォーマンス評価及びルーブリックの実例 第5回：「3つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価（1）2技能（リスニング＋ライティングまたはスピーキング）：指導例（授業体験または映像による授業観察17）・評価例 第6回：「3つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価（2）2技能（リーディング＋ライティングまたはスピーキング）：指導例（授業体験または映像による授業観察18）・評価例 第7回：「3つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価（3）2技能（即興型ディスカッション・即興型ディベート）：指導例（授業体験または映像による授業観察19）・評価例</p>		

	<p>第 8 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価 (4) 3 技能 (リスニングまたはリーディング+スピーキング+ライティング)：指導例 (授業体験または映像による授業観察 20)・評価例 20</p> <p>第 9 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価 (5) 4 技能 (準備型ディスカッション・準備型ディベート)：指導例 (授業体験または映像による授業観察 21)・評価例</p> <p>第 10 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型の指導と評価 (6)：指導案作成・テストまたはパフォーマンス課題及びループリック作成</p> <p>第 11 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 1</p> <p>第 12 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 2</p> <p>第 13 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 3</p> <p>第 14 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型模擬授業 4</p> <p>第 15 回：「3 つの資質・能力」を踏まえた技能統合型テストまたはパフォーマンス課題及びループリックの検討と改善</p>
授業方法	講義、演習、実技
アクティブラーニングの視点	レポート作成 (各自が設定したテーマについてのリサーチとリサーチ内容に対する自分の考えや教科書の要点のまとめと自分の意見)、指導案・ワークシートなどの作成、模擬授業、ペアやグループによる協同学習など
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポートを作成する <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定された範囲を読んで要点をまとめ、自分の考えなどを書く。 ・課題についてリサーチし、自分の考えを書いて授業で発表できるようにする。 2) テスト、ループリックに基づくパフォーマンス課題のある指導案を作成する。 3) 模擬授業で必要となるフラッシュカードやワークシートなどを作成する。 4) 模擬授業に備えて十分に練習する。 5) Classroom English を使えるように練習する。
教科書	<p>英語授業デザインマニュアル 大修館</p> <p>とっておき！魅せる！英語授業プラン 思考プロセスを重視する [中学校・高校] CLIL の実践 明治図書</p> <p>中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (平成 30 年 7 月 文部科学省)</p>
参考書	<p>英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック (投野由紀夫著、大修館書店)</p> <p>英語語彙指導ハンドブック (門田修平他著、大修館書店)</p> <p>英語リスニング指導ハンドブック (鈴木寿一他著、大修館書店)</p> <p>英語リーディング指導ハンドブック (門田修平他著、大修館書店)</p> <p>英語音読指導ハンドブック (鈴木寿一他著、大修館書店)</p> <p>英語スピーキング指導ハンドブック (泉恵美子他著、大修館書店)</p> <p>英語運用能力が伸びる 5 ラウンドシステムの英語授業 (金谷憲他著、大修館書店)</p>
評価方法	レポート 20%、指導案・ワークシート・テスト・ループリックなど 40%、模擬授業 20%、授業での発言などの参加度 20% 定期考査ナシ
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験がある者が、その経験を活かして、指導者としての英語運用能力を育成する。

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	64170
科目名	水泳	授業コード	9416082、9416099
教員名	村田 和隆		
授業種別	集中授業	授業形態	実技
開講間隔		単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科水泳領域の指導に必要な基礎的な技能を習得する。 ・水泳指導における具体的な指導法や授業づくりの考え方について説明できる。 		
授業概要	<p>体育科の水泳領域の実技を通して、基本的な指導法について学ぶことが目的である。そのために、授業の各場面で学習内容を「発問」や「指示」にする活動を行うことで、実践に生かせる指導方法を身につけるようにする。また、実際に学習したことを実際の授業形式で模擬授業することで、授業づくりの考え方や授業マネジメントについて理解を深めていくようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回 水の一般的特性、対象に応じた指導、安全に関する留意点 第2回 水に慣れる遊び 第3回 浮く・もぐる遊び 第4回 浮く運動 第5回 泳ぐ運動① 第6回 泳ぐ運動② 第7回 クロール① 第8回 クロール② 第9回 平泳ぎ① 第10回 平泳ぎ② 第11回 ドル平 第12回 水中運動の実際① 第13回 水中運動の実際② 第14回 水中運動のプログラミング① 第15回 水中運動のプログラミング②</p>		
授業方法	理論を学ぶ講義と室内プールでの実技を行う。事前に実施するオリエンテーションに必ず出席すること。		
アクティブラーニングの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義では、グループワークやケーススタディを取り入れた授業を行う。 ・実技では、グループ内で協力しながら目標の達成を目指すとともに、安全に配慮した楽しい授業づくりにつなげる。 		
授業外学習	毎授業終了後、理論、技術および指導のポイントを「水泳実技テキスト」にまとめておくこと。		
教科書	適宜講義資料を配布する。		
参考書	<p>文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」2017 文部科学省 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」2018 文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」2019 文部科学省 「学校体育実技指導資料第4集『水泳指導の手引』」2014 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。</p>		
評価方法	授業への参加度、意欲 10%、実技試験 40%、理論試験 40%、ノート 10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼児教育・青少年教育・社会教育の事業を展開する民間企業での勤務経験、神戸市公共体育施設での勤務経験、スポーツクラブの運営・指導経験、兵庫県スポーツ協会が主催するタレント発掘・育成事業への参画経験等を活かし、水泳の理論講義及び実技指導を行う。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66610
科目名	陸上競技	授業コード	9416116、9416133、 9416150
教員名	松田 光弘		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている種目について基礎的技能を高め、示範・解説できるようにする。		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・体育実技指導者としての「走、跳、投」能力の基礎的技能向上を目指すとともに指導法についても学習する。 ・安全や健康管理に留意して授業に取り組む能力を養う。 		
授業計画	第 1回 オリエンテーション（陸上競技の歴史、受講に関する注意事項の説明） 第 2回 身体能力調査①（50m走、立幅跳、ハンドボール投げ） 第 3回 走運動①（短距離走における区間速度の変化から見る疾走の特徴） 第 4回 走運動②（短距離走のスタート局面の走技術） 第 5回 走運動③（短距離走の加速 フィニッシュ局面の走技術） 第 6回 走運動④（リレーにおけるバトンパス技術の習得） 第 7回 走運動⑤（リレー：記録会）、レポート提出 第 8回 走運動⑥（ハードル走におけるインターバルの走り方） 第 9回 走運動⑦（ハードル走におけるハードリング技術） 第 10回 走運動⑧（ハードル走記録会）、レポート提出 第 11回 跳運動①（走り幅跳びおよび三段跳びにおける跳躍技術の習得） 第 12回 跳運動②（走り幅跳びおよび三段跳び記録会）、レポート提出 第 13回 投運動①（砲丸投げにおける投てき技術の習得） 第 14回 投運動②（やり投げにおける投てき技術の習得） 第 15回 身体能力調査②（50m走、立幅跳、ハンドボール投げ）		
授業方法	実技を中心に行うが、随時審判法なども配布プリントを活用して学習する。		
アクティブラーニングの視点	実技を伴う授業であるため危険回避は重要な視点の一つである そのため本授業では下記を重視した授業を展開、協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・自己管理能力：自らを律して行動できる。 ・チームワーク・リーダーシップ：他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標実現のために動くことができる。 ・倫理観：自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。 		
授業外学習	授業内容についての事前学習および体調管理		
教科書	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房） 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「保健体育編」（文部科学省、東山書房）		
参考書	なし		
評価方法	汎用的技能（50%）、知識・理解（30%）（小レポート30%）、態度・志向性（20%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	中学および高校で保健体育科教員として20年以上指導してきた経験を活かして、生徒が意欲的に取り組むことができる陸上競技の授業法について指導する。また、生徒が陥りやすい課題を取り上げ、効果的な指導法についても指導していく。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66620
科目名	球技 I（ネット型スポーツ）	授業コード	9416167、9416184 9416201
教員名	村井 愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024 年度 前期
到達目標	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、スパイク、サーブ、レシーブ等の基本技術を習得し、模範を示すことができるようになる。サーブレシーブフォーメーションやスパイクレシーブフォーメーションを理解し実践できる。		
授業概要	バレーボールに必須の基本的個人技術、攻防のコンビネーション、チーム戦術とルール等を学習し、バレーボールに必要な判断力や行動を高めると同時にボール・ボディコントロールの技術を身につける。チーム学習を中心とした実技の授業方法で展開する。		
授業計画	第 1 回 シラバスを用いたガイダンス 第 2 回 ボールエクササイズ各種の実践（ボールを使った遊びや準備運動） 第 3 回 オーバーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 4 回 アンダーハンドパスの技術とタスクゲーム 第 5 回 スパイク・ブロックの技術とタスクゲーム 第 6 回 スパイクレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 7 回 サーブ・サーブレシーブの技術とフォーメーションの理解 第 8 回 基本技術テスト 第 9 回 リードアップゲーム 第 10 回 ソフトバレーボールの単元計画と指導法・ルール 第 11 回 チーム戦術の工夫とゲームの実践 第 12 回 小学校のソフトバレーボールの模擬授業 第 13 回 中学校のバレーボールの模擬授業 第 14 回 リーグ戦と審判法 第 15 回 まとめ		
授業方法	体育館で実技授業を行う。本学指定の体操服、体育館シューズを着用すること。 ケガやトラブルを防ぐために、装飾品は必ず外し長い爪は切っておくこと。		
アクティブラーニングの視点	（1）第 2～4 回についてはペアで活動し、お互いの技術を確認し合いながら練習を行う。 （2）第 5～14 回についてはグループで活動し、個人技術をつなげてチームプレーとして成立するように練習を行う。		
授業外学習	（1）バレーボールの基本技術（パス、トス、スパイク、サーブなど）の基準を設定しているので、その基準をクリアできるように個人技術のレベルアップのための自主練習を行う。 （2）授業資料（技術指導書や学習ノートなど）は、webclass にアップするので、必ず授業前に読んで準備するとともに、現在の課題を明確にして、次の授業に活かすようにする。 （3）授業外学習は 90 分以上する。		
教科書	指定なし		
参考書	松井泰二「バレーボール基本を極めるドリル」ベースボール・マガジン社（2015） 日本バレーボール協会「コーチングバレーボール＝Coaching Volleyball：基礎編」大修館書店（2017）		
評価方法	授業参加度 30% 授業レポート 40% 実技試験（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ、スパイクなど） 30%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66630
科目名	球技Ⅱ（ゴール型スポーツ）	授業コード	9427049、9427066 9427083
教員名	佐藤 亜紀子		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>球技の中のゴール型スポーツについて、共通したチームスポーツの特性と理論について理解し、体気づき、仲間との交流、体の調整、基礎的な体力要素である力強さ、柔らかさ、ねばり強さ、巧みさ等これらの運動課題（体操）を習得し、また、効果的に、楽しく学習できる指導方法が身につく。</p> <p>ゴール型スポーツスポーツに対するルール理解、技術、戦術を理解した上でゲームに用い、積極的に取り組むことができる。</p> <p>スポーツの楽しさを体現し、仲間や対戦相手への感謝の気持ち、コミュニケーション能力が身につく。</p>		
授業概要	<p>初回オリエンテーション時に競技を選択し、授業展開していく。その他のゴール型ゲームとして共通項を移行していく。ボールコントロールとボディコントロールを中心とした基本技能を習得し、オープンスキルに必要な状況判断と相手との駆け引きを理解し、それに伴うチームプレーとしての応用技能を習得する。また、単にゲームを楽しむだけでなく、ペア或いはチームでのコミュニケーションを深め他人と一緒に体を動かすことの楽しさを理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ウォーミングアップ、フットワークの重要性</p> <p>第3回 バasketボール・個人技術の習得（ドリブル）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第4回 バasketボール・個人技術の習得（パス、パス&ラン、シュート）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第5回 バasketボール・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第6回 バasketボール・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第7回 中間まとめ、ゴール型ゲームの共通項</p> <p>第8回 サッカー・個人技術の習得（ドリブル、パス）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第9回 サッカー・個人技術の習得（パス&ラン、シュート）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第10回 サッカー・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第11回 サッカー・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第12回 ハンドボール・個人技術の習得（ドリブル、パス）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第13回 ハンドボール・チームプレーの習得（チームオフェンスの組み立て方）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第14回 ハンドボール・チームプレーの習得（チームディフェンスの組み立て方）、簡易ゲームの企画運営</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業方法	<p>実技を中心に行うが、グループからの授業方法のプロセスを実践し、教員としての役割について理論と実践の両側面から学びの理解を深め、教員養成についての工夫を一緒に考える。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>協同学習（ペアワーク、グループワーク等）を適宜行う。</p>		
授業外学習	<p>ルールや技術、練習方法について、15分程度で良いので、本やインターネット等で事前に調べておくことが望ましい。</p>		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリント資料等を配布する。		
評価方法	授業態度、意欲、出席状況（取り組む姿勢）60%、課題スキル20%（技術、戦術、ルール理解）、2回のレポート及び最終レポート20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66640
科目名	球技Ⅲ（ベースボール型スポーツ）	授業コード	9427100、9427117 9427134
教員名	灘本 雅一		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	「ベースボール型」におけるソフトボール・ティーボール・キックベースボールの種目を実践しながら、スキルを身につけるとともに、中学校・高等学校の授業で実践する場合の工夫点等について理解する。また、ルールを十分に理解し、試合を運営できるように審判法についても理解する。		
授業概要	学習指導要領の中にある球技領域の「ベースボール型」について、実技をしながら、理解させていく。中学校や高等学校の授業で実践する際の独自のルールを工夫・開発し、ゲームで実践させる。また、正規のルールを理解させ、試合（ゲーム）を運営できる審判法を身につけさせる。		
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：ベースボール型運動の特徴と必要性 第3回：投捕技能:キャッチングスキル（ソフトボール・ティーボール） 第4回：打撃技能:バッティングスキル 第5回：ピッチングスキルと簡易ゲームの展開 第6回：守備パターンの理解(フォースアウト・タッチアウト) 第7回：攻撃パターンの理解(バント・ヒットエンドラン) 第8回：走塁や審判法の理解(インフィールドフライ等) 第9回：ルールや用具を工夫した試合(満塁スタート制) 第10回：走塁技能:ベースランニング 第11回：守備、攻撃パターン:併殺プレーとその防御 第12回：ゲームの進め方① 第13回：ゲームの進め方② 第14回：ルールや用具を工夫した試合 第15回：まとめ 第16回：ルール・技能理解・授業づくりの課題テスト		
授業方法	実技を中心に、必要に応じて講義を行う。		
アクティブラーニングの視点	教科指導に必要な理論理解に加え、投げる、打つ、捕るの技能を高めるためのドリルを行う。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	特になし		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
評価方法	授業への参加度、授業内試験(70%)により評価する。なお、授業への参加度とは出席状況（授業回数数の3分の1欠席がある場合は評価の対象としない）、受講態度等(30%)あり、実技テスト(30%)・ルール理解及び実施方法理解テスト(40%)で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66650
科目名	球技Ⅳ（ターゲット型スポーツ）	授業コード	9416218、9416235 9416252
教員名	平岡 義光		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	中学校・高等学校の教材としての球技（ターゲット型スポーツ）を、指導基盤としての自らの技術向上を目指すだけでなく、運動文化を理解するために、多角的な視点から実習することによって、教材化の視点形成を行うことを目標とする。		
授業概要	ターゲット型スポーツとしてのフライングディスク競技について、それぞれの運動学的、生理学的特性などの基礎知識に関する理解を深め、実践を通して技術を高めることを目標としている。また、種目別のトレーニング方法や指導方法、スポーツ傷害の特徴や予防法についても理解を深める。		
授業計画	第1回 フライングディスクの飛行特性を理解する 第2回 スロー技術1：バックハンドスロー 第3回 スロー技術2：フォアハンドスロー 第4回 スロー技術3：カーブスロー、アップサイドダウンスロー 第5回 ストラックアウト 第6回 ドッジビー 第7回 ディスクゴルフ1 第8回 ディスクゴルフ2 第9回 アキュラシー 第10回 ディスタンス 第11回 SCF 第12回 アルティメット1 第13回 アルティメット2 第14回 アルティメット3 第15回 まとめ		
授業方法	実技形式		
アクティブラーニングの視点	毎授業後に復習し、練習に取り組むこと。 授業時のゲームや試合形式に積極的に取り組み、ディスカッションやグループ学習を取り入れ発表など行う。		
授業外学習	適宜課題を与える。また、自主的に課題技の復習を行う。		
教科書	なし		
参考書	授業中に適宜紹介する		
評価方法	実技試験90%および提出物10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	フライングディスクを使用したアルティメット競技において20年以上競技経験を続け、世界大会に6回出場し、世界大会準優勝の経験を持ち、地区選抜代表監督や大学チームのコーチなど指導者として活動する教員が、フライングディスクを用いたターゲット型スポーツを指導する。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66660
科目名	野外活動	授業コード	9427151
教員名	灘本 雅一		
授業種別	集中授業	授業形態	実技
開講間隔		単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>学生の技術レベルに対応した滑走能力を身に付け、自由に斜面を滑り降りることができる。</p> <p>スキーを通して野外活動の意義や教育的価値、指導方法、安全管理を理解する。</p> <p>スキーの文化的価値についても理解できる。</p>		
授業概要	<p>本授業では、事前学習と学外での集中実習によって、野外における活動の基本的な行動の仕方とスキー技術の基礎を身に付ける。また、集団生活を通してコミュニケーション能力、社会性を養うとともに、主体的に行動する態度と実践能力を高める。</p>		
授業計画	<p>第1回：野外教育の計画と実施について</p> <p>第2回：現代社会と野外活動の意義</p> <p>第3回：野外活動と教育</p> <p>第4回：スキースポーツの分類と実習のためのオリエンテーション</p> <p>第5回：学外実習①開校式、班分けテスト(1日目午前)</p> <p>第6回：学外実習②アルペンスキー実習①(1日目午後)</p> <p>第7回：学外実習③スキーと安全(1日目夜)</p> <p>第8回：学外実習④アルペンスキー実習②(2日目午前)</p> <p>第9回：学外実習⑤アルペンスキー実習③(2日目午後)</p> <p>第10回：学外実習⑥スキーの歴史(2日目夜)</p> <p>第11回：学外実習⑦アルペンスキー実習④(3日目午前)</p> <p>第12回：学外実習⑧アルペンスキー実習⑤(3日目午後)</p> <p>第13回：学外実習⑨スキーの運動特性(3日目夜)</p> <p>第14回：学外実習⑩アルペンスキー実習⑥(4日目午前)</p> <p>第15回：学外実習⑪アルペンスキーテスト(4日目午後)</p> <p>第13回：まとめ(4日目夜)</p>		
授業方法	<p>4泊5日の合宿形式で冬季の実施を予定している。スキー用具類(スキー板、ストック、ブーツ、ウェア、ゴーグル、手袋、ヘルメットなど)については、自前のものがない学生はレンタル可能である。合宿費用(宿泊代、交通費、レンタル代)として5万円程度必要である。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>スキー実習では、グループ活動などを通じて、主体的に技術の獲得を目指す活動にも取り組む。</p> <p>また、スキー技術や訪問先の情報についてPC等を利用して情報を収集する活動に取り組む。</p>		
授業外学習	<p>参加者を対象に事前オリエンテーションを実施するので、必ず日時(後日提示する)を確認の上、参加のこと。</p>		
教科書	適宜指示する。		
参考書	全日本スキー教程(全日本スキー連盟)		
評価方法	授業への取り組み(50%)、実技テスト(30%)、レポート(20%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	高等学校教員として46年間の指導経験を持つとともに、全日本スキー連盟公認スキー指導員として41年間の指導実績を有している。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66670
科目名	器械運動	授業コード	9416269、9416286 9416303
教員名	山本 清文		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動の実技活動を通して技能を身につけることができる。 ・指導過程の専門的知識を身につけることができる。 ・指導方法の専門的知識を身につけることができる。 		
授業概要	器械運動領域のマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動について、基礎的な導入から技の習得を目指し実技を行う。また、運動の観察の方法を理解し、技ができる楽しさを味わい、自主的な学習が出来るようにする。		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について）</p> <p>第2回：マット運動の導入</p> <p>第3回：マット運動の回転系・巧技系の基礎（導入運動、前転、後転、バランス）</p> <p>第4回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（開脚前転、伸膝後転、倒立前転）</p> <p>第5回：マット運動の回転系・巧技系の発展的な技（伸膝前転、とび前転、後転倒立） 鉄棒運動の基礎（逆上がり、前回り下り）</p> <p>第6回：マット運動の回転系の技（側方倒立回転、くび跳ね起き、頭跳ね起き） 鉄棒運動の基礎（片膝かけ上がり、け上がり）</p> <p>第7回：マット運動の回転系の技（前方倒立回転とび、側方倒立回転とび） 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転）</p> <p>第8回：マット運動の回転系・巧技系連続技 鉄棒運動の支持技（後方支持回転、前方支持回転）</p> <p>第9回：鉄棒運動の懸垂技（棒下振りとび下り、横とびこし下り）</p> <p>第10回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の基礎（開脚跳び、屈身跳び）</p> <p>第11回：鉄棒運動の連続技 跳び箱運動の切り返し系の技（かかえ込み跳び、屈身跳び）</p> <p>第12回：鉄棒運動の技の組み合わせ（連続技） 跳び箱回転系の技（台上前転、くびはね跳び、頭はね跳び、前方倒立回転跳び）</p> <p>第13回：マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱</p> <p>第14回：マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱</p> <p>第15回：マット運動の回転系・巧技系連続技、鉄棒運動の連続技、跳び箱</p>		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやグループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	自主的に課題技の学習を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	<p>教師のための器械運動指導法シリーズ・マット運動、金子明友著、大修館書店</p> <p>教師のための器械運動指導法シリーズ・鉄棒運動、金子明友著、大修館書店</p> <p>教師のための器械運動指導法シリーズ・跳び箱・平均台運動、金子明友著、大修館書店</p>		
評価方法	授業中行なう実技テスト50%、レポートおよび発表30%、授業への参加度20%で評価する。積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	器械体操の業務に携わった経験のある教員が、器械運動の講義について担当する。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66680
科目名	体づくり運動	授業コード	9427168、9427185 9427202
教員名	山本 清文		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024 年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、体育・スポーツ・健康づくりに必要な基礎的な運動を習得することができる。 ・自分の体と心の関係や、動きに気付き、意識を高めることができる。 ・目的に応じたプログラムを作成し、指導を行なうことができる。 		
授業概要	体を動かすことが、心と体に良い影響を及ぼすことに気付き、仲間と交流するための運動を体験し理解する。また、多様な動きをつくる運動や体力を高める運動を解説する。		
授業計画	第 1 回 : オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について） 第 2 回 : ストレッチ 第 3 回 : 体ほぐしの運動① 第 4 回 : 体ほぐしの運動② 第 5 回 : 体のバランスをとる運動 第 6 回 : 歩く、走る 第 7 回 : 跳ぶ 第 8 回 : 用具を操作する運動① 第 9 回 : 用具を操作する運動② 第 10 回 : 力試しの運動① 第 11 回 : 力試しの運動② 第 12 回 : 体力を高める運動の組み合わせ（自重、器具を利用したエクササイズ） 第 13 回 : 巧みな動きを高める運動の組み合わせ 第 14 回 : 力強い動きを高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践①） 第 15 回 : 動きを持続する能力を高める運動の組み合わせ（目的に応じた運動のプログラム作成と実践②）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	授業内で、各運動について実践するのみでなく、指導者の視点に立って課題が解決できる能力を養うためにディスカッションやグループ学習を取り入れ発表など行なう。		
授業外学習	プログラム作成や指導の準備を行なう。		
教科書	『子どもにおける「体づくり運動」の基礎と実践』 B5 判・並製・158 ページ 定価（本体 2,500 円+税） ISBN 978-4-7823-0609-3		
参考書	中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）解説 保健体育編 文部科学省 高等学校学習指導要領解説（平成 30 年告示）解説 保健体育編 体育編 文部科学省		
評価方法	授業中行なう実技テスト 50%、レポートおよび発表 30%、授業への参加度 20% で評価する。積極性、リーダーシップ、コミュニケーション能力、集中力を高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	体づくり運動の業務に携わった経験のある教員が、体づくり運動の講義について担当する。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66690
科目名	武道	授業コード	9416320、9416337 9416354
教員名	伊藤 剛		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週 1 回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024 年度 前期
到達目標	中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている基本動作と技について示範・解説できる。		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校及び高等学校学習指導要領解説保健体育編に例示されている柔道の基本動作と投げ技・固め技の練習を中心とする。 ・安全で効果的な指導手順、練習や試合の行い方などについて解説する。 		
授業計画	第 1 回 オリエンテーション（柔道着の着方と礼法） 第 2 回 基本動作の習得（受け身や体さばき） 第 3 回 投げ技の習得①（膝車、支え釣り込み足） 第 4 回 投げ技の習得②（体落とし） 第 5 回 練習法の理解（かかり練習、約束練習） 第 6 回 固め技の練習①（けさ固め、横四方固め、上四方固め） 第 7 回 固め技の練習②（抑え技への入り方と攻防） 第 8 回 スキルテスト（受け身と既習技のスキルテスト） 第 9 回 投げ技の習得③（大腰、釣り込み腰） 第 10 回 投げ技の習得④（背負い投げ、払い腰） 第 11 回 投げ技の習得⑤（大内刈り、小内刈り、大外刈り） 第 12 回 技の連絡（投げ技の連絡） 第 13 回 試合①（簡易試合と審判法） 第 14 回 試合②（簡易試合と審判法） 第 15 回 授業のまとめ		
授業方法	柔道場において、柔道着を着用して実技を行う。		
アクティブラーニングの視点	ビデオ等の ICT 機器の使用、共同学習（ペアワーク・グループワーク）		
授業外学習	毎授業ごとに授業内容についてのミニレポートを提出する。		
教科書	特に指定しない。必要な資料は随時配付する。		
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説保健体育編』『高等学校学習指導要領解説保健体育編』		
評価方法	授業参加度および貢献度 50%、スキルテスト 30%、レポート 20%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66700
科目名	ダンス	授業コード	9416371、9416388 9416405
教員名	春名 秀子		
授業種別	週間授業	授業形態	実技
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	現代的ダンス、創作ダンスの基礎や応用を学び 自分で考える力、物事を動かす力、能動的に物事に取り組む力を磨き ダンスの授業を現場で指導実践できる技術を習得できる。		
授業概要	本講義では、踊る・創る・観る力を高めると共に、ダンスの基礎的能力を進化させ、 グループ、個人での表現や動きを、仲間達と高め合いながら体得することを目的とする。		
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業概要、目標、ルール、授業の進め方について、アンケートなど） 第2回：ボディメイク1（ストレッチ&筋トレ&ダウン、アップ） 第3回：ボディメイク2（ストレッチ&アイソレーション） 第4回：ボディメイク3（アイソレーション&ステップ） 第5回：ボディメイク4（ステップ&ターン&ジャンプ） 第6回：ボディメイク全工程★ストレッチ、筋トレ、アイソレ、ステップ、ターン、ジャンプ 第7回：ダンスの指導法1（ステップ&ターン） 第8回：創作・音や曲の世界を表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第9回：創作・日常動作や物を使って表現（グループでディスカッションし創り上げる） 第10回：動画で作品鑑賞し、見る目を養う 第11回：グループで小作品を創作1（準備） 第12回：グループで小作品を創作2（基礎固め） 第13回：グループで小作品を創作3（まとめ） 第14回：グループで小作品を創作4（質上げ） 第15回：創作練習と発表（授業内テスト）		
授業方法	実技形式とする。		
アクティブラーニングの視点	ダンス小作品の創作。共同学習（グループワーク）		
授業外学習	必要に応じて、作品作りにおけるグループ練習を行う。 作品の音楽編集などの準備を行う。		
教科書	必要に応じ適時資料を配布する。		
参考書	なし、随時資料を配布		
評価方法	各課題の完成度（60%）と授業への参加状況（40%） 完成度は、表現力・独創性・指導力の観点から評価を行い、 参加度は、積極性・コミュニケーション力・協調性の観点より評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場の体育科教員としての教科指導の経験、大阪府の保健体育科指導教諭としての教員育成の経験を 活かしてダンスの授業の実践を行う。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66710
科目名	体育原理	授業コード	9416422
教員名	前林 清和		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	身体文化の多様性について視野を広げ、体育原理の変遷を理解することによって、「体育」と「スポーツ」について意識的に問題を発見し、その問題について多面的な思考のアプローチをすることの重要性について学ぶ。また体育・スポーツ概念の本質について再考し、それをふまえた上で今後の体育やスポーツの在り方を検討する。		
授業概要	「体育とはなにか」という根源的な問いに対して、これまでの人類の発達を背景を基に、その意義について概観し、現代社会における体育・スポーツの諸問題について理解を深めることを目的としている。また現在同義語のように解釈されている「体育」と「スポーツ」の本質や理念および歴史や思想を理解するとともに、それぞれの存在理由や意義について哲学的に考究する。		
授業計画	第1回 体育原理とは何か 第2回 「体育」、「スポーツ」の概念 第3回 身体文化の歴史と変遷 第4回 近代体育の成立 第5回 近代体育の思想的・社会的背景 第6回 運動の持つ可能性 第7回 体育と人間形成 第8回 体育と身体形成 第9回 身体と心 第10回 プレイ論 第11回 スポーツと倫理（人権論含む） 第12回 スポーツマンシップとフェアプレイ 第13回 スポーツと技術革新 第14回 体育・スポーツの可能性 第15回 総括 知識習得確認レポートの作成		
授業方法	テキストにそって講義中心に行うが、関連したビデオを鑑賞したり、意見交換を行ったりする。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートを活用したりしながらアクティブラーニングを取り入れた授業を展開する。また、クリッカーを使い、双方向型の授業を展開する。		
授業外学習	テキストで予習復習を行うこと。		
教科書	『スポーツの思想』晃洋書房 菊本智之 2,200円（税別）		
参考書	適宜指示する。		
評価方法	確認テスト20%×3回 授業中のレポート40%で総合的に評価する。なお、原則として5回以上欠席した場合、評価しない。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66720
科目名	運動生理学	授業コード	9416439
教員名	灘本 雅一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	本科目は教職課程認定科目で、中高教科に関する科目(必修)である、中高教科を教授するに足る専門的知識及び技能を修得することを一目標とする。生理学(運動生理学を含む)では、生体の様々な仕組みと機能について体系的に学び、運動理論や運動に伴う生態機能の変化についての理解を深める。また、スポーツ各分野におけるトレーニング効果の更なる向上や健康の維持・増進に役立つような知識を習得する。		
授業概要	この授業では、運動をしているときのヒトの生理機構を解説することにより、ヒトの基本的な生活活動と環境の変化に適応するしくみを理解させることを目的とする。具体的には、筋肉のしくみや働きから、運動時と休養時の循環器系の機能変化などを中心とする自律神経系の働き、運動に関連する脳機能などについて視聴覚資料を使いながら解説する。		
授業計画	第1回目：骨格の構造と機能 第2回目：骨格筋のタイプと筋収縮のエネルギー 第3回目：呼吸器の機能 第4回目：循環器の機能 第5回目：脳・神経系の機能 第6回目：エネルギー代謝 第7回目：糖・脂質・タンパク質の代謝 第8回目：体温調節機能 第9回目：免疫系の機能 第10回目：内分泌系の機能 第11回目：生活習慣病と運動 第12回目：体力向上と運動プログラム 第13回目：運動処方論の理論と実践 第14回目：発育発達と栄養 第15回目：子供の生活習慣病と運動 期末試験		
授業方法	講義を中心に行い、トレーニング室での実験も適宜行う。		
アクティブラーニングの視点	歩行、ランニングを行ってもらい、自覚的運動強度と心拍数から運動強度を算出する。 安全限界と有効限界を理解することで、最適な運動強度の理解を深める。 筋力運動の場合、自覚的疲労感を感じてもらうことで、最適強度を体験する。		
授業外学習	適宜、課題を与えグループ発表を実施する。		
教科書	新 スポーツ生理学 (やさしいスチューデントトレーナーシリーズ) 嵯峨野書院、一般社団法人 メディカル・フィットネス協会 監修		
参考書	公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会テキスト (上) (下) 健康運動実践指導者養成用テキスト 健康運動指導の手引き		
評価方法	授業への参加度 50% 期末試験 40% 小テスト 10%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】【養護】	科目コード	66730
科目名	生理学	授業コード	9416456
教員名	栗岡 住子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	1) 身体の構造と機能を理解する 2) 発育発達に関わる脳機能の成長を理解する 3) 成長期の運動能力及び特性を理解する		
授業概要	近年、子どもの体力低下が続いており、発育・発達が著しい幼児・児童期において、積極的な運動や遊び、身体活動量を増加させるために働きかけることは、小児生活習慣病の予防や運動能力・体力向上に大変重要である。しかし、ただ単に運動・スポーツを指導するだけでは、スポーツ障害やバーンアウト（燃え尽き症候群）などの問題も指摘されており、身体の構造や機能、スポーツ障害に対する基礎知識を踏まえたうえでの指導が望まれる。 本講義では、骨格筋・骨・内臓の臓器などの基本的な身体構造とその機能について理解することをねらいとしている		
授業計画	第1回：オリエンテーション（講義の目的と評価について） 第2回：循環器について①（心臓のしくみと働きについて理解する） 第3回：循環器について②（血液・血管のしくみと働きについて理解する） 第4回：呼吸器について（肺のしくみと働きについて理解する） 第5回：骨について①（身体を支える骨の名称を理解する） 第6回：骨について②（骨の成長と老化について理解する） 第7回：骨格筋について①（身体の動きに関わる筋肉の名称を理解する） 第8回：骨格筋について②（筋の構造と特性について理解する） 第9回：神経系について①（脳のしくみと働きについて理解する） 第10回：神経系について②（脳の成長に対する運動アプローチについて） 第11回：免疫について（免疫に関わる細胞とその働きについて理解する） 第12回：消化と吸収について（消化系のしくみと機能を理解する） 第13回：その他の臓器について①（肝臓、膵臓、腎臓のしくみと働きについて理解する） 第14回：その他の臓器について②（肝臓、膵臓、腎臓のしくみと働きについて理解する） 第15回：まとめ（授業の振り返りとテスト対策） 期末試験		
授業方法	講義形式		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、グループ討議やプレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	毎回の授業の復習と、次回授業内容の予習をする。		
教科書	しくみと病気がわかるからだの辞典 田沼 久美子 監修 益田 律子 監修 三枝 英人 監修 成美堂出版 2006年05月01日発行 ISBN:978-4-415-03139-2		
参考書	石川隆『カラー図解 生理学の基本が分かる辞典』西東社、2012年 彼末一之、能勢博『やさしい生理学』（改訂第6版）南江堂、2016年		
評価方法	授業への貢献度（授業中の積極的な質問や意見）20%、期末試験 80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	専門職として医療機関での業務に携わった経験を持つ教員が、生理学について講義する。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66740
科目名	スポーツ心理学	授業コード	9417227、9427219
教員名	木村 佐枝子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期 2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ心理学の専門知識について理解を深め、自他のスポーツ・運動への取り組みを、心理学的観点から説明することができる。 ・健康、スポーツ関連の諸問題に対して、必要な指導や支援を行うための基礎知識や技能を修得する。 		
授業概要	<p>人の行動のメカニズムを科学的に解明しようとする心理学の知見は、指導者として、あるいはスポーツ／運動の実践者として、充実したスポーツ活動を展開するうえで有益なものとなる。本講義では、アスリートのみならず、健康づくりに必要な心理学的素養を深めるとともに、効果的なストレスマネジメント及び運動行動変容の理論について概説する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：スポーツ心理学の歴史と概要 2. スポーツとパーソナリティ 3. スポーツにおける動機づけ 4. メンタルトレーニング①：「あがり」と「スランプ」の理解と対処 5. メンタルトレーニング②：認知的アプローチ、リラクゼーション 6. 運動・スポーツと心身の健康 7. コーチングの心理 8. 指導者のメンタルマネジメント 9. 行動変容の理論 10. 行動変容理論の実践的適用 11. 実習：行動変容を意図したプログラム開発及びカウンセリング 12. ストレスの考え方と評価法 13. ストレスマネジメントとカウンセリング 14. 運動の健康行動（禁煙など）への影響 15. 授業内小テストおよびまとめ 		
授業方法	講義、一部演習を含む		
アクティブラーニングの視点	教科書の内容から提示されたテーマに従い、協同学習によりグループの意見をまとめる。その後、グループごとに意見を発表し、個人で講義全体の振り返りとして小レポートを書く。		
授業外学習	毎回の講義でのグループディスカッションの題目は講義の前週にあらかじめ用紙で提示される。各自、ワークシートを記載の上で講義に臨む必要がある。		
教科書	指定しない。随時講義で資料を配付する。		
参考書	中込四郎 『スポーツ心理学』, 北大路書房, 2018		
評価方法	ミニッツペーパー（50%）と、授業内小テスト（50%）によって評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66750
科目名	運動学	授業コード	9427236
教員名	三木 伸吾		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間学的発生論の立場から運動を分析するための視点を獲得することができる ・身体知の概念と学習者の創発能力、指導者の即発能力の関係を理解し説明することができる ・指導者としての資質能力として、発生論的運動学の知見を活用できるようにするための学びが修得されている 		
授業概要	<p>本授業は、中高保健教員免許の取得要件となっている。</p> <p>スポーツ運動学は教育的視点を多く含み、スポーツや体育指導者が運動学習に内存する法則性を掴み、運動の発生過程に対して積極的に働きかけていけるようにするための基礎的認識を提供するものである。スポーツ運動学の理論は、人間の運動の本質に迫りながら、その発生様態や発達、形態について諸認識を統合し、実践的教育活動に効果的に利用されることをうたっている。本授業では、その理論に基づき、スポーツや体育の運動場面での指導の促進と、より高いレベルへの引き上げに必要なとする原理・原</p>		
授業計画	<p>第1回 スポーツ運動学の学びのねらいと内容</p> <p>第2回 人間の運動発達の特徴</p> <p>第3回 運動に関する知とは何か</p> <p>第4回 人間の運動認識の仕方①</p> <p>第5回 人間の運動認識の仕方②</p> <p>第6回 運動観察の実践 運動構造</p> <p>第7回 運動観察の実践 運動発達①</p> <p>第8回 運動観察の実践 運動発達②</p> <p>第9回 運動の観察演習 中間レポート</p> <p>第10回 運動感覚指導の考え方①</p> <p>第11回 運動感覚指導の考え方②</p> <p>第12回 運動学習と動感形成位相</p> <p>第13回 教師に求められる実技力</p> <p>第14回 運動を覚える力と教える力の関係</p> <p>第15回 まとめ 最終レポート</p>		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を中心に展開するが、身体を動かし演習も適宜織り交ぜる。 		
アクティブラーニングの視点	<p>講義中に、近くの席で小グループを作り、自身の運動体験事例を用いて動感学習・指導に関するディスカッションや意見交換を行う。</p>		
授業外学習	<p>2単位の修得には、15回の授業のほかに、合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要です</p> <p>「事前学習では、自身の運動学習体験の事例をノートにまとめる」「事後学習では、各回の講義内容から自身の事例を運動学の理論で説明できるようにプリントの内容をノートにまとめる」</p> <p>30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習（復習）を目安に学習に取り組んでください</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業テーマを予告やシラバスで確認し、その内容に即した具体的事例等を考えておく ・配布プリントや参考書等を活用し、用語や内容の先行的理解を深 		
教科書	三木四郎『ボール運動の運動感覚指導』明和出版 2018		
参考書	金子明友『スポーツ運動学』明和出版 2009		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験 60%、レポート 20%、授業への参加度 20%（教員からの問いに対する回答、演習への積極的参加などを評価する）小テストは返却する。 		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<p>中学校教諭経験のあるものが、その経験を生かして実際に運動が苦手な生徒とその具体的指導法などの事例をあげながら、発生運動学の理論と活用方法を指導する。</p>		

教職科目	【中高（保体）】【養護】	科目コード	66760
科目名	衛生学	授業コード	9427253
教員名	栗岡 住子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	衛生学が「保健」の領域全般に関与し、体育・スポーツとの関連が深いことを理解する。また、「公衆衛生学」への発展の基礎とする。		
授業概要	健康に生き、健やかに老いることは、世の中に共通する最大の課題となっている。本講義では、健康の保持と増進、疾病の予防の観点から、QOL(Quality of Life)向上のための方法論について総合的に学ぶ。また、産業構造の変革に伴う人口の老化、疾患、死因構造の変化や保健医療、地域での健康づくり、プライマリーケアなどについても理解を深める。		
授業計画	<p>① 衛生学とは - 健康の定義、ヘルスプロモーション、健康づくりのあり方、インフォームドコンセント等について</p> <p>② 環境問題の現状と対策 - 日本における人口問題と健康管理、</p> <p>③ 産業保健活動の意義と活動</p> <p>④ 職業性疾患とその管理</p> <p>⑤ 産業医活動について</p> <p>⑥ 労働衛生管理について</p> <p>⑦ 化学物質の体内動態と毒性</p> <p>⑧ 化学物質の健康影響と中毒性疾患</p> <p>⑨ 環境ストレス応答と適応機構</p> <p>⑩ 国民の栄養の現状と課題</p> <p>⑪ 感染症と予防</p> <p>⑫ 循環器疾患と予防</p> <p>⑬ 生活習慣病(NCD) 概論と特定健診・保健指導</p> <p>⑭ 介護予防と運動 - 保健医療制度及び関連法規と運動の必要性</p> <p>⑮ 高齢化社会における健康づくり</p> <p>期末試験</p>		
授業方法	全受講生に対して、個々人の教科書における発表担当箇所と発表日を決め、各回の授業で発表とディスカッションを行い、その後にとまとめの講義を行う。		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、プレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	新聞などで報道されている社会的な問題において、特に環境・健康などにかかわるものを注意深く読むようにする。また、それぞれについてどのような対策がなされたのか、理解する。		
教科書	萩原・栗岡ら「わかりやすい 公衆衛生学入門」株式会社ERP、2022年		
参考書	『図説 国民衛生の動向 2021/2022』厚生労働統計協会 2022年 鈴木庄亮『シンプル衛生公衆衛生学 2021』 南江堂、2021年 『国民衛生の動向・厚生指標 2021/2022』 厚生労働統計協会、2022年 授業中に適宜紹介する。		
評価方法	発表内容の評価 40%、授業への参加度(グループディスカッションへの貢献、授業中の意見や質問) 20%、期末試験 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校保健・産業保健・医療機関等の公衆衛生業務に携わった経験を持つ教員が、衛生学について講義する。		

教職科目	【中高（保体）】【養護】	科目コード	66770
科目名	公衆衛生学	授業コード	9416473
教員名	栗岡 住子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	我々の健康に及ぼす社会・環境に関する主な事項について、その特徴、問題点、施策等について理解する。本講義を通じて多様な社会環境と健康問題を多角的に捉える。		
授業概要	公衆衛生学は、多様な社会・環境と人の健康に関わる問題を多面的に捉え、科学的に解明する学問である。本講義では、保健、医療の分野を中心に最新の動向、対策及び課題を学び、我々の健康に影響を及ぼす社会、環境に関する理解を深める。		
授業計画	<p>① 公衆衛生学とは - 我が国及び諸外国の健康に関する諸問題（身体活動・運動ガイドライン等）</p> <p>② 統計から見た国民の健康 - 健康づくりのための身体活動基準 2013 とアクティブガイド</p> <p>③ 疫学について - エビデンスに基づく健康づくり</p> <p>④ 国民栄養と成人保健</p> <p>⑤ 母子保健の現状</p> <p>⑥ 学校保健概説</p> <p>⑦ 社会保障制度について</p> <p>⑧ 老人保健制度について</p> <p>⑨ 産業保健制度について （現職学校教員から話題提供を得る）</p> <p>⑩ 環境と健康</p> <p>⑪ 食の安全</p> <p>⑫ メンタルヘルス</p> <p>⑬ 健康づくり施策と健康運動指導士の社会的役割</p> <p>⑭ 健康日本21（第二次）における社会環境の整備</p> <p>⑮ 公衆衛生のこれから</p> <p>期末試験</p>		
授業方法	講義形式(必要に応じてグループワークや演習を行う)。		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、グループ討議やプレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	授業外学習 新聞などのマスコミを通じて社会における公衆衛生学的な施策について学ぶ		
教科書	萩原.栗岡ら「わかりやすい 公衆衛生学入門」株式会社ERP, 2022年		
参考書	『図説 国民衛生の動向 2021/2022』厚生労働統計協会 2022年 鈴木庄亮『シンプル衛生公衆衛生学 2021』 南江堂, 2021年 『国民衛生の動向・厚生 の指標 2021/2022』 厚生労働統計協会, 2022年 授業中に適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度(授業中の積極的な意見や質問) 20%、期末試験 80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校保健や産業保健などの公衆衛生業務に携わった経験を持つ教員が、公衆衛生学の理論と実践について講義する。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66780
科目名	スポーツ経営管理学	授業コード	9427270
教員名	村井 愛美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	体育・スポーツ分野における経営と戦略等について、現代的な問題を念頭に理解を深める。また、学校教育現場におけるスポーツ経営理論と具体的手法について学ぶ。		
授業概要	学校における体育活動・運動部活動や地域社会等におけるスポーツ振興の諸問題には、経営学が密接な関係性を持っている。本講義では、体育・スポーツ領域に必要な経営学の基礎理論を学び、体育・スポーツ経営の実践能力の基盤となる専門的知識について理解を深めることを目的としている。		
授業計画	第1回：スポーツ経営学・管理学とは 第2回：スポーツの自治－ガバナンスとコンプライアンス①（スポーツの自治） 第3回：スポーツの自治－ガバナンスとコンプライアンス②（コンプライアンスとは） 第4回：我が国のスポーツを取り巻く現状と課題「する・みる・ささえるスポーツ」 第5回：スポーツ経営の概念と構造 第6回：スポーツイベントと経営資源 第7回：スポーツ組織のマネジメント 第8回：経営組織の環境適応と戦略 第9回：スポーツ政策とスポーツ振興 第10回：スポーツ仲裁①（スポーツ仲裁とは） 第11回：スポーツ仲裁①（スポーツに関する紛争解決と問題点） 第12回：スポーツにおけるリスクマネジメント①（法的責任や注意義務） 第13回：スポーツにおけるリスクマネジメント②（スポーツにおける事故事案） 第14回：スポーツ経営に関する現代的課題①（スポーツ組織と指定管理者制度） 第15回：スポーツ経営に関する現代的課題②（スポーツ組織の法人格）		
授業方法	講義形式を中心とし、適宜グループワーク、発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアグループワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	WEB、新聞、雑誌、書籍等でスポーツ経営の事例について、情報収集に取り組むこと。		
教科書	適宜、資料を配布する。		
参考書	八代勉・中村平(編)「体育・スポーツ経営学講義」大修館書店 山下秋二・中西純司・畑攻・富田幸博(編)「[改訂版]スポーツ経営学」大修館書店 原田宗彦・小笠原悦子(編)「スポーツマネジメント」大修館書店		
評価方法	授業中に行う小レポート30%、発表30%、レポート20%、授業への参加度20%の割合で評価する。授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66790
科目名	スポーツ社会学	授業コード	9416490
教員名	村田 和隆		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	現代の運動・スポーツ、健康づくりに関する基本的概念を学び、現代スポーツを取り巻く様々な社会的課題における問題解決能力を養う。		
授業概要	現代社会におけるスポーツの様々な現象を社会学的視点からとらえ、スポーツの持つ役割や機能、社会的価値などを考察する。また、スポーツと社会の関係性に関する知的関心を深めることを目的としている。		
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方、評価の方法について。スポーツの概念と歴史について） 第2回 社会の中のスポーツ 第3回 我が国のスポーツ施策 第4回 スポーツの社会的基盤（地域におけるスポーツ振興方策と行政） 第5回 スポーツと教育 第6回 スポーツとメディア（1）消費社会におけるスポーツ 第7回 スポーツとメディア（2）スポーツジャーナリズム 第8回 スポーツとメディア（3）スポーツを伝える仕事の実際 第9回 スポーツと地域社会（1）総合型スポーツクラブの現状 第10回 スポーツと地域社会（2）スポーツがつくる社会空間 第11回 スポーツと地域社会（3）生涯スポーツ 第12回 スポーツイベントの機能 第13回 商業主義とスポーツ 第14回 アスリートのキャリアトラジション 第15回 スポーツ社会学の最新の動向		
授業方法	講義形式を中心とし、適宜グループワーク、発表を行う。		
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク、グループワーク等）を適宜行う。		
授業外学習	WEB、新聞、雑誌、書籍等で現代社会におけるスポーツの現象について、情報収集に取り組むこと。		
教科書	資料を適宜配布する。		
参考書	森川貞夫・佐伯 聡夫「スポーツ社会学講義」大修館書店 池田勝・守能信次（編）「講座・スポーツの社会科学1 スポーツの社会学」杏林書院		
評価方法	授業中に行う小レポート30%、最終レポート40%、授業への参加度30%の割合で評価する。 授業への参加度は、教員からの質問等に応じて的確に回答していくことを標準とし、論理的、積極的な発言をより高く評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	幼児教育・青少年教育・社会教育の事業を展開する民間企業での勤務経験、神戸市公共体育施設での勤務経験、スポーツクラブの運営・指導経験、兵庫県スポーツ協会が主催するタレント発掘・育成事業への参画経験等を活かし、スポーツ社会学について講義をする。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66800
科目名	アスレティックトレーニング論	授業コード	9416507
教員名	藤井 均		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>1. 海外および本における「トレーナー」、「アスレティックトレーナー」の歴史について理解する。</p> <p>2. アスレティックトレーナーに求められる役割について理解する。</p> <p>3. 学校教育現場において応えるアスレティックトレーナーの基礎的知識や技術について理解する</p>		
授業概要	<p>スポーツフィールドにおいてスポーツ事故が発生した場合、スポーツ指導者としてそれらに対応する必要に迫られることとなる。スポーツ傷害としての急性外傷や慢性障害、内科系疾患の代表例を紹介する。</p> <p>また、それらスポーツ傷害の発要因を理解することによって可能となる予防措置や、スポーツ傷害発生時に非医療者に求められる範囲での対処法をを解説する。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンスアスレティックトレーニングとは</p> <p>第2回 アスレティックトレーナーの歴史</p> <p>第3回 アスレティックトレーナーの役割</p> <p>第4回 筋・骨格と機能解剖</p> <p>第5回 スポーツ現場における救急処置</p> <p>第6回 スポーツ傷害の予防とコンディショニング</p> <p>第7回 スポーツ傷害の系統的評価法（Ⅰ）評価手順</p> <p>第8回 スポーツ傷害の系統的評価法（Ⅱ）評価結果の解釈</p> <p>第9回 スポーツ傷害の評価（足部、下腿）</p> <p>第10回 スポーツ傷害の評価（膝・大腿部）</p> <p>第11回 スポーツ傷害の評価（肩）</p> <p>第12回 スポーツ傷害の評価（肘・）</p> <p>第13回 スポーツ選の内科的疾患</p> <p>第14回 講義のまとめ</p> <p>第15回 理解度確認テスト</p>		
授業方法	講義形式で授業を進行するが、講義中に受講者の理解度を確認するために口頭試問も行う。		
アクティブラーニングの視点	基本は講義で授業を進行するが、スポーツ傷害の検査や徒手療法などの演習も行う予定である。その際には受講者が積極的に演習に参加することを期待する。		
授業外学習	<p>1. 毎時の授業内容について1時間以上復習し、理解度確認の頭試問に備えること。</p> <p>2. スポーツ全般に興味を持ち、スポーツに関わる報道に一日に10分以上は接する習慣を持つこと。</p>		
教科書	<p>指定しない。</p> <p>講義ごとに資料を配布するのでファイリングすること。</p>		
参考書	<p>公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト第1巻</p> <p>「アスレティックトレーナーの役割」財団法人体育協会</p>		
評価方法	授業への参加度（30%）、および授業内テスト（70%）にて100点満点で評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	プロスポーツ現場および学校現場において指導経験がある者が、その経験を活かしてスポーツ傷害の予防と管理に関する指導にあたる。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	63331
科目名	スポーツ医学	授業コード	9427287
教員名	栗岡 住子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	スポーツ医学の概要について学ぶとともに、スポーツ医学の責任分野、学際的な領域について幅広い知識を習得するとともに、実地面においても有用な知識と技術を身に着けることを目標とする。		
授業概要	講義形式での授業で、パワーポイントを有効活用して、ユニバーサルパスポートからの配信や配布資料にもとづいて進める。		
授業計画	<p>① スポーツにおける外科的損傷（1）（頭部、頸部、上肢、体幹の急性損傷と慢性損傷）（担当：大槻）</p> <p>② スポーツにおける外科的損傷（2）（腰部、下肢の急性損傷と慢性損傷）（担当：大槻）</p> <p>③ スポーツ生理学概要（担当：大槻）</p> <p>④ スポーツ障害（1）内科的スポーツ障害（1）（担当：大槻）</p> <p>⑤ スポーツ障害（2）内科的スポーツ障害（2）（担当：大槻）</p> <p>⑥ スポーツ障害（3）特殊環境下での障害（担当：大槻）</p> <p>⑦ スポーツ障害（4）スポーツ傷害発生時の緊急対応（担当：大槻）</p> <p>⑧ 小児のスポーツ医学（担当：栗岡）</p> <p>⑨ 女性スポーツ医学 - 女性の身体的特徴と体力・運動能力（担当：栗岡）</p> <p>⑩ 高齢者のスポーツ医学・介護予防概論（担当：栗岡）</p> <p>⑪ スポーツと栄養（担当：栗岡）</p> <p>⑫ ドーピング防止（担当：栗岡）</p> <p>⑬ 運動負荷試験概論（担当：栗岡）</p> <p>⑭ 生活習慣病と運動療法・健診結果の読み方（担当：栗岡）</p> <p>⑮ スポーツとメンタルヘルス（担当：栗岡）</p>		
授業方法	講義形式		
アクティブラーニングの視点	学生の主体的な学びが引き出せるよう、身近なテーマを設定しつつ、グループ討議やプレゼンテーション等の教育手法を積極的に取り入れる。		
授業外学習	毎回の授業で提示するスポーツ医学に関する諸問題について、別途まとめること。		
教科書	配信・配布資料による。		
参考書	「健康運動指導士養成講習会テキスト」（上・下）公益財団法人健康・体力づくり事業財団. 2015年		
評価方法	授業への参加度 20%、授業中に行う小テスト 80%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	本授業担当者は長年にわたり、スポーツ愛好家からトップアスリートに至るスポーツ医科学支援を実践してきた医師ならびにアスレティックトレーナー、研究者である。スポーツの臨床現場のリアルな経験をもとにした授業を展開する。		

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66590
科目名	保健体育科教育法 1	授業コード	9401562
教員名	村上 佳司、大畑 昌己、加島 良彦、春名 秀子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 2 回	単位数	4
履修年次	2	学期	2024 年度 前期～後期
到達目標	<p>保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>そのために、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>学習指導要領の歴史の変遷を学び、その時代に求められてきた保健体育を取り巻く実情を理解する。また、保健体育科教育に求められる安全でかつ運動に親しむ能力を高め、心身の健康の増進を図り、体力の向上を意識した理論を学ぶとともに、具体的な各運動領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 学習指導要領の内容把握</p> <p>第 2 回 学習指導要領の歴史の変遷</p> <p>第 3 回 学習指導要領の特性</p> <p>第 4 回 学習指導要領の制度的側面</p> <p>第 5 回 学習指導要領の目標</p> <p>第 6 回 保健体育科教育の歴史の変遷と子どもたちの現状</p> <p>第 7 回 保健体育科教育の目標とねらい</p> <p>第 8 回 保健体育科教育の内容と指導上の留意点</p> <p>第 9 回 学習指導計画の作成</p> <p>第 10 回 単元計画の作成</p> <p>第 11 回 指導案の作成</p> <p>第 12 回 発達段階に応じた設計の方法</p> <p>第 13 回 学習評価について</p> <p>第 14 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体づくり運動：体ほぐし運動）</p> <p>第 15 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体づくり運動：体力を高める運動）</p> <p>第 16 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：マット運動）</p> <p>第 17 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（器械運動：跳び箱運動）</p> <p>第 18 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：走運動）</p> <p>第 19 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：跳運動）</p> <p>第 20 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（陸上競技：投運動）</p> <p>第 21 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（水泳）</p> <p>第 22 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ゴール型）</p> <p>第 23 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ネット型）</p> <p>第 24 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（球技：ベースボール型）</p> <p>第 25 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（武道：柔道）</p> <p>第 26 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（ダンス）</p> <p>第 27 回 模擬授業の実施、運動領域の特性とねらい、教材作り（体育理論）</p> <p>第 28 回 集団行動の理解、情報機器の活用法</p> <p>第 29 回 教科外における保健体育科活動、日本のスポーツ関連の法律や施策</p> <p>第 30 回 保健体育科教員に求められる資質と能力</p>		
授業方法	<p>学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業はグループ学習による調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等</p>		

授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために校種、学年、領域毎に内容をまとめて復習しておくこと。また、グループによる指導案作成と模擬授業後のリフレクションのグループ討議を行う。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育 2023」 ミネルヴァ書房「保健体育科教育法 -教育実習に向けて-」2024 大畑・清野編著 大修館書店「2021年度版 最新中学校保健体育（保体703）」 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。
参考書	高橋健夫ほか 「体育科教育学入門」 大修館書店，2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成 50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	中学校・高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

教職科目	【中高（保体）】	科目コード	66600
科目名	保健体育科教育法2	授業コード	9416677、9416694 9416711、9416728
教員名	村上 佳司、大畑 昌己、舞 寿之、加島 良彦		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週2回	単位数	4
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された保健体育科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>そのために、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1)学習指導要領に示された保健体育科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2)基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>		
授業概要	<p>保健体育科教育法1で学習した知識や技能をもとに、更に総合的、実践的に理解を深める。発達段階に応じた学校種の連携を考慮し、時に中学校・高等学校における保健体育科教育に求められる人間性の向上や、心身ともに安全で健康的な生活を自ら行うために、生涯につながる理論と実践を学び、保健体育科教員としての各領域における特性やねらいを実際の教育現場で活用できる方法を考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 学習指導要領の主旨と法的根拠</p> <p>第2回 学習指導要領の歴史的変遷と特性</p> <p>第3回 保健体育科の教科の目標及び内容</p> <p>第4回 科目体育、及び科目保健の目標と教材研究の実際</p> <p>第5回 科目体育、及び科目保健の内容と指導上の留意点</p> <p>第6回 科目保健の指導案作成と教材作り</p> <p>第7回 学習評価について（目標に対する評価）</p> <p>第8回 学習評価について（具体的な評価基準と評価の種類）</p> <p>第9回 学習評価について（振り返りの意義と方法）</p> <p>第10回 健康と安全、健康についての課題解決と生涯体育の必要性</p> <p>第11回 情報機器を用いた指導案の作成（健康な生活と疾病の予防）</p> <p>第12回 模擬授業の実施（健康の成り立ちと疾病の発生要因）</p> <p>第13回 リフレクションと指導案の作成</p> <p>第14回 模擬授業の実施（生活習慣と健康）</p> <p>第15回 リフレクションと指導案の作成</p> <p>第16回 模擬授業の実施（感染症の予防）</p> <p>第17回 リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（心身の機能の発達と心の健康）</p> <p>第18回 模擬授業の実施（生殖に関わる機能の成熟）</p> <p>第19回 リフレクションと指導案の作成</p> <p>第20回 模擬授業の実施（欲求とストレスへの対処）</p> <p>第21回 リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（傷害の防止）</p> <p>第22回 模擬授業の実施（交通事故の防止）</p> <p>第23回 リフレクションと指導案の作成</p> <p>第24回 模擬授業の実施（応急手当）</p> <p>第25回 リフレクションと情報機器を用いた指導案の作成（健康と環境）</p> <p>第26回 模擬授業の実施（水・空気・土壌の衛生管理）</p> <p>第27回 リフレクションと指導案の作成</p> <p>第28回 模擬授業の実施（廃棄物の処理）</p> <p>第29回 リフレクションと模擬授業の全体評価</p> <p>第30回 保健体育科における学校種の連携と各領域の連携</p>		
授業方法	<p>学習指導要領は講義を中心とした授業形態をとる。模擬授業は指導案作成のための教材作り等の調査研究及び発表、リフレクションを含めた授業展開を行う。また、学習状況を確認するためにレポートの作成と小テストを実施する。</p>		
アクティブラーニングの視点	<p>模擬授業、指導案の作成、リフレクションシートの活用、協同学習（ペア学習・グループ学習）、授業レポート等</p>		

授業外学習	教科書を事前に読んでおくこと。学習指導要領を深く理解するために中学校と高等学校の校種の違いによる内容と深さの違いを確認しておくこと。また、採用試験の勉強を兼ねて科目保健の教科書について事前学習をしておくこと。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」東山書房 大修館書店「ステップアップ中学体育 2023」 「保健体育科教育法 ー教育実習に向けてー」ミネルヴァ書房 2024 大畑・清野編著 大修館書店「新高等保健体育（保体702）」 大修館書店「2021年度版 最新中学校保健体育（保体703）」 その他、必要に応じて資料やレジュメを配布する。
参考書	後藤幸弘ほか 「内容学と架橋する保健体育科教育論」 晃洋書房, 2012 高橋健夫ほか 「体育科教育学入門」 大修館書店, 2013 その他、必要に応じて資料を配布する。
評価方法	①授業への参加状況（授業中の発表・討議の内容、積極的な授業参加等）30% ②指導案の作成、模擬授業の実践指導、リフレクションシートの作成 50% ③課題レポート（授業内容の把握、課題内容の充実、字数、提出期日等）20% 尚、出席が教務規定に満たない場合は評価の対象としない。
既修条件	保健体育科教育法1
実務経験のある 教員による授業	中学校・高等学校で勤務経験を有する教員がその経験を活かし、保健体育科指導における専門分野の概要について解説し、並びに実践指導を行う。

教職科目	【養護】	科目コード	67510
科目名	養護概論	授業コード	9416745
教員名	八木 利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な背景も含めて、養護の概念と養護教諭の専門性を理解する。 ・養護活動の基礎について学び、養護教諭の職務と役割を説明できる。 ・子どもの健康実態や養護教諭の課題を把握し、考察することができる。 		
授業概要	養護に関する総論として、養護の概念や養護教諭の専門性、法的根拠、歴史的背景などを講義した上で養護教諭としての実際の活動を具体的に示す。		
授業計画	第01回：オリエンテーション、養護の概念 第02回：養護教諭の歴史の変遷 第03回：養護教諭の職務と役割 第04回：学校保健活動と学校安全活動 第05回：養護教諭に求められる資質・能力 第06回：養護活動① 保健室経営 第07回：養護活動② 健康課題の把握と健康観察 第08回：養護活動③ 健康診断 第09回：養護活動④ 健康相談活動 第10回：養護活動⑤ 救急処置 第11回：養護活動⑥ 疾病予防・感染症予防と保健管理 第12回：養護活動⑦ 保健教育（保健学習と保健指導） 第13回：養護活動⑧ 組織との連携 第14回：養護活動⑨ 学校環境衛生検査 第15回：養護教諭に関する諸課題（評価のあり方含む） 期末試験		
授業方法	講義形式を基本としてグループワークや演習を取り入れる。		
アクティブラーニングの視点	グループワークやペアトークの実施、ピアサポート学習を導入し、振り返りシートの作成・活用による協同的な学びの時間を重視する。		
授業外学習	予習としてテキストの該当する章を読んで、教育用語を確認しておく。 講義内容について、定期的に復習課題を示し、配布プリントなどを用いて整理する。 課題は授業中に告知した期日に提出する。		
教科書	『新養護概説 第11版』, 少年写真新聞社, 2022年3月		
参考書	『新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）』, 第一法規, 2020年4月		
評価方法	授業への参加度及び課題 50%、期末試験 50% 授業への参加度は、教員からの質問などに応じて的確に回答することを標準とし、積極的な発言をより高く評価する。 授業内に出題した課題や試験については確認後、振り返りを行う。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における長期の養護教諭経験がある者が、その経験を活かして各テーマに係わる養護活動や症例別に体験事例を交えて指導する。		

教職科目	【養護】	科目コード	67520
科目名	健康相談活動	授業コード	9427457
教員名	錦川 由美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	養護教諭の職務及び保健室の機能を生かした健康相談活動の基本的な理論と方法について理解する。		
授業概要	養護教諭が行う健康相談活動の基本的な理論と方法について講義する。また、児童生徒等の心身の健康課題に応じた健康相談活動の実際と支援方法について演習する。		
授業計画	第1回 オリエンテーション、導入 第2回 学校における健康相談活動のとらえ方 第3回 健康相談活動の重要性と法的根拠 第4回 健康相談活動に関連する基礎知識 第5回 発達段階に応じた心身の健康問題の特徴と理解①幼児期 第6回 発達段階に応じた心身の健康問題の特徴と理解②学童期 第7回 発達段階に応じた心身の健康問題の特徴と理解③思春期 第8回 事例検討① 第9回 養護教諭が行う健康相談活動の基本的なプロセス 第10回 健康相談活動とヘルスアセスメント 第11回 養護教諭の職務の特質を生かした支援 第12回 保健室の機能を生かした支援 第13回 校内における連携・協働による支援 第14回 連携・協働における専門家の理解 第15回 事例検討②		
授業方法	講義・演習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	事例検討ではケースメソッドの方法論を取り入れる。学生にはケースを事前に配布して読ませ、検討すべき観点に応じた内容について主体的に協議に参加し検討させる。学生が能動的に関連事項を学習することで事例検討が成立するよう授業設計する。		
授業外学習	予習として、事前に配布された資料を読んでおくこと。 復習として、指示されたテーマについて次週までに自分の意見をまとめておくこと。		
教科書	適宜、資料を配付		
参考書	新訂 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際／三木とみ子・徳山美智子 ぎょうせい		
評価方法	評価方法とその割合 ・授業への参加度（30％）：出席状況及び演習への主体的な参加状況 ・2回の筆記テスト（70％）：予定では第8回及び第15回に筆記テストを実施する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験がある者が、その実務経験を活かして、より子どもへの支援の実際が理解されるように工夫し、学校現場で実践される養護教諭による健康相談活動について理解できるように、具体的及び実践的な授業を行う。		

教職科目	【養護】	科目コード	67530
科目名	栄養学	授業コード	9416762
教員名	宇佐見 美佳		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	健康の保持増進における栄養成分の役割、代謝と生理的意義を正しく理解し、ライフステージ別の栄養問題をとらえ、基本的な知識や考え方を修得する。		
授業概要	栄養素の体内での消化・吸収、身体活動に伴う生理的変化やライフステージ別の栄養状態について講義する。必要に応じて具体的事例や簡単な課題にも取り組ませる。		
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション ライフステージ別の栄養学が目指すもの</p> <p>第2回：健康と栄養について</p> <p>第3回：栄養素と食品について</p> <p>第4回：栄養素の消化・吸収・代謝について（炭水化物・タンパク質・脂質）</p> <p>第5回：栄養素の消化・吸収・代謝について（無機質・ビタミン）</p> <p>第6回：エネルギー代謝について</p> <p>第7回：栄養素の体内運命について</p> <p>第8回：栄養・食事アセスメント（低栄養対策を含む）</p> <p>第9回：栄養・食事指導の基本(1)（食事摂取基準）</p> <p>第10回：栄養・食事指導の基本(2)（食事バランスガイド）</p> <p>第11回：身体活動量の定量法とその実際</p> <p>第12回：ライフステージにおける栄養（乳幼児期・学童期・思春期）</p> <p>第13回：ライフステージにおける栄養（成人期・高齢期）</p> <p>第14回：生活環境と栄養について</p> <p>第15回：現代社会の食と栄養</p> <p>期末試験</p>		
授業方法	教科書に従い講義を行う。適宜事例などを映像や画像で示しながら説明する。各回終了時に小テストを行い、学習内容を振り返る。期末試験で学習内容全体の理解度を評価する。		
アクティブラーニングの視点	現代の子どもたちの食生活の状況について問題提起を行い、ペア、グループ学習で学習者間の意見交換を行い、学習内容について深め合う。		
授業外学習	事前に教科書を読み、内容を把握して授業に臨むこと（毎授業45分以上）。授業終了時の小テストを添削し、次回授業で返却する。返却された小テストを見直して復習すること（毎授業45分以上）。課題レポートが課されたときは学習した内容について復習・考察し、レポートを期日までに完成させる。		
教科書	「健康づくりの栄養学 第3版」 小林修平編著 建帛社		
参考書	厚生労働省策定「日本人の食事摂取基準(2020年版)」 第一出版		
評価方法	小テスト・課題レポート30%、ディスカッション等授業への参加度10%、期末試験60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	管理栄養士として病院にて患者の栄養指導に携わった経験、また、幼児から高齢者まで、幅広い年代への栄養教育の実務に携わった経験を有する教員である。現代社会で栄養学領域の課題となっていることを事例を取り上げながら解決方法を主体的に考える機会を設定する。		

教職科目	【養護】	科目コード	67540
科目名	解剖学	授業コード	9427474
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	人体の基本構造と健康や病気とのかかわりについて学び、その基本点について説明できる。		
授業概要	人体の各構造別に、その基本的な仕組みと機能的役割、疾患とのかかわりを学び、特に成長に伴った変化を理解することで、成長期の子どもの発達や病態を理解する		
授業計画	第1回 ヒトの発生と成長・発達 第2回 人体の概要 第3回 中枢神経の構造と機能 第4回 末梢神経の構造と機能 第5回 骨組織の構造と機能 第6回 筋組織の構造と機能 第7回 消化器系の構造と機能 第8回 呼吸器系の構造と機能 第9回 心臓・血管系の構造と機能 第10回 内分泌系の構造と機能 第11回 泌尿器系の構造と機能 第12回 血液とリンパ系の構成と機能 第13回 感覚器の構造と機能 第14回 生殖器系の構造と機能 第15回 授業内テスト		
授業方法	授業方法 授業で資料を配布するとともに、模型や画像資料を用いて実践的に学ぶ		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	なし		
教科書	授業でプリントを配布する		
参考書	参考書 系統看護学講座「解剖生理学」 医学書院		
評価方法	授業への参加度40% テスト60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	子どもから成人期までの心身の発達の検討的な学習を行う。また子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な健康課題との関連についても、系統的に課題を取り上げ、小児科専門医、小児内分泌専門医である教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

教職科目	【養護】	科目コード	67550
科目名	病理学	授業コード	9416779
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>人体のさまざまな病気が発生する病理の基本事項を知る。 身体のさまざまな各疾患について知る</p>		
授業概要	<p>病理学の立場から、人体各疾患の基本的な考え方を学ぶとともに、身体各領域の様々な疾患を概観し、学校保健とのかかわりを踏まえながら、養護教諭の業務の中で取り組むポイントを学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回：子どもの成長のしくみ 第2回：小児保健 第3回：染色体異常と遺伝性疾患 第4回：感染症 第5回：内分泌・代謝疾患 第6回：消化器疾患 第7回：神経疾患 第8回：筋疾患、骨系統疾患 第9回：腎・泌尿器疾患 第10回：血液疾患・悪性腫瘍 第11回：免疫・アレルギー疾患、膠原病 第12回：呼吸器疾患、循環器疾患 第13回：新生児と周産期医学 第14回：心身症・神経症と子育て 第15回：授業内テスト</p>		
授業方法	資料を配布し、それに基づいて授業を行う		
アクティブラーニングの視点	逐次授業内容からテーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	予定なし		
教科書	指定なし		
参考書	ナースとコメディカルのための小児科学（日本小児医事出版社）		
評価方法	テスト60%、授業への取組状況40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<p>学齢期の子どもが直面する様々な健康課題について、系統的に課題を取り上げ、小児科専門医である教員が、適宜、動画を用いながら、視覚的で実践的な授業を行う。</p>		

教職科目	【養護】	科目コード	67560
科目名	精神保健	授業コード	9416796
教員名	八木 成和		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024 年度 前期
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心の発達を理解する。 2. 子どもの心の課題、病態を理解する。 3. 子どもの心への基本的な対応方法を理解する。 4. 子どもを取り巻く養育者、教員の心の課題、病態、対応の基本を理解する。 		
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題ごとにプリントを配布する。 2. 全体的な課題の解説を行う。 3. 毎回、練習問題を提示し、課題の理解状況の把握を行う。 4. 適宜、お互いの意見を述べ、討論し、共有化する。 		
授業計画	第 1 回 : オリエンテーション 第 2 回 : 心身の発達と精神保健 第 3 回 : 乳幼児の精神保健 第 4 回 : 思春期の精神保健 第 5 回 : 青年期の精神保健 第 6 回 : 壮年期・老年期の精神保健 第 7 回 : ストレスと健康 第 8 回 : 食・睡眠・性について 第 9 回 : アルコール・タバコ・薬物について 第 10 回 : 学校における精神保健 第 11 回 : 家庭における精神保健 第 12 回 : 職場における精神保健 第 13 回 : 地域における精神保健 第 14 回 : 医療現場における精神保健 第 15 回 : まとめ		
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業テーマごとにプリントを配布し、解説する 2. 毎回の授業で課題を提示する。 		
アクティブラーニングの視点	適宜、資料を基に課題を行う。		
授業外学習	授業に関連したテーマを提示し、中間レポートを提出させる。		
教科書	授業中に資料を配付する。		
参考書	授業中に適宜紹介する。		
評価方法	平常点 30% (毎回の授業時の課題の提出)、中間レポート課題 30%、定期試験 40% として評価を行う。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業			

教職科目	【養護】	科目コード	67570
科目名	看護学概論	授業コード	9401613
教員名	八木 利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	4
履修年次	1	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	看護の基本的概念を理解し、看護学の視点から養護教諭に関する諸問題を考察することができる。		
授業概要	看護学の基本的概念から対症看護の基本、健康と看護に関する基礎的な知識を講義形式で学習する。		
授業計画	<p>第01回：オリエンテーション、養護教諭の課程で看護学を学ぶ意義</p> <p>第02回：看護の基本的概念</p> <p>第03回：看護の倫理</p> <p>第04回：コミュニケーション</p> <p>第05回：セルフケア① セルフケアとは</p> <p>第06回：セルフケア② 健康観の変遷と疾病</p> <p>第07回：セルフケア③ 様々な生活習慣と支援（食生活、清潔）</p> <p>第08回：セルフケア④ 活動と休息、睡眠</p> <p>第09回：子どもの心身と健康① 乳幼児期</p> <p>第10回：子どもの心身と健康② 学童期</p> <p>第11回：子どもの心身と健康③ 学童期</p> <p>第12回：子どもの心身と健康④ 思春期</p> <p>第13回：病児について</p> <p>第14回：死について</p> <p>第15回：バイタルサインとは</p> <p>第16回：対症看護① 発熱</p> <p>第17回：対症看護② 腹痛</p> <p>第18回：対症看護③ めまい</p> <p>第19回：対症看護④ 嘔吐</p> <p>第20回：対症看護⑤ 頭痛</p> <p>第21回：対症看護⑥ けいれん</p> <p>第22回：対症看護⑦ アレルギー</p> <p>第23回：対症看護⑧ 感染症</p> <p>第24回：対症看護⑨ 呼吸困難</p> <p>第25回：対症看護⑩ その他</p> <p>第26回：子どもの事故とけが</p> <p>第27回：成人・老年看護</p> <p>第28回：母性看護</p> <p>第29回：看護をめぐる現状と課題</p> <p>第30回：まとめと授業内テスト</p>		
授業方法	講義方式を基本とする。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習を中心に、ペアトーク・発表などを導入し、コミュニケーションペーパーの活用による振り返りを実施する。		
授業外学習	授業の中で必要に応じて専門的知識の理解を深めるため事前学習を予告する。		
教科書	『小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術—子どもと家族を理解し力を引き出す—』改訂第4版，南江堂，2021年，二宮啓子/今野美紀 必要に応じてプリントを配付する。		
参考書	『看護の基本となるもの』6刷 ヴァージニア・ヘンダーソン著，日本看護協会出版，2012年1月 『養護教諭のための看護学』四訂版，大修館書店，2018年 授業の中で、適宜紹介する。		

評価方法	授業への参加度 30%、中間レポート 20%、授業内テスト 50% 授業への参加度は、教員からの質問などに応じて的確に回答することを標準とし、積極的な発言をより高く評価する。 授業内テストなどは確認後、振り返りを行う。
既修条件	なし
実務経験のある 教員による授業	学校現場の保健室における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして発達段階に応じた症例や緊急時対応、臨地体験に係わる看護基礎技術について指導する。

教職科目	【養護】	科目コード	67580
科目名	看護実習Ⅰ	授業コード	9427491
教員名	安達 有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔		単位数	2
履修年次	1	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>臨床現場を想定した実技演習を通して</p> <p>①バイタルサインの測定、包帯法、止血法、病床の作り方などの基本的な看護技術が実践提示できる。</p> <p>②基礎的な看護技術の必要性や仕組みが説明できる。</p> <p>③基本的な対人援助（コミュニケーション）の方法や生活援助の在り方を学び実践できる。</p>		
授業概要	<p>臨床現場における看護場面を想定して、問診・触診・聴診・視診・打診など適切な観察法を身につけるとともに、バイタルサイン測定、包帯法、止血法、病床の作り方、基本的生活習慣（食事・清潔・排泄・睡眠・運動）の援助などの基礎看護技術を実習形式により習得する。</p>		
授業計画	<p>第01回：ガイダンス</p> <p>第02回：看護技術の基本</p> <p>第03回：看護のプロセス</p> <p>第04回：保健室の医療器具</p> <p>第05回：コミュニケーションの方法</p> <p>第06回：環境の整備と環境づくり（ベッドメイキング等）</p> <p>第07回：バイタルサインの考え方</p> <p>第08回：観察① バイタルサイン（体温）</p> <p>第09回：観察② バイタルサイン（血圧）</p> <p>第10回：観察③ バイタルサイン（呼吸）</p> <p>第11回：観察④ バイタルサイン（脈拍）</p> <p>第12回：観察⑤ 身体計測</p> <p>第13回：包帯法① 巻軸帯</p> <p>第14回：包帯法② 三角巾</p> <p>第15回：包帯法③ 応用</p> <p>第16回：止血法① 基本</p> <p>第17回：止血法② 応用</p> <p>第18回：体位の保持</p> <p>第19回：援助① 衣服の着脱</p> <p>第20回：援助② 食事</p> <p>第21回：援助③ 排泄</p> <p>第22回：援助④ 清潔</p> <p>第23回：援助⑤ 移動</p> <p>第24回：感染予防</p> <p>第25回：与薬</p> <p>第26回：ねんざ</p> <p>第27回：リハビリテーション</p> <p>第28回：その他の治療・症状に対する看護</p> <p>第29回：模擬救護</p> <p>第30回：まとめ</p>		
授業方法	レジュメを用いて、座学、実習を併用して行う。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習を中心に、実技体験の振り返りシートの作成と活用を行い協同的な学び合いの時間を重視する。		
授業外学習	授業内に紹介した内容を基に、配付プリントや看護学概論のテキストなどを活用して、臨床現場で用いられる看護・医療用語について復習しておく。		
教科書	レジュメを配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	授業への参加度 40%、実技の到達度 60%		

既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または修得済み。 看護学概論
実務経験のある 教員による授業	学校現場の保健室における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして各症例に対応した看護の対人援助スキルや看護技術の基本について指導をする。

教職科目	【養護】	科目コード	67590
科目名	看護実習Ⅱ	授業コード	9416813
教員名	安達 有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	実習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 前期
到達目標	到達目標 ・様々な疾患を持つ児童・生徒に対して、個々に応じた支援内容を理解し、説明できる。 ・基本的な看護技術を習得する。		
授業概要	様々な小児疾患や障がいがある子どもの治療や療育を行う施設において臨床実習を行う。 様々な小児疾患や障がいを有する子どもへの医療的な関わりの様子を見学するとともに、必要な治療や援助を理解し、基本的な看護内容を学ぶ。 様々な小児疾患や障がいを有する子どもの日常生活や発達・成長過程、家族との関わりについても理解する。		
授業計画	授業計画 2年次の夏季休業期間中に、事前指導を実施した後、大阪発達総合療育センター（大阪市東住吉区）にて2週間（10日間）の臨床実習を行う。学生は5～10名程度のグループごとに実習する。 事前指導①（学内）：看護実習Ⅱにあたって 事前指導②（学内）：実習記録の作成及び留意事項について 臨床実習（1日目）：施設全体の説明及び見学 臨床実習（2～3日目）：対象事例の紹介と実践プロセスのスクリーニング・アセスメント 臨床実習（4～9日目）：養護実践のプロセスの構成要素の理解と指導 臨床実習（10日目）：養護実践のプロセスのまとめと実習の振り返り		
授業方法	授業方法 教員が作成した看護実習の手引きを活用し、事前・事後指導は学内で行う。 原則、学外授業となり臨床実習を行い、施設（現場）で基礎看護技術や対人援助方法についての学びを深める。		
アクティブラーニングの視点	アクティブラーニングの視点 実習の過程において、逐次テーマを取り上げて討論・発表を行い、実践的に実習内容を理解する。		
授業外学習	授業外学習 看護実習の手引き（所定の様式）に実習状況を記録し振り返りを行う。 実習後は報告書を作成し自己評価表とともに提出する。 臨床実習で学んだ医療用語などについて自主学習で復習しておく。		
教科書	プリントを配付する。		
参考書	参考書 適宜紹介する。		
評価方法	実習記録50%（自己評価表を含む）、実習への参加態度50%		
既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または修得済み。 看護学概論・看護実習Ⅰ		
実務経験のある教員による授業	学校・医療の現場での養護教諭経験者、及びそれにかかわる経験のある医師が、児童、生徒の健康にかかわる様々な健康問題、特に緊急対応を要する問題について、実習を含めた実践的で、学生が主体的に参加できる授業を行う。		

教職科目	【養護】	科目コード	67600
科目名	看護実習Ⅲ	授業コード	9427508
教員名	安達 有梨		
授業種別	集中授業	授業形態	実習
開講間隔		単位数	1
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	到達目標 ・病院における看護の実際を理解し、病院の機能や学校との連携につなげることができる。 ・看護師の業務を説明することができる。		
授業概要	指定する病院において臨床実習を行う。 医療機関の機能と役割を理解するとともに、医学的知識と看護技術を医療現場から学ぶ。		
授業計画	2年次の春季休業期間中、事前指導を実施した後、小児科・産科・婦人科をもつ大阪労災病院（堺市）にて 1週間（5日間）の臨床実習を行う。臨床実習では、学生は5～10名程度のグループごとに実習する。 事前指導①（学内）：看護実習Ⅲにあたって 事前指導②（学内）：実習記録の作成及び留意事項について 臨床実習（1日目）：病院の説明及び見学 臨床実習（2日目）：看護実践対象の紹介とアセスメント 臨床実習（3～5日目）：看護実践対象の理解とアセスメントと指導 事後指導（学内）：実習の振り返り		
授業方法	授業方法 教員が作成した看護実習の手引きを活用し、事前・事後指導は学内で行う。 原則、学外授業となり臨床実習を行い、病院（現場）で看護実践や医療機関との連携活動について学ぶ。		
アクティブラーニングの視点	実習の内容から課題を取り上げ、意見交換を行い、実践的に理解する。		
授業外学習	看護実習の手引き（所定の様式）に実習状況を記録し振り返りを行う。 実習後は報告書を作成し自己評価表とともに提出する。 臨床実習で学んだ医療用語などについて自主学習で復習しておく。		
教科書	教科書 プリントを配付する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	実習記録50%（自己評価表含む）、実習への参加態度50%		
既修条件	養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または履修済み。 看護学概論・看護実習Ⅰ		
実務経験のある教員による授業	実務経験のある教員による授業 学校・医療の現場での養護教諭経験者、及びそれにかかわる経験のある医師が、医療施設に学生を引率・訪問し、様々な職種が行っている医療的対応に関する見学実習を中心とした、実践的な学習を行う。		

教職科目	【養護】	科目コード	67610																														
科目名	看護実習Ⅳ（救急処置）	授業コード	9427559																														
教員名	安達 有梨																																
授業種別	週間授業	授業形態	実習																														
開講間隔	週1回	単位数	1																														
履修年次	2	学期	2024年度 後期																														
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で起こりうる救急の症例・事故に対して適切な判断ができる。 ・学校で起こりうる救急の症例・事故に対して適切な対応を行うことができる。 																																
授業概要	<p>学校内で救急の症例・事故が発生した場合、養護教諭は状況に応じて、適切に判断し、行動する必要がある。本科目では、そのために必要となる知識及び看護技術について、具体的な事例を想定しながら実践力を養う。</p>																																
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回：オリエンテーション</td> <td>担当：原田・錦川・安達</td> </tr> <tr> <td>第2回：救急処置時の感染予防</td> <td>担当：安達</td> </tr> <tr> <td>第3回：救急備品</td> <td>担当：安達</td> </tr> <tr> <td>第4回：止血</td> <td>担当：原田</td> </tr> <tr> <td>第5回：発作・喘息</td> <td>担当：原田</td> </tr> <tr> <td>第6回：熱傷</td> <td>担当：原田</td> </tr> <tr> <td>第7回：熱中症</td> <td>担当：錦川</td> </tr> <tr> <td>第8回：ショック</td> <td>担当：錦川</td> </tr> <tr> <td>第9回：意識障害</td> <td>担当：錦川</td> </tr> <tr> <td>第10回：骨折・打撲・ねんざ</td> <td>担当：錦川</td> </tr> <tr> <td>第11回：誤飲・食中毒</td> <td>担当：原田</td> </tr> <tr> <td>第12回：アレルギー</td> <td>担当：安達</td> </tr> <tr> <td>第13回：心肺蘇生法</td> <td>担当：安達</td> </tr> <tr> <td>第14回：搬送</td> <td>担当：安達</td> </tr> <tr> <td>第15回：学校の体制と医療機関との連携</td> <td>担当：原田・錦川・安達</td> </tr> </table>			第1回：オリエンテーション	担当：原田・錦川・安達	第2回：救急処置時の感染予防	担当：安達	第3回：救急備品	担当：安達	第4回：止血	担当：原田	第5回：発作・喘息	担当：原田	第6回：熱傷	担当：原田	第7回：熱中症	担当：錦川	第8回：ショック	担当：錦川	第9回：意識障害	担当：錦川	第10回：骨折・打撲・ねんざ	担当：錦川	第11回：誤飲・食中毒	担当：原田	第12回：アレルギー	担当：安達	第13回：心肺蘇生法	担当：安達	第14回：搬送	担当：安達	第15回：学校の体制と医療機関との連携	担当：原田・錦川・安達
第1回：オリエンテーション	担当：原田・錦川・安達																																
第2回：救急処置時の感染予防	担当：安達																																
第3回：救急備品	担当：安達																																
第4回：止血	担当：原田																																
第5回：発作・喘息	担当：原田																																
第6回：熱傷	担当：原田																																
第7回：熱中症	担当：錦川																																
第8回：ショック	担当：錦川																																
第9回：意識障害	担当：錦川																																
第10回：骨折・打撲・ねんざ	担当：錦川																																
第11回：誤飲・食中毒	担当：原田																																
第12回：アレルギー	担当：安達																																
第13回：心肺蘇生法	担当：安達																																
第14回：搬送	担当：安達																																
第15回：学校の体制と医療機関との連携	担当：原田・錦川・安達																																
授業方法	<p>原則として各症例や事件・事故場面に応じた演習形式で行う。 救急処置が必要な症例時の模擬救護について発表する。</p>																																
アクティブラーニングの視点	<p>授業ごとにテーマを取り上げて、討論発表を行う</p>																																
授業外学習	<p>課題症例に応じた適切な処置や救護活動について自主学習をしておく。</p>																																
教科書	<p>プリントを配付する。</p>																																
参考書	<p>適宜紹介する。</p>																																
評価方法	<p>授業への参加態度50%、実技の到達度50%</p>																																
既修条件	<p>養護概論 かつ、原則として以下の科目を履修中または修得済み。 看護学概論・看護実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ</p>																																
実務経験のある教員による授業	<p>学校・医療の現場での養護教諭経験者、及びそれにかかわる経験のある医師が、児童、生徒の健康にかかわる様々な健康問題について、特に緊急対応を要する問題について、実践的な授業を行う。</p>																																

教職科目	【養護】	科目コード	67620
科目名	養護実習指導	授業コード	9401630
教員名	八木 利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期～後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生として遵守すべき事項や教育理念を理解し、その責任を自覚した上で意欲的に参加できる。 ・実習を通して養護教諭の役割を学び、保健管理及び保健教育等に必要な知識や技能を理解している。 ・養護教諭の専門性や保健室の機能を生かして、児童・生徒の健康課題に即した保健指導の実践力の向上を図る。 		
授業概要	教育現場での実習活動をより有意義なものにするために、教育計画や指導案作成、模擬授業等により学校保健に関する知識理解と技術を修得する。また、養護教諭の専門性と役割について直接的・体験的な学習を深め、実習内容の確認や演習活動の発表を中心に、事前学習と事後のまとめ、指導助言、省察を行う。		
授業計画	<p>第01回：養護教諭の実践の意義と可能性</p> <p>第02回：保健学習の基本的事項の理解</p> <p>第03回：保健指導の対象の理解とほけんだより作成時の留意事項</p> <p>第04回：養護教諭の職務（学校保健計画・保健室経営計画の立案）</p> <p>第05回：健康診断の実際</p> <p>第06回：救急処置における養護教諭の役割と救急体制の確立</p> <p>第07回：「保健学習と保健指導」における指導案の作成と授業の進め方</p> <p>第08回：保健学習・保健指導の指導案作成①（実態と目標、題材名の決定、教材作成）</p> <p>第09回：保健学習・保健指導の指導案作成②（授業内容の構成・検討、掲示物作成）</p> <p>第10回：保健学習・保健指導の指導案作成③（評価規準の確認と評価方法の設定）</p> <p>第11回：指導案の発表と改善</p> <p>第12回：模擬授業の実践①（話し方、板書計画、ふるまい）</p> <p>第13回：模擬授業の実践②（時間配分、方法の工夫）</p> <p>第14回：模擬授業の実践③（成果の確保と省察）</p> <p>第15回：まとめ（教育実習実践例示、教員採用試験の概要と対策）</p>		
授業方法	実習校での観察実習や参加実習に向けて、保健管理や保健教育（保健学習・保健指導）に関する実践的な活動を中心に演習する。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習、模擬授業の実施や振り返りなどは、コミュニケーションペーパー（自己評価コメント票・他者評価コメント票）の作成と活用によるシェアリングを重視する。		
授業外学習	主に保健室経営案や、指導案作成、教材づくりについて適宜指示する課題を期日内に提出する。 養護実習の記録（所定の様式）について実習状況を記録し、振り返りを行う。 養護実習で学んだ教育用語など自主学习により復習しておく。		
教科書	「教育実習ハンドブック」（桃教大で配付済み）を活用するが、授業内容に応じて授業時に指示し、適宜資料を配付する。		
参考書	『新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）』第一法規，2020年4月 『子どもの安全と安心を育むリスクマネジメント教育の実際』，健学社，2017年 『児童生徒等の健康診断マニュアル 平成27年度改定』日本学校保健会，2015年		
評価方法	授業への参加・受講態度及び課題 50%、実践レポート 50% アクティブ・ラーニングの視点から、ディスカッションやグループワーク、発表などの主体的・対話的な学び（授業態度や学習意欲）を通して、到達度を段階的に評価する。 また、課題について授業内に確認して、振り返りを行う。		
既修条件	養護概論、看護学概論、教育原理、教職概論かつ原則として以下の科目を修得済み。 健康相談活動、学校保健、教育心理学、教育課程論		
実務経験のある教員による授業	学校現場の保健室における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして具体的な場面を紹介しながら養護実習の事前・事後指導をする。		

教職科目	【養護】	科目コード	67620
科目名	養護実習指導	授業コード	9401647
教員名	安達 有梨		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生として遵守すべき事項や教育理念を理解し、その責任を自覚した上で意欲的に参加できる。 ・実習を通して養護教諭の役割を学び、保健管理及び保健教育等に必要な知識や技能を理解している。 ・養護教諭の専門性や保健室の機能を生かして、児童・生徒の健康課題に即した保健指導の実践力の向上を図る。 		
授業概要	教育現場での実習活動をより有意義なものにするために、教育計画や指導案作成、模擬授業等により学校保健に関する知識理解と技術を修得する。また、養護教諭の専門性と役割について直接的・体験的な学習を深め、実習内容の確認や演習活動の発表を中心に、事前学習と事後のまとめ、指導助言、省察を行う。		
授業計画	第01回：養護教諭の実践の意義と可能性 第02回：保健学習の基本的事項の理解 第03回：保健指導の対象の理解とほけんだより作成時の留意事項 第04回：養護教諭の職務（学校保健計画・保健室経営計画の立案） 第05回：健康診断の実際 第06回：救急処置における養護教諭の役割と救急体制の確立 第07回：「保健学習と保健指導」における指導案の作成と授業の進め方 第08回：保健学習・保健指導の指導案作成①（実態と目標、題材名の決定、教材作成） 第09回：保健学習・保健指導の指導案作成②（授業内容の構成・検討、掲示物作成） 第10回：保健学習・保健指導の指導案作成③（評価規準の確認と評価方法の設定） 第11回：指導案の発表と改善 第12回：模擬授業の実践①（話し方、板書計画、ふるまい） 第13回：模擬授業の実践②（時間配分、方法の工夫） 第14回：模擬授業の実践③（成果の確保と省察） 第15回：まとめ（教育実習実践例示、教員採用試験の概要と対策）		
授業方法	実習校での観察実習や参加実習に向けて、保健管理や保健教育（保健学習・保健指導）に関する実践的な活動を中心に演習する。		
アクティブラーニングの視点	グループ演習、模擬授業の実施や振り返りなどは、コミュニケーションペーパー（自己評価コメント票・他者評価コメント票）の作成と活用によるシェアリングを重視する。		
授業外学習	主に保健室経営案や、指導案作成、教材づくりについて適宜指示する課題を期日内に提出する。 養護実習の記録（所定の様式）について実習状況を記録し、振り返りを行う。 養護実習で学んだ教育用語など自主学习により復習しておく。		
教科書	「教育実習ハンドブック」（桃教大で配布済み）を活用するが、授業内容に応じて授業時に指示し、適宜資料を配付する。		
参考書	『新訂版 学校保健実務必携（第5次改訂版）』、第一法規、2020年4月 『子どもの安全と安心を育むリスクマネジメント教育の実際』、健学社、平成29年11月		
評価方法	授業への参加・受講態度及び課題 50%、実践レポート 50%アクティブ・ラーニングの視点から、ディスカッションやグループワーク、発表などの主体的・対話的な学び（授業態度や学習意欲）を通して、到達度を段階的に評価する。 また、課題について授業内に確認して、振り返りを行う。		
既修条件	養護概論、看護学概論、教育原理、教職概論かつ原則として以下の科目を修得済み。 健康相談活動、学校保健、教育心理学、教育課程論		
実務経験のある教員による授業	教育現場の養護教諭経験や地域看護の臨床経験を活かして具体的な場面を紹介しながら養護実習の事前・事後指導をする。		

教職科目	【養護】	科目コード	67650
科目名	教職実践演習（養護教諭）	授業コード	9427610
教員名	八木 利津子		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 後期
到達目標	<p>・4年間の学びの軌跡を再認識し、養護教諭の職務倫理に裏付けられた実践的指導力および養護教諭としての自覚と資質能力を身に付ける。</p> <p>・自らの成長を捉え直し、具体的な実践記録や成果物を残すことで、次に続く後輩たちがそれらに目を通すことが可能となり、大学卒業後のキャリアを具体的に構想する機会を持つ。</p>		
授業概要	<p>4年間の教職課程の総まとめ科目として、これまでの教職課程の履修で不足している知識・技能を補完し、今日、求められている養護教諭の資質や能力が身につくように実際の学校現場を想定し諸課題についての理解を深める。</p> <p>これまでの教職課程の授業および教育実習における学びを振り返り、その内容を記録・省察報告としてまとめる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 学校教育における様々な課題の確認 3 教職実践に関する基本的事項と実践記録作成の進め方 4 養護教育における実践記録の意義 5 養護教育における実践記録の省察と整理 6 養護教育における実践記録（保健学習・保健指導）作成1 7 養護教育における実践記録（教科外活動・個別対応）作成2 8 養護実践の事例発表1 9 養護実践の事例発表2 10 養護実践の事例発表3 11 養護実践の倫理に関する事項の確認 12 養護実践についてグループ討議 13 養護実践についてグループ発表 14 養護教育における指導教材研究と成果物発表 15 まとめ（質疑応答含む） 		
授業方法	グループ討議や事例発表による演習を中心とする。		
アクティブラーニングの視点	グループセッションを中心に、実践記録（省察文）発表や事例発表についてワークシートの活用など		
授業外学習	養護実習での事例報告・グループ討議における緻密な事前学習を行う		
教科書	講義の中で適宜紹介する。		
参考書	<p>『実際にあった学校でのヒヤリハット事例から学ぶ』、健学社、八木利津子、2021年12月</p> <p>『学校教育の現代的課題と養護教諭』、大学図書出版、河田史宝監修、2021年</p> <p>その他、講義の中で適宜紹介する。</p>		
評価方法	<p>レポート・発表の内容 80%（課題作成および実践記録のまとめ方と発表内容を含む）</p> <p>授業態度 20%（授業参加状況と理解度）</p>		
既修条件	養護実習Ⅰ・Ⅱを履修中または修得済み		
実務経験のある教員による授業	学校現場における養護教諭経験がある者が、その経験を活かして健康課題（事例）に応じた養護実践に係わる演習指導をする。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	66930
科目名	特別支援教育総論	授業コード	9427627
教員名	長谷川 陽一、松久 眞実		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	2	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の理念や制度を理解する。 ・個別の教育支援計画を作成する必要性や特別支援教育コーディネーターの役割を理解する。 ・障害種別にみた教育の現状と課題を考える。 		
授業概要	特別支援教育の理念や制度、指導・支援の特性などについて、インクルーシブ教育システムの基本的な考え方を交えながら論じるとともに、特別支援教育の現状と課題について検討する。		
授業計画	第1回 特別支援教育の理念と歴史 第2回 特別支援教育の制度とインクルーシブ教育システム 第3回 特別支援教育コーディネーターの役割 第4回 個別の教育支援計画と個別の指導計画 第5回 障害児の理解と教育(1)視覚障害 第6回 障害児の理解と教育(2)聴覚障害 第7回 障害児の理解と教育(3)知的障害 第8回 障害児の理解と教育(4)肢体不自由 第9回 障害児の理解と教育(5)病弱・身体虚弱 第10回 障害児の理解と教育(6)言語障害 第11回 障害児の理解と教育(7)自閉症・情緒障害 第12回 障害児の理解と教育(8)重複障害 第13回 障害児の理解と教育(9)LD・ADHD等 第14回 アセスメントと主要な検査 第15回 福祉・医療・労働等との連携と協力 期末試験		
授業方法	教科書とその他の教材を活用しながら授業を進める。最新の情報については資料として配布するなどして、受講生の発言を求めるなど、対話形式を取り入れる。毎回課題を与え、次時に生かすようにする。		
アクティブラーニングの視点	課題とする論作文や配布資料を活用して、受講生が意見発表や意見交換のできる場を随所に設定し、学習に取り組めるように授業の展開を図る。		
授業外学習	次時の学習に生かすことができる、判定学習として事前に課題（論述）に取り組み、知識を深めていく。		
教科書	「すべての子どもに寄り添う特別支援教育」村上香奈、中村晋 編著 ミネルヴァ書房 特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）文部科学省		
参考書	なし		
評価方法	・授業への参加度50%、中間理解度テスト、期末理解度テスト50%により評価する。授業への参加度は、出席状況、課題の内容、質問への回答、学生間の討論等に積極的に取り組んでいるか等を評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	大阪府教育庁支援教育課、特別支援学校校長などの勤務経験を活かし、障がいのある子どもたちの学校生活での実情を十分にふまえ、特別支援教育に関する全般的な知識の獲得と特別支援学校における教育実践力につながるように、本科目の授業を計画・実施する。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	66940
科目名	知的障害者の心理・生理・病理	授業コード	9416864
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<p>大脳の解剖・生理の基礎的知識を理解する。知的障害の原因となる代表的な疾患を知る。</p> <p>各疾患のある生徒が持つ困難のポイントを知る。</p> <p>知的障害者の心理について理解し、支援計画の立案ができる。</p>		
授業概要	<p>基本的な医学的知識と知的障害の疾患の代表的なものについて、合併する肢体不自由、病弱領域も一部含めて講術する。また、知的障害者の心理について概説する。</p>		
授業計画	<p>第1回 子どもの運動発達と成長 (担当 原田)</p> <p>第2回 子どもの精神発達 (担当 原田)</p> <p>第3回 子ども虐待と不登校 (担当 原田)</p> <p>第4回 知的障害をきたす疾患 (遺伝性疾患) (担当 原田)</p> <p>第5回 知的障害をきたす疾患 (染色体異常) (担当 原田)</p> <p>第6回 知的障害をきたす疾患 (周産期疾患) (担当 原田)</p> <p>第7回 知的障害をきたす疾患 (自閉症、ADHD) (担当 原田)</p> <p>第8回 知的障害をきたす疾患 (後天性の知的障害) (担当 原田)</p> <p>第9回 知的障害者の知能の評価と特徴 (担当 原)</p> <p>第10回 知的障害者の概念・思考の特徴 (担当 原)</p> <p>第11回 知的障害者の学習能力の特徴 (担当 原)</p> <p>第12回 知的障害者の性格・行動の特徴 (担当 原)</p> <p>第13回 知的障害者の職業 (担当 原)</p> <p>第14回 知的障害者の家族の心理 (担当 原)</p> <p>第15回 総括 (担当 原)</p>		
授業方法	授業でプリントを配布するとともに、提示する画像資料を参照しながら学ぶ		
アクティブラーニングの視点	授業ごとにテーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	特に予定していない		
教科書	授業で資料を配布する		
参考書			
評価方法	授業への参加度40% レポート課題60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	特別支援学校現場における教員経験のある者が、その経験を活かして、知的障害者の心理・生理・病理について講義する。また医療的側面について、小児科専門医である教員が、その医療的側面から、その考え方や対応の要点について講義する。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	66950
科目名	肢体不自由者の心理・生理・病理	授業コード	9427644
教員名	原田 大輔、松久 眞実		
授業種別	週間授業および集中授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	肢体不自由者の病態理解のために必要な医学的基礎知識を、合併する知的障害、病弱領域も一部含めて理解する。肢体不自由者の心理について理解し、その支援計画を立案できる。		
授業概要	肢体不自由者の病態理解のために必要な医学的基礎知識を、合併する知的障害、病弱領域も一部含めて講術する。また、肢体不自由者の心理について概説する。		
授業計画	第1回 運動系・神経系の解剖・生理（1）脳神経・骨・筋肉（担当：原田） 第2回 運動系・神経系の解剖・生理（2）神経伝達経路（担当：原田） 第3回 肢体不自由者をきたす神経疾患（1）（二分脊椎など）（担当：原田） 第4回 肢体不自由者をきたす神経疾患（2）（脳性麻痺）（担当：原田） 第5回 肢体不自由者をきたす筋疾患（担当：原田） 第6回 肢体不自由者をきたす整形外科的疾患（1）（骨系統疾患）（担当：原田） 第7回 肢体不自由者をきたす整形外科的疾患（2）（先天股脱、脊柱側彎症）（担当：原田） 第8回 肢体不自由者をきたす外傷（頭部外傷、脊髄損傷、溺水後脳症）（担当：原田） 第9回 肢体不自由者の概念・思考の特徴（担当：松久） 第10回 肢体不自由者の知能の特徴（担当：松久） 第11回 肢体不自由者の家族の心理（担当：松久） 第12回 肢体不自由者の学習能力の特徴（担当：原） 第13回 肢体不自由者の性格・行動の特徴（担当：原） 第14回 肢体不自由者の職業（担当：原） 第15回 総括（担当：原）		
授業方法	レジュメ、画像、動画などを用いて行う		
アクティブラーニングの視点	各授業において逐次テーマを取り上げて、意見交換などをおこない、実践的に理解する。		
授業外学習	なし		
教科書	レジュメを配布する		
参考書	未定		
評価方法	授業への参加度40% レポート課題60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	脳性まひや、種々の疾患に起因する身体障害の病因や病態について、系統的な学習を行うとともに、子どもたちがその時期に直面する様々な心身の課題と教育的な関わり方について、系統的に課題を取り上げるため、小児科専門医である教員、及び肢体不自由児者への教育・研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	66960
科目名	病弱者の心理・生理・病理	授業コード	9427712
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業および集中授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	病弱者を医学的に扱う小児医学を学び、代表的な疾患を理解する。また、病弱者の心理について理解を深め、支援計画を立案できる。		
授業概要	病弱者の小児医学の代表的な疾患を中心に講術する。また、病弱者の心理について概説する。		
授業計画	第1回 人の成長と健康・環境とのかかわり (担当：原田) 第2回 感染症（ウイルス性、細菌性） (担当：原田) 第3回 心疾患、腎疾患 (担当：原田) 第4回 血液・腫瘍性疾患（白血病、紫斑病、血友病） (担当：原田) 第5回 内分泌疾患 (担当：原田) 第6回 神経疾患、心身症 (担当：原田) 第7回 消化器疾患、呼吸器疾患 (担当：原田) 第8回 アレルギー性疾患（喘息、アトピー） (担当：原田) 第9回 病弱者の代表的な疾患別の心理 (担当：平賀) 第10回 病弱者のセルフケア行動（アドヒアランスを高める方法） (担当：平賀) 第11回 健康行動理論による心理的支援 (担当：平賀) 第12回 病弱者の復学における課題 (担当：平賀) 第13回 病弱者の自尊感情の問題 (担当：平賀) 第14回 病弱者の家族支援の問題 (担当：平賀) 第15回 総括 (担当：平賀)		
授業方法	プリントおよび画像資料		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	なし		
教科書	プリントを配布する		
参考書	未定		
評価方法	授業への参加度40% レポート課題60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	種々の病気を持ちながら学校に通う学齢期の子どもたちについて、その病因や子どもから成人期までの心身の発達の系統的な学習を展開するため、また子どもたちがその時期に直面する様々な健康課題とその関わり方について、系統的に課題を取り上げるため、小児科専門医、小児内分泌専門医である教員、及び病弱教育及びその研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	66970
科目名	知的障害教育論 I	授業コード	9416881
教員名	長谷川 陽一		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024 年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害教育における教育課程に係る法令及び学習指導要領の特性を説明できる。 ・知的障害教育における教育課程編成の基本的な考え方を説明できる。 ・知的障害教育の課題について、その概要を説明できる。 		
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた各教科等や教育課程編成について解説する。 2. 教育課程に基づいた年間指導計画、個別の教育支援計画・個別の指導計画について解説する。 3. 知的障害教育の実際に関連する現状と課題について解説する。 <p>※解説に当たっては、特別支援学校学習指導要領を教科書として活用しながら、その実際に関する資料を提示し、知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた、教育課程編成や各教科等、実際の指導内容の特性等が理解できるようにする。</p>		
授業計画	<p>第1回 知的障害のある児童生徒の学習特性と教育課程の特色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害のある児童生徒の学習上のつまづきへの対応や生きる力を育成する上で必要な知見を理解できるようにするとともに、教育課程の概要を理解できるようにする。 <p>第2回 知的障害のある児童生徒の学習特性と教育課程に係る法令・制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校学習指導要領等における教育課程編成に関する基本的な規定及び主要な特例について理解できるようにする <p>第3回 各教科の特性と取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の内容の独自性や道徳等の取り扱いの特徴などについて理解できるようにする。 <p>第4回 道徳及び特別活動などの取扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳及び特別活動等の取り扱いの特徴について理解できるようにする。 <p>第5回 領域・教科を合わせた指導 1 (小・中学部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域・教科を合わせた指導の位置づけ 及び小学部及び中学部における、主として「日常生活の指導」「遊びの指導」「生活単元学習」の指導内容やその特徴について理解できるようにする。 <p>第6回 領域・教科を合わせた指導 2 (高等部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部における、主として「生活単元学習」「作業学習」の指導内容やその特徴について理解できるようにする。 <p>第7回 自立活動 1 (内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の内容及びその目的などが理解できるようにする。 <p>第8回 自立活動 2 (取扱い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害のある児童生徒の学習特性に応じた自立活動の内容の取り扱いについて理解できるようにする。 <p>第9回 年間指導計画及び日課・週日課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間の学校行事計画を含め、指導内容等の配置や週日課の特性について理解できるようにする。 <p>第10回 個別の教育支援計画・個別の指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成目的やそれらの基本的な内容等について理解できるようにする。 <p>第11回 知的障害教育におけるキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の基本的な考え方とともに、知的障害のある児童生徒の学習特性に応じたキャリア教育について理解するとともに、職業教育のあり方や取り扱いについて理解できるようにする。 <p>第12回 特別支援学級における教育課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級における教育課程編成の基本、及び知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学級における教育課程編成の特徴について理解できるようにする。 <p>第13回 教育課程の編成と実施に係る現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日的な知的障害教育を巡る現状と課題として、主に学校施設等の教育環境や指導の専門性、進路開拓、諸機関との連携などに関することについて理解できるようにする。 <p>第14回 知的障害教育を巡る今日的な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育システム構築のための交流及び共同学習等を巡る課題と対応について理解できるようにする。 		

	<p>第15回 総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回からの第14回までの講述等におけるキーワードを再確認し、主要な内容について反芻・理解できるようにする。
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義及びグループ協議 ・課題レポートの作成
アクティブラーニングの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に関する調査内容の発表・協議などを行う。 ・実践的な課題を設定し、他者と協議しつつ、解決策を探る。
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された課題（レポート等の形式）の作成。 ・次の講義内容について指示された予習（テキストとなる学習指導要領等の下調べ等）。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）』 文部科学省、海文堂出版 ・『特別支援学校 高等部学習指導要領（平成31年2月告示）』文部科学省、海文堂出版
参考書	適宜、紹介する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への参加度40%、中間理解度テスト30%、期末理解度テスト30%により評価する。授業への参加度は、質問等への的確な返答、与えられた課題の取組み状況、グループ協議等への積極的参加などを評価する。各テストは、講義内容をふまえた内容とする。適宜、学習指導要領等についての課題を提示し、提出を求める。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	特別支援教育に係る教育行政、高等学校及び特別支援学校における勤務経験を活かし、知的障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズ及び教育現場の現状をふまえた授業内容を計画・実施する。

教職科目	【特別支援】	科目コード	66980
科目名	知的障害教育論Ⅱ	授業コード	9427729
教員名	原 一正		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の目標に基づき、知的障害を有する児童・生徒の学習特性に応じた基本的な指導方法の在り方を説明できる。 ・知的障害教育における各教科等の意義及び基本的な指導形態、計画・実践の特徴を説明できる。 ・知的障害教育における交流及び共同学習の意義、学習評価や授業研究等の基本的なあり方について説明できる。 		
授業概要	<p>はじめに、知的障害を有する児童・生徒の学習特性に応じた基本的な指導の在り方を解説する。次に、知的障害教育における各教科等の指導及び各教科等を合わせた指導、自立活動の指導、交流及び共同学習の実践方法に関する特性や教育成果について解説する。</p> <p>さらに、特別支援学校における学習評価及び授業研究の意義・目的を基に、基本的な在り方とその方法の進め方を解説する。</p> <p>これらを理解した上で、特別支援教育の推進・目標に応じた知的障害教育における、知的障害の特性等を踏まえた、自立・社会参加に向けた知識・技能・態度等を育成するため</p>		
授業計画	<p>第1回 知的障害を有する児童・生徒の学習特性に応じた指導法 知的障害を有する児童・生徒の学習特性を概説し、望ましい社会参加のための知識、技能及び態度を養う指導方法の重要性について理解する。</p> <p>第2回 各教科等の指導（小・中学部） 知的障害特別支援学校の小学部及び中学部における教育課程編成及び各教科の構成等を踏まえ、各教科の目標・内容に応じた指導法について理解する。</p> <p>第3回 各教科等の指導（高等部） 知的障害特別支援学校の高等部における教育課程編成及び各教科の構成等を踏まえ、卒業後の自立と社会参加に向けた充実を図る指導法について理解する。</p> <p>第4回 各教科等を合わせた指導（日常生活の指導・遊びの指導） 知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導の「日常生活の指導」「遊びの指導」の実践方法について理解する。</p> <p>第5回 各教科等を合わせた指導（生活単元学習） 知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導の「生活単元学習」の実践方法について理解する。</p> <p>第6回 各教科等を合わせた指導（作業学習） 知的障害特別支援学校における各教科等を合わせた指導の「作業学習」の実践方法について理解する。</p> <p>第7回 各教科等を合わせた指導（作業学習：高等部） 知的障害特別支援学校の高等部における「作業学習」の実践方法について理解する。</p> <p>第8回 自立活動の指導（1） 知的障害教育における自立活動の位置づけ及び基本的な配慮点を理解し、知的障害に即した自立活動の指導について理解する。</p> <p>第9回 自立活動の指導（2） 「自立活動の時間の指導」での知的障害に即した個別指導の在り方について理解する。</p> <p>第10回 交流及び共同学習 障害者基本法による規定に応じた「交流及び共同学習」の意義・目的・内容を理解し、知的障害に応じた配慮事項と交流及び共同学習の基本的な指導の在り方を理解する。</p> <p>第11回 学習評価 特別支援教育での学習評価の基本的な在り方を基に、知的障害児童生徒に対する各教科における学習評価の基本構造及びその方法を理解する。</p> <p>第12回 授業研究 特別支援学校における「授業研究」の意義・目的を基に、「つながり」と「一貫性」をもった「授業研究」の在り方と進め方を理解する。</p> <p>第13回 キャリア教育・職業教育 知的障害特別支援学校におけるキャリア教育を推進するための指導、及びキャリア教育の一環としての</p>		

	<p>高等部における職業教育・進路指導の実際について理解する。</p> <p>第14回 特別支援学級における指導 知的障害を有する児童・生徒が在籍する特別支援学級における、実情に合った教育課程の編成と各教科及び各教科等を合わせた指導における指導法について理解する。</p> <p>第15回 総括 第1回からの第14回までの講述等におけるキーワードを再確認し、主要な内容について反芻・理解する。</p>
授業方法	講義形式とし、グループ討議も行う。
アクティブラーニングの視点	画像資料、映像等を見て他者と協議し、実践的な課題の設定・工夫・支援のありかた等を確認し、グループ発表などを行う。
授業外学習	<p>毎授業前に、当該授業回テーマについて特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説を見て確認し、準備学習を行うこと。</p> <p>毎授業後に、当該授業回で学習したことを特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説を見て再度確認・復習すること。</p> <p>また、授業で指示された事前確認事項を、配布された参考資料等を見て、当該授業回に向けて準備学習を行うこと。</p>
教科書	<p>『特別支援学校 幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領』 文部科学省 開隆堂出版</p> <p>『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説「総則編」(幼稚部・小学部・中学部)』 文部科学省、開隆堂出版</p> <p>『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「自立活動編」(幼稚部・小学部・中学部)』 文部科学省、開隆堂出版</p>
参考書	七色の授業～質の高い授業とは～ 原 一正 著
評価方法	・授業への参加度 50%、レポート課題 50%により評価する。授業への参加度は、与えられた課題への取り組み状況、グループ協議等への積極的参加などを評価する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	特別支援学校における33年間の勤務経験と現在も乳幼児の療育事業に関わっていることを活かし、知的障害を有する幼児・児童・生徒の教育的ニーズ及び教育現場の現状について、アクティブラーニングの視点を大切にした授業内容を計画・実施する。

教職科目	【特別支援】	科目コード	66990
科目名	肢体不自由教育論 I	授業コード	9416898
教員名	早野 眞美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024 年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育における現状と課題及び特別支援教育に関する基礎的事項を理解できる。 ・肢体不自由教育の歴史及び障害の受容と保護者の心情を理解できる。 ・肢体不自由児者の障害特性について理解できる。 ・肢体不自由教育における授業の実践課題とその工夫について理解できる。 ・肢体不自由教育における指導と支援の在り方について理解できる。 ・肢体不自由児者の社会参加と自立に向けた教育指導の在り方について理解できる。 		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育に関する基礎的事項として、学校等における実践的な指導・支援について映像等を通して講義を行う。 ・肢体不自由教育の歴史、脳性まひ等の関連疾患から障害特性を学び、肢体不自由教育における課題から学校教育の在り方を学ぶ。 ・テキスト「肢体不自由教育総論 I」を基に毎回のテーマを設定して講義を行う。 ・15回の講義回数の中で「演習及び実技指導」を取り入れる。 		
授業計画	<p>第1回目：特別支援教育と肢体不自由教育の現状と課題</p> <p>第2回目：障害者の合理的配慮と肢体不自由教育の課題</p> <p>第3回目：肢体不自由教育と障害の受容と保護者の願い</p> <p>第4回目：肢体不自由教育と学校教育の在り方</p> <p>第5回目：肢体不自由教育と教育課程の編成（学習指導要領と自立活動）</p> <p>第6回目：肢体不自由の病理と障害理解 -運動発達と脳性まひ-</p> <p>第7回目：肢体不自由の病理と障害理解 -筋ジストロフィー症・二分脊椎症他-</p> <p>第8回目：肢体不自由児（者）の実態把握と個別的教育支援計画・指導計画の作成</p> <p>第9回目：肢体不自由教育と授業の工夫 -教科指導と肢体不自由の配慮-</p> <p>第10回目：特別支援学校（肢体不自由教育）における一日の流れと授業内容</p> <p>第11回目：肢体不自由教育における車いす・補助具・情報機器の活用</p> <p>第12回目：肢体不自由教育における就労支援とキャリア教育</p> <p>第13回目：肢体不自由児者の摂食指導と食育 -実技演習を通して学ぶ-</p> <p>第14回目：肢体不自由者と地域生活 -障がい者の福祉サービスを考える-</p> <p>第15回目：障がい者とスポーツ・芸術活動</p>		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「肢体不自由教育総論」改訂版を i 用いて講義を進める。 ・講義はスライド・映像をまじえて行い毎回ごとと振り返りシートに記入して提出する。 ・15回の講義中に「実技・演習」なども取り入れて行う予定である。 		
アクティブラーニングの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・2名から4名程度のグループを作り課題演習なども取り入れ積極的に意見交換ができる場面を設ける。 ・自分で調べた内容等をプレゼンテーションができる場面を設ける。 		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提示として「バリア・バリアフリー・UD」の調査収集を行い、プレゼンテーションを行うことが出来る 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「肢体不自由教育総論」改訂版 須田正信・早野眞美編著 頒布費 350 円 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の際に参考図書を紹介する。 		
評価方法	<p>①毎回の振り返りシート 30%</p> <p>②課題レポート 30%</p> <p>③最終課題レポート 40%</p>		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<ul style="list-style-type: none"> ・科目担当教員は大阪府立肢体不自由校の管理職経験があり、教員研修等の経験もある。 		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67000
科目名	肢体不自由教育論Ⅱ	授業コード	9427746
教員名	早野 眞美		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育における学校教育の実際について理解する。 ・肢体不自由教育における指導・支援の方法について学び実践演習に生かすことが出来る。 ・肢体不自由教育における関係期間との連携と個別の教育支援計画・個別の指導計画について作成演習を行い今後に生かすことが出来る。 		
授業概要	<p>以下の内容について、実際の学校現場で行われている授業等についてスライドと映像を用いて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由校における教育実践を踏まえ、肢体不自由学教育における授業展開の工夫と実際の指導場面の映像やスライドから理解し、模擬授業・指導を演習することで教員に向けた実践演習を獲得する。 ・肢体不自由教育における今日的な課題を精選し、各グループごとに課題について解決に向けた演習と発表を行うことで学びを深める。 		
授業計画	<p>第1回目：特別支援教育と「肢体不自由校」における教育と児童生徒の実態 第2回目：特別支援教育と肢体不自由校における授業の工夫① 第3回目：特別支援教育と肢体不自由校における授業の工夫② 第4回目：特別支援教育と肢体不自由校における自立活動と授業の工夫 第5回目：肢体不自由児者の手の機能の発達と手指機能を高める指導の実際 第6回目：脳性まひ児の摂食機能・言語機能の向上に向けたアプローチ 第7回目：肢体不自由児のコミュニケーションの支援と情報機器 第8回目：医療的ケアを必要とする児童生徒の配慮事項と今日的課題 第9回目：肢体不自由教育における授業分析①「あさの会」の工夫と指導案の作成 第10回目：肢体不自由教育における授業分析②「あさの会」の工夫と指導案の作成 第11回目：肢体不自由教育における授業実践「あさの会」模擬授業 第12回目：肢体不自由校における実践「授業の工夫と学習指導案の作成」 第13回目：肢体不自由児者の個別の教育支援計画と個別の指導計画の背景と作成について 第14回目：肢体不自由児者の個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成に向けて 第15回目：肢体不自由児者の社会参加と自立に向けた肢体不自由校の取り組み</p>		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 「スライド・テキスト」 ・演習 「グループワーク（朝の会などの授業実践の計画をグループで演習する）」 ・実技指導 「摂食指導」 		
アクティブラーニングの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題についてプレゼンテーションを行う。 ・課題について実際の実技や演習から検証する。 ・講義ごとに毎回の「振り返りシート」を記載して提出して評価を受ける。 ・課題に対してグループで指導計画・指導案を作成して提出する。 		
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由校の取り組みについて、HPなどで検索して報告する 		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義の際にテキスト資料を配布する。 		
参考書	その都度紹介する。		
評価方法	①毎回の振り返りシート・授業参加 30% ②課題レポート 30% ③最終課題テスト 40%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	<ul style="list-style-type: none"> ・科目担当教員は大阪府立支援学校管理職経験があり教員研修等経験がある。 		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67030
科目名	病弱教育論	授業コード	9416932
教員名	土口 千恵子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	病弱・身体虚弱の子どもの教育（病弱教育）に関する法令、教育制度、教育課程、教育の場、指導内容・方法等についての基本的な知識を習得する。様々な病気の子どもに対する正しい理解と適切な支援の仕方及び配慮事項を身に付けることができる。		
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 我が国の特別支援教育の対象とする障害の種類と病弱・身体虚弱教育の概念を説明できる。 2) 病弱・身体虚弱教育対象の子どもの教育の場について区別できる。 3) 病弱教育について歴史的な変遷を説明できる。 4) 子どもの主な病気について理解し、論じることができる。 5) 病弱・身体虚弱教育の教育課程について説明し、特に自立活動の在り方について具体的に論じることができる。 6) 入院している子どもへの配慮事項をについて述べることができる。 7) 病弱・身体虚弱の子どもの保護者及びきょうだい児への対 		
授業計画	<p>【第1回】オリエンテーション・特別支援教育の現状 授業の目的と内容、授業の進め方・受け方、予習・復習の仕方、参考書の説明などについて説明 特別支援教育における病弱教育の位置を説明できる</p> <p>【第2回】病弱・身体虚弱の概念 病弱・身体虚弱の概念、病弱・身体虚弱児の学習上・生活上の困難について説明 病弱教育の場の違いについて法的根拠を説明できる</p> <p>【第3回】病弱教育の変遷について 病弱教育の歴史的変遷（戦前及び戦後）を説明 病弱教育対象児童生徒数の変遷と時代背景、病弱児に対する社会のとらえ方について説明できるようになる</p> <p>【第4回】病弱教育の対象児（1） 障害のある子どもの見方、病弱教育対象児の病気の推移と時代背景を説明 医学の進歩と病弱児の病気の種類の変遷、教育的支援の変遷を説明できるようになる</p> <p>【第5回】病弱教育の対象児（2） 病弱教育対象児の主な病気について説明 呼吸器疾患、腎疾患、心疾患、精神疾患等を説明 動画視聴を通し、病弱・身体虚弱児の実態を説明できるようになる</p> <p>【第6回】就学基準と教育の場について 病弱・身体虚弱児の就学基準、病弱・身体虚弱児の教育の場と教育形態の違いを説明 動画視聴を通し、教育の実態を理解し、認定就学者⇒認定特別支援学校就学者の変遷を論じることができるようになる</p> <p>【第7回】教育課程と各教科の指導 病弱教育の教育課程、病弱・身体虚弱児の実技を伴う教科（体育指導ほか）の指導上の配慮事項を説明 動画視聴を通し、筋ジストロフィー児のスポーツを説明できるようになる</p> <p>【第8回】自立活動の指導について 病弱・身体虚弱教育における自立活動の指導、心身症児の自立活動の指導を説明 動画視聴を通し、病弱教育における自立活動）を理解し、説明できるようになる</p> <p>【第9回】小・中学校等における指導について 小・中学校の通常学級、病弱・身体虚弱特別支援学級、病院内の特別支援学級（院内学級）の指導 実際の事例を説明 教育の場の違いにより指導内容、方法等の違いを説明できる</p> <p>【第10回】気管支喘息の子どもの指導について 気管支喘息とは、気管支喘息児の自立活動の指導計画、喘息体操、エピペンの使用方法を体験し、使用できる。エピペン、ピークフロー等の実体験を通し、気管支喘息児の指導・支援が説明できるようになる</p>		

	<p>【第11回】入院児への配慮等 慢性疾患で入院する子どもへの配慮事項を説明 ターミナルケアや臓器移植を必要とする子どもの家族の思い等を説明できる</p> <p>【第12回】筋ジストロフィーの子どもの指導について 筋ジストロフィーとは、筋ジストロフィー児の自立活動の指導計画を説明 筋ジストロフィー児の実際を説明できるようになる</p> <p>【第13回】難病の子どもの理解について 難病の子どもの理解と指導について事例等を通して説明 「病院のこども憲章」について理解するとともに、実際の入院生活等を論じることができる</p> <p>【第14回】重度・重複障害児教育の指導法について 重度・重複障害とは、重度・重複障害児の指導計画と自立活動について説明 パルスオキシメーター等の活用を体験し、病弱・身体虚弱児との交流及び共同学習の実際について説明できるようになる</p> <p>【第15回】我が国の病弱教育の現状と課題について 我が国の病弱教育に関する法令、制度、現実の問題点を考え、病弱の子どもに対して役立つ教育の在り方について論じることができるようになる</p>
授業方法	<p>随時配布する資料や提示する課題について予習を行い、ペアワークやグループワークを取り入れて理解を深めることができるようにする。アクティブラーニングを取り入れ、エビペン、ピークフロー、パルスオキシメータの使用ワークを通じて、体験を通して学ぶことができるようにする。 基本的には講義と動画視聴、アクティブラーニングを織り交ぜてすすめる。</p>
アクティブラーニングの視点	<p>ペアワークやグループワークを中心に行い、各課題に対して自分の考えをまとめ、アクティブラーニングで深化することができるようにする。</p>
授業外学習	<p>【予習】毎回、次週までの課題を出す。 第1回目はどのようにするかは未定であるが、第2回目からは事前に渡された課題をもとに、自分の考えをまとめ、小レポートとして提出する。</p> <p>【復習】学習内容を、自分が教師としてどのように役立てるかについて整理したり、授業中に紹介された資料などを読むことを通して、学修内容を深めることができるようにする。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・日本育養学会編著『標準「病弱児の教育」テキスト』ジアース教育新社刊 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「総則編」(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂書店、文部科学省 ・『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説「自立活動編」(幼稚園・小学部・中学部)』開隆堂書店、文部科学省
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援資料 文部科学省 ・病気の子どものための教育必携 ジアース教育新社 ・その他 授業内容に沿ったものをプリントとして配布する。
評価方法	<p>アクティブラーニングへの参加度30%、小レポート20%、講義終了後のレポート50%</p>
既修条件	<p>なし</p>
実務経験のある教員による授業	<p>特別支援教育に教諭・首席・教頭・校長と勤務し、大阪府教育センター支援教育研究室長として教育行政、研究・研修業務に携わった、特に長年病弱・身体虚弱教育に携わった経験を活かして、指導の実践から得た知見や事例紹介を含み、教育の実際、制度・法的根拠等について講義する。</p>

教職科目	【特別支援】	科目コード	67040
科目名	視覚障害者の心理・生理・病理	授業コード	9427780
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	視覚障害についての医学的な基本事項について理解する。 視覚障害者の心理について理解を深め、支援計画を立案できる。		
授業概要	視覚器の解剖・生理、視機能の評価法、視覚障害の原因疾患について講術する。 また、視覚障害者の心理について概説する。		
授業計画	第1回 視覚器の解剖・生理 (担当 原田) 第2回 視機能の評価法 (担当 原田) 第3回 視覚障害の原因疾患 (前眼部の疾患) (担当 原田) 第4回 視覚障害の原因疾患 (眼底部とその他の疾患) (担当 原田) 第5回 視覚障害児の知覚と運動発達 (担当 松中) 第6回 視覚障害児の言語・認知発達と学力・社会性の発達 (担当 松中) 第7回 視覚障害者の自我発達と障害受容 (担当 松中) 第8回 視覚障害者の発達課題 (家庭、学校、地域社会) (担当 松中)		
授業方法	レジュメを配布する。		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論や発表を行い、実践的に理解する。		
授業外学習	なし		
教科書	授業で資料を配布する		
参考書	未定		
評価方法	授業への参加度40% レポート課題60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	視覚障害に関する、その病因や病態について、系統的な学習を行うとともに、子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な心身の課題と教育的な関わり方について、系統的に課題を取り上げるため、小児科専門医である教員、及び視覚障害児者への教育・研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67050
科目名	聴覚障害者の心理・生理・病理	授業コード	9416949
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	聴覚障害についての医学的な基本事項について理解する。 聴覚障害者の心理について理解し、支援計画が立案できる。		
授業概要	聴覚器官の解剖・生理、聴力検査法、聴力障害の原因疾患について講術する。 また、聴覚障害者の心理について概説する。		
授業計画	第1回 聴覚器官の解剖・生理 (担当 原田) 第2回 聴力検査と診断法 (担当 原田) 第3回 聴覚障害の原因疾患 (担当 原田) 第4回 聴覚障害児の言語・認知発達 (担当 西山) 第5回 聴覚障害児の学力と社会性の発達 (担当 西山) 第6回 手記からみた聴覚障害者の心理的問題 (担当 西山) 第7回 聴覚障害者の自我発達と障害受容 (担当 西山) 第8回 聴覚障害者の発達課題 (家庭、学校、地域社会) (担当 西山)		
授業方法	レジュメ、画像・動画等を用いて行う		
アクティブラーニングの視点	逐次テーマを取り上げて、討論・発表を行う		
授業外学習	逐次課題を提示し、次回の授業で提出を求める		
教科書	資料を配布する		
参考書	聴覚障害学第2版 (医学書院)		
評価方法	授業への参加度40% レポート課題60%		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	医師である教員、聴覚障害教育に経験の深い教員が授業を行う		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67060
科目名	重複障害者等の心理・生理・病理	授業コード	9416983
教員名	原田 大輔		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 前期
到達目標	重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について学ぶ。 重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の心理について理解を深める。		
授業概要	重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の病態理解のために必要な基本的知識について講術する。また、重複障害児、情緒障害児、言語障害児、発達障害児の心理について概説する。		
授業計画	第1回 重複障害の種類と考え方 (担当：原田) 第2回 情緒障害の種類と考え方 (担当：原田) 第3回 言語障害の種類と考え方 (担当：原田) 第4回 発達障害の種類と考え方 (担当：原田) 第5回 重複障害の定義と種類 (担当：原) 第6回 重複障害児の心理 (担当：原) 第7回 情緒障害の定義と種類 (担当：原) 第8回 情緒障害の心理と支援 (担当：原) 第9回 言語障害の心理と支援 (担当：原田) 第10回 自閉症の心理と支援 (担当：原田) 第11回 ADHDの心理と支援 (担当：原田) 第12回 LDの定義とLD児の心理 (担当：原) 第13回 ADHDの定義とADHD児の心理 (担当：原) 第14回 高機能自閉症等の定義とその特徴 (担当：原) 第15回 発達障害児の心理的評価 (担当：原) ※授業の順番については変わることがある。 レジュメ、画像、動画などを用いて行う		
授業方法	レジュメ、画像、動画などを用いて行う		
アクティブラーニングの視点	授業の中で、適宜ディスカッション課題を出して、話し合いを行わせ、理解を深める。		
授業外学習			
教科書	教科書 レジュメを配布する。		
参考書	発達障害児の学校生活を支える・教育保健マニュアル（診断と治療社）		
評価方法	授業への参加状況（40%）、及び適宜提示する課題へのレポート（60%）を合わせて評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	種々の重複障害を持ちながら学校に通う学齢期の子どもたちについて、その病因や子どもから成人期までの心身の発達の系統的な学習を展開するため、また子どもたちがその時期に直面する様々な直面する様々な健康課題とその関わり方についての授業を行うため、小児科専門医である教員、及び重複障害児者の教育及びその研究に経験豊富な教員が、動画等を用いながら視覚的で実践的な授業を行う。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67070
科目名	視覚障害教育論	授業コード	9417000
教員名	正井 隆晶		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 前期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の現在の制度及び教育課程について説明できる。 ・視覚障害の生理、病理及び心理の基礎的な事項について説明できる ・盲、弱視、視覚障害と他の障害との重複障害、中途視覚障害など、それぞれへの指導内容や方法等の違いについて説明できる。 		
授業概要	視覚障害の生理、病理及び心理について解説し、理解が深まるようにシミュレーションも取り入れた授業を行う。視覚障害教育の指導内容や方法では、視覚特別支援学校での指導経験で培った知見を取り入れた指導を行う。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・視覚障がいがある児童生徒の学びの場と教育課程 (視覚支援学校(盲学校)の概要/特別支援学級・通級による指導の概要/教育課程程/カリキュラムマネジメント/個別の指導計画) 【次回に向けて】視力検査や視野検査について調べておきましょう</p> <p>第2回 眼の生理と視機能評価の基礎知識 (眼の構造と視機能/視覚の発達/視力検査/視野検査) 【次回に向けて】視覚障害について調べておきましょう</p> <p>第3回 眼の病理と視覚障害 (視覚障害の病理/弱視体験と注意点/シミュレーション/視覚障害とは/盲と弱視の定義) 【次回に向けて】弱視への教育的配慮の基本について調べておきましょう</p> <p>第4回 アセスメントと弱視への指導 (教育的視機能評価/弱視への教育的配慮の基本/教科での教材・教具の工夫) 【次回に向けて】盲への教育的配慮の基本について調べておきましょう</p> <p>第5回 アセスメントと盲への指導 (盲への教育的配慮の基本/点字の学び/教科での教材・教具の工夫) (※時間があればスポーツも取り上げます※) 【次回に向けて】自立活動について調べておきましょう</p> <p>第6回 自立活動の指導 (弱視:弱視レンズ指導/盲:墨字指導・触察の指導/共通:・PC・歩行指導) 【次回に向けて】盲聾重複障害と視覚・知的重複障害について調べておきましょう</p> <p>第7回 重複障害への指導 (盲聾重複障害と視覚・知的重複障害への指導の実際) 【次回に向けて】視覚特別支援学校の職業課程やセンター的機能について調べておきましょう</p> <p>第8回 職業課程と視覚特別支援学校のキャリア教育・センター的役割(教育相談) (職業課程の概要と中途視覚障害者/キャリア教育/センター的役割と教育相談)</p>		
授業方法	講義形式で行うが、一部実習にも取り組む。		
アクティブラーニングの視点	ワークシートの作成、共同学習(ペアワーク)、まとめプリントの活用など		
授業外学習	授業時間前にシラバスに示されている内容について、1時間以上の準備学修を行うこと。また、授業後は、1時間以上の復習をして、配布テキストに書き込む形でまとめを行うこと。		
教科書	毎時間、印刷したテキストを配布する。		
参考書	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園部・小学部・中学部)文部科学省/2018年3月 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園部・小学部・中学部)文部科学省/2018年3月		
評価方法	まとめプリント 40%、授業中に行う小テスト 40%、授業への参加度を 20%の割合で評価する。授業への参加度は、ペアワークなどでの発表やコミュニケーションカードから評価する。		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	視覚障害特別支援学校での実務経験を生かして、実際に取り組んだ授業内容や授業での工夫なども紹介する。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67080
科目名	聴覚障害教育論	授業コード	9427797
教員名	藤原 彰子		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	聴覚障害教育の歴史、現状と課題、内容と方法について、基礎的な知識を身につけることを目標とする。		
授業概要	聴覚障害教育の歴史、現状と課題、内容と方法について論じ、聴覚障害教育の在り方を検討する。		
授業計画	第1回 ガイダンス（評価法と講義目的について） 聴覚障害の定義と聴覚障害児教育 第2回 きこえのしくみと教育的支援 第3回 聴覚障害教育の歴史 第4回 聴覚障害児の言語・コミュニケーション指導（手話法・口話法） 第5回 聴覚障害教育の課程と学習指導 第6回 聴覚障害児の自立活動 第7回 聴覚障害児の保護者支援 第8回 聴覚障害教育の現状と課題		
授業方法	資料をベースに、教員としての体験をふまえて講述し、基礎的知識や用語の理解を深める。 毎回の授業終了時にコミュニケーションシートを提出し、次回の授業での解説を通して、更に発展的な知識の習得や情報の共有化を図る。		
アクティブラーニングの視点	小テスト、レポート、コミュニケーションシートなどで理解度を確認し、グループワークで指文字や手話、実践上の工夫等を学び合う。		
授業外学習	日ごろからさまざまなメディアからの聴覚障害に関する事項への関心を深めておくこと。 基礎的事項について、小テストを2回実施し、中間、最終レポートの提出を求める。		
教科書	必要な資料を適宜配付する。		
参考書	・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省／2018年3月 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）文部科学省／2018年3月		
評価方法	授業への参加度（50%）、小テスト（20%）、中間・最終レポート（30%）		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	聴覚支援学校において、教科指導や自立活動を担当し、学校管理職及び教育委員会、教育センターでの勤務経験を有する教員が、聴覚障害教育の概要について解説する。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67090
科目名	重複障害者等教育論	授業コード	9417017
教員名	松久 眞実		
授業種別	集中授業	授業形態	講義
開講間隔		単位数	2
履修年次	4	学期	2024年度 前期
到達目標	重複障害、情緒障害、言語障害、発達障害の教育の歴史、現状と課題、内容と方法についての基礎的な知識を身につけることを目標とする。		
授業概要	重複障害、情緒障害、言語障害、発達障害の教育の歴史、現状と課題、内容と方法について論じ、各教育の在り方を検討する。		
授業計画	第1回 重複障害教育の歴史と今日的課題 (担当:原 一正) 第2回 重複障害のある児童生徒の学校教育とその実際 (担当:原 一正) 第3回 重複障害教育における教育課程の編成と自立活動について (担当:原 一正) 第4回 情緒障害教育の歴史と今日的課題 (担当:原 一正) 第5回 情緒障害児の障害特性の理解とその指導・支援について (担当:原 一正) 第6回 情緒障害のある子どもの学校教育における実際の指導 (担当:原 一正) 第7回 言語障害教育の現状と課題 (担当:原 一正) 第8回 言語障害教育の歴史 (担当:原 一正) 第9回 言語障害教育の教育課程と個別の指導計画 (担当:原 一正) 第10回 言語障害児の指導の実際 (担当:原 一正) 第11回 発達障害児教育の歴史と現状と課題 (担当:松久眞実) 第12回 LD、ADHDのある児童の個別の指導計画と指導の実際 (担当:松久眞実) 第13回 自閉スペクトラム症のある児童の個別の指導計画と指導の実際 (担当:松久眞実) 第14回 発達障害のある子どもが在籍する学級での支援 (担当:松久眞実) 第15回 障害のある子どもの保護者への支援 (担当:松久眞実)		
授業方法	講義		
アクティブラーニングの視点	学生の授業における基本的構成は4名から6名のグループとして、協議やグループ学習を積極的に行う。		
授業外学習	各講義内容にそった課題を、レポートにまとめ提出する。		
教科書	特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) 文部科学省		
参考書	授業中に紹介する。		
評価方法	第4回目後のレポート(25%)、第8回目後のレポート(25%)、第12回目後のレポート(25%)、第15回目後のレポート(25%)		
既修条件	なし		
実務経験のある教員による授業	学校現場における教員経験(28年間)を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。		

教職科目	【特別支援】	科目コード	67120
科目名	教育実習指導（特別支援）	授業コード	9427848、9427865、9427882
教員名	松久 眞実、長谷川 陽一、後藤 由枝、		
授業種別	週間授業	授業形態	演習
開講間隔	週1回	単位数	1
履修年次	3	学期	2024年度 後期
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校に在籍する子どもの実態把握やそれに応じた対応の方法を理解することができる。 ・特別支援学校における、授業計画や学習指導などの実際を理解するとともに、指導案を作成することができる。 ・教育実習に関する事務的な流れがわかる。 ・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告をすることができる。 		
授業概要	<p>事前：教員を目指す心構えや特別支援教育の意義を確認し、障害のある児童生徒の実態把握の方法や指導案の立案、実際の指導、学級活動、課外活動などのための準備を行う。指導・支援や保護者対応などに関する研究・協議を行い、各自の教育実習における課題を明確にする。教育現場で責任をもって行動できるよう、必要とされる態度や資質を身に付ける。「実地研修」の実施後の振り返り・協議を行い、課題とその対応を探る。</p> <p>事後：報告書の作成と体験発表を行う。</p>		
授業計画	<p>第1回 特別支援学校における教育実習の意義と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍する個々の児童生徒たちの状態に応じた指導がなされていることの意義と主要な目的を知ることができるようにする。 <p>第2回 特別支援学校における教育活動および教員の職務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常の学校とは、教育活動等が大きく異なることを踏まえ、教員の諸活動の実際について理解できるようにする。 <p>第3回 特別支援学校に在籍する児童生徒の見取りと対応1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として、知的障害や自閉症のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 <p>第4回 特別支援学校に在籍する子どもの見取りと対応2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として、肢体不自由や病弱のある児童生徒の実態把握とそれへの対応の基本的な考え方を理解できるようにする。 <p>第5回 教育実習の具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校における教員の諸活動をシュミレーションし、それらに対応できるようにする。 <p>第6回 学習指導案作成の基本的な考え方及び構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校における学習指導案の特性や特徴のある記述内容について理解できるようにする。 <p>第7回 肢体不自由の児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 <p>第8回 知的障害のある児童生徒対象の指導案作成とその指導（模擬授業を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導等の学習指導案を、対象の児童生徒を想定して作成し、その一部を模擬的に実施することができるようにする。 <p>第9回 指導案作成のまとめと留意点</p> <p>第10回 特別支援学校における学部・学級経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの場合、特別支援学校には小学部、中学部、高等部が設置されており、それぞれの教育目的を達成するための経営がなされていることを理解できるようにする。 <p>第11回 生徒指導及び保護者理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等支援学校においては、高等学校と同様の生徒指導が行われていること、子どもたちの状態に応じた生活上の課題をクリアするための生徒指導が個別になされていることを理解できるようにする。 <p>第12回 教育実習における課題と教育実習の意義の確認</p> <p>第13回 ケース会議のシュミレーションを行い、個々の児童生徒に対応した支援を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実地研修」等によって明らかにされた課題を整理し、充実した意義ある教育実習の体験ができるよう、それに向けた対応策を協議することができるようにする。 		

	<p>第14回 全体のまとめと個別の児童生徒のケースについての検討をする。</p> <p>第15回 教育実習に関する事務的な説明およびその習得</p> <p>※第1回から第4回までは、実地研修の準備、第5回から第15回には、特別支援学校における実地研修の振り返り・協議も行う。</p>
授業方法	講義、演習
アクティブラーニングの視点	協同学習（ペアワーク・グループワーク等）、振り返りシートの活用
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案作成 ・特別支援学校や在籍児童生徒、学級経営、生徒指導などに関する課題レポートの作成
教科書	遠藤愛・宇田川和久・高橋幸子編著「特別支援学校 教育実習ガイドブック」学苑社
参考書	<p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）2018年3月</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）2020年4月</p>
評価方法	<p>授業への参加度（30%）、学習指導案作成等（20%）、教育実習の成果の整理（30%）「実地研修」活動（20%）</p> <p>授業への参加度は、質問等への的確な返答ができているか、協議に積極的に取り組んでいるかなどを評価する。学習指導案作成等については、内容を確認して返却する。教育実習の成果の整理は、実習報告内容及び発表の的確性を評価する。「実地研修」活動は、実習先の評価を踏まえる。</p>
既修条件	<p>原則として、教育実習1，2（幼）、または教育実習1，2（小）、または教育実習1（中・高）、特別支援教育総論かつ原則として以下の科目を修得済み。知的障害教育論Ⅰ、Ⅱ、肢体不自由教育論Ⅰ、Ⅱ、病弱教育論</p>
実務経験のある教員による授業	<p>学校現場における教員経験（28年間）を活かして、授業や学級経営を指導する。特別支援学校で勤務した経験から、支援の必要な児童生徒への支援方法について指導する。また教育委員会指導主事として、巡回相談や就学相談、また研修講師として、多数の小学校や中学校を訪問した経験から、保護者への支援や福祉との連携について指導をする。教員となる学生の資質・能力向上に関する本科目の授業を計画・実施する。</p> <p>特別支援教育に係る教育行政、高等学校教諭び特別支援学校校長としての勤務経験を活かし、教員となる学生の資質・能力向上に関する本科目の授業を計画・実施する。</p> <p>小学校教諭の経験に加え、教育委員会事務局における指導主事及び管理職として、教育課程や特別支援教育に長く携わってきた経験を活かし、理論と実践を兼ね備えた教員を養成する。</p>